



地域による学校支援活動 事例集

平成 25 年度

文部科学省
生涯学習政策局
初等中等教育局

地域による学校支援活動事例集発行にあたって

文部科学省では、未来を担う子供たちを健やかに育むために、学校、家庭、地域が連携協力し、社会全体の教育力の向上に向けた取組の一層の推進を図ることを目的に、地域全体で学校や子供たちの教育活動を支援する「学校支援地域本部」や「放課後子供教室」の取組等を推進しており、現在は、全国各地でその地域の特色にあった様々な活動が行われております。

あわせて、地域の人々（保護者・地域住民等）と目標を共有した上で、一体となって子供たちを育む「地域とともにある学校づくり」の全国展開を目指しており、その有効な仕組みとして「コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）」を推進しております。

本事例集は、平成25年度に行った「優れた「地域による学校支援活動」推進にかかる文部科学大臣表彰」（平成23年度より実施）において、表彰を受けられた全国各地の「地域による学校支援活動」を広く紹介するために作成いたしました。

「学校支援地域本部」及び「放課後子供教室」や、「コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）」の取組と連携した「地域の方々による学校支援活動」等の更なる推進、並びに一層の活動内容の充実のために、ご活用いただければ幸いです。なお、過去の表彰事例については、文部科学省ホームページ「学校と地域でつくる学びの未来」（<http://manabi-mirai.mext.go.jp/>）に掲載しております。

末筆ですが、本事例集の作成にあたりまして、関係者の皆様方の多大なご協力をいただきましたことを心より感謝申し上げます。

平成26年3月

文部科学省

生涯学習政策局社会教育課長 谷合 俊一

初等中等教育局参事官（学校運営支援担当） 岸本 哲哉

目 次

- はじめに 1
- 「地域による学校支援活動」事例

都道府県 市名	市町村名	活動名または学校名	活動区分				こんな活動です	ページ
			本部	放課後	CS	その他		
北海道	留寿都村	留寿都村学校支援地域本部	○				生涯学習を地域に生かす 「みんなで支える学校、みんなで育てる子供!!」	7
	利尻富士町	利尻富士町 放課後子ども教室運営委員会	○	○		○	地域の伝統文化「獅子神楽」や地域のニーズに応えた 学生による学習支援を実施!	8
	津別町	アソビバ!つべつ	○	○		○	「アソビバ!つべつ」は学びの宝庫!地域の教育資源を 生かした多様なプログラムを実施!	9
青森県	深浦町	修道小学校学校支援地域本部	○				「地域とつながる・地域をつなげる」学校支援活動	10
	十和田市	北園小学校学校支援事業	○	○		○	地域ぐるみで太陽っ子(北園小学校児童の愛称)を健 全に育成!	11
	五戸町	五戸小学校学校支援センター	○	○			学校教育活動を人的に支援し、安全かつ効果的に行え るようにするための活動	12
岩手県	洋野町	大野地区学校支援地域本部	○				豊富な地域資源と地域のみなさんの「知恵と技、エネ ルギー」を活かした学校支援事業	13
	一関市	あこおぎ子ども広場		○			子供たちの自主的な「学びの場」「遊びの場」「体験の場」	14
	一関市	長坂子どもクラブ		○			子供が主体的に遊ぶ力を養い、未来の地域リーダーを 育てる	15
宮城県	仙台市	将監けやさっこ放課後教室	○	○			地域住民がスタッフとして運営を行い、地域の子供を 見守り育てるボランティア活動である	16
	仙台市	富沢中学校学校支援地域本部 サポーター To かしわ	○				「借りた力を地域に返そう」をモットーに、生徒の地域 ボランティア活動参加を奨励して2年	17
	大河原町	キハト会		○			伝統文化継承、創作、野外体験など体験型活動を地域 住民の参画で展開	18
	栗原市	下川敷環境保全活動組織				○	環境保全の大切さを実感できる「めだかつこ米」で地 域を元気にする活動	19
秋田県	秋田市	広面放課後子ども教室		○			地域の「おにいさん・おねえさん」「おじいさん・おば あさん」と子供をつなぐ児童館	20
	北秋田市	鷹巣南小学校学校支援地域本部	○	○			あったかハートの輪を大きく広げよう。学校後援会が 支える地域ぐるみの学校支援	21
	五城目町	五城目町放課後子ども教室 (わらしべ塾)	○	○			地域の教育力を活用し、自然体験、芸術文化、ものづ くり、スポーツ講座等、様々な体験活動を実施	22
	湯沢市	湯沢南地区学校支援地域本部	○				明日の未来を担う子供たちのためにできること できるこ とで学校のお手伝い 「地域みんなで地域の宝を育てよう」	23
山形県	最上町	もがみサポート塾	○	○			学校と地域をつなぐ「もがみサポート塾」	24
	高畠町	和田地区学校支援地域本部	○	○			地域の教育力、地域の人々のもっている力を存分に生 かす学校支援地域本部	25
	西川町	西川町放課後子ども教室	○	○			地域住民と連携した子供の居場所づくり	26
福島県	郡山市	郡山市御館地区学校支援地域づくり	○				地域が一体となって子育て支援を行い、地域の人々の 生きがいつくりにつながっている活動	27
	相馬市	相馬市学校支援地域本部	○				教員OBの地域コーディネーターが、地域住民と学校の間に 入り、地域一体となって学校支援を盛り上げている活動!	28
	桑折町	桑折町体験活動・ボランティア活動支 援センター	○			○	・学校の教育課程と連動 ・地域の知、技がクラブに ・日頃できない体験を! ~ 地域で子供を育てよう ~	29
	二本松市	あだち地域子ども教室		○			遊びと学びを重視した放課後子供教室を目指して!	30
栃木県	佐野市	いきいき何でも体験クラブ		○			いろいろな活動を通して、人と人の繋がりをを感じる。親 と子の居場所づくり。	31
群馬県	中之条町	中之条町西部学校支援地域本部 (学校お助け隊)	○				学校お助け隊は、おらが地域のおらが学校のために、 地域を挙げて活躍中!	32
	太田市	あさひ小学校支援隊	○				みんなで一緒に楽しみながら、子供たちにとってよりよ い環境作りを考え行動している	33
	富岡市	吉田小SSV(スクールサポートボラン ティア)	○				子供の笑顔のサポーター ~地域の力で教育活動の充実を!~	34

都道府県 市名	市町村名	活動名または学校名	活動区分				こんな活動です	ページ
			本部	放課後	CS	その他		
埼玉県	さいたま市	針ヶ谷ふれあい子ども教室	○	○			体験活動を通して学ぶ楽しさを知る	35
	さいたま市	ふれあい寺子屋大成楽校	○	○			多くの体験を通して心豊かな居場所づくり	36
	川口市	安行中学校学校応援団	○				地域と連携する学校応援団の活動	37
	横瀬町	横瀬町放課後子ども教室		○			異年齢の仲間と学び遊ぶ。地域住民の応援で楽しい行事も多彩。	38
	越生町	越生中学校学校応援団	○				学校応援団に地域の様々な団体が協力し、教育支援活動が展開されている	39
千葉県	野田市	岩名中学校区学校支援地域本部	○				地域に支えられ、地域とともに成長する岩名中学校・岩木小学校	40
	成田市	豊住小学校放課後子供教室 (こめっ子クラブ)		○			地域と子供がつながる、笑顔あふれる「こめっ子クラブ」	41
	八千代市	睦学友会 (八千代市睦小中学校支援地域本部)	○				“睦から世界へ”～睦学友会の挑戦	42
東京都	杉並区	桃四コミュニティスクール	○	○	○		保護者・地域の多くの大人の力が結集し、もう一つの家族のような学校につながる活動	43
	町田市	町田市立 小山小学校	○				世代を超えた地域による教育支援。見届け隊・地域を教材とした学習、地域協働の授業。	44
	小平市	三小ちゃんネットワーク	○	○	○		子供の笑顔ははぐむサポーター 保護者・学校支援組織がネットワークで連携!	45
	板橋区	成増小学校支援地域本部	○				学校の外枠をすべて支援!学校と地域、企業等を繋ぎ新しい教育活動を生み出している	46
	葛飾区	上小松小学校 学校地域応援団	○	○			地域住民が、楽しく元気に参加する、地域の教育力を活かした特色ある支援活動	47
神奈川県	横浜市	市ヶ尾中学校学校運営協議会	○		○		「学習する学校」づくりで21世紀型の学校へ改革を～小中一貫で、学校・家庭・地域で、大人も子供も共に学び合う～	48
新潟県	新潟市	中之口東小学校学校支援地域本部	○				地域を挙げての「自分に自信をもち、地域を誇れるキラキラにこにこ東っ子」の育成	49
	新潟市	東青山小学校学校支援地域本部	○	○			みんなで育てよう!地域を愛する子供 広げよう!ひまわりフレンドの輪	50
	南魚沼市	大崎小学校学校支援地域本部	○				地域ぐるみで地域の希望である子供たちを育てよう～大きく 咲かそう 希望の花を～	51
	糸魚川市	能生中学校区学校支援地域本部	○				地域コーディネーターを核とした地域の「絆」づくり 地域の皆様は学校の応援隊!	52
	聖籠町	聖籠町学校支援地域本部	○		○		「ひろがる ふれあい みつける よろこび」ひふみよ精神の聖籠町学校支援地域本部	53
富山県	滑川市	南部さわやか教室		○			心豊かでたくましい子供の育成 ～支援の輪は、連鎖して～ 南部さわやか教室	54
	氷見市	海峰放課後子ども教室		○			多彩な教室を開催し、郷土の自然や日本の文化に触れることで、理科や国語の学習を支援	55
石川県	金沢市	額中学校支援地域本部	○				学校と地域の絆を育み、地域ぐるみで生徒を見守る	56
	加賀市	作見地区放課後子ども教室		○			「ただいま」と子供らが帰ってくる教室	57
	白山市	山島ふるさと塾		○			地域の子供は地域で育てる「子供居場所づくり教室」	58
	穴水町	穴水子ども教室		○			子供の豊かな感性を育む活動 ～穴水子ども教室～	59
福井県	大野市	乾側放課後子ども教室		○			世代間交流と地区民の指導により、太鼓・昔ながらの遊び・縄ないを体験	60
山梨県	笛吹市	「学びの広場ふえふき」	○	○			様々な体験を通して豊かな人間性を育む	61
	甲州市	甲州市学校支援地域ボランティア事業	○				地域の教育力活用で、元気な学校づくりのお手伝い	62
	身延町	みんなで大河内の子どもを育てる協議会	○				子供をまんやかにすえた学校と地域との和(絆)	63
長野県	上田市	上田市立塩田中学校	○				地域の力で学校を元気に 生徒の力で地域を元気に	64
	山形村	山形村学校支援地域本部	○				子供も大人もみんな“いきいきわくわく” —学校と地域の共育ち—	65
	飯田市	竜丘放課後子ども教室 丘の子YOU遊		○			地域の人材、資源を活かし、様々な活動を通し、学び、触れ合い自主性、創造性を育む	66

都道府県 市名	市町村名	活動名または学校名	活動区分				こんな活動です	ページ
			本部	放課後	CS	その他		
岐阜県	岐阜市	長良小学校運営協議会			○		長良っ子まなざしプログラムで郷土を愛し人間性豊かに生きぬくたくましい子を育てる	67
	大垣市	東中学校学校支援ボランティア活動				○	地域住民が主体となって学校を支え、子供を地域で守り育てる「エリア」型地域づくり	68
愛知県	名古屋市	名古屋市立鳴海小学校トワイライトスクール		○			地域の力を活用して、子供たちに豊かな「遊び」「学び」「体験」「交流」の提供	69
	名古屋市	名古屋市立正色小学校トワイライトスクール		○			地域の力を活用して、子供たちに豊かな「遊び」「学び」「体験」「交流」の提供	70
	一宮市	放課後子ども教室キッズi丹陽西		○			みんな仲良く異学年交流！マジック・工作・紙芝居などボランティア企画で笑顔いっぱい元気いっぱい！	71
	愛西市	佐屋放課後子ども教室		○			地域の方々とふれあいのある地域交流活動異年齢との交流！自主性や積極性を学ぶ！	72
	豊川市	一宮中学校区放課後子ども教室		○			土曜日中心の一宮中学校区放課後子ども教室活動は幅広く、文化的な活動からスポーツまで！	73
三重県	いなべ市	立田小学校学校運営協議会			○	○	山村留学とホテルの里づくりを柱として、地域と共に歩む学校づくり	74
	津市	津市立朝陽中学校 学校運営協議会			○		みんなで作るみんなの学校～保護者・地域住民が責任を持って学校運営に参画し、地域が一体になって取り組むコミュニティ・スクールをめざして～	75
	桑名市	ふじっこふれあい教室		○			様々な体験ができる場 子供も大人もみんなが一緒に遊べる地域づくり	76
滋賀県	湖南市	石部南小学校学校支援地域本部	○				子供も地域ボランティアも成長する「みなみっこ応援団」	77
	竜王町	竜王町学校支援地域本部	○		○		地域で次世代を担う竜王っ子を育てよう 地域の教育力向上で元気なまちづくりへ繋げよう	78
	東近江市	蒲生地区学校支援地域本部	○			○	蒲生の子は蒲生で守り育てよう。地域の教育力を結束し、地域全体で小・中学校の支援活動を	79
京都府	京都市	西総合支援学校学校運営協議会			○		地域との双方向の援助、協働によるコミュニティ・スクール	80
	京都市	久世西小学校放課後まなび教室		○			学校の教育活動を支援～子供たちの基礎的・基本的な学力の定着を目指し、自主学習の習慣づけを図る～	81
	精華町	精華中学校コミュニティ協議会	○		○		4部会（シニア・スクール、カレンダー、収穫祭、学校支援）で地域と学校が活性化！	82
	京丹後市	京丹後市学校支援地域本部	○				組織的な地域コーディネーターの配置によって市内全学校への支援が実現！	83
	長岡京市	神足すくすく教室		○			学校と地域が一体となって取り組む放課後子供教室が実現！	84
大阪府	大阪市	関目東小学校「いきいき」活動		○			～みんな仲良く、楽しい「いきいき」を目指して～	85
	大阪市	加美北小学校「いきいき」活動		○			児童の自主性を育む活動の創造 一健やかに育つ児童を願って～	86
	堺市	上神谷小学校放課後ルーム		○			～地域で育む豊かな心・地域教育力の活性化～	87
	交野市	交野市立第二中学校区子供を育てる会（親地の会他）	○				親地（おやじ）の会を中心とした地域住民による、学校を応援する姿勢に徹した支援活動	88
	茨木市	太田さくらくらぶ		○			地域人材による、実に多彩な講座を実施 豊かな体験と交流の場を提供	89
	寝屋川市	第十中学校区地域教育協議会（学校支援地域本部事業）	○				地域のチームワークを大切にした学校支援	90
兵庫県	姫路市	白鷺学校支援地域協議会		○			学校支援地域協議会が、月に2回サタデースクールを運営している	91
	太子町	太田地区学校地域連携普及推進研究協議会	○				深めよう！家庭・学校・地域の「和」～守ろう地域の宝、育てよう地域の和～	92
	篠山市	大山地区郷づくり協議会	○		○		「地域みんなで育む大山っ子!!」～安全・安心、地域に根ざした学校づくりをめざして～	93
	加西市	宇仁郷まちづくり協議会子育て支援センター／宇仁放課後子ども教室		○		○	地域の子供は地域で育てる～地域をあげての子供の居場所づくり～	94
奈良県	奈良市	二名中学校区地域教育協議会	○				子供の元気は校区の力、地域の力～育てよう地域の輪・話・和～	95
	下市町	下市小学校コミュニティ	○				「のびゆく下市っ子」を育てよう～地域と共にある学校、地域と共に歩む学校を目指し、学校・地域の活性化を図る活動～	96
	香芝市	二上コミュニティ	○				「地域に開かれ、地域とともに歩む学校をめざして」～学校・家庭・地域社会との連携・協働を通して～	97
	大和高田市	すがはらコミュニティ	○				豊かな子供をみんなで育む～地域ぐるみで学校支援～	98

都道府県 市名	市町村名	活動名または学校名	活動区分				こんな活動です	ページ
			本部	放課後	CS	その他		
和歌山県	海南市	たつみの子どもを育てる会	○				地域で「世代を超えた顔なじみ」を創造する活動	99
	串本町	串本町地域共育コミュニティ推進本部	○				学びと語らいの場を通じた学校、家庭、地域の「かわり」づくり	100
	那智勝浦町	那智勝浦町地域ふれあいネットワーク実行委員会		○			「放課後子供教室」として町内全ての子どもたちへの居場所づくり	101
鳥取県	境港市	上道小学校学校支援地域本部	○				地域住民と校区内の事業所職員と一緒に取り組む子どもたちの見守り	102
	湯梨浜町	東郷中学校学校支援ボランティア活動				○	「ふるさとに誇りを持ち、ふるさとを愛する生徒」の育成～伝統芸能の伝承活動	103
島根県	益田市	真砂地区教育協働化推進本部	○	○			公民館・学校・地域商社との協働による食育活動の推進と「人づくり地域づくり」	104
	安来市	島田交流センターを中心とした地域の活性化を目指した仲間づくりと人づくり				○	地域住民をつなぎ、地域を活性化させ、地域の教育力を高める学校支援活動	105
	隠岐の島町	有木小学校への学校支援活動	○	○			「あげこげ言わずにみんなでやらあや、わいらの島の子育て」有木小学校への学校支援活動	106
岡山県	高梁市	巨瀬学園支援ボランティア活動	○				地域住民みんなが学校の応援団！公民館と連携した多彩な支援！地域づくり人づくりに効果！	107
	吉備中央町	大和放課後子ども教室		○			安全・安心な居場所づくりが実現！学習習慣の定着、心の成長などにも効果！	108
広島県	廿日市市	友和小学校区学校支援地域本部	○			○	地域の子供たちは地域で育てる！！ そのために地域の大人は手をつなぐ！！	109
	世羅町	甲山地域推進協議会	○				自治センターが学校支援活動の要！！ 児童生徒の自主・主体性を育む活動を展開！！	110
	庄原市	山内放課後子ども教室		○			地域の子供は地域で守り、地域で育てる！！	111
山口県	長門市	深川地域協育ネット	○	○	○		地域の「ひと・もの・こと」との関わりの中で子供を育てる。その中心は公民館！	112
	平生町	平生町地域協育ネット	○	○	○		中学校区を一まとまりとし、子供たちの育ちや学びを地域ぐるみで見守り・支援！	113
	上関町	上関町放課後子ども教室		○			平日は年間通して開設。春夏秋冬、地域ぐるみで子供の居場所づくり！	114
徳島県	三好市	様生放課後子ども教室		○			ふるさと西祖谷のよさを、地域のみんで子供に継承していく「様生放課後子ども教室」	115
	海陽町	ドリームスクール鈴が峰		○			地震・津波対策、自分の命をしっかりと守る！安全・安心な「ドリームスクール鈴が峰」	116
	那賀町	鷲敷子どもクラブ		○			学習、スポーツ、遊び、探検、訓練等、いろいろな体験活動にレッツ・チャレンジ！	117
香川県	丸亀市	桃の里わくわく倶楽部		○			コミュニティセンターを拠点とした地域の力による子供の居場所づくり	118
愛媛県	松山市	立岩っ子クラブ		○			地域の力で、心豊かな子供を育くむ	119
	伊予市	伊予小学校区放課後子ども教室		○			～地域が支える子供の安全で楽しい居場所づくり～	120
	西条市	周布こどもランド		○			穏やかで柔軟な感性をもてる子供へ 地域の子供は地域で育てる	121
	愛南町	御荘中学校区学校支援地域本部	○				～地域で育てよう 愛南の子供たち～ 学校・家庭・地域が三位一体となって、よりよい青少年の健全育成を推進する	122
高知県	香南市	赤岡小学校区学校支援地域本部	○				地域で守り、育てよう 赤岡の子供たち！ ～地域とともに育つ赤岡小学校@「黒潮の子ども応援隊」の取組～	123
福岡県	北九州市	桜丘小学校支援地域本部	○				スクールボランティア（学生ボランティア）による学習支援	124
	久留米市	南薫小学校支援地域本部	○	○		○	学校行事や授業の支援、児童の登下校や放課後、土曜日や日曜日などに充実した地域活動が行える環境を、地域をあげて取り組んでいる	125
長崎県	西海市	せんだんの会（亀岳小学校運営委員会）	○				亀小サマースクール（無人島サバイバルキャンプ・よってこい寺子屋・亀岳歴史発見ツアー・クッキング教室）	126
	佐世保市	赤崎放課後子ども教室	○	○			「地域・人・自然とのふれあい体験」生き生き赤崎っ子！	127
	諫早市	西諫早小学校学校支援会議	○	○			テーマ「心豊かな子どもを育てるためのよりよい環境づくり」を目指した子供の育成	128
熊本県	宇城市	不知火中学校区学校支援ボランティア	○				地域の触れ合いを大切に、豊かな心を育む学校支援ボランティア活動	129
	甲佐町	甲佐町放課後子ども教室 乙女小まつやま塾		○			地域の先達を講師とした、学校周囲の豊かな自然を舞台にした学び合い！	130
	水俣市	水俣第一中学校支援地域本部	○			○	多くの地域住民がボランティアとして参加し、学校以外の地域の各種機関・団体とも幅広く連携協力した活動	131

都道府県 市名	市町村名	活動名または学校名	活動区分				こんな活動です	ページ
			本部	放課後	CS	その他		
大分県	由布市	扶間中学校区放課後子ども教室 「学楽多塾」		○			子供たちの縦割り体験活動を取り入れた、ニュータイプの地域塾	132
	杵築市	山香校区ネットワーク会議 「下校見守り活動」	○				地域住民で小学生の安心・安全を!「下校見守り活動」	133
	玖珠町	八幡地区自治組織運営協議会		○			地域の特性を活かした農業体験を取り入れた支援活動	134
宮崎県	えびの市	上江地区学校支援地域本部	○		○		地域ぐるみで子供の学びを充実したものに学校応援団活動	135
	日向市	しおみっ子放課後子ども教室		○			学習支援と遊びの見守り、充実した体験活動を通して子供の居場所づくり	136
	新富町	放課後子ども教室あおぞら		○			地域の自然の中で学び、人と人とのつながりを築く活動	137
鹿児島県	鹿児島市	大明丘小学校地域本部	○				地域住民が支援する「地域の中の学校」づくり	138
	瀬戸内町	古仁屋中学校区支援地域本部事業	○				学習、部活動、環境、登下校安全等を地域全体で支援している	139
	南九州市	たかた三世代塾		○			地域の子供は地域で育てる!子供・保護者・地域の人材(高齢者)、三世代での活動	140
沖縄県	那覇市	高良小 PTA 放課後子ども教室		○			子供たちの放課後の居場所づくりと伝統文化に触れることができる教室!	141
	南風原町	南風原町学校支援地域本部	○				「未来を担う南風原町の子どもたちを、地域で育てましょう」の理念のもと事業を展開	142
	沖縄市	越来小学校支援地域本部	○				学習支援や学校行事に係る学校支援活動	143
	北中城村	北中城村学校支援地域本部	○				子供たちを 学校を 地域で支えよう!	144

● 参考資料

優れた「地域による学校支援活動」推進にかかる文部科学大臣表彰(要項)	146
学校・家庭・地域の連携協力推進事業(学校支援地域本部、放課後子供教室)	147
土曜日の教育活動推進プラン	149
コミュニティスクール(学校運営協議会制度)について	152

生涯学習を地域に生かす 「みんなで支える学校、みんなで育てる子供!!」

北海道留寿都村

■ 活動名

留寿都村学校支援地域本部

■ 関係する学校

留寿都村立留寿都小学校及び留寿都中学校

活動区分		コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
基本データ	学校支援 地域本部	1人	35人	20年度	有
	放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
	コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	その他				

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

留寿都村学校支援地域本部は、平成20年度の事業開始時に設立され、学校・PTA・地域・行政職員の参画を得た協議会と連携し、留寿都小学校と留寿都中学校に、豊かな体験活動を提供する取組を進めている。

「地域の伝統を学ぶ学習に支援の輪が広がる」をテーマとして、地域コーディネーターが中心となり、様々な学校支援の活動を展開している。具体的には、本村の基幹産業である農業の体験を通し、また、村立の留寿都高等学校農業福祉科の生徒と異年代交流を図りつつ、お互いが思いやりと信頼感のある豊かな心の育成に資する学校支援活動、小学校における早朝や放課後の読み聞かせや全国有数のスキー場を利用したスキー授業での指導や郷土芸能である和太鼓指導等の学習支援活動、柔道やスキーの部活動指導、学校家庭科室の包丁研ぎ等の学校環境整備など年間58回にわたり、延べ298名もの地域ボランティアが参加している。

地域の特色を生かした創意工夫のある活動を展開することにより、地域の大人が学校や子供に関心を示すとともに、住民の学習成果の活用機会の拡充及び地域の教育力の向上が図られるなど、教育環境の改善・充実に大きな効果をあげている。

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

本村は、農業を基幹産業としており、小学校においては、JAようてい青年部を中心とした地域ボランティアにより、各種団体及び個人が協力しながら、農業体験を主とした学校支援を行っている。

また、村立の留寿都高等学校の生徒と小学生が異年代交流をしながら農業体験をすることにより、お互いが思いやりと信頼感のある豊かな心の育成に努めるよう学校支援を行っている。

【実施に当たっての工夫】

農作業に適した時期に農業体験をすることができるよう事業の実施時期を調整したり、圃場を確保したりする必要があるため、JAようてい青年部との連携を密にしている。

■ 事業を実施して

地域の特性を生かした農業体験学習を通して、地元の産業である農業についての深い理解と高い関心をもつようになり、また、本の読み聞かせにより本を読むことが楽しみになり、本に親しむ習慣を身に付けるなど豊かな心の育成などの成果が得られている。

また、スキー授業においては、短い期間ではあるがスキー技術の有資格者が、地域ボランティアとしてスキー操作等の技術指導をすることによりスキー技術の向上が図られている。

■ その他

平成20年度から、毎年、小学校の学年ごとで違う内容の体験学習を行うことにより、児童に対して長期的・段階的な活動の場を提供することができるようになってきた。



収穫した馬鈴薯でポテトピザを調理(JAようてい女性部ダイヤモンドの会と小学3年生)



農業体験交流 馬鈴薯の収穫(JAようてい青年部と小学3年生)



高校生との異年代農業体験交流スイートコーンの収穫(高校生1年生と小学1、2年生)

地域の伝統文化「獅子神楽」や地域のニーズに応えた学生による学習支援を実施!

北海道利尻富士町

■ 活動名

利尻富士町放課後子ども教室運営委員会

■ 関係する学校

鷺泊小学校・利尻小学校・鷺泊中学校・
鬼脇中学校

基本データ	活動区分			開始年度	補助の有無
	学校支援 地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	20年度	有
		1人	120人		
	放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		2人	32人	557日	有
		実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
学校空き教室・体育館、公民館		21年度	無		
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	
その他	○				

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

※水泳教室・サッカー教室・
バドミントン教室は25年度
より総合型スポーツクラブへ
移行

教室名	登録者	年間開催数	教室名	登録者	年間開催数
水泳教室	65	22	もの作り教室(鷺泊)	8	1
書道教室	22	10	もの作り教室(鬼脇)	18	1
サッカー教室	16	8	獅子神楽子ども教室	12	12
バドミントン教室	9	13	平日教室(鷺泊)	57	218
鬼脇カルタ教室	24	58	平日教室(鬼脇)	5	201
鷺泊カルタ教室	19	19			

教室名	参加児童生徒	開催日数	教室名	参加児童生徒	開催日数
夏休みチャレンジ教室	81	5	冬休みチャレンジ教室	34	4

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

- 獅子神楽子ども教室(全町小中学校から参加募集をし、鷺泊で実施)
地域の伝統文化を継承することを目的として、地域住民による保存会の方々の指導を仰ぎ、取り組んでいる。また、教室での成果を文化講演会にて発表も行っている。
- 夏休み・冬休みチャレンジ教室(島内児童生徒を対象に実施)
夏季は北海道教育大学旭川校の協力により、学生から学習支援ボランティアを招聘し、参加児童生徒への学習支援やスポーツ支援活動を実施している。冬季には地元利尻高校の生徒が指導補助となり、地域住民の有志からなる指導者と共に学習支援を行っている。

【実施に当たっての工夫】

- 大学も無く、教員OBの定住者もない離島という地域の实情により、指導者の確保が大きな課題となっている。獅子神楽保存会や利尻高校、町外の大学へ在学している学生の保護者と、細やかに連絡相談を行い、獅子神楽子ども教室、夏休み・冬休みチャレンジ教室の指導者の確保に努めている。

■ 事業を実施して

利尻富士町は、塾や習い事などの放課後の子供の受け入れ先となる民間の事業所が無い上、冬季などは厳しい気象条件のため、公民館等で体験教室等が実施できる期間に限られる離島独特の環境にある。

放課後子供教室推進事業を実施することにより、子供達に放課後の安全・安心な居場所を提供することができるとともに、指導者や支援者を担う地域住民の方々と触れ合うことができる貴重な場となっている。

また、各スポーツ教室を開催したことにより子供のスポーツ活動が定着し、総合型スポーツクラブへのスムーズな移行が図られ、クラブの発展に寄与できた。

■ その他

「子ども教室」への関わりを機に、獅子神楽保存会や地域住民の中には、学校地域本部事業の取組に対しても、理解を示し、登下校の児童の見守り等の活動に今年度2名程、参画を申し出ていただいた。

町内に、こうした機運が高まることにより、子供を見守る大人の輪が地域に広がることを期待している。



夏休みチャレンジ教室



冬休みチャレンジ教室

「アソビバ!つべつ」は学びの宝庫! 地域の教育資源を生かした多様なプログラムを実施!

北海道津別町

■ 活動名

アソビバ!つべつ

■ 関係する学校

津別小学校・本岐小学校・活汲小中学校・津別中学校

基本データ	活動区分			開始年度	補助の有無
	学校支援 地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	20年度	有
		1人	35人		
	放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		3人	13人	293日	有
		実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
町内施設及び周辺フィールド		20年度	有		
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	
その他	○				

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

町内全域で実施されている放課後子供教室、放課後児童クラブ、学校支援地域本部に加え、週末等を活用した多様な体験活動プログラムを、年間を通して実施している。

町内の小学生から中学生を対象に、町内施設や周辺のフィールドで、年間40回前後、以下のプログラムを実施している。

【主な活動】

- ◇〈アソビバファーム〉看板作り、植ええ～収穫、調理体験
- ◇〈木育〉町民植樹、ツリーイング、森清掃、緑募金、木の図鑑作り、ネイチャーゲーム、枝打ち、落ち葉スタンドグラス作り
- ◇〈スポーツ体験〉体力測定会、ラグビー、スキー教室
- ◇〈自然体験〉サイクリング、イカダ作り&川下り、登山、ラフティング、チミケップ湖カヌー、網走川かわ塾、わかさぎ釣り、スノーシュー、エゾ鹿観察会、冬探検ツアー
- ◇〈生活体験(創作体験含む)〉通学合宿、しめなわ作り、もちつき、マグカップ作り
- ◇〈その他の体験活動〉体de遊ぼうシリーズ、学習サポートまなび場、ホワイトスクール交流会 等

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

JAつべつ青年部・役場産業課・網走開発局・網走建設管理部・NPO法人団体・民間団体等と連携し、年間を通じた食育(畑の看板作り・種まき・経過観察・収穫・調理)、木育(植樹・ツリーイング・森清掃・木の図鑑作り・枝打ち・ネイチャーゲーム)、自然体験(登山・カヌー・ラフティング・イカダ作り&川下り・かわ塾・鹿観察会・スノーシュー・わかさぎ釣り)、伝統文化・スポーツ体験など、多様なプログラムを実施することで、子供たちに幅広い分野における学びと体験の機会を提供している。

【実施に当たっての工夫】

以前は、JAつべつ青年部、役場産業課など、町内にある各種団体が連携をせずに、それぞれ体験活動を実施しており、対象学年や事業日等が重複するなどの課題が見られた。こうした課題を克服するため、各種団体と連携し、より参加しやすい環境づくりを行うこととして立ち上げたのが、「アソビバ!つべつ」である。

本事業では、親子参加の機会を増やすことで、家庭におけるコミュニケーション力の向上を図るとともに、地域の各種団体と協議する場を設定するなど、連携を密にしたことで、子供たちに多様なプログラムを提供することが可能となった。

■ 事業を実施して

事業を展開していく中で、各種団体や地域の方々からの支援・協力が増え、連携した取組をするためのネットワークが必然的に構築され、その機能が発揮されたことにより、地域の教育サポーターの発見など、各種団体間の横のつながりに広がりが見られている。

また、異年齢交流の場ともなっており、小学校高学年の児童や中学生が、年下の学年の児童をみるなどの姿が見られるようになり、今後、リーダー養成を含めた事業の展開を目指している。

■ その他

「アソビバ!つべつ」は、横のつながりを大事にしている事業であり、様々な個人・団体が関わっており、今後も継続したつながりの中で、より専門的な学びを子供たちや保護者、地域の方々に提供していく。

そして、その中から将来のリーダーを養成するために、中学生の積極的な参加、高校生ボランティアの活用、青年サークルの事業への関わりを重視し、子供を地域で見守り、地域を担う人材を育てる事業を目指していく。

■ 参考URL ■

<http://www.town.tsubetsu.hokkaido.jp/>



アソビバ!「イカダ作り&イカダ下り」



アソビバ!「通学合宿」

「地域とつながる・地域をつなげる」学校支援活動

青森県深浦町

■ 活動名

修道小学校学校支援地域本部

■ 関係する学校

深浦町立修道小学校

基本データ	活動区分	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	学校支援 地域本部	1人	9人	21年度	有
放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無	
	実施場所			開始年度	放課後児童 クラブとの連携
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	
その他	※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)				

活動の概要

○ボランティアは毎年更新して募集している。現PTA、元PTA、同じ校区にある中学校のPTA、地域住民と、学校・保護者・地域住民の3者の協働による学校支援が行われている。

- 各学級が児童数20名以下と少ないため、日常的な学習支援というより安全面で必要などきの支援が中心である。学習支援では、家庭科の調理実習時における支援を行っている。また、ミシンの事前点検や修理も行っている。
- 校外学習では安全面での必要性から引率支援に入っているが、さらに支援する側が地元の地理に詳しいということから支援の要請がくることもある。
- 環境整備としては図書室が中心。分類ラベルの貼付、ブックコート、古い本の補修、本の紹介等を行っている。
- 毎年、各学年が学校菜園で育てたじゃがいも・さつまいも等を使った調理学習をボランティアの支援を得て全学年実施している。今年度も実施する予定である。また、今年度から学校給食が始まり、1年生は配膳や食事にも時間がかかるため、安全面とともにゆっくり食べられる時間の確保のため、配膳の支援を行っている。

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

- 拡大クラブ…「クラブ活動に変化がほしい。」こんな要望が学校から出され、年間9時間のうち2時間を「拡大クラブ」として、子供達からの希望を受け、凧絵、陶芸、押し花、和太鼓、新舞踊、食育の6つのクラブを実施。講師は校区内外の住民や役場職員等。町内各地から様々な「地域の達人」が集まったことで子供達は本格的な技に触れることができ、楽しい時間となった。また、事前にボランティアのお母さん方を対象に押し花の研修会を行い、指導者の育成と実技の向上を図った。
- 手作り大型紙芝居…年1回行われる「読書まつり」では、手作り大型紙芝居が披露される。そのために、絵本のページを大きな紙に書き写したり読み合わせをしたりと、コーディネーターもボランティアも入念に準備を重ねる。子供達の笑顔や真剣に聞いてくれる姿が活動の励みとなっている。

【実施に当たっての工夫】

- 学校側の配慮により、空き教室を利用した「ボランティアルーム」が設置されている。ここではコーディネーターが業務をこなしたり、ボランティアとの打合せを行ったりするだけではなく、読み聞かせに向けての練習や道具作りも気兼ねなくできる。専用スペースはボランティア活動をすすめるうえで貴重な場所となっている。
- 職員室前にボランティアの「出勤表」を掲示し、その日だれが在籍しているのか、職員はもちろん子供達にもわかるようにしている。
- 講師の人選にあたっては、コーディネーターの人脈とともに町教育委員会が町民講師として保有している人材バンク「達人倶楽部」も活用している。



地域の達人による「拡大クラブ」

■ 事業を実施して

- 教師の指導が手薄になるところの補助、図書室を中心とした教育環境の整備、複数の目による安全面の高まり、特色ある教育活動の展開等たくさんの効果が認められた。今後もさらに支援活動を継続してほしいと学校側では希望している。
- 地域住民が学校に関心をもつようになり、また子供達も地域住民とふれあうようになったことで、学校と地域のつながりが強まった。さらに、地域住民が学校を中心としてつながることでこれまで以上に元気になってきた。

■ その他

- コーディネーターが地域に住んでいるということだけでなく、行政から委嘱を受けた保健協力員として長年地域において活動していることもあり、地域住民をよく知っている。そのため、ゲストティーチャーが必要な場合には確実にかつ速やかに人選できるという大きなメリットがある。



大型紙芝居を使った読み聞かせ

地域ぐるみで太陽っ子(北園小学校児童の愛称)を健全に育成!

青森県十和田市

活動名

北園小学校学校支援事業

関係する学校

十和田市立北園小学校

基本データ	活動区分			開始年度	補助の有無
	学校支援 地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	20年度	無
		1人	44人		
	放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		3人	37人	55日	有
実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携		
	2F 図工室	3F インタールーム	23年度	無	
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	
その他	○				

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

【学校と家庭】ベルマーク・学習支援・図書ボランティア、おやじの会(奉仕作業)、太陽っ子セーフティーサポート

【学校と地域】民生児童委員による下校指導、北園小同窓会事業

【地域と家庭】地区子ども会連合会の活動、町内会の祭り、青少年育成事業

【学校と家庭と地域】ウインターフェスティバル、台湾北成國民小學交流事業、児童の安全確保に関する事業(地区青少年健全育成協議会、民生児童委員 他)、エコステーション事業(古紙リサイクル)、北園の緑を守る会(校地内の樹木の保全・植樹)

○支援活動は年間を通して行われており、学習支援活動、環境整備、読み聞かせ、学校行事支援などの様々な分野で取り組まれている。

特徴

【特徴的な活動内容】

北園地区ウインターフェスティバル

「学校・家庭・地域を結び付ける」ための行事で、地区の体育振興会が中心となって開催される。スポーツ雪合戦や雪上フットサル、乗馬体験、ユニカル大会、また料理教室などが開催される。バラ焼きやフリーマーケットが展覧され、子供だけではなく地域の方も多数参加する。

植樹祭

「北園の緑を守る会」が、学校環境づくりの一環として校地内の2,000本の樹木を保護している。この活動に賛同する地域住民が倒木の危険のある木の伐採を行う等、安全面での管理に協力している。22年度には、地域住民がつつじの苗木を提供し、ボランティアの協力を得て、盛大に植樹祭が開催された。

【実施に当たっての工夫】

フェスティバルの開催にあたっては、地域の諸団体の代表や学校、PTA役員等から実行委員会が組織される。

各種競技や催しの実施にあたっては、体育振興会のソフトボールと野球部育成会が雪合戦を担当するなど、地域団体とPTAが協力して行うことを基本としている。

フェスティバル運営にあたっては当初は計画立案から運営まで、学校が数多くの役割を担ってきたと思われるが、現在は学校、PTA、各種団体の役割分担が明確になり、それらの団体が協力して運営を行っている。

校内にはボランティアルームが設けられ、活動の拠点として活用され、学校と密接に連携をとりながら活動を進めている。

事業を実施して

北園地区の体育振興会とPTAが中心となり実施するウインターフェスティバルには、北園小学校の子供だけではなく、地域の方も多数参加している。この行事によって保護者や地域とのつながりが生まれ、連携が強固なものになり、ボランティア活動の輪が広がってきた。

その他

北園小学校は、台湾の北成國民小學と交流を実施している。平成17,23年度には北成國民小學児童が、14、21、24年度には北園小学校児童がそれぞれの学校を訪問、25年度はテレビ会議による交流を行った。これらの交流を支えているのが、台湾出身の地域住民であり、翻訳や児童への台湾語の指導、訪問時の帯同等のサポートがなされた。この活動に共感したPTAをはじめとする多くの人たちが交流ボランティアとして参加している。



ウインターフェスティバル



植樹祭(命のバトンリレー)

学校教育活動を人的に支援し、安全かつ効果的に 行えるようにするための活動

青森県五戸町

■ 活動名

五戸小学校学校支援センター

■ 関係する学校

五戸町立五戸小学校

基本データ	活動区分	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	学校支援 地域本部	2人	20人	21年度	有
放課後 子供教室	コーディネーター数	2人	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所			開始年度	放課後児童 クラブとの連携
	五戸町立公民館			19年度	有
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	
その他					

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

平成21年度に国の委託事業を受け、それ以前から行っていた活動がより盛んになった。2人のコーディネーターがいることにより、継続性が図られ、元PTA・現役PTA、町内の住民により様々な活動が行われている。

- 【1 図書室支援】・学校図書室の環境整備 ・書物の修理等
- 【2 学習支援】・国語科(毛筆指導、読み聞かせ) ・生活科(町探検引率補助)
・体育科(水泳教室指導補助、スケート教室指導補助) ・家庭科(実習補助)等
- 【3 環境整備支援】・学校田の草取り、水の管理 ・校地内の樹木の剪定
- 【4 安全支援】・登下校時の児童の安全確保
- 【5 その他】・町の作品展入賞者の賞状(名前)書き

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

地域の教育力を生かした活動

学習支援において、各分野で指導力に秀でた方から協力をいただき教育の質を上げるようにしている。

図書ボランティア講習会を実施し、本の性質・取り扱い方・修理方法について学び、実際の修理作業に入ると本の修理のみにとどまらず、子供達のために図書室を良くしていこうというアイデアも出始め、講習会参加者の意欲の向上につながった。

【実施に当たっての工夫】

- ・地域の方々の積極的な協力を得るために、コーディネーターを中心にお便り等で情報を得るようにしている。
- ・活動の様子を校内に掲示するなどして、学校と地域の協働による教育活動の周知を図っている。
- ・コーディネーターは、PTA会員1名と地域の方1名の2名で行っており、学校関係以外の方が加わることでボランティアの人材探しの幅が広がっている。
- ・地域のお祭りには教職員も積極的に参加する、幼、保、中、高、他団体との交流を深める等により地域との連携を強化している。
- ・年々衰退していく子ども会の活性化に取り組んでいる。

■ 事業を実施して

- ・専門的な力を有する指導者の方の指導により、教育効果が高まった。また、安全に指導を行うことができた。
- ・子供たちと地域の方々とふれあう機会が増えたことで、地域の一員としての自覚が出てきた。
- ・これまでに実施したボランティア活動の中で、保護者や地域の方々が実際に学校で活動することにより、学校内の実情を理解していただく足がかりになっている。
- ・ボランティアの方々は喜んで参加しており、その活動が生きがいとなっている。

■ その他

平成26年度には、周囲の3小学校と統合して新しい五戸小学校が誕生する。そうすると、これまで以上に地域の力を活用した教育活動の効果が期待できるので、これからも充実発展できるようにがんばっていききたい。



絵本の読み聞かせ



水泳教室指導補助

豊富な地域資源と地域のみなさんの「知恵と技、エネルギー」を活かした学校支援事業

岩手県洋野町

活動名

大野地区学校支援地域本部

関係する学校

洋野町立大野小学校

活動区分	基本データ			
	学校支援 地域本部	コーディネーター数 1人	ボランティア登録数 74人	開始年度 21年度
放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
その他				

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

平成18年、隣接する種市町と大野村が合併し洋野町誕生となる。

合併前は、「一人一芸の里」として、村の産業、生活文化の創造、人材育成等地域の活性化を図ってきた。その文化産業の発信基地として「おおのキャンパス」がある。このエリアは、学びの場として教育資源が豊富で体験学習の拠点となっており、それを最大限に活用できる恵まれた環境にある。

この地域は、日頃から学校への理解や関心も高く支援意欲も強い。特に学校給食は地場産品の「大野木工の器」を使い、「一人一芸の里」の思いを受け継いでいる。このように地域住民の学校や子供への熱い思いがあふれ、豊富な地域資源と地域住民の「知恵と技、エネルギー」を活かした、教科等の学習を中心とした学校支援事業を行っている。

特徴

【特徴的な活動内容】

多彩な学習支援活動 『地域即学校・大人即教師』

- 学習支援ボランティア ゲストティーチャー 年間56回 参加ボランティア のべ118人
 - ★町探検、工房見学、職場体験、川の生物探検 等の学習支援
- 図書ボランティア 年間68回 参加ボランティア のべ338人
 - ★読み聞かせ「いちょうの木」 毎月第1・3水曜日 朝の読み聞かせ 各学年対象
毎月第4水曜日 昼の読み聞かせ 全学年対象
 - ★本の補修、装飾「こびとのくつ屋」 毎月第1・4月曜日
- その他
 - ★環境整備、登下校安全パトロール見守り隊、学校行事の支援

【実施に当たっての工夫】

- 児童を中心とし、学校、保護者、地域各々の活動に留まらず、町の社会教育担当者を中心に参加するなど行政も含めた5者が連携をとり、地域の特徴を生かした計画や活動を実施している。
- 年2回の地域教育協議会を開催し、事業の活動計画の提案や事業実施報告等を行い、広く委員から意見の聴取や事業概要の確認を定期的に行っている他に、委員の方々がボランティアとして支援していることにより、具体的な事業展開の工夫改善が日常的になされている。
- 地域のキャッチフレーズ「一人一芸の里」を活かした人材の活用による、個人の知恵と技や意欲を活かしたボランティアの配置をしている。
- 学校のニーズに応じて、地域コーディネーターが体験・見学施設やゲストティーチャー・各種ボランティアとの連絡調整を行い実施の周知や手配等を行っている。
- 空き教室を活用し開設したボランティアルームは、活動者がものづくりや、交流・活動拠点としている他に、第4水曜日には、昼の読み聞かせの場所として、子供たちが集う場所にもなっている。

事業を実施して

- 地域の人材、資源を活用しての学習を通じて、児童の地域理解を深め、地域の良さを再確認することにつながり、郷土愛の精神を養うことができた。
- 児童が地域の自然や施設、産業について体験的に学ぶことができ、生きる力の基礎を養うことができた。
- 児童が地域住民と学習の中で関わることでコミュニケーション力を高めることができた。
- 地域の多くの方々が、「地域即学校・大人即教師」という意識を持ちはじめ、ボランティアを活用した学習を重ねていくことで、ゲストティーチャーの資料作成、手づくり道具等創意工夫あふれる支援が見られてきた。
- 図書ボランティアは読み聞かせにとどまらず、手づくり紙芝居の創作活動を自主的に行い、コンクールに応募し入選するまでに成長し、他市町村のボランティアとも交流して質の向上を図ることができた。
- 体験や見学をするための移動バスの手配や、町の施設の開放・見学のための職員の配置等行政の理解と協力が大きな効果を上げている。
- 年を追うごとに教員の理解も増し、種まきから育てて収穫するまでの活動のように、年間を通して見通しを持った教育活動を工夫して展開できるようになってきた。



1学年
生活科「どんぐりから器まで」の支援
ゲストティーチャー：大野木工生産グループ



4学年 総合的な学習の時間
大野川の探検の支援～みつけたよ ハナカジャ!～
ゲストティーチャー：大野の自然を守る会

子供たちの自主的な「学びの場」「遊びの場」「体験の場」

岩手県一関市

■ 活動名

あこおぎ子ども広場

■ 関係する学校

一関市立赤荻小学校・山目小学校・
一関小学校

活動区分	基本データ			
	学校支援 地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度
放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	4人	17人	96日	有
コミュニティ スクール	実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
	一関学習交流館(体育館、研修室、和室、野外 他)		19年度	有
その他	指定日	委員数	児童生徒数	学級数

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

当教室は、赤荻小学校・赤荻クラブ(児童クラブ)と隣接しており、活動場所としては非常に恵まれた環境にある。当教室の登録児童数は120名を超え、小学校全児童数の3分の1もの参加者になっている。

活動方針は、楽しみながら身に付く『学びの教室』(専門教室)を中心に自主学習や遊びを加えることで、開催日以外の日にも児童が気軽に立ち寄れる居場所を目指すこととしている。

活動期間は、各年度4月から翌年2月までの11か月間。活動日は毎週木曜日放課後と土曜日として年間95日以上開催している。

主な活動は、大きく分けて以下の2つのコースに分けられる。

1つは、『茶の湯』『習字』『そろばん』『空手』の4つの専門教室で、1人で3~4つの教室に重複して参加している子供もいて、非常に人気がある。

もう1つは自主勉強や自由遊びなどを活かした『キッズボランティア』と『チャレンジタイム』という活動である。

いずれも年間を通して活動している。

年間を通しての活動に加えて、主に夏・冬休み中に行う『特別プログラム』も年に4~5回開催している。

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

○専門教室の開催

子供たちや保護者の方々に対して、どんな活動を行ってほしいかアンケート調査を行い、要望の多かった以下の教室を開催している。

- ・茶の湯教室…登録児童数42名(全39回)
- ・習字教室…登録児童数70名(全16回)
- ・そろばん教室…登録児童数39名(全17回)
- ・空手教室…登録児童数29名(全29回)

○キッズボランティア

キッズボランティアとして登録した子供たちは、週1回の活動の中で施設内の七夕飾り作成を手伝ったり、手話を勉強し地域の祭りの中で手話を発表したりしている。

この活動が発展し、子供教室全体で県外にある盲導犬訓練センターを訪問した。

○特別プログラムの開催

夏には『沢登り探検』『夏山登山』、冬には『しめ縄作り』などの、普段学校や家庭ではなかなか体験できない行事を取り入れた。

【実施に当たっての工夫】

○子供たちの自主性の尊重

日々の活動内容は子供たちの自主性に任せており、『専門教室』と『チャレンジタイム』を子供たちが自由に組み合わせ活動している。

○学校・家庭・地域・児童クラブとの連携

年度始めに学校にポスターを貼ってもらい、参加児童の募集にご協力をいただいている。

また、日頃から保護者の方々には足を運んでもらうよう声掛けをし、特別プログラム開催の際には保護者の方々にも参加していただくなど、この事業に対する理解を得ながら連携を図っている。

地域との連携という点では、専門教室の講師を地域の方に依頼し、子供教室を地域の人材を生かす場としている。

さらに、児童クラブと隣接していることから、学校から帰ってきた子供たちは児童クラブに荷物を置き「いってきます」と言って、子供教室に向かうという流れができており、特別プログラム開催の際には、引率者として児童クラブの指導員の方々にもご協力をいただいている。

■ 事業を実施して

○地域から学習塾が近くにほとんど無いこともあり、子供たちからの人気が高いことはもちろんのこと、保護者の方々からも非常に喜ばれている。

○指導にあたる地域の方々にとっても自らの能力を発揮できる場として好評。

○子供たちが、学校と家庭だけでなく地域社会とも関わりを持ったことにより、大人との会話の機会が増え、あいさつもしっかりとできるようになった。



習字教室の様子



チャレンジタイムでの様子

子供が主体的に遊ぶ力を養い、未来の地域リーダーを育てる

岩手県一関市

■ 活動名

長坂子どもクラブ

■ 関係する学校

一関市立長坂小学校

基本データ	活動区分				
	学校支援 地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		1人	11人	93日	有
		実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
	長坂小学校(多目的ホール、図工室)		16年度	無	
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	
その他					

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

当教室は、放課後子供教室を「遊びを通して子供同士が関わりお互いが成長していく場」と定義し、「大人の働きかけではなく、子供のやりたい気持ち(意志)を大切に」という方針を掲げ、子供が主体的に遊ぶことが出来るような環境作りに取り組んでいる。

活動期間は、各年度6月から翌年度の2月までの9か月間。活動日は毎週月曜日、火曜日、水曜日、金曜日としていて、年間93日以上開催している。

日常の活動は子供たちの自主性に任せ、宿題をする子、外でサッカーをする子など様々。

日常の活動に加え、特別活動として「宇宙探検隊」「自然探検隊」「楽しいもの作り隊」「季節行事探検隊」「伝統文化探検隊」という5つの体験型プログラムや2日間の夏休みイベント「わらすたず」を開催した。

これらの活動をするにあたっては、地域の中高生で組織されたジュニアリーダーズクラブ「ハピクロ」にボランティアとしてお手伝いいただいている。

子供教室に参加した小学生は、成長して次のジュニアリーダーとなり、ジュニアリーダーを卒業したメンバーが青年リーダー、ひいては地域リーダーとなって地域の活性化のために活躍していけるような、そんな取り組みにチャレンジしている。

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

○ジュニアリーダーズクラブ「ハピクロ」との連携

地域のジュニアリーダーズクラブ「ハピクロ」が下記の特別活動に参加し、子供たちの指導を行った。

- ・宇宙探検隊…ペットボトルロケット作成等の体験活動とおした、宇宙や科学についての学習(全5回)
- ・自然探検隊…虫取り活動やネイチャーゲーム等の自然体験(全1回)
- ・楽しいもの作り隊…風船やペットボトルを使ってのおもちゃ作り(全3回)
- ・季節行事探検隊…秋はハロウィン、冬はクリスマスと節分の季節行事体験(全3回)
- ・伝統文化体験隊…ふくわらい、かるた等の昔遊び体験(全1回)
- ・夏休みイベント「わらすたず(笑星's)」…2日間の日程での工作・調理体験・レク・川遊び・ミニ運動会・勉強会等

子供教室に参加していた子供たちが子供教室卒業後、「ハピクロ」に加わりジュニアリーダーとして地域住民とともに子供教室事業に参画することも目的の1つとしている。

【実施に当たっての工夫】

○子供たちの自主性の尊重

日々の活動に特にメニューを設けず、子供たちがやりたいことをやるということを大切にしている。

○地域の各団体・学校との連携

地域の老人クラブ、婦人会、ジュニアリーダーズクラブの方々がボランティアとして登録していて、それぞれ得意な分野で積極的に子供たちと関わっている。また、学校内に子供教室があり、先生方とも日頃から情報交換を行っている。

■ 事業を実施して

○日々の活動を子供たちの自主性に任せることで「自分で自由に自発的に遊ぶ子供が増えてきた。」

○ジュニアリーダーと共に活動することで「中学生になったらジュニアリーダーになる」と言う子供もおり、新たなジュニアリーダーの育成にも繋がっていると考える。

■ その他

ハピクロのメンバーは、「自分に出来ることが増えればもっと楽しい活動が出来る」と認識し、県内で開催される様々な研修会や、他の市町村のジュニアリーダーが一堂に会する交流会などに積極的に参加している。自己研鑽に励み、向上心を持って自らの可能性の更なるレベルアップに取り組んでいて、その成果が「長坂子どもクラブ」の活動の幅を広げることにつながっていると考える。



「わらすたず」ミニ運動会の様子



「わらすたず」調理体験の様子

地域住民がスタッフとして運営を行い、地域の子供を見守り育てるボランティア活動である

宮城県仙台市

■ 活動名

将監けやきっこ放課後教室

■ 関係する学校

仙台市立将監小学校

基本データ	活動区分	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	学校支援 地域本部	4人	31人	24年度	有
	放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		3人	26人	246日	有
実施場所			開始年度	放課後児童 クラブとの連携	
仙台市立将監小学校			19年度	有	
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	
その他					

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

平成19年度から文部科学省委託事業「放課後子ども教室（地域子ども教室推進事業）」として開設、同年9月から「仙台市放課後子ども教室モデル事業」を経て、20年度より「仙台市放課後子ども教室事業」として活動してきた。平成25年度で7年目を迎える。

3～6年生を対象に、平日は月～金曜日まで、土・日・祝日も月2～3回の講座を実施しているほか、長期休業期間中には居場所づくりの活動を行っている。平成24年度は開設246日、延べ6,323人の児童が活動に参加し、コーディネーター・安全指導員で延べ1,250人が運営にあたった。その他、学校教員、保護者、地域住民や特技を持った特別講師などがボランティアとして関わった。

活動内容は自由遊びと学習支援を中心に、様々な講座を行っている。同じ学区で活動する学びのコミュニティづくり推進事業実施団体との共催事業や企業とのタイアップ、高校と連携した食育講座、中学校とのスポーツ交流など、独自の取り組みを行っている。

また、開設校の将監小学校では、平成24年度より学校支援地域本部を設置しているが、放課後子ども教室の組織が核となって学校支援の体制づくりを進めている。

※学びのコミュニティづくり推進事業：学校や市民センターなどを核として、子供のすこやかな育ちを支援する地域のネットワークづくりを目的とした事業。

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

- ・ 平日のほかにも、月2～3回の講座を土・日・祝日に開催している。
- ・ 同じ学区で活動する学びのコミュニティづくり推進事業実施団体との共催事業の実施
- ・ 企業とのタイアップ事業の実施
- ・ 高校と連携した食育講座の開催
- ・ 中学校とのスポーツ交流事業

【実施に当たっての工夫】

- ・ イベント、学習支援、体験活動、各種講座などを開催するときは、休日も不定期ではあるが開催していること。
- ・ 保護者を中心にしたスタッフで子供たちもなじみやすいこと。
- ・ 地道な活動により広がったネットワークを活用した研修会や研究会での実践発表は他の教室の取組の参考になっている。
- ・ 24年度に学校支援地域本部が立ち上がったが、放課後子供教室の組織が核になって学校支援の体制づくりに努めている。

■ 事業を実施して

- ・ コーディネーター、安全指導員、ボランティアスタッフの情報共有を随時行うことで、スタッフがまとまり、よりよい子供たちの居場所づくりができています。
- ・ 地域で子供を支援するネットワークづくりを意識した取り組みは、仙台市放課後子供教室事業全体の発展にも貢献している。

■ その他

- ・ 子供たちに楽しい時間、安全な場所、安心できる環境を提供し、子供たちがゆとりで成長できる場所づくりを目標にしている。現在も地域諸団体、大学生ボランティア、高等学校、中学校の協力をいただきながら、毎年活動範囲を広げている。



平日の体育館活動



H24仮設校舎での活動

「借りたい力を地域に返そう」をモットーに、生徒の地域ボランティア活動参加を奨励して2年

宮城県仙台市

■ 活動名

富沢中学校学校支援地域本部
サポー To かしわ

■ 関係する学校

仙台市立富沢中学校

活動区分	学校支援地域本部		開始年度	補助の有無
	コーディネーター数	ボランティア登録数	21年度	有
放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
その他				

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

平成21年度に「富沢中学校学校支援地域本部 サポーToかしわ」として事業をスタートした。1年目は、数年前からすでに実施していた事業を継続する形での支援活動であったが、2年目から土曜寺子屋、花育、合唱支援、ネットボランティア、防犯、防災、エコ、部活動支援、読み聞かせ、などの各事業に専門委員長と学校職員担当者を配置。スーパーバイザーと地域連携をうまく機能させた。

3年目の23年度には、サポーター制を導入し、活動の幅に広がりが出た。24年度は、23年度の事業を継続しながらも「無理をせず、楽しんでやること」をスローガンに子供たちには地域行事への積極的な参加を呼びかけ、緑化活動の推進を行うなど、学校支援地域本部事業が完全に地域に根づいている。

平成24年度には、のべ836人の学校支援ボランティアが活動し、リーフレットを作成し、その取組を広く発信したりするなど、年々その活動が充実してきている。

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

- ・土曜寺子屋・・・土曜日の午前中に生徒がやりたいテキストを持ち込んで勉強するという自主学習形式の勉強会で支援本部のボランティアと学生サポーターが支援している。
- ・環境美化・・・年2回の新築川の清掃を実施。流域の9つの町内会が協議会を作り、美化に努めている。
- ・職場体験活動・・・学校規模が大きいので、支援ボランティアの方が職場開拓のお手伝いをしている。
- ・食育・・・家庭科の授業で市民センター、地元の男性料理サークル、保護者サポーターの協力のもと秋刀魚三枚おろしやハンバーグ作りをした。

【実施に当たっての工夫】

- ・23年度からサポーター制度を取り入れ、幅広い活動ができるようになった。
- ・事業の継続が学校とコーディネーター、支援ボランティア共にしやすくなるように「できる方ができるときにできる支援をしよう!!」というスローガンを掲げ、活動において良い雰囲気を作り出している。
- ・行事や授業の中で必要な人材を事前に確保するシステムができあがっている。そのため余裕をもったスーパーバイザーと綿密な打ち合わせができています。

■ 事業を実施して

- ・支援活動の質や内容が充実してきており、ボランティアとして参加している人数が年々増加してきている。
- ・中学校区内にある既存の団体や町内会が学校支援活動を通してつながりを持てるような働き掛けを進め、学校支援活動はもちろん、地域全体をの学びを支えるシステム作りにも進展しつつある。

■ その他

- ・現在、中学校区内の4つの小学校と連携を進めており、来年度から本格的に小中連携の視点から事業を展開する予定である。
- ・学校教職員の理解が進み、生徒の学習活動に積極的に学校支援ボランティアが参加できる環境が整っている。



町内会の環境・美化活動の様子(春)



地域の夏祭りの準備・手伝いの様子(8月)



新築川の美化活動の様子(9月)

伝統文化継承、創作、野外体験など体験型活動を地域住民の参画で展開

宮城県大河原町

■ 活動名

キハト会

■ 関係する学校

大河原町立大河原南小学校

活動区分	学校支援 地域本部		開始年度	補助の有無
	コーディネーター数	ボランティア登録数		
基本データ	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	20人	43日	有
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
放課後 子供教室	空き教室、校庭、体育館 外		18年度	無
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
その他				

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

○コーディネーターの調整のもと、地域の自然、伝統、文化を題材にした多様な体験型の事業を実践している。

- 休日には、大河原南小学校区外の児童も対象とした「もがりっこ自然体験教室」を開催し、町外の各種団体やボランティアとの連携を強化し、活動の幅を広げている。
- 自然体験活動、子供の安全確保（活動中の安全指導）を行い、安心・安全な環境づくりをしている。
- 校舎内の空き教室を学校支援の拠点として地域住民に開放している。地域住民は支援ボランティアに登録し、日常的にボランティア活動に取り組める体制が構築されている。
- 資質向上に努めるとともに、「自己実現」「生きがいづくり」として、活躍の場・子供と触れ合いの場を設けるなど社会教育・生涯学習の充実が見られる。

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

- 伝統や文化を題材(和太鼓教室・茶道教室・もちつき大会・自分かるたづくり・歌とハンドベル演奏・魚釣り体験・和菓子づくり・スキー教室・エコオリエンテーリングなど)にした体験型の事業を展開し、子供たちの生活体験を豊かなものとしている。
- 地域住民にも参画を促し、陶芸・百人一首・かるた作り・音楽等、伝統や文化を題材にした体験型の事業を展開している。
- 平成19年度に子供たちの健全な育成と会の発展に寄与することを目的にコーディネーターと安全指導員が、「キハト会」を結成した。定期総会を4月に開催し、役員を選出を行い、年間活動計画等を立案し、活動している。

【実施に当たっての工夫】

- 地域の自然、伝統、文化を題材にした体験型の事業を開催することで、地域の大人に参画できる方策を見出し、子供たちの生活体験を豊かなものにする工夫が図られ、その内容も充実している。また、休日には、大河原南小学校区外の児童も対象とした「もがりっこ自然体験教室」を開催することで、町外の各種団体やボランティアと連携し、活動の幅を広げている。
- 子供たちのニーズに配慮し、年間活動計画を立て、具体的な活動目標をもち活動している。
- コーディネーターが学校と連絡調整を行い連携を図ることで、スムーズな運営ができるようにしている。

■ 事業を実施して

- 体験活動の実践が、子供たちのコミュニケーション能力や社会性の高まりにつながった。
- 子供たちと保護者や地域の方とのつながりが深まるとともに、大人同士の深まりも出てきた。
- 地域の住民が運営スタッフとして関わることで、地域全体で子供を見守り育てる力の向上につながった。



水鉄砲作り/水ロケット作り



キャンプ 昆虫クラフト作り/魚釣り体験

環境保全の大切さを実感できる「めだかっこ米」で地域を元気にする活動

宮城県栗原市

■ 活動名

下刈敷環境保全活動組織

■ 関係する学校

栗原市立志波姫小学校

活動区分		コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
基本データ	学校支援 地域本部				
	放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
		コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数
その他	○	※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)			

活動の概要

- 減農薬による環境保全米の生産、うまみ成分の高い安全、安心な米づくりについて、体験を通じた活動実践を行っている。
- 水田にメダカを放流し、生育調査・採取などを行いながら、生態系の学習と環境保全の大切さについて指導している。
- 水田の環境をより自然な姿に整え、安全安心な米づくりに取り組むことの大切さを、講話と実践活動を通して指導している。
- 下刈敷地区の地域住民(婦人会や老人クラブ連合会、クローバーの会 [後継者の若者会]など)が一体となって学校教育支援活動を行い、子供たちの豊かな人間性や社会性を育む活動を継続的に実践している。
- メダカの放流や生育調査、採取などの活動を通して子供たちと親しく触れ合い、交流が深まることで、地域住民にとっても充実した生涯学習の場となっている。

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

- 米づくりを通して、苦労や収穫の喜びを子供たちと共有しながら、米のうまみ成分の高い安全安心な独自栽培米を生産し、水田の環境をより自然な姿に整える活動をしている。
- メダカの放流や採取、生育調査、水田の観察等の学習と、田植えや稲刈りなどを体験させながら、農地や水の環境を守ることが命を守ることにつながるという指導を行っている。
- 地域活動の根底に協働教育の視点をおき、学校、家庭と地域が連携し、子供たちの健全育成を目指した活動を展開している。
- 平成19年度の組織設立後、子供たちの笑顔が地域や組織の活力の源と考え、志波姫小学校や子供会と連携し、環境保全をテーマに地域に根ざした活動を推進している。

【実施に当たっての工夫】

- 地域の教育力を活用しながら、子供たちの健全育成のための実践を重ね、子供たちが生物の生態や米づくりから環境保全に興味関心を持ち、地域環境の保護や質の高い農業について実感できる活動になるように工夫して取り組んでいる。
- 組織としての年間計画を作成し、活動に見通しをもつことで、学校との連絡調整をスムーズに行えるようにするとともに、活動対象の学年・児童に合わせた指導や支援体制の協力ができるように努めている。

■ 事業を実施して

- 体験活動の実践により、環境保全への意識が高まるとともに、子供たちのコミュニケーション能力や社会性の向上につながった。
- 学校支援の在り方や取組事例の実践発表を実施し、地域全体で学校を支援する連携協力体制の構築に尽力している。



メダカの放流



メダカの採取

地域の「おにいさん・おねえさん」「おじいさん・おばあさん」と子供をつなぐ児童館

秋田県秋田市

■ 活動名

広面放課後子ども教室

■ 関係する学校

秋田市立広面小学校

活動区分	基本データ			
	学校支援 地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度
放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	2人	91人	291日	有
	実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
秋田市立広面小学校近隣の児童館		19年度	無	
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
その他				

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

【児童育成クラブ（ボランティア）との連携事業】

- 「お茶会」年に1回開催。児童育成クラブ会員の指導の下、お茶の礼儀作法等を学ぶ
- 「読み聞かせ」毎月1回実施
- 「昔っこ」伝承行事
- 「おにいさん、おねえさんとあそぼう」年に2回、秋田大学の学生との交流会

【長寿と健康を祝う会】

敬老の日に、地域の老人福祉施設「大平荘」の方々に対し、児童が縫って作成した「清拭布」約100枚をプレゼントする

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

「お茶会」、「読み聞かせ」や伝承事業を通して地域の大人が児童館の子供たちと交流を図るほか、地域にある大学や老人福祉施設と連携を図って行事を行うことで、様々な年齢層の地域住民と子供たちがふれ合う場を設けている。

【実施に当たっての工夫】

各事業とも、地域のボランティアである児童育成クラブと連携して実施した。特に「お茶会」については、茶道を指導できる児童育成クラブの会員を講師に実施した。

長寿と健康を祝う会については、清拭布を届けに行った際に、子供たちが踊りを披露するため、事前に児童館利用の時間を使って練習に励んだ。

■ 事業を実施して

「お茶会」などの事業をとおして、子供たちに様々な体験を提供できたほかに、地域住民にとっても日頃学んでいる学びの成果を還元する機会を提供できた。



おにいさん、おねえさんとあそぼう



長寿と健康を祝う会



むかしっこ



お茶会



お茶会

あったかハートの輪を大きく広げよう。学校後援会が支える地域ぐるみの学校支援

秋田県北秋田市

■ 活動名

鷹巣南小学校学校支援地域本部

■ 関係する学校

北秋田市立鷹巣南小学校

活動区分	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
学校支援 地域本部	4人	140人	21年度	無
放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	23人	35日	有
	実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
	ホール 和室		19年度	有
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
その他				

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

平成21年度から学校支援地域本部事業に取り組み5年目を迎える。市の取り決めにおいて、3年間は予算措置を受け、その後は単独実施(国・県・市等補助活用なし)として継続している。

また、補助金を活用せずに事業を継続するために学校後援会に学校支援地域本部の機能を持たせている。

補助金を活用していた時期のノウハウを生かしながら、学校や地域の特色を際立たせ、一層発展的な活動を展開している。

<学校後援会>

学区内にある530余りの全世帯が加入し、物心両面から学校を支援している「地域の応援団」である。

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

「あったかハートの輪を大きく広げよう」をスローガンに、岩手県大船渡市立末崎小学校に、学校田の収穫米「南っこまち」や募金活動で集まったお金を贈呈したり、手紙や絵本を届ける交流を行ったりしている。また、職員間の訪問交流も実施している。

毎週月曜日の朝の読み聞かせ会終了後、校長先生を交えて図書室でお茶を飲みながら打ち合わせを実施し、一週間の学校支援内容の確認や企画立案、また、地域での子供たちの様子についての情報交換をして、事業の改善を進めている。

地域の先生による毛筆書写や体育の指導のほか、地域ぐるみのあいさつ運動や登下校指導に多くの地域住民が参加している。

【実施に当たっての工夫】

地域コーディネーターと学校との連絡調整は無理がなく、いつでも自然に行われるようになっている。

七日市公民館の事業とタイアップして総合的な学習の時間や社会科の学習を進め、旧跡「元堰」探検、市有形文化財「長岐邸」見学等のふるさと探検を実施した。七日市公民館との連携により、住民と子供たちとのコミュニケーションがうまく図られている。

■ 事業を実施して

地域では、ごく当たり前に学校の教育活動支援が行われている。学校の教職員や子供たちから感謝の声が地域へ返されている。それが、地域住民の喜びや生きがいにもなっている。

■ その他

この事業をとおして、鷹巣南小学校では「地域を学びのフィールドに、一人一人がかがやき自立する学校」をめざして、力強く歩んでいる。あったかハートの輪を大きく広げている地域の方々の支援・協力が、鷹巣南小学校の児童を大きく育てている。成長し続ける「地域の応援団」活動はさらに大きく広がっている。



学校田での活動「南っこまち」づくり



地域の方による郷土芸能の指導

地域の教育力を活用し、自然体験、芸術文化、ものづくり、スポーツ講座等、様々な体験活動を実施

秋田県五城目町

■ 活動名

五城目町放課後子ども教室
(わらしべ塾)

■ 関係する学校

五城目小学校・大川小学校・
五城目第一中学校

基本データ	活動区分	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	学校支援 地域本部	4人	95人	20年度	有
放課後 子供教室	コーディネーター数	2人	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所 研修室、体育館			開始年度	放課後児童 クラブとの連携 有
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	
その他					

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

社会教育の経験豊かなコーディネーターがその力量を十分に発揮し、教室の計画立案から各学校やボランティアとの連絡調整まで、教室の運営全般にわたって精力的に携わっている。

本教室は年間を通じて、地域の人材、町の自然や環境、伝統や文化等、地域の人的・物的資源を講座に活かしながら、バラエティーに富んだ豊富なプログラムを体験講座に取り入れている。子供たちに提供する「学びの場」として、また子供同士のみならず、保護者や指導者・ボランティア等、地域住民が気軽に参加できるような「交流の場」として、長年実施されている。

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

毎年90回を越える講座を実施している。講座内容も多種にわたり、自然体験講座、趣味芸術文化講座、食育講座、スポーツ講座、ものづくり講座、その他読み聞かせや読書に係る講座等、子供たちのニーズに対応できるバラエティー豊かな体験講座の実施が大きな特徴となっている。

各学校においても本教室に対しての積極的な参加が呼びかけられていて、学校・家庭・地域の賛同を得ながら事業が推進されている。

【実施に当たっての工夫】

各講座終了後、指導者やボランティアの方々が、毎回、実施報告書をコーディネーターに提出することで、実施した講座内容を関係者が一緒になって振り返り、次回の講座に向けた情報や意見を交換している。こうした関係者による話し合いの中から、複数のメニューを組み合わせる等、他の講座参加者との交流を図る工夫が生まれてきている。

本教室で実施されている様々な講座を一堂に会したイベント、「わらしべフェス」を6年ぶりに実施した。このイベントは、指導者やボランティアの方々の発想から生まれた「ボランティアによる手づくりのイベント」であり、とても好評を得ていた。こうした新たな講座の企画、実践を繰り返すことで、新たな地域人材の発掘や登用、ボランティアを始めとした地域住民との連携が一層強められ、地域教育力の底上げにつながっている。

■ 事業を実施して

本教室を長年実施してきたことで、学校・家庭・地域の連携が深まり、町全体で子供たちを育てていこうとする意識が高まってきている。教室を体験した子供たちが、ジュニアリーダーやボランティアとして本事業に関わるようになってきた。指導者やボランティアの発想から生まれた「わらしべフェス～ボランティアによる手づくりのイベント～」を実施したことで、子供たちの教室での学びの成果を発表できたことに加えて、指導者やボランティア、そして地域住民との交流が図られ、教室の周知と地域全体での子育て意識の向上につながった。

■ その他

運営委員会の開催や、関係者間の連絡調整などで、町教育委員会がバックアップを行っている、町全体で子供を健全に育てていこうとする機運につながっている。

■ 参考URL ■

<http://www.cs.town.gojome.akita.jp/>



わらしべフェスでのクッキング



地域の方の指導による将棋教室

明日の未来を担う子供たちのためにできること できること で学校のお手伝い「地域みんなで地域の宝を育てよう」

秋田県湯沢市

■ 活動名

湯沢南地区学校支援地域本部

■ 関係する学校

湯沢市立湯沢西小学校・湯沢市立湯沢南中学校

活動区分	基本データ			
	学校支援 地域本部	コーディネーター数 1人	ボランティア登録数 100人	開始年度 21年度
放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
その他				

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

約100名の学校支援ボランティアが登録されていて、日常的に支援活動が行われている。

玄関のデコレーションや図書整理などの環境整備のほか、PTA参観日や学習発表会の際の託児、駐車場整理といった学校行事等の支援を定期的に行っている。

また、家庭科や生活科などの時間に、地域住民が特技を生かし学習の補助が行われていて、地域住民にとっても喜びにつながっている。

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

平成21年度学校支援地域本部事業実施当初から「児童玄関のデコレーション活動」を行っている。児童の母親たちがボランティアの中心となり、毎月第1・3水曜日に活動を行っている。

季節やイベントに合わせて、「子供たちが学校に来ることが楽しくなるようなデザイン」を心がけて飾り付けをしていて、玄関を訪れるたび、感動するような出来映えとなっている。

【実施に当たっての工夫】

定期的に活動しているが、活動に参加するボランティアの負担にならないように、「できる時に」「無理なく」をモットーにしている。そのため、作業日程や材料準備など細かい部分はコーディネーターがリーダーシップをとり進めている。

学校の要請により、ボランティアの必要数を確保する場合は、迅速に連絡調整するため、電子メールによる配信を積極的に活用している。



デコレーション活動の様子

■ 事業を実施して

子供たちが喜んでいる様子が活動中の反応や先生方の話から伺え、学が意欲の向上につながっている。また、ボランティアの方々との交流を通して他者と関わる力の育成にもつながっている。

ボランティアからは「やりがいがあった」「うれしかった」という声が多く、地域住民の生きがいづくりや保護者同士の交流の場ともなっている。

「開かれた学校づくり」が進められていて、学校・保護者・地域住民の協力の輪が広がり、子供たちを協力して共に育てるという意識が高まってきている。

■ その他

子供たちとの交流活動の場となっていることはもちろん、ボランティアや保護者同士のつながりが広がり、PTA行事へ進んで参加する保護者が増えるなど、PTA活動の活性化にもつながっている。



きれいに飾られた玄関

学校と地域をつなぐ「もがみサポート塾」

山形県最上町

■ 活動名

もがみサポート塾

■ 関係する学校

最上町立最上中学校

基本データ	活動区分			開始年度	補助の有無
	学校支援 地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	20年度	有
		2人	18人		
	放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
2人		18人	95日	有	
実施場所 公民館		開始年度	放課後児童 クラブとの連携		
		19年度	有		
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	
その他					

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

「地域の子は地域で育てる」を合言葉に平成20年度に事業がスタートした。最上中学校は町内4つの学校が統合したもので、事業の活動エリアは町内全域となる。学校の余裕教室を活用し、「もがみサポート塾」として事務局(地域コーディネーター常駐)を設置し、地域教育協議会や学校との連携会議等を行いながら、以下の活動を行っている。

- 学習支援活動(放課後学習会や夏期・冬期休業中の自主学習会)
- 読み聞かせ活動(毎週木曜日の朝、1年生から3年生の各クラスで実施)
- 学校図書的环境整備(読書活動のサポート)
- 花壇の手入れ等の環境整備(バラ、紫陽花などのせん定)
- 職場体験のサポート、総合的な学習の時間・野外活動などのボランティア紹介や斡旋
- サポート塾ギャラリーの開催(町民の方々から作品を募集し展示)
- サポート塾便りの発行(年2回一町内各小学校、最上中学生徒全員、町内全戸配布)
- 登下校の見守りによる安全確保
- 部活動の支援(マーチングバンドコスチュームづくり)

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

- (1) 余裕教室を「もがみサポート塾」として活用。地域コーディネーターが常駐し、常に学校と連携しながら、学校が必要としている活動に地域の方をボランティアとして派遣することを基本としている。
- (2) もがみサポート塾を活用して生徒の学力向上をねらい、学習支援ボランティアの方々による数学(週3回)や英語(週3回)の放課後学習会を実施している。また、夏期・冬期休業中は、中央公民館を活用し、自主学習会を実施している。
- (3) 写真、押し花、切り絵など地域の方々の作品を展示しての「もがみサポート塾ギャラリー」を開催している。

【実施に当たっての工夫】

- (1) 地域の実情を理解している地域コーディネーターを配置し、保護者、退職教職員、地域住民、各種専門家などの学習支援ボランティアとの連携をとりながら学校の要請に応じて派遣している。
- (2) 「サポート塾便り」を発行し、サポート塾のPR活動やボランティアの発掘等に取り組んでいる。
- (3) 地域の方々に気軽に中学校に足を運んでもらうために、「もがみサポート塾ギャラリー」を開催している。

■ 事業を実施して

地域と学校が連携することにより、地域の人々が中学生の活動などに関心を持ち、それを生徒も感じ意識している。その成果が、落ち着いた校内生活や学習・部活動に向かう姿勢に表れてきている。また、挨拶もよくなってきており、何よりも生徒間の自浄力や矜持が育ってきている。多くの地域の人々の協力を得ることで、学校と地域の結びつきが強まり、まさに「地域の子は地域で育てる」ことにつながってきている。



夏期休業中の自主学習会



「もがみサポート塾ギャラリー」の作品展示

地域の教育力、地域の人々のもっている力を存分に生かす学校支援地域本部

山形県高畠町

活動名

和田地区学校支援地域本部

関係する学校

高畠町立和田小学校

基本データ	活動区分			開始年度	補助の有無
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	20年度	有
		2人	30人		
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
1人		25人	30日	有	
実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携		
	地区公民館	19年度	無		
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	
その他					

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

平成20年度に文部科学省より委託され「学校支援地域本部事業」に取り組み始め、平成21年度には学校と地域のパイプ役として「地域コーディネーター」2名が配置された。そのことにより、学校側のニーズを的確に把握しコーディネートするとともに、広報誌を発行しPRすることで学校支援ボランティアの人数が開始年度よりも年々増加している。学校の教育活動に高齢者、保護者、地域の方など、幅広い年齢層の方々がボランティアとして参加協力し、地域の人材や素材を活かした活動が行われている。

学校支援ボランティアの内容では、学校の教科やクラブ活動・食農学習の指導支援、読み聞かせ活動、環境整備、登下校安全指導、日常的に高齢者とふれあう活動、放課後子どもプランとの連携など幅広い活動を行っている。

学校がある和田地区には、農家の方で組織される「自給野菜組合」があり、昭和41年から現在まで給食用の地場野菜を学校に供給し続けている。組合員は自分達の農業への誇りを農産物を通じて子供達に伝えようという熱い思いを持っていて、その思いは、地域の教育力をはじめ、地域の方々の大きな力として学校教育に生かされている。こうした一連の取組みは、地域とのふれあいや交流はもちろん、ボランティアの方々の生きがいと、教員と子供が向き合う時間の確保にもつながっている。

特徴

【特徴的な活動内容】

地域の教育力を学校の教育活動全般に渡って活かしている。読み聞かせの「としよ坊」の活動は、保護者(母親)を中核とした地域の母たちの活動となっている。栽培教育(食農教育)においては、PTAの組織内に「農業委員」をおき、その役員を中核とした活動である。「ふれあい学級」という地域の高齢者学級を校内空き教室に設置し、児童と地区のお年寄りとの日常的な交流を持ったり、クラブ活動や環境整備に「ふれあい学級」のお年寄りが進んで関わったりする(ボランティアとして)姿も見られる。学校と地域の壁がまったくなく、地域の人が安心して学校と地域を行き来できる活動を展開している。

また、『わだより』というボランティア広報誌を発行(コーディネーター作成)し、活動を振り返ったり、ボランティアの価値付けを行っている。

【実施に当たっての工夫】

学校支援の地域コーディネーター2人を配置して、学校(教員)のニーズを把握したり、コーディネーター自身が企画したりして活動を仕組んでいる。コーディネーターがボランティアの先頭に立つことなく、あくまでもボランティアのサポーター的存在に徹していることが特徴的である。

また、広報誌『わだより』を発行し、「関わってよかった」というボランティアの達成感が増すような価値付けを意識的に行っている。

事業を実施して

和田地区は、本事業が始まる以前から地域に開かれた学校ではあったが、本事業のスタートを契機にコーディネーターを配置するようになってから活動に勢いがつくと共に、ボランティア(地域の教育力)への価値付けを行えるようになった。コーディネートする業務はあるが、コーディネートされなくても自発的な学校支援の動きも始まりつつ非常に成果が上がっている。

また、子供たちの道徳性(人を思いやる気持ち・尊敬する気持ち)の醸成が図られるとともに、教育の場で高齢者など地域の支援者と関わることで将来の担い手としての自覚と実践が期待される。



「わだより」掲示コーナー



家庭科の学習支援

地域住民と連携した子供の居場所づくり

山形県西川町

■ 活動名

西川町放課後子ども教室

■ 関係する学校

西川町立西川小学校

基本データ	活動区分			開始年度	補助の有無
	学校支援 地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	23年度	有
		1人	45人		
	放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		1人	35人	243日	有
実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携		
余裕教室、体育館、グラウンド		24年度	無		
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	
その他					

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

これまで町内5つの小学校区ごとに開設していた放課後子供教室を、平成24年度小学校統合に伴い、1つにまとめて開設した。少子化に伴い子供同士の交流が激減し、豊かな自然や文化に触れる機会も減少する中、地域住民の協力を得て、学校施設の一部を利用しながら、子供達が触れ合う活動、地域住民と触れ合う活動に取り組んでいる。

開催は授業日の放課後毎回(午後4時30分～6時30分)、土曜日・長期休業中は1日(午前7時30分～午後6時30分)開催日となっている。日常的な活動は、学校の体育館やグラウンド、遊具などを活用した自由遊び、自主的な学習である。

地域の方々が指導者となつての野菜作りやお話会、紙芝居作り、踊りの練習、調理実習、スポーツ教室など多岐に渡る活動を展開している。

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

- 1 地域の特徴を生かした活動…地域の農家の方を講師に種まきや苗植えから、水やり、雑草とり、収穫まで子供の手で行っている。植物の成長する様子を実感することはもとより、手をかければかけるほど立派に成長すること、農家の方の生き方など感じ取ることができる。また、集団で活動に取り組む楽しさを味わうことができる。収穫した野菜は調理するとともに、お世話になった地域の方々にお礼としてお渡ししている。
- 2 地域で育てる活動…読み聞かせ・お話会・踊り等、自分の力を子供に伝えることで、子供達との交流が深まり次の意欲につながっている。また、ボランティアの輪も広がっている。

【実施に当たっての工夫】

子ども教室の実施状況を町広報誌やお知らせに掲載し実態を把握してもらうと共に、ボランティアで指導していただく地域の人を定期的に募集している。また、地域の人材を把握するために、庁舎内関係各課からの情報収集や各種団体との連絡も密にしている。

使用場所、活動に必要な施設等は学校と十分連絡を図った上実施している。バス通学の児童が多いため、下校時刻午後4時30分まで学校に残っていないと見守りできない児童の放課後の見守りも、子ども教室安全管理員が、学校職員と協力して行っている。

■ 事業を実施して

子供に安心・安全な居場所を確保するだけでなく、子供同士の交流活動、地域の方々との交流体験が、町を愛する心を醸成することにつながっている。また、そこに参加する子供だけでなく、ボランティアとして参加して下さる地域の方々や中・高校生も自分の行動が子供達に喜ばれることで、次の活動への意欲につながっている。中・高校生ボランティアとのふれあい活動や小学生同士の異年齢集団活動が、思いやりの心を育むなどの大きな成果をあげている。平成24年度の小学校の統合に伴い、町内5子供教室も1つに統合された。新教室開設後、元の校区・地区の特長をうまく取り入れていくことに配慮してきた結果、子供のみならず大人の交流や世代間交流も広く行われるようになり、町の活性化につながっている。



自分たちで育てたとうもろこしの収穫



中学生ボランティアと紙芝居作り

地域が一体となって子育て支援を行い、地域の人々の生きがいくりにつながっている活動

福島県郡山市

■ 活動名

郡山市御館地区学校支援地域づくり

■ 関係する学校

郡山市立御館中学校・郡山市立御館小学校

活動区分		コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
基本データ	学校支援 地域本部	1人	169人	23年度	有
	放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
	コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	その他				

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

○御館地区は、学校支援地域づくり事業開始以前より歌舞伎保存会や町内会等の各種団体と幅広く、そして、多くの地域住民の参画を得て、活発に継続的に取り組んでいる。事業開始後は、地域コーディネーターが各学校の実態を把握し、ニーズに応じた地域ボランティアを公民館と協力して探し、学校へ派遣している。

- 小学校では、
【学習支援】社会科=年間 3～4時間、生活科=年間20時間程度、総合的な学習の時間=歌舞伎学習年間20時間
【環境整備支援】=年間2回 【図書館整備支援や読み聞かせ支援】=年間40回程度
【登下校の安全支援】=年間200日程度
- 中学校では、
【学習支援】総合的な学習の時間=歌舞伎学習年間40時間 【部活動支援】特設駅伝部=年間5回
【環境整備支援】樹木の剪定=年間1回 【図書館整備支援】年間24回程度
- 児童生徒の表現力や郷土を愛する心を育成することを目的に、歌舞伎学習に取り組んでいる。その支援を地域の保存会が行っている。

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

- 御館地区は、地域を挙げて各種団体が積極的に学校を支援する体制ができています。
 - ・歌舞伎学習では、歌舞伎保存会の方が中心となり支援している。
 - ・児童生徒の登下校の安全確保では、見守り隊が町内会ごとに支援している。
 - ・特設駅伝部の指導では、地元愛好会に所属する方が一緒に走りながら走法等の指導をしている。
 - ・環境整備では、老人クラブが中心に支援している。
- 小・中学校が連携し、児童生徒と一緒に110番の家を訪問し、あいさつする機会を設けることで、地域の方々との交流を深め、地域の一員としての自覚を高めている。
- 小・中学校が連携した合同授業及び児童生徒と地域の方々との交流学習の実施により、相互理解やコミュニケーション能力の育成にもつながる活動となっている。

【実施に当たっての工夫】

- 歌舞伎学習では、小・中学校が連携して取り組み、歌舞伎に関する指導内容の重複を避けるとともに、指導、支援の重点化を図り、効果的な運営が行われている。
 - ・小学校では、歌舞伎の由来など文献や体験による学習を行い、中学校では、歌舞伎を上演するという計画で進めている。また、小学生が、中学生の学習の様子を見学することは、児童のその後の学習の参考になるとともに、中学生にとっては、公演に向けた意欲の向上につながる取り組みとなっている。
- 小・中学校の教師間の連携を一層深めるために、小・中学校で協議する機会を多く設け、9年間を見据えた学びが展開できるようにしている。



歌舞伎保存会から役者の指導を受ける生徒

■ 事業を実施して

- 学校支援地域づくりに関して、小・中学校、地域コーディネーターが連携し、地域人材等の情報を共有しながら進め、充実した学習活動が展開できている。特に、小・中学校での歌舞伎学習は、児童生徒のコミュニケーション能力の向上や地域の伝統文化の継承という面からも有意義である。
- 地域の方々からの支援を受け、児童生徒は、地域の一員としての自覚が高まっている。
- 地域ボランティアの方々には、自分の専門性を生かした支援ができ、学校教育に貢献できることが喜びであり、生きがいにつながっている。

■ その他

- 地域ボランティアが、地域の自然、文化、産業を最大限に生かした支援をするとともに、自分の専門性を生かして取り組むことにより、児童生徒の学びが充実している。
- これらの活動を通して、学校、家庭、地域の結び付きがより一層強まるとともに、地域の教育力向上に向けた取組となっている。

■ 参考URL

【御館中学校】 mitate-t@edu.city.koriyama.fukushima.jp
 【御館小学校】 mitate-s@edu.city.koriyama.fukushima.jp



110番の家訪問の出発式

教員OBの地域コーディネーターが、地域住民と学校の間に入り、地域一体となって学校支援を盛り上げている活動!

福島県相馬市

■ 活動名

相馬市学校支援地域本部

■ 関係する学校

中村一小・桜丘小・大野小・山上小・八幡小・日立木小・飯豊小・中村一中・向陽中

活動区分	基本データ			
	学校支援 地域本部	コーディネーター数 2人	ボランティア登録数 83人	開始年度 20年度
放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
その他				

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

- ・毎年度当初、事務局担当職員と地域コーディネーターが各対象校を訪問し、学校支援地域本部事業の説明を校長先生と教頭先生に行い、連絡体制を構築している。
- ・教員OBである地域コーディネーターが中心となり、対象校へ訪問活動を積極的に行い、学校からの支援要望をこと細かく聞き取ることで、学校側の期待している支援内容と活動に入ったボランティアの方たちの活動にズレがないように努めている。
- ・活動は、郷土史などの学習補助、家庭科の実習などの指導補助、部活動補助、植木の剪定などの環境整備、壁紙の張り替えなどの施設補修、学区内のパトロールなどの学校安全、宿泊活動などの学校行事支援など多岐にわたる。
- ・放射線講座などボランティア登録者がいない支援を学校側から求められた時は、他機関に要請し対応した。
- ・図書補修や読み聞かせの研修を行い、技術向上に努めた。
- ・年2回の地域本部の会議で、コーディネーターが事業の実施状況と反省点、また、今後の事業展開などを説明し、関係機関や学校関係者との意見交換を行い、事業の改善につなげている。
- ・市の広報誌や学校支援だより、市ホームページ上で、活動を紹介している。

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

- ・水泳指導補助やミシン縫いなど、児童生徒一人一人への細かな指導へ対応している。
- ・平成22年度は英語活動支援の要請があり、ボランティアをコーディネートした。
- ・図書補修や読み聞かせの技法を高めるため、ボランティアを対象とした研修会を実施している。
- ・「放射線講座」や「新聞記事の書き方」の専門的な要望については、関係機関に働きかけ、ボランティアをコーディネートした。

【実施に当たっての工夫】

- ・教員経験者をコーディネーターに採用することにより、学校への訪問活動がスムーズに行われた。
- ・年に2回、地域本部の会議を開催し、コーディネーター、学校長、関係団体の代表者と意見交換をし、実施活動に反映している。
- ・教職員を対象に希望する支援内容を調査し、内容にあったボランティアを募集している。
- ・支援までの流れが確立した。特に「支援内容の吟味調整」「評価・反省・改善」があるため、きめ細かな支援が可能となった。
- ・ボランティアへの研修会を実施し、資質向上に努めている。
- ・要請内容に適したボランティアがいない場合、他機関に要請している。
- ・広報誌やホームページ上で活動を紹介し、地域での支援環境を醸成している。

■ 事業を実施して

- ・支援活動を受けた子供の声…①ボランティアの人が入ると、学級の雰囲気が変わり楽しくなる。②丁寧に教えてくれるので、学習に気力がでて、頑張れる。
- ・現場の教師の声…①ボランティアの知識や技能を生かした指導補助により、多様な授業が展開できる。
- ・支援協力者の声…①子供と直接関わることで、子供の喜びを直接感じることができ、やりがいがある。

■ その他

- ・震災前は、ボランティアの登録者数が100名を超えていたが、震災の影響により登録者数が50名を割る状況となった。しかしながら、震災から半年後には再開し、更に24年度から支援対象校を拡大した。ボランティア登録者数も徐々に増えており、学校支援地域本部事業の活動が市内全域に浸透しつつある。

活動分野	コーディネート数	ボランティア人数
学習補助活動	121	252
指導補助活動	28	41
部活動補助	0	0
環境整備活動	11	36
施設補修活動	1	1
学校安全確保	49	294
学校行事支援	5	7
合計	215	631



パネルシアター



書写指導

● 学校の教育課程と連動 ● 地域の知、技がクラブに ● 日頃できない体験を! ~地域で子供を育てよう~

福島県桑折町

■ 活動名

桑折町体験活動・ボランティア活動支援センター

■ 関係する学校

醸芳小学校・睦合小学校・半田醸芳小学校・伊達崎小学校・醸芳中学校・醸芳幼稚園・睦合幼稚園・半田醸芳幼稚園・伊達崎幼稚園

活動区分	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
学校支援 地域本部	3人	127人	20年度	有
基本データ 放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	余裕教室、体育館、グラウンド		24年度	無
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
その他	○			

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

- ・桑折町体験活動・ボランティア活動支援センターは、「桑折町の小・中学生が、家庭や学校・地域での全生活の中で、体験活動やボランティア活動を通して、自ら学び、自ら考える力を養い、思いやりのある豊かな人間性と強く生きる力を育成すること」を目標に掲げ実践している。
- ・支援センター会議を年2回実施し、学校及び地域のボランティア代表で協議し、よりよい運営をめざしている。
- ・具体的な実践として、「学校支援」「こおり地域クラブ」「体験チャレンジ活動」の3事業。
- 【学校支援】各学校では、年度末に「サポーター要請計画」を提出する。新担任が計画に基づき、支援センターに申請をし、コーディネーターが適切な学習支援ボランティア(グストティーチャー)を派遣する。
- 【こおり地域クラブ】平成14年に学校週5日制に伴って、余暇を有意義に過ごし、「生きる力」を育むねらいで設立。指導・運営は基本的に各クラブの指導ボランティアにお願いし、子供と共に活動し、向上を目指す。
- 【体験チャレンジ活動】普段できない体験をボランティアの方々といっしょに活動する。毎年1回「ツリーハウス作り、古代住居作り、坂車作り、勾玉作り」などを実施。今年度第8回は「野焼き体験」(縄文式土器)。

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

- ・「学校支援」では、①おばあちゃんや調理師、味噌屋さんから、郷土食・和食の話を聞き、とうふつくり、みそつくりに挑戦。だしを味わい、「やさしい味」と「本物の味」を体験する授業。②道徳の「生命尊重」で、助産師から赤ちゃん誕生の話を聞き、親の思いを知る授業。③クラブ活動では「お茶・お花」「バドミントン」クラブ等で実技指導の授業。④地域の果樹つくり体験から、苦労や喜びを味わう授業などを実践し、子供たちの笑顔と真剣な表情が伝わる。
- ・「こおり地域クラブ」では、年度末に募集をし、4月から活動を開始。20クラブを設置し、154名の児童(桑折町の総児童数の約25%)が登録し、月2回活動している。料理、習字、陸上、祇園ばやし太鼓などが好評である。
- ・「体験チャレンジ活動」では、「野焼き体験」(縄文式土器)を実施し、土と火の力を体験。

【実施に当たっての工夫】

- ・「学校支援」では、「桑折町人材協力支援バンク登載名簿」(2年ごと更新)を活用し、担任から、授業のねらいを聞き、内容を明確にサポーターに伝える。必要によって担任とサポーターが打合せをし、役割分担をはっきりさせる。コーディネーターも授業を参観し、支援センターだよりの発行の際の資料にする。
- ・「こおり地域クラブ」では、指導ボランティアの方が子供と共に活動し、ボランティア自身も向上を目指す姿勢で知と技を伝えていただいている。謝金等は一切ない。教えてやるという考えの方にはお願いしていない。ボランティアが地域の子供たちに学んだことを還元することで、学びの循環が図られるようにしている。
- ・「体験チャレンジ活動」では、自然離れや作って遊ぶなどの体験が減少していることを念頭に、活動内容を決定。道具の使い方には特に注意を払う。見守り励まし、出来た喜びを味わわせ、ボランティアとの交流を図りながら活動している。

■ 事業を実施して

- ・「学校支援」は、平成20年度から実施しており、学校・地域にしっかり根付いた活動が実施されている。当初は、「学習支援」「読み聞かせ」などが主だったが、次第に「環境整備」などの支援も実施し、活動の広がりが出てきている。
- ・平成24年度の「学校支援」でのボランティア派遣件数は113件、ボランティア派遣人数延べ268人で、昨年度比でいずれも増加が見られた。
- ・「こおり地域クラブ」には、町全児童の約25%が登録し、活動を行っている。指導ボランティアの「子供たちのために」の思いと継続した活動に感謝している。

■ その他

- ・ボランティアをされた多くの人たちから、元気をいただいたという声が聞かれた。支援センター事業には、個人のボランティアだけではなく、老人会や婦人会、文化団体連絡協議会、農協などの団体が「桑折町人材協力支援バンク登載名簿」に登録されていることもあり、地域みんなで子供を育てようという意識の高まりがみられる。子供の健全育成につながっていれば幸いです。



醸芳小3年 総合「食で健康 元気アップ!」(和食や郷土料理のよさの話と味噌つくり授業)



伊達崎小4年 図工「森のゆかいな生き物たち」(もりの案内人による木の葉や枝を使った工作)

遊びと学びを重視した放課後子供教室を目指して!

福島県二本松市

■ 活動名

あだち地域子ども教室

■ 関係する学校

二本松市立油井小学校・川崎小学校・
渋川小学校

活動区分	基本データ			
	学校支援 地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度
放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	45人	50日	有
	実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
	和室、集会室、軽運動場		16年度	無
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
その他				

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

- ・あだち地域子ども教室は、子供たちの体験活動の充実や地域の大人との交流を目的として実施している。
- ・毎週水曜日の放課後の活動と毎月1回土曜日に「週末クラブ」と「週末チャレンジ」を開催している。
- ・週1回の平日開催の放課後子供教室は、放課後の子供たちの安心・安全な居場所作りとして開設され10年目を迎えている。参加人数も多く、毎週子供たちの活気のある声と笑顔で溢れている。活動内容は学習と自由遊びとを中心とした活動で、公民館の施設をいっばいに活用し取り組んでいる。
- ・土曜日に実施する「週末クラブ」は日本伝統文化の継承をねらいとした取組で、「週末チャレンジ」は館外の体験活動を重視した取組である。
- ・「週末クラブ」では将棋と茶道に取り組んでいる。講師に地域の優れた技能を持つ人材を活用し、継続して取り組んでいる。
- ・「週末チャレンジ」では、親子での活動を中心に、工作、ニュースポーツ、カヌー、施設体験、お料理作り等を実施している。

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

- ・あだち地域子ども教室では、毎週水曜日開催の子供教室に開設2年目から大学生がスタッフとして加わっている。子供たちにとって、大学生は身近な大人のモデルとして親しみやすい存在であり、子供たちも大学生と触れ合うのを楽しみにしている。大学生は、学習指導から自由遊びにも積極的にに関わり、出席の確認や安全管理など運営面にも携わっている。大学生が子供教室にスタッフとして関わっていることで、活動が活気に満ちあふれている。
- ・土曜日実施の「週末チャレンジ」と「週末クラブ」は、平日開催の放課後子供教室とは別に、体験活動を重視しじっくりと取組むというねらいで実施。

【実施に当たっての工夫】

- ・大学生が毎回子供たちを楽しませるために、簡単なゲームを考えてくる。毎週子供たちは軽運動場で大学生とともに体を思いっきり動かし運動している。大学生はとても熱心で、子供たちに積極的に関わってくれる。
- ・土曜日の「週末クラブ」で取り組んでいる茶道は、地区の文化祭で活動の成果を市民に披露している。
- ・「週末チャレンジ」では、子供たちの声を聞き毎年できるだけ違った活動を取り入れ、チャレンジ精神を養う内容になるようにしている。

■ 事業を実施して

- ・あだち地域子ども教室は、開設から10年目を迎え、子供たちや地域にしっかりと浸透した活動になっている。
- ・毎年募集定員を超える応募があり、子供たちや保護者にも人気のある教室であり、活動への期待も増している。
- ・子供教室を卒業した子供たちが、しばしば公民館を訪れるなど、子供教室で培った大人との交流や居場所作りの取組の成果が現れている。

■ その他

- ・安全マニュアルを作成し、年度当初にスタッフに配付して、子供たちの安全管理を徹底している。
- ・継続した活動の中にも、アンケートを実施し活動を見直すなど、常に新しい物に挑戦するようにしている。マンネリ化を防ぎ、魅力ある子供教室が展開できるように常に前向きに取り組んでいきたい。



「週末チャレンジ」カヌーに挑戦



大学生とドッチボール対決

いろいろな活動を通して、人と人の繋がりをを感じる。 親と子の居場所づくり。

栃木県佐野市

活動名

いきいき何でも体験クラブ

関係する学校

栃木県佐野市立犬伏東小学校

活動区分	基本データ			
	学校支援 地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度
放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	19人	80日	有
	実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
	体育館、校庭、空き教室		19年度	無
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
その他				

*H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

「子供たちにいろいろな体験をして欲しい」という、願いを込めて活動している。地域の指導者の他に、PTA組織の中に放課後子供教室の活動を支える「居場所づくり実行委員会」があり、多くの保護者が子供たちを見守っている。子供の自主性ややる気を大切に、社会性、協調性を育みながら、活動を進めている。

活動日は、毎週土曜日と平日水・木曜日としている。

土曜日は、ミニバスケットや自由遊び、イベント活動として「竹を削ることから始まる流しそうめん」「年2回のミニミニコンサート」「校庭の隅に教室用の畑を作り、野菜などの収穫体験」「収穫祭としての芋煮会」などの活動を行っている。

水曜日は、体育館でミニバスケットを行っている。

木曜日は、学習室で「のんびり学び塾」として、宿題や自主学習など子供たちが持参したドリルなどに取り組み、終了した子から体育館に直行し、ミニバスケットに参加している。また、高学年の希望する子供には、大学生の協力で英語を教える日もある。

参加人数が少ない日もあるが、教室に参加してきた子供が1人でもいればその1人を大切に、活動を進めている。

1人が1人の友達を連れてくれば、2人になり、2人が4人になり、どんどん増えていき、さらに、保護者も子供と一緒に参加して子供とふれ合う時間となるような教室にしたいという思いで、コーディネーターが活動を支えている。

特徴

【特徴的な活動内容】

- ・地域の若いコーチのバスケット指導や中学生が来校し一緒にバスケットをしたり、大学生が教室に参加し英語を教えたり宿題をみたりするなど、地域の若い力を有効活用している。
- ・子供たちの「みんなの前で、ピアノを弾いてみたい」という声を吸い上げ、年2回ミニミニコンサートを行う。演奏者は子供だけでなく、地域、学校関係者なども出演するなど、イベント的には、大きくなっていく。
- ・コーディネーターが中心となって活動を行っている。学校や地域、関係者との連絡調整を常に行い、子供の安全を確保しながら体験活動を行っている。また、大人が教室にいつでも関わることができるように、門戸を広げている。

【実施に当たっての工夫】

- ・子供の安全面を配慮し、参加者は登録制とし、年間活動予定表に終了時刻を記入し、保護者等の迎えを原則とする。また、「出席カード」で、毎回保護者に子供の出欠、下校の方法など責任をもたせる。
- ・イベント的な活動のときは、全校生を対象にチラシを配り募集をするなど、普段放課後子供教室に参加していない子供も参加できるようにしている。
- ・PTA組織の中に居場所づくり実行委員会を置き、保護者もボランティアとして参加してもらい、学校に足を運び自分の子供の様子などを見ることで、学校を身近なものとする。
- ・活動を広げるきっかけとして、子供や保護者、学校の先生などの一言を大切にしている。「要望に応える。」という意気込みで、試行錯誤しながら実施に向けて話し合いなどを行う。

事業を実施して

- ・これまで学校行事などに関わりの少なかった保護者が、子供が教室に参加するようになり、自分も学校に行くことが多くなり、関心を持つことができた。
- ・あいさつの仕方や子供同士の関わり方、ルールを守ることなど、基本的なことができない子供が増えているが、年度が終わるころには、きちんとできるようになり、たくましく感じた。
- ・ミニバスケットを始めたばかりでボールに振り回されている子供が、ゴールを決めた時など、子供の成長した姿や家では見ることができない子供の姿を見ることができて、うれしい。

その他

全学年の子供が、仲良くバスケットをする。年上の子、上手な子、得意な子が、年下の子、苦手な子に教え、できるようになる。お互いできないところを助け合い、協力しながら、のびのび、いきいき楽しむ。「それが当たり前になる」ことが、この教室のいいところ。



PTA組織図



土曜日の放課後子供教室

学校お助け隊は、おらが地域のおらが学校のために、地域を挙げて活躍中!

群馬県中之条町

■ 活動名

中之条町西部学校支援地域本部
(学校お助け隊)

■ 関係する学校

沢田小学校・西中学校・六合小学校・
六合中学校

活動区分	基本データ			
	学校支援 地域本部	コーディネーター数 1人	ボランティア登録数 216人	開始年度 20年度
放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
その他				

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

○中之条町西部地区の2つの小学校、2つの中学校で「学校お助け隊」という名称で事業を展開し、学校の学習指導や環境整備の充実を図るために地域ボランティアの活用を進めている。町の生涯学習の方針「300サークルから3つの趣味を!」の実践で培った知識や技術を生かす機会を提供している。

- 各学校の要望に基づいて、町の生涯学習施設に配置されたコーディネーターが学校のニーズに応じた調整を行い、ボランティアとして参加する地域住民にとっての生きがいづくりとしての活躍の場も提供し、地域の教育力の活性化も図っている。
- 中学生の職場体験学習に向けて事業所の開拓は、年数を重ねるごとに、協力事業者も増加している。子供たちのニーズに合わせた事業所選定は、コーディネーターが入り、事業所に足を運び、丁寧に説明し、理解を得ている。
- ミシン指導の補助(家庭科)や木工指導の補助(技術家庭科)等のきめ細かな指導に役立つ活動や広範囲に広がる通学路の安全確保に必要な人数の配置など、様々な形で教育環境をよりよくする体制整備も進められている。コーディネーターが活動の成果を他校に紹介したり、実行委員会や地域協議会において情報共有することで、ボランティアを活用した授業の良さが教員に浸透してきているため、学校からの要望も増えている。

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

◎小学校

- 和太鼓練習:地域の太鼓保存会の指導のもと、5年生を対象に郷土芸能の和太鼓指導(総合的な学習の時間)を実施している。練習した成果は、授業参観日に在校生及び保護者に披露し、さらには地域の祭りにも出演し学習の成果を披露している。
- 高校との交流活動:町内にある中之条高校との交流活動を実施している。生物生産科の高校生と一緒に稲作(粃まき、田植え、稲刈り)を実施したり(生活科・総合的な学習の時間)、リンゴの摘果・収穫体験、乗馬体験を実施している。さらには、環境工学科の生徒による環境学習も実施している。
- 小学校におけるその他の活動事例
 - ・ミシン指導、野鳥観察、田植え、運動会踊り練習、マラソン伴走、動物ふれあい教室、読み聞かせ、スキー教室、交通安全教室、赤岩重伝建見学、歯みがき教室、野反湖キャンプ、校庭草取り、リース作り、火災避難訓練、人権講話、薬物乱用防止教室 等

◎中学校

- 職工組合による木工指導補助(技術家庭科):職人さんのこぎりや鉋の使い方などの手本を示したり、生徒が製作している時には個別に支援している。さらには、学校が管理しているのこぎりや鉋などの道具の手入れも行った。
- 中学校におけるその他の活動事例
 - ・花苗の鉢上げ、マナー教室、職場体験学習、郷土料理、マラソン伴走、思春期講演会、保育実習、菊の栽培、人権講演会、白砂山登山、シラネアオイ植栽、ふるさと研究、ふれあい体験、栗生楽泉園合唱発表、スキー教室、琴演奏体験 等

【実施に当たっての工夫】

- 「学校お助け隊」という分かりやすいネーミングにして地域への浸透を図っている。
- 生涯学習施設である中之条町「ツインプラザ」に拠点を置き、紹介業務を行っている。
- 生涯学習部門の職員や各種サークルとの交流による人材の確保に努力している。
- コーディネーターの学校訪問により迅速な連絡調整を目指している。
- 中学校では職場体験学習を中心としたキャリア教育への重点的な支援を行っている。

■ 事業を実施して

- ・地域の方の協力により、子供の学習活動が多様で充実した内容になった。
- ・子供たちは、たくさんの人たちと関わり、人との接し方を学ぶことができた。
- ・地域の人たちが能力を発揮できる場として、やりがいや生きがいに繋がっている。
- ・学校支援ボランティアを活用した授業の有効性が教員に浸透してきている。
- ・子供からの「分かった。楽しい。おもしろい。」などの声に、ボランティアからは、「感謝されてうれしい」「子供たちと接して若くなる。」などの反応があり、ともに成長できていることが分かる。

■ その他

○広報

- ・「お助け隊だより」を年間2回発行し、地域のボランティアが学校支援活動をしている様子を写真や参加者の声で紹介し、この活動に関する地域住民の理解や自分も何かできないかといった意欲喚起に役立っている。また、ボランティアの募集についても町内全戸に配布するこの紙面で行い、幅広い地域住民に向けての呼びかけにつながっている。

■ 参考URL

<http://www.town.nakanajo.gunma.jp/~info/8-kodomo/otasuke/otasuketai.html>



木工指導
協力者:中之条職工組合



和太鼓練習
協力者:中之条太鼓の皆さん

みんなで一緒に楽しみながら、子供たちにとってよりよい環境作りを考え行動している

群馬県太田市

■ 活動名

あさひ小学校支援隊

■ 関係する学校

太田市立旭小学校

活動区分	基本データ			
	学校支援 地域本部	コーディネーター数 3人	ボランティア登録数 77人	開始年度 13年度
放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
その他				

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

5つの部門があり、それぞれの部門の方々が必要な活動をしている。

- (1) 通学路安全パトロール パトロール当番表により、下校時刻にあわせて通学路をパトロールする。青色防犯パトロールカーを利用し、地域の見回りを実施することにより、安全安心のための呼びかけや抑止力につながっている。
- (2) 図書ボランティア 休み時間の図書室での図書の貸し出し支援や、図書の整理整頓、補修作業などを行っている。
- (3) あさひ囲碁将棋クラブ 参加児童を募集し、各月第2・第4土曜日の午前中に実施。8名の支援隊の方が先生となって、子供たちに囲碁将棋の楽しさを教えている。初心者にもやさしく手ほどきしている。
- (4) あさひ農園 参加児童を募集し、5月～10月まで野菜の栽培活動を行っている。13名の支援隊の方が畑の先生として、農園での野菜の栽培体験を支援している。親子での参加が多く、支援隊の方と触れ合いながら楽しく栽培や草取り収穫作業に取り組んでいる。
- (5) 学習支援部門の方が学校からの依頼に応じて、その都度支援している。1年生生活科の「昔あそび体験」、2年生生活科「サツマイモ植え付け・芋掘り」、3年生図工「木工に関する学習」において道具の使い方の支援、クラブ活動(こまクラブ)の遊び方支援などを行っている。

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

「あさひ囲碁将棋クラブ」は、土曜日の体験活動としての取り組みである、ここ数年参加児童が増加傾向にあり、今年度は50名近くが参加している。支援隊の先生が優しく教えてくれたり真剣勝負で挑んでくれたりと、とても熱が入っている。囲碁や将棋の体験を通してコミュニケーション能力が高まっているようである。

また、同じように土曜日に行っている「あさひ農園」は、自然の中で、汗や土にまみれての作業をとおして、作物を育てる大変さや収穫の喜びを実体験している。親子で参加することも意義深く、支援隊の方との触れ合いも人間関係力を高めてくれている。支援隊の方が保護者に、収穫した野菜の食べ方・調理方法を伝授している姿もほほえましい。

【実施に当たっての工夫】

- ・年度始めに、「囲碁将棋クラブ」と「あさひ農園」部門会議を行う。それぞれの担当者と事務局、学校側の担当者と顔合わせと1年間の活動について共通理解を図るようにしている。
- ・年度末には、学校支援隊総会を開催し、1年間の活動報告や会計報告、次年度の予定などについて協議している。また、反省をもとに次年度の課題についても確認しあい、改善策を検討し、よりよい活動に向けて工夫できるようにしている。さらに、懇親会も開催し支援隊員と教職員の交流を深めている。
- ・予算はPTA会計から「学校支援隊費」として計上している。
- ・学校職員も「あさひ囲碁将棋クラブ」「あさひ農園」「図書ボランティア」に所属している。分担を割り振り、土曜日の活動(児童の参加があるもの)は、必ず参加し一緒に活動している。

■ 事業を実施して

支援隊の方々のモットーは「できる人ができる範囲で無理をせず」である。支援隊長の温厚な人柄により多くの方が長年にわたり活動し、学校の教育活動を支えてくれている。支援隊員のネットワークも素晴らしく学校からの依頼事項に素早く対応してくれ大変ありがたい。

地域に支えられた様々な活動や体験により充実した教育活動が展開でき、社会性や協調性が身につくとともに、生き生きとした児童の育成が図られている。また、保護者にも、支援隊の活動はよく理解されており、健全育成や豊かな心の育成に効果を得ていると感じている。

■ その他

年間2回「学校支援隊だより」を発行して、保護者だけではなく、回覧板を活用し地域住民への情報提供及び支援隊員募集をしている。なお、このたよりを作成するのは、事務局担当者(学校職員外のコーディネーター)である。コーディネーターは、すべての活動にたずさわって、支援隊と学校との調整をきめ細かに行っている。支援隊長をはじめ、多くの隊員が「地域の子供のために」という思いで骨惜みせず行動している。また、支援隊員自身も活動を楽しんでいる。



あさひ農園 「じゃがいも、とれたよ!」



囲碁将棋クラブ 「真剣勝負!」

子供の笑顔のサポーター ～地域の力で教育活動の充実を!～

群馬県富岡市

活動名

吉田小SSV
(スクールサポートボランティア)

関係する学校

富岡市立吉田小学校

基本データ	活動区分	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	学校支援 地域本部	1人	54人	20年度	無
	放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	
その他					

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

吉田小では、平成20年度より学校支援センターを設置し、吉田という地域の教育力を活かして、学校教育のより一層の充実を図るため吉田小SSV(スクールサポートボランティア)を立ち上げた。「無理なく楽しく活動を!」を合言葉に地域全体で子供を育てる取組を進めている。活動にかかわる人が年々増えてきており、現在では、在校生の保護者だけでなく、卒業生の保護者や当初かかわっていた民生委員の方々などが継続して活動を行っている。

また、コーディネーターを中心に会議が運営され、学校のニーズに応じて必要な時に必要な支援ができるように各活動におけるボランティアリーダーを配置していつでも協力できる体制づくりをしている。

さらに、地域の関係機関との連携を図り、区長会や敬老会の方をゲストティーチャーとして招いて授業を行ったり、逆に、児童が地域の文化祭や敬老会の行事に積極的に参加したりして、地域の人と児童との交流を深めている。学校と地域が連携、協力し、よりよい子供の成長を手助けするために、学校支援を通じて学校と地域がともに歩むパートナーシップをめざしている。

特徴

【特徴的な活動内容】

- ・「生き方朝礼」では子供たちに良い影響を与えるであろうと考えられる身近な地域の人を講師に招き、講話を行っている。
- ・総合的な学習の時間「かがやき」では、郷土や地域への誇りと愛情を育む学習として、地域の協力を得て富岡市の発展と富岡製糸場のかかわりをさぐる「ふるさと学習プラン」を実施している。
- ・学校のニーズに応じて、教科や特別活動の支援や学校行事や環境整備・安全確保の支援、校外活動等幅広い内容の活動を行っている。現在では、地域行事への協力や校外学習の実施など、子供たちが地域に出ていく活動に力を入れている。

【実施に当たっての工夫】

- ・コーディネーターを中心とした組織を構築し、活動の連絡調整を図っている。
- ・学期ごとに「SSV(スクールサポートボランティア)会議」を開催し、反省点を次の活動に活かしている。
- ・校内にボランティアルームがあり、SSV(スクールサポートボランティア)の活動の拠点として、地域の人が集まりやすい環境をつくっている。
- ・吉田小SSV(スクールサポートボランティア)だよりや吉田小だよりの発行や、公民館と協力して公民館報に記事を掲載するなど地域への情報発信を行っている。
- ・吉田小地区意見交換会を実施し、その中で学校の取組を示し、地域の人の意見を聴く機会を大切にしている。

事業を実施して

- ・地域の人の協力により教育活動が充実したものとなり、さらに、各学年単学級という少人数の中で生活をしている子供たちが、たくさんの人とかかわりを持つことで良い影響を受けた。
- ・危険を伴うものや人手が必要となる活動を中心に多くのSSV(スクールサポートボランティア)を配置することで教職員の負担が減った。
- ・学校に関わることで地域の人にとって学校が身近なものとなり、子供と接することはもちろん、教職員と交流が持てることに喜びを感じる声もあがっている。

その他

SSV(スクールサポートボランティア)の支援活動は授業(教科・特別活動等)、学校行事、環境整備、安全確保等多岐にわたるが、できることをできる範囲で行っているため、「無理なく楽しい活動」につながっている。SSV(スクールサポートボランティア)の支援や吉田地区の地域の教育力により、学校教育の充実を図ることができた。



SSV(スクールサポートボランティア)会議



授業に関わる学習支援

体験活動を通して学ぶ楽しさを知る

埼玉県さいたま市

■ 活動名

針ヶ谷ふれあい子ども教室

■ 関係する学校

さいたま市立針ヶ谷小学校

基本データ	活動区分			開始年度	補助の有無
	学校支援 地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	22年度	有
放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無	
	1人	39人	110日	有	
	実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携	
	家庭科室		17年度	有	
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	
その他					

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

地域の方々の参画を得て、子供たちの自主的な学習、スポーツ及び文化活動等を通して、地域社会の中で心豊かで健やかに育まれる環境を確保するため、平成17年度に放課後子供教室「針ヶ谷ふれあい子ども教室」がスタートした。その後、平成22年度には学校支援地域本部としてもスタートさせ、多くの体験をさせることにより、子供たちの成長を見守っている。

月曜日の放課後は1～3年生を対象に英語教室、水曜日は4～6年生を対象に学習サポート、木曜日は1～3年生を対象に学習サポートを行っている。また、土曜日には月に2回、午前中に料理教室、午後には工作、実験、ものづくり等多岐にわたる活動を行っている。

■ 特徴

[特徴的な活動内容]

英語教室は、コミュニケーション能力の獲得を基本に据え、楽しく英語に慣れ親しむことができるよう歌やダンス、ゲーム等を取り入れながら活動している。また、ハロウィンパーティーやクリスマスパーティー等季節的な行事の活動も取り入れている。

学習サポートは、基礎学力の向上を基本に据え、学習を中心に1年生から6年生まで自分のペースで自主的に学習できるよう、個に応じた教材(パズルとドリルを使用)を選び活動している。

土曜日は、体験を通して楽しく活動できるよう、午前中は子供に人気のある季節の行事を取り入れた料理教室(クリスマスケーキやバレンタインチョコレート作り等)を行っている。午後は工作、竹細工、絵手紙、紙すき、理科の実験等を行っている。

職業への関心がもてるよう、年に1回、ホテルの協力を得て、シェフの話の聞いたり、バックヤードの見学をしたりする活動も行っている。

[実施に当たっての工夫]

英語教室は、学年の発達段階を考慮し、30分単位で学年ごとに活動を行っている。最終日には全員に修了証を出し、1年間の努力を称賛している。

学習サポートは、子供たちが集中して自主的・意欲的に取り組めるよう、宿題時間、ドリル・パズル時間を設定し、タイムスケジュールを確定している。低学年では、読み聞かせの時間を取り入れ、集中力を高めるようにしている。

また、理科への興味・関心ももてるよう、月に1回、理科の実験を取り入れている。最終日には、1年間休まずに参加した子供に賞状をだし、頑張りを称賛している。

2学期に子供や保護者にアンケートを実施し、感想や意見を取り入れながら活動を行っていくようにしている。

■ 事業を実施して

体験を通して様々な活動を行うことによって、子供たちの姿に自信と積極性が見られるようになってきている。保護者から、「街で外国人に会ったとき、自分から積極的に英語で話しかけられるようになった。」「親に言われなくても自分から進んで勉強をするようになった。」「家で料理の手伝いをしてくれるようになった。」等の感想が寄せられている。

また、子供たちから、「理科の実験が楽しくて面白い。家でもやってみた。」「家でクッキーを作っておうちの人にあげたら『おいしいね』と言われて嬉しかった。また作ってあげようと思った。」との感想が寄せられている。

また、ボランティアスタッフから、「子供と街で会ったとき、声をかけられて嬉しかった。」という声も聞かれ、子供たちと地域の方々がふれあう良い場となっている。

■ その他

放課後児童クラブの児童も受け入れ、緊密な連携を図りながら良好な関係を築いている。

また、PTA・青少年育成会主催の「ふれあい祭り」に参加協力し、「理科の実験コーナー」や「工作コーナー」を設けている。



学習サポート



料理教室

多くの体験を通して心豊かな居場所づくり

埼玉県さいたま市

■ 活動名

ふれあい寺子屋大成楽校

■ 関係する学校

さいたま市立大成小学校

基本データ	活動区分			開始年度	補助の有無
	学校支援 地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	23年度	有
		1人	37人		
	放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		1人	21人	47日	有
		実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
図書室・体育館・教室・特別教室・大成公民館		16年度	有		
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	
その他					

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

地域の方々の参画を得て、子供たちの自主的な学習、スポーツ及び、文化活動を通して、地域社会の中で心豊かで健やかに育まれる環境を確保するため、平成16年度より、放課後子供教室の先駆けである地域子供教室としてスタートした。平成23年度には学校地域本部としてもスタートし、それぞれ連携をとって活動を行っている。

学校・家庭・地域が連携し、自分自身の五感を通して多くの体験をさせるためのプログラムとなっている。

また、公民館とも密に連携をとっており、公民館へ出向き、そこでの活動団体『みちくさ文庫』の方が定期的に読み聞かせを行ってくださっている。

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

映像による疑似体験の多い現代の子供たちに、学校・家庭・地域が連携し、自分自身の五感を通して多くの体験をさせるためのプログラムとなっている。

- ◆国語系…読み聞かせ、読書、俳句作り、スピーチ、多言語で遊ぶ
- ◆理科系…草の名を知ろう、静電気について、シャボン玉でお手玉をしよう
- ◆図工・家庭科系…ストーンアート、プーメランを作る、ロシアの料理を作る
- ◆体育系…短縄・長縄を楽しもう、ドッジボール、ブランドゴルフ
- ◆その他…安全な自転車の乗り方、パソコンを使って暑中しがきをふる里へ

また、公民館とも連携をとっており、活動は学校内だけに留まらず、公民館へ出向き、そこでの活動団体『みちくさ文庫』の方が読み聞かせを行ってくださっており、恒例の人気行事となっている。

【実施に当たっての工夫】

国語系、理科系、図工・家庭科系、体育系を4本柱とし、学校の教育活動ではできないことをバランスよく体験させるための企画を考えている。

特に工作等を行う場合は、作るだけでなく、それを使って楽しく遊べる内容にするため工夫を凝らしている。

また、お便りとして「寺子屋ニュース」を作成して全児童に配付をしたり、校内に掲示板を設け、活動の予告・作品提示・活動報告の掲示を行ったりすることで、希望に応じて多方面から参加できるようにしている。

多種多様なプログラムを用意しているため、多くのボランティアが必要となるが、卒業生の保護者・PTA・社会福祉協議会・体育振興会・図書ボランティア・青少年育成会・地域の企業など、多方面から地域に根差した多くの方々が協力して、活動を見守ってくれている。



お年寄りとブランドゴルフ体験

■ 事業を実施して

子供たちは学校の授業とは異なる楽しさを感じているようで、次のプログラムを楽しみにしている児童が増えており、活動に意欲的に取り組んでいる。

また、活動を通じ、多くの地域のボランティアの方々とのふれあいが増えたことにより、お互いに挨拶を交わすようになり、感謝とともに親しみを深めている。

また、活動を通じて異学年との交流が盛んになり、とても良い経験となっている。

■ その他

学校側の理解と積極的な協力が得られているため、大変スムーズに活動を行うことができている。

今後は、よりボランティアの充実を図り、また、新しいプログラムを開発していくことで、マンネリ化を防いでいく。



ふれあい寺子屋掲示板

地域と連携する学校応援団の活動

埼玉県川口市

■ 活動名

安行中学校学校応援団

■ 関係する学校

川口市立安行中学校

活動区分		コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
基本データ	学校支援 地域本部	1人	50人	22年度	有
	放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
	コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	その他				

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

本校の学校応援団は、後援会、教員が一体となった組織として応援団を立ち上げた。単位応援団は5部門で構成され、それぞれに後援会、教員の担当者が所属している。コーディネーターが学校の司令塔となり、5部門の単位応援団を統括している。この5部門は「学習支援応援団」「環境整備応援団」「生徒指導応援団」「課外活動応援団」「学校広報応援団」である。各部門で次のような取り組みを行っている。

- (1) 学習支援応援団 (教養部) 土曜授業の支援や検定試験の採点の補助などを行う。
- (2) 環境整備応援団 (環境部) 除草・剪定や緑化作業などに加え、ペンキ塗りや生徒会のゴミゼロ運動への支援を行う。
- (3) 生徒指導応援団 (生活指導部) 地域パトロール、あいさつ運動に加え、地域非行防止ネットワーク会議に生徒と一緒に参加する活動などを行う。
- (4) 課外活動応援団 (企画) 安行コンサートの企画・運営、地域の盆踊りの指導、ふるさとの森での生徒の活動や学校ファームの支援。
- (5) 学校広報応援団 (広報部) ホームページの運用

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

- ① 土曜授業の学習支援と検定試験のマル付け応援
習熟度別に編成されたクラスに応援団が数名教室に入り学習支援を行う。また、マル付け応援では各クラスごとに1名の応援団員がテストの採点を行う。
- ② 盆踊りの参加
生徒たちが夏祭りを盛り上げるために、部活ごとに盆踊りに参加する活動を行っているが、その踊りの指導を、学校応援団の方々がやっている。
- ③ 安行コンサートの企画・運営
安行コンサートの企画・運営を生徒たちと行い、地域の方々を楽しませている。
- ④ 地域非行防止ネットワーク会議
地域の代表と生徒代表が、生徒たちが行う取り組みについて意見を交換する会議。

【実施に当たっての工夫】

- ・ 学校評価委員が各部門の応援団の代表になり、学校側の代表者と綿密に打ち合わせを行い、様々な活動に取り組んでいる。
- ・ 学校応援団と後援会が、協力して学校を支援していただける組織を構成している。
- ・ 全教職員がそれぞれの部門に所属し、応援団と共に活動している。

■ 事業を実施して

- ・ 活動を通し、生徒、保護者、学校応援団、教職員の交流が図られ、それぞれの相互理解と協働による地域連帯感の醸成につながった。
- ・ 学習支援の応援では、直接生徒たちへの学習活動をサポートしてもらい、学力向上の一助となった。
- ・ 学校応援団の活動を通して、地域や保護者に安行中の活動を知ってもらい、地域や保護者に開かれた学校の推進ができ、信頼関係の醸成が図られた。

■ その他

地域には、本校の卒業生やかつての保護者など、学校に特別な愛着を持っている方がたくさん住んでいる。学校応援団として数十年ぶりに校門をくぐったという方もいた。「学校は地域の財産」という言葉を聞くが、地域と連携した学校応援団の活動を進めることで、学校を核に、生徒が育ち、教師が力をつけ、地域が元気になることを目指している。



学習支援応援団による活動



ふるさとの森での学校ファームの活動

異年齢の仲間と学び遊ぶ。地域住民の応援で楽しい行事も多彩。

埼玉県横瀬町

■ 活動名

横瀬町放課後等子ども教室

■ 関係する学校

横瀬町立横瀬小学校

活動区分	学校支援 地域本部		開始年度	補助の有無
	コーディネーター数	ボランティア登録数		
放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	26人	243日	有
	実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
	図書室、校庭、体育館	21年度	無	
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
その他				

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

- ① 保護者のニーズにより学童保育室を補完する場所として開設。
- ② 横瀬町で採用している支援員が指導・支援を行っている。
- ③ 平日の放課後は出席確認の後、学習し、外で元気よく遊ぶ。
- ④ 月例行事として、「作って遊ぼう」「折り紙」「軽スポーツ」などを実施している。
- ⑤ 夏休み教室では、「絵本づくり」「かんたんクッキング」「点字カルタ」「手話教室」「おはなし会」などを実施し、地域ボランティア、中学生や高校生、大学生の協力を得ている。
- ⑥ 特別行事として、9月に老人クラブと連携し「昔遊び」12月に「おまんじゅう作り」を実施している。
- ⑦ 長期の行事として、町内菊愛好会の指導のもと「菊作り」を実施し、鉢上げ、水やり、支柱立て、輪台付けを行い、きれいに咲かせた花を役場や幼稚園、保育所等に飾ってもらっている。

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

「作って遊ぼう」は、ジャンボしゃぼん玉、ペットボトルの中で浮かし沈みする魚、割りばし鉄砲、紙相撲、クラフト、メビウスの輪など月1回実施している。はさみとのりで自作し、身近な物で楽しく遊べる経験をしている。また、年度末には「砕いた炭を使って電気をつけよう」にも挑戦し、充実感を味わっている。

【実施に当たっての工夫】

- ・4月当初は1年生でも無理なく楽しめるジャンボしゃぼん玉や、はさみ使いが単純な工作などを計画し、児童の実態に配慮している。
- ・遊びの際は、「話をしっかり聞く」など約束事の周知等を行い、姿勢を正し集中して聞けるよう繰り返し指導を行っている。その結果、落ち着いた活動が展開できている。

■ 事業を実施して

- ・放課後の児童の安全な居場所づくりが確保できている。
- ・学習習慣や生活習慣の樹立に寄与できている。
- ・働く保護者にとって、安心して子供を預けられる場として喜ばれている。
- ・児童にとっては「縦割り班」といった異学年との交流活動等を通して、協調性が養われている。また、様々な行事を楽しむなかで、豊かな心や器用さやたくましい心身を身に付けている。
- ・参加していただいた老人クラブや地域の方々が、子供たちとのふれ合いの機会をととても喜んでている。

■ その他

- ・子供たちは「仲間と校庭等で思いきり遊ぶことや行事が楽しい」と大変満足している。
- ・地域の方々は、安全な居場所作りに対して賞賛して下さり、協力的である。また、子供とふれあう機会を楽しみにしている。
- ・子供たちの育ちの芽をいろいろな角度から刺激する場としても有効である。



割りばし鉄砲作り



おまんじゅう作り

学校応援団に地域の様々な団体が協力し、教育支援活動が展開されている

埼玉県越生町

■ 活動名

越生中学校学校応援団

■ 関係する学校

越生町立越生中学校

活動区分	学校支援 地域本部		開始年度	補助の有無
	コーディネーター数	ボランティア登録数	20年度	無
放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
その他	※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)			

活動の概要

保護者及び地域住民を中心に構成した学校応援団組織にとどまらず、町の商工会青年部や消防団といった職業人組織を学校応援団に取り入れて町全体での活動に結び付けているのが大きな特徴である。

具体的には、除草作業を中心とした学校の環境整備、体験活動での講師、学習支援や行事における支援活動等多岐にわたっている。

保護者を中心に約270名のボランティアが登録している。中学校から年度当初に保護者へ活動メニューの一覧を提示し、参加可能な内容や日にちを確認する。それにより保護者が興味・関心を持つ分野でのボランティア活動を促し、主体的に参加できるように配慮している。

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

PTA組織を活かした学校応援団を展開しているため、学校の状況をよく知るPTA役員のOBが活躍する場が多いのが特徴である。

- 例1 学校の入り口に大きな表示看板を商工会青年部の協力を得て設置した。(H23年度)
- 例2 生徒作品等をPTA役員のOBの協力を得て設置した。(H23年度)
- 例3 グランドの埋まってしまった側溝の土を商工会青年部と消防団の方と生徒が協力し、きれいに取り除いた。(H25年度)

【実施に当たっての工夫】

- 町内唯一の中学校なので、OBでもある多くの地域の方からの協力を得やすいと考え、町内にある団体に働きかけている。
- 地元商工会をはじめ様々な団体組織のネットワークを活用して、人材の確保や機械用具の調達を図っている。



商工会青年部の協力で設置した看板

■ 事業を実施して

学校応援団の方々は、学校での教育活動への理解が深まるだけでなく、「地域の中の学校」という意識が高まった様子である。併せて、教職員も学校が地域に支えられている実感を得ることで学校への帰属意識が高まり、教育活動に熱心に取り組んでいる。

■ その他

- 地域住民だけでなく中学校OBを交えた交流が図られ、学校を良くしていこうという気運が高まり、家庭教育の充実につながっている。
- OBと生徒との交流が深まり、部活動の支援にもつながっている。



生徒作品をOBの協力で設置

地域に支えられ、地域とともに成長する岩名中学校・岩木小学校

千葉県野田市

■ 活動名

岩名中学校区学校支援地域本部

■ 関係する学校

野田市立岩名中学校・岩木小学校

活動区分	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
学校支援 地域本部	3人	97人	20年度	有
基本データ 放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
その他				

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

野田市では、平成20年度から市内11中学校区に学校支援地域本部を設置し、地域の方や元教員等をコーディネーターに委嘱し、各本部に配置している。3名のコーディネーターが、一人当たり年間200時間を基本に、岩名中学校区の小中学校からの要望を受け、特別授業、キャリア教育、読書活動、環境整備等で、地域人材を学校教育に導入している。地域人材は、シルバー世代をはじめ、元PTAや小中学校の保護者で、年間を通して計画的に学校教育を支援している。また、中学校では、地域行事に全生徒が積極的に参加する環境を整えている。コーディネーターは、年7回の連絡会で情報交換を行い、スキルアップに努めている。

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

- ・特別授業の実施：小中高連携の特別授業、東京理科大学との連携、地域人材による特別授業
- ・図書室の利活用：①岩名中：新刊本登録と蔵書点検、ボランティアと図書委員会との協働による本の貸出②岩木小：図書室と本のはらっぱの運営
- ・キャリア教育：①岩名中職場体験の事業所開拓、職業講話の講師依頼②岩木小：就業密着観察学習の事業所開拓及び訪問
- ・環境整備：樹木の剪定と花壇作り
- ・地域行事への連携・協力
- ・広報活動：かけはしの発行(年4回)



花・樹木ボランティア打合せ

【実施に当たっての工夫】

- ・年度当初、小中学校管理職とコーディネーターが打合せを行っている。
- ・地域ルーム便りを地域に発信している。
- ・コーディネート・チェックリストを活用して、打合せを実施している。
- ・活動を検証し、次回(次年度)に活かしている。
- ・学校教育を支える掲示物(授業やニュースに関連したもの)を作成している。



図書ボランティアと図書委員会

■ 事業を実施して

- ・児童生徒に向き合う時間が増大し、教師の生徒理解が深まっている。
- ・地域人材を導入し、体験的な授業などの教育活動が活性化している。
- ・積極的な広報活動によって、地域における学校への理解が深まっている。
- ・教師と連絡・調整を行い、学校とともに事業を展開している。

■ その他

コーディネーターは、連絡会での情報交換の他、先進地域の事例等を活かしている。また、県内外からの行政視察にも対応している。



小学生は鉄道で就業密着観察学習

■ 参考URL ■

<http://www.city.noda.chiba.jp>

地域と子供がつながる、笑顔あふれる「こめっ子クラブ」

千葉県成田市

■ 活動名

豊住小学校放課後子供教室
(こめっ子クラブ)

■ 関係する学校

成田市立豊住小学校

活動区分	基本データ			
	学校支援 地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度
放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	20人	39日	有
	実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
図工室、校庭、体育館、家庭科室	20年度		有	
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
その他				

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

平成20年4月から子供の安全・安心な居場所づくりとして教室を開設。毎週木曜日を活動日として年間40回程度実施され、地域に密着した幅広い活動を行っている。教室の活動内容は、学習活動やスポーツ活動、工作、おやつ作り、その他の様々な遊びなど、コーディネーターを中心に、推進員やサポーターなどが参画し、子供たちが興味をもって楽しめるような多様な体験活動を展開し、安全・安心な活動場所を確保している。

年間を通して、地域に住んでいる卒業生や順天堂大学のコーディネーション運動同好会に所属する大学生がスタッフとして参加し、子供たちと積極的に関わり、活動の中心としての役割を担っている。また、放課後児童クラブと連携して担任や保護者と連絡を取りながら、児童クラブに登録している子供も参加できるようにしている。

さらには、広報誌を毎月発行し、学校や家庭、地域への情報発信も定期的に行い、連携を図っている。

●主な活動内容

- ・フリータイム(室内遊び、ボール遊び等)
- ・作って遊ぼう(割り箸鉄砲、シャボン玉等)
- ・季節を楽しもう(ハロウィンパーティー、焼き芋パーティー、かるた大会等)
- ・順大生と遊ぼう(ドッジボール、鬼ごっこ等)

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

〈地域の人と交流〉

地区の公民館でグラウンドゴルフのサークルの方と一緒にプレーしたり、地域の人とトランプやおはじきで遊んだり、ハロウィンの格好をして地域の商店や家を訪ねたりするなど、地域のいろいろな人との交流や子供たち同士の交流の充実を図っている。

〈順大生と遊ぼう〉

遊びの中に、コーディネーション運動を取り入れ、ルールや用具を工夫して、楽しみながら体力づくりを行っている。

【実施に当たっての工夫】

★広報誌『こめっ子クラブ便り』の発行(毎月発行)

毎月の活動の様子を写真や文章で紹介し、その月の予定やお知らせなどと併せて、全児童や地域に定期的に発信している。

★アンケートの実施(学期に1回)

保護者や参加児童を対象にアンケートを行い、意見や要望などを教室運営に活用している。

★ミーティングルームで事前・事後打合せ

毎回、教室の開始前・終了後に、コーディネーターとスタッフを交えて打合せを行い、活動の役割や内容について確認し、実際の活動に役立てている。

■ 事業を実施して

- 1 地域の人や大学生など、いろいろな人と関わることで、タテだけでなく、ナナメの関係が自然と学べる場所がよい。(スタッフより)
- 2 毎週子供たちが楽しみにしている。スタッフの方の子供たちへの接し方がすばらしく、とても良い影響を与えている。地域全体で子供たちを温かく見守る活動を今後も継続して行ってほしい。(学校職員より)

■ その他

保護者から「宿題にも取り組む時間があり、上級生が下級生の面倒を見ながら一緒に学んだり、遊んだりする活動はとてもすばらしく親としても助かります。」「スタッフの方が、みんなやさしく接してくださるので、安心して参加させています。」などの声が寄せられ、信頼される子供の居場所となっている。

■参考URL■

<http://www.city.narita.chiba.jp/sisei/sosiki/shogaku/std0049.html>



ハロウィンパーティーで地域の人と交流



校庭でおいしい焼き芋パーティー

“睦から世界へ” ～睦學友会の挑戦

千葉県八千代市

■ 活動名

睦學友会
(八千代市睦小中学校支援地域本部)

■ 関係する学校

八千代市立睦中学校・睦小学校

活動区分		コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
学校支援 地域本部		2人	140人	22年度	無
	放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
基本データ		実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
	コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	その他				

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

八千代市睦地域の個人・法人・自治会から会員を募り、平成22年度に設立。睦小中学校及び睦地域の国際交流・地域交流・世代間交流・伝統文化継承等において、睦小中学校および各PTAを側面支援する事を目的とした組織。

【目標】 教育支援活動を通じて、伝統ある睦地域の

- 1 “地域の壁を取り除いた繋がりがあう各地域”の維持
- 2 “潤いある心豊かな地域” “安心安全な地域”の維持
- 3 “幸せを創造する子どもたち” “幸せを運ぶ子どもたち”の育成等に力を注ぎ、睦ならではの地域の教育支援風土を産み出す事を旨とする。特に“睦から世界へ”のスローガンの下、国際交流事業に力点を置き、平成23年度より、教育先進国シンガポールのヒルグローブセカンダリースクールと国際交流（生徒をホームステイで相互に派遣・受入れ）を実施している。

【地域人材を活かした具体的な活動】

- 1 睦學友会広報活動
- 2 シンガポール国際交流事業
- 3 国際交流歓迎レセプションで餅つき大会
- 4 樹木伐採指導など学校環境の整備
- 5 茶道指導など伝統文化継承事業

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

シンガポール、ヒルグローブセカンダリースクールとホームステイによる相互交流を推進している。設立時からの経緯は次のようなものである。

平成22年度：學友会員及び教育関係者でヒルグローブセカンダリースクール視察

平成23年度：睦中学校生徒19名の第1回シンガポール派遣

平成24年度：ヒルグローブ生徒30名及び引率者12名の第1回受入れ

平成25年度：睦中学校生徒33名の第2回シンガポール派遣

また、子供たちの国際交流活動の円滑化をはかる為、平成23年度より英会話スクールを開設している。

【実施に当たっての工夫】

国際交流事業を中心に、次のような工夫を実施している、

- 1 渡航者は希望者とし、費用は全て渡航者負担であるが、その他共通費用(現地へのお土産等)は睦學友会が負担する。
- 2 睦學友会の予算は、全て地域住民の会費(一般会員：年間1,000円以上、法人会員：1企業につき年間3,000円以上)で賄い、自立した活動が出来るようにする。
- 3 地域の有識者の方々のほとんどに役員を担当していただくことで、安定した活動を進められるようにする。
- 4 地域の会員個々の特性を活かし、それぞれが得意な分野を中心に担当して活動する。

※例 HPの作成：地域のプログラマー、茶道教室：地域の茶道家

■ 事業を実施して

過疎の町となりつつあった“睦”から“世界”で通用する人材を育てようを合言葉に、子・教職員・保護者・地域が一体感を持つことができるようになった。それに伴い、地域の子供たちをみんなが“本気”となって育てる体制が整ってきている。特に、中心と位置づけて取り組んでいる国際交流事業の成果として、子供たちの視野や世界が拡がりつつあることを感じている。FACEBOOK等でシンガポールの友達と生きた英語で日々交信する子供の姿に、この先の未来で“睦”から“世界”に通用する人材の出現を期待しているところである。

■ その他

本会における事業の継続、更なる発展を重要課題ととらえている。

また、この成功事例を一つのモデルとして他に伝え、さらに多くの地域における学校支援活動の充実がはかられることを望んでいる。

■ 参考URL

<http://mutsumi-gakuyu.com>



平成23年度 シンガポールへ生徒派遣



平成24年度 シンガポールから生徒受入れ

保護者・地域の多くの大人の力が結集し、もう一つの家族のような学校につながる活動

東京都杉並区

活動名

桃四コミュニティスクール

関係する学校

杉並区立桃井第四小学校

活動区分	学校支援 地域本部		開始年度	補助の有無
		コーディネーター数	ボランティア登録数	19年度
放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	5人	27人	48日	有
	実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
	校庭・体育館・特別教室		15年度	無
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	平成17年4月1日	11人	621人	21学級
その他				

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

- ・桃四コミュニティスクールは、学校運営協議会を中心にし、その下部組織（実動部隊）がももし学校支援本部であり、学校支援本部事業の一部として土曜日学校の運営を進めている。
- ・学校支援の活動は、総合的な学習・生活科・算数などの学習支援、運動会・学芸会・お祭りなどの行事支援、図書・花壇・ピオトープなどの環境支援、その他にもホームページ・マナルル(本校のマスコット)など、多岐にわたっている。
- ・様々な学校支援活動を展開できている要因としては、学校運営協議会の進め方にある。本校の学校運営協議会は月一回行われるが、この会議に学校運営協議会委員だけでなく教職員、学校支援本部員、PTA役員が参加し、本校の教育活動のよりよい方向について話し合ったり、実際の支援活動の計画等を話題にしたりしている。
- ・学校運営協議会、ももし学校支援本部それぞれが、活動を広く認知してもらうことを目的に、通信を発行している。また、ホームページなどにも、適宜発信している。そのため、保護者・地域が本校の教育活動を理解でき、その積み重ねの中で支援活動に関わる大人が増えてきたと言える。
- ・本校への支援活動から発展し、学校運営協議会主催による保護者向けの教育相談や、学校支援本部企画として保護者向け着付け教室などを実施した。学校が、地域の教育文化交流の場としての役割を果たすことで、保護者・地域の人たちからの教育支援がさらに広がり、深まりをもってきている。

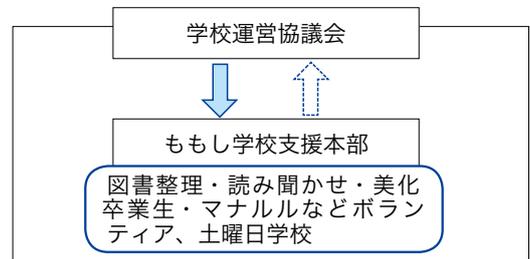
特徴

【特徴的な活動内容】

- ①「トロールの森」は、地元善福寺公園を中心にした国内外のアーティストが参加する国際野外芸術祭である。このイベントに、本校の児童作品も参加している。地域アーティストによる事前の授業を皮切りに、児童作品展示の際の手伝いや開催中の見回りなどに保護者・地域がかかわる。昨年度からは、本校の学芸会にアーティストが出演するようになり、11月は学校と地域が一体となった芸術月間となってきている。
- ②関東バスの車内に児童の絵を掲示することから始まり、車外の大きな看板絵、昨年度より車内に流れるバス停案内を本校児童の声で行うようになった。3年の町探検から発展した学習が、バスに乗車する人たちだけでなく、地域社会を明るくしている。
- ③運動会当日の様々な裏方に卒業生が参加する「中学生ボランティア」がある。成長した卒業生の姿は、児童の憧れであり、児童にボランティア精神を育てる機会となっている。

【実施に当たっての工夫】

- ・トロールの森については今年度で9年目、関東バスとの連携は7年目、中学生ボランティアの協力は3年目と、継続することで質的な高まりを図ってきた。
- ・学校教育コーディネーターと学校側との打ち合わせをしっかりとる。教育主体はあくまで学校であるが、保護者・地域のアイデアや意見も聞き、常に児童にとってよりよい学びを実現することを念頭に置いての支援活動を進めている。
- ・トロールにしても、関東バスとの連携にしても、学校からの要望に応じてもらったり、児童への学びのみを追求したりするものではなく、地域のニーズや相手側にもプラスになるような相互に有益になる活動にしてきた。
- ・小学校の活動として、ワクワク感、ドキドキ感がある、楽しいものになりたいと願ってきた。学校や児童が楽しんで活動する姿があれば、地域にも楽しさは広がる。それが、学校・家庭・地域を一体化した教育実践の継続につながっている。



本校の支援活動組織

事業を実施して

- ・児童の体験活動の場が広がり、豊かな学びを得ている。
- ・児童にとって、本校を取り巻く地域が身近になると同時に、人とのかわり合うことの楽しさ喜びを味わうことにつながっている。
- ・本校教職員にとって、保護者地域を巻き込んだダイナミックな活動によって、授業デザイン力が高まり、より質の高い授業実践への意欲が向上している。
- ・保護者・地域からすると、学校の垣根は低くなり、できることを協力していきこうという意識に変容している。児童の楽しそうに学ぶ姿に、支援の喜びを感じている。



運動会における中学生ボランティア

世代を超えた地域による教育支援。見届け隊・地域を教材とした学習、地域協働の授業。

東京都町田市

活動名

町田市立 小山小学校

関係する学校

町田市立小山小学校

活動区分	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無	
学校支援 地域本部	1人	146人	20年度	有	
基本データ	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無	
	実施場所			開始年度	放課後児童クラブとの連携
	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	
その他	※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)				

活動の概要

*学校支援ボランティアコーディネーター(以下「VC」)の活動について
学校ニーズに基づいた、人材・地域リソースのコーディネートを中心に、一つの活動を接点とし、地域の方へ多様な活動で関わってもらうように働きかけ、子供達に対し、「大人の多様性」に触れる機会を多く提供できるよう、意識して活動している。

*子供の安全確保

40名(団体・個人)が登録されている「小山見届け隊」。授業のある日は毎日、登下校の見守りをされており、地域の協力を得ながら危機管理体制を整備している。

*学習支援活動

学校経営計画において掲げた「地域に学び地域に生きる小山っ子」のテーマに沿って、地域の環境、文化、そこに暮らす人々を知り、地域とかかわりの深い子供を育てるために、【特徴的な活動内容】に記載したような、地域を教材とした学習を行うとともに、地域の方々と協働した授業を設定している。

その他の地域教材の活用としては、桜美林大学の学生が「さがまちコンソーシアムの事業」で制作した映像作品を授業に取り入れたり、今後の小学校学習教材用にと「サレジオ高専」の学生が作成した「地域立体地図」でも、制作過程での地域情報のヒヤリング・素材検討等で協働作業を行っている。

特徴

【特徴的な活動内容】

- ・食育(野菜作り、米作り、味噌作り、搾乳体験、梅の収穫)
- ・地域の歴史(堺音頭、蚕の飼育)
- ・環境[小山の自然を見つめよう]①地域で学ぶ:「小山のホテルを守る会」の地域の自然観察会・大先輩との交流、②出前教室:「はちどり教室を伝える会」・市環境資源部のゴミ出前授業、③地域実践:地域商店会と連携しポスター掲示等々
- ・伝統文化(茶道体験・華道体験・水墨画・邦楽体験)
- ・福祉体験(車イス体験、アイマスク体験、地域福祉施設訪問)

【実施に当たっての工夫】

学校経営計画に基づき、VCを含めた全教職員が考え方を統一、地域人材等の活用に取り組んでいる。

- ・年度当初の職員会議や校内研究会へVCが参加、教員(新任者・転任者含)にVCの役割と関わり方について説明し、共通理解を深める。
- ・大まかな計画として、VCは日程を含めた要望を学年から集約(「地域の支援による教育活動計画」を作成)し、地域の方につなぐ。つないだあとは、学年と地域の方との話し合いに委ね、教員の主体性を尊重する。
- ・依頼状は校長名の正式な文書とし、学校からの正式な依頼であることを確認する。実施後は児童の感想やお礼状、校長名の感謝状を作成し届ける。

事業を実施して

学校は地域住民の期待に応える責務がある。そのためには、学校と地域とが協働して教育活動を作ることが望ましい。学校が作成した教育計画を豊かな学びにするために、学校だけではできずにあきらめていた分野に光を当て人材を開拓するため、地域に密着しているVCの活動が欠かせない存在となってきた。

VCが地域の方とのコミュニケーションを絶やさず、膨大な情報を意図に基づいて整理するとき、思わぬつながりが見えてくる。さらに、その方の別の側面も見えてきて、地域での活躍の場の拡充へとつながっていく。それは学校教育にとどまらず、まちづくり、地域づくり、等々へと広がっていく。

この事業を実施して、埋もれている有為な人に活躍の場を紹介し、学校での活動をきっかけに地域づくりの担い手を育てていくことを実感した。

その他

小山小のある小山町は古き良き伝統をつなぐ地域の一つ。3代4代続いて本校を卒業している家庭もある。本校通学区域では、小規模な宅地化が多いためか、転居してきた人たちがうまく地元になじんでいるようである。校外の地域行事も様々な団体が世代を超え協力し、盛り上げている。ここ数年、教員も地域行事に積極的に参加している。



登下校の見守り「小山見届け隊」の活動



「はたる」の生息する谷戸の自然観察会

子供の笑顔をはぐくむサポーター 保護者・学校支援組織がネットワークで連携!

東京都小平市

活動名

三小ちゃんネットワーク

関係する学校

小平市立小平第三小学校

活動区分	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
学校支援 地域本部	6人	120人	19年度	有
放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	36人	184日	有
コミュニティ・ スクール	実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
	校庭、体育館、図書館、家庭科室、音楽室、図工室、理科室等		22年度	有
その他	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	平成21年4月1日	13人	632人	19学級

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

三小ちゃんネットワークは、学校支援ボランティアの各団体、青少年対策地区委員会、「放課後子ども教室」などが、一つのネットワークを作って連携した取組である。

平成21年度からは、学校経営協議会(学校運営協議会)のもとに、子供たちにとって更に良いものとなるように協議をしながら活動を展開している。

- 【三小ちゃんみまもりたい】登下校時に、交通量の多い交差点などに立ち、安全な登下校を見守る活動で、毎日行っている。
- 【図書ボランティア】読み聞かせ、図書室整備、図書の修理などを行う活動で、月に2~3回行っている。
- 【花いっぱいボランティア】花壇整備や、校内環境整備などを中心にした活動で、年間12~13回行っている。
- 【さんさんひろば】将棋、コマ、あやとり、折り紙などの昔遊びを中心に、休み時間に子供たちと遊ぶ活動で、月1回行っている。
- 【子ども支援ボランティア】1年を対象に、着替えや片付けなどを、教室に入って支援する活動で、年度の前半を中心に行っている。
- 【放課後子ども教室】クッキングや漢字、算数、折り紙、工作など、20ほどの各種教室を年間190回ほど放課後に行っている。
- 【青少対】青少年対策地区委員会が、三小まつり、さくらまつり、防災体験会、餅つきなどの子供たちの成長の手助けになる活動を行っている。

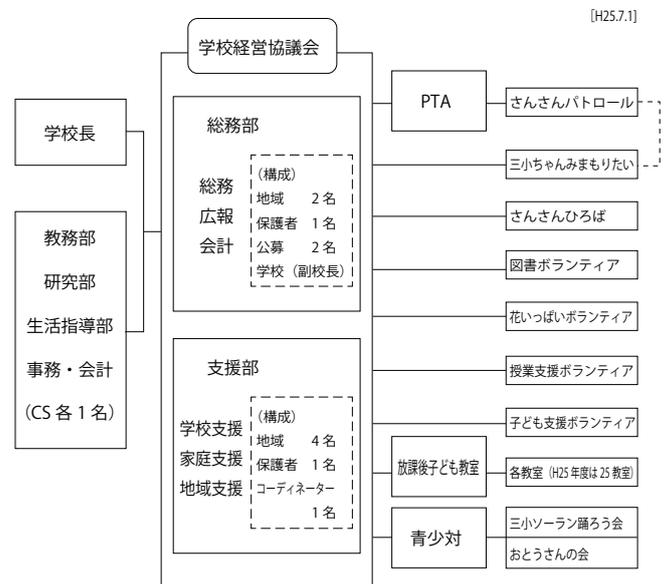
特徴

【特徴的な活動内容】

学校経営協議会(学校運営協議会)内に、総務部と支援部の2つの組織を設置し、学校・保護者・地域住民が一体となった地域に開かれた学校の具現化を目指し、学校経営を行っている。具体的には、学校、地域で活動している「三小ちゃん(みこちゃん)みまもりたい」、「さんさんパトロール」、青少年対策三小地区委員、民生委員児童委員、「放課後子ども教室」、授業支援ボランティア、「子ども支援ボランティア」、図書ボランティア、花いっぱいボランティア、「さんさんひろば」、三小ソーラン踊ろう会、おとうさんの会など様々な組織、団体を学校経営協議会(学校運営協議会)がネットワークとして結び、それぞれの立場から、様々な教育活動の場で学校を支援している。

【実施に当たっての工夫】

学校を支援するシステムの構築では、学校経営協議会(学校運営協議会)が声をかけ、自治会等の地域に根づく組織の方々に、積極的に学校に関わっていただき、ご協力いただいている。また、東日本大震災後は、新たな組織として、保護者、地域の方が中心となり「三小ちゃんみまもりたい」を立上げ、登下校の見守りをはじめ、児童の安全を地域ぐるみで取り組んでいる。さらに、広報誌やホームページ、リーフレットを作成し、積極的に地域の方のボランティアを募り、学校を支援するネットワークを広げる試みを実践している。



コミュニティ・スクール組織図

事業を実施して

学校を支援するネットワークの様々な組織、団体に協力いただくことで、地域の教育力を様々な教育活動の場で活かすことができた。また、学校経営協議会(学校運営協議会)が中心となり、学校が地域住民の交流の場として機能したことで、地域活性化の役割を担うことができた。

参考URL

- 【三小ちゃんネットワーク】
<http://kodaira3shocs.seesaa.net/>
- 【小平第三小学校 コミュニティスクールネットワーク】
<http://cs-net.seesaa.net/>



「放課後子どもひろば」の様子

学校の外枠をすべて支援! 学校と地域、企業等を繋ぎ新しい教育活動を生み出している

東京都板橋区

活動名

成増小学校支援地域本部

関係する学校

板橋区立成増小学校

活動区分	基本データ			
	学校支援 地域本部	コーディネーター数 4人	ボランティア登録数 114人	開始年度 20年度
放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
その他				

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

平成20年10月より、区内の先駆けとして体制づくりを行ってきた。地域全体で学校教育を支援する体制づくりを推進することにより、先生方が子供と向き合う時間を増やし、保護者や地域住民等の学習成果の活用機会の拡充及び地域の教育力の活性化を図ることを目的としている。

- レインボー図書館** 放課後に学校図書館を「レインボー図書館」として、ほぼ毎週水曜日に開館している。また、本の修理や整理等のサポート、保護者等を対象とした「読み聞かせ講座」も行っている。
- 学習支援「赤ペン教室」** 大学生や地域住民が指導者となり、毎週水曜日に行っている。フィードバック教材を使用し、算数と国語の振り返り学習等を行っている。5・6年生対象に漢検受験向けの学習会を実施している。これにより、子供たちの基礎学習の向上と、家庭学習の習慣化を図っていく。
- ICT支援** 学校のホームページの更新作業や、保護者へのメールでの情報配信等、ICT関連のサポートを行っている。
- 授業支援ボランティア** 子供たちの学習の理解を深めるために、ゲストティーチャーとして指導を行っている。(気仙沼市教委の方による防災教育、キャリア教育)

特徴

【特徴的な活動内容】

コーディネーターがPTA会長経験者であり、町会の役員であり、IT企業の経営者で、PTA・学校開放事業事務局・町会・企業と学校のパイプ役をもらえていることが学校の大きな力となり、児童の成長を支えている。

事業としては教職員が会議や研修をしている時間の赤ペン教室。漢字検定に向けて練習をする児童と、区の基礎学力調査で学び残しが見つかった児童への計画的な補充学習は、教職員と連携しながら児童の学力向上に大きく寄与している。また、ほぼ同時開催のレインボー図書館は、お話しあり、宿題教え合いあり、毎週50名ほどの参加があり、読書推進に役立っている。また、ITの技術を生かし、学校支援地域本部のHPに給食食材情報を掲載できるようにしたり、保護者への学校緊急安全メール配信のシステム構築をしたりしている。企業の社会地域貢献活動を学校に紹介し、教職員と連携して、新しい教育活動を作る活動も大きな成果を上げている。

別組織のいきいき寺子屋事業は、児童200名以上が参加し、ボランティアも100名を超す年間17回の大事業だが、上手く機能するよう連絡を取り合い、側面から様々な支援を続けている。

このほか、ボランティア養成講座を開催している。

レインボー図書館については、放課後子供教室との密な連携により円滑な支援が展開されている。

事業を実施して

地域の人材が、学校を支えてくれているという実感を保護者も児童も持っている。教職員も様々な活動で児童が育ち、教職員も支えられていると実感している。また、関わったボランティアの多くの方が自己実現を図り満足感とやりがいを持って取り組んでいる。

その他

毎週水曜、校長室での昼食連絡会で、効率的な情報交換・共通理解を図っている。



レインボー図書館実施状況



キャリア教育への支援

参考URL

<http://www.narimasu.gr.jp/>

地域住民が、楽しく元気に参加する、地域の教育力を活かした特色ある支援活動

東京都葛飾区

■ 活動名

上小松小学校 学校地域応援団

■ 関係する学校

葛飾区立上小松小学校

活動区分	基本データ		開始年度	補助の有無
	学校支援 地域本部	コーディネーター数 1人	ボランティア登録数 130人	22年度
放課後 子供教室	コーディネーター数 6人	子供の平均参加人数 61人	年間開催日数 240人	補助の有無 有
	実施場所 教室、校庭、体育館		開始年度 14年度	放課後児童 クラブとの連携 無
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
その他				

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

創立40周年を迎え、地域の公立学校として新たな一歩を踏み出そうと考え、地域と学校の連携のもとに学校の教育活動への支援事業を実施し、児童一人一人の健やかな成長を図ることを目的として立ち上げた。ボランティアには、保護者や地域の方、様々な世代の人材が学校の支援活動に参加している。また、地域コーディネーターは、区内初の退職校長であり、学校の要望を的確につかみ支援活動を推進している。

- 1 学習支援** ・家庭科等の実習 ・かけ算九九の繰り返し学習 ・「かつしか郷土かるた」を活用した授業
・生活科、社会科校外学習時の支援 ・プール授業時の安全見守り
- 2 読書活動への支援** ・読み聞かせの充実 ・図書館整備
- 3 教育環境整備への支援** ・学校園、花壇の整備促進
- 4 安全確保への支援** ・登下校時、学校公開時の見守り ・緊急時の集団下校見守り体制の整備

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

- ・区民の方と連携した「かつしか郷土かるた」を活用した授業
学校と、区民で組織される「かつしか郷土かるた」普及・活用委員会作業部会とが連携し、3・4年生の社会科の授業を行っている。「かつしか郷土かるた」を通して児童に葛飾の歴史を教えるとともに、かるたの取り方についても丁寧に指導している。
- ・かけ算九九の暗唱の聴き手
2年生の算数の授業時間中、かけ算九九の暗唱の聴き手となっている。複数のボランティアが、児童の聴き手となることで、暗唱する回数が増えるとともに、聴いてもらうために待つ時間が短くなっている。また、児童が、暗唱できた時には、ボランティアが褒めたり、認めたりして児童の学習意欲の向上につなげている。

【実施に当たっての工夫】

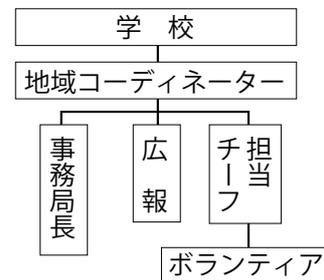
- ・授業支援の際には、教員の授業のすすめ方を尊重するために、学校と地域コーディネーターとが細かく話し合い、活動に入る前の準備をしている。
- ・支援活動後には、学校、地域コーディネーター、ボランティアとの話し合いの機会を設け、反省点や課題の抽出、今後の支援活動のすすめ方について、積極的な意見交換を行うことで、ボランティアの参加意欲を高めている。
- ・支援活動に入るボランティアには「守秘義務を守る」約束を徹底することで、学校も安心して授業に入ってもらえている。

■ 事業を実施して

- ・学校長や教職員からは「応援団のメンバーが子供達に寄り添い、声をかけ、励まし認めてくれることで、子供達の意欲が継続したり高まったりしている」との声が聞かれている。
- ・ボランティアに入る地域の方々から「教職の経験のない素人だからこそ子供に近い目線でサポートでき、子供達の成長に関われてよかった」という声が寄せられ、その満足感が原動力になっている。

■ その他

- ・学校の先生は、ボランティアが学校支援活動に参加する際、児童に「応援団さん」と紹介している。ボランティアと児童が顔見知りとなることで、学校内はもとより学校外でも挨拶を交わし合う関係が築かれ、登下校時の見守りに対するボランティアの積極的な参加に結びついている。



組織イメージ図



かつしか郷土かるたを活用した授業

■ 参考URL

http://www.katsushika.ed.jp/eka_koma/kamiko/sub5.html

「学習する学校」づくりで21世紀型の学校へ改革を ～小中一貫で、学校・家庭・地域で、大人も子供も共に学び合う～

神奈川県横浜市

活動名

市ヶ尾中学校学校運営協議会

関係する学校

市ヶ尾中学校・東市ヶ尾小学校・
荏田西小学校

活動区分	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
学校支援 地域本部	1人	43人	23年度	無
基本データ 放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所			開始年度
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	平成23年7月1日	15人	645人	21学級
その他	※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)			

活動の概要

学校教育理念「自立貢献」は生徒・保護者・地域のほぼ100%の認知度。「自立貢献」を邁進すべく、2ヶ月に1度開催する学校運営協議会は、小中学区の経営方針等、様々なことを決める「ブレイン的な存在」である。3人の外部有識者と、学区2校の小学校長、PTA会長・副会長、町内会や連合自治会の代表、学校関係者の15名で成り立つ。毎回の会議には、学年毎（1～3学年、事務や用務員など学年に所属しない学年も含む）が毎回輪番で出席し、全員が発言。教職員全員参加型のアクティブな会議である。委員の皆さんは、市ヶ尾中学校にとって「辛口の友人」であり、「最も強力な応援団」。学校運営協議会での提言・提案を元に、日々学校改革を推し進めている。

学校運営協議会のもとに、ボランティアの実働部隊として、各小中学校に学校支援本部を設置。グリーンボランティア、図書ボランティア、学援隊など、数多くのボランティアがすでに立ち上がり、小中でアクティブなボランティアの数は200人にもなる。また、小中の学校支援本部は3校で連携しあっている。

特徴

特徴的な活動内容

- ・小中一貫・9年間で身につけさせたいスキルの明確化に向けたアドバイス
小中3校のスローガンを「自立貢献～15の春に向けて」と制定。学校運営協議会の意向もふまえ、9年間で身につけさせたい21世紀型スキルの明確化に向けたアドバイス
- ・小中一貫・キャリア教育推進のための協力（企業紹介、人材紹介）
児童・生徒の興味関心を高めるため、授業の単元に合わせ、地域・企業・トップリーダーと外部講師を呼び、世の中のつながりを意識したカリキュラム作りを行っている。地域人材や地域企業も活用している。
- ・学校・家庭・地域をむすぶ「コミュニティカレンダー」を作成
- ・市ヶ尾中学校区「コミュニティかるた」を作成～地域の歴史を伝承し、幼保小中が連携
- ・3年前は1人もいなかったボランティアもすでに43人。生涯学習の場となっている。

実施に当たっての工夫

- ・生徒・保護者・教職員・地域がお互いに、より信頼・信用できるよう、学校便り・学校HP・『Dear校長 公聴ポスト』（意見箱）など広報に力を入れた。学校の現状を発信するため、授業の中身を知ろうと、校長自ら毎日50分のフル授業観察を行っている。
- ・ボランティアをしてくださる方の知的好奇心を満たせるよう工夫している。当校は外部講師を招いた公開授業が多いので、そのときは必ず広報。保護者や地域の方も共に考える授業を展開している。その中で、地域の大人が同じトピックスについてどう考えているか？発言する場面を子供にも大人にも作っている。
- ・「コミュニティかるた」は学校運営協議会から出た素晴らしいアイデア。地域に伝わる歴史や言い伝えなどを地域の人が読み札に著し、中学校3年生全員が美術の宿題で絵札を描く。そしてかるたを幼稚園・保育園・小学校に配布。子供達が自然に地域の歴史の言い伝えを知るようになる。また、中学校の福祉体験学習でも、体験先の老人ホームや幼稚園で活用している。



いつも活発な議論がなされる学校運営協議会

事業を実施して

市ヶ尾中学校区は、東急田園都市線で開発されたほとんどが新しい地域である。そのため、住人の多くは転入である。保護者の世代でさえ地域の歴史や言い伝えを知らない。コミュニティカレンダーやコミュニティかるたを作成することにより、幼保小中のつながりができるだけでなく、大人も子供も郷土愛が育まれる。それは、自己肯定感にも直結する。

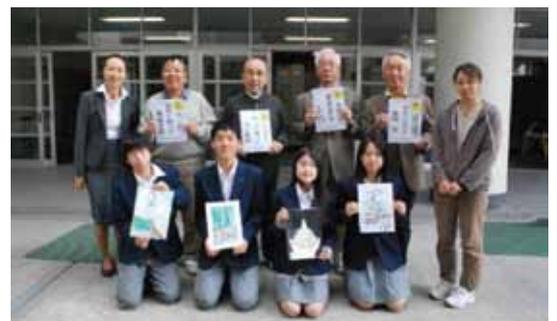
学校運営協議会で様々な立場の人たちがさらに信頼しあい、素晴らしいアイデアを出し、本音で意見交換することにより、学校という場を通じて大人(教職員・保護者・地域・市民)も子供も学び合う。そんな「学習する学校」が実現しつつある。

その他

- 平成25年1月にユネスコスクールとして加盟承認。(市ヶ尾中学校)
- 平成25年度キャリア教育優良校文部科学大臣表彰受賞。(市ヶ尾中学校)

参考URL

<http://www.cms-school.jp/ichigao/>



読み札が地域、絵札が生徒「コミュニティかるた」

地域を挙げての自分に自信をもち、地域を誇れる キラキラにこここ東っ子」の育成

新潟県新潟市

■ 活動名

中之口東小学校学校支援地域本部

■ 関係する学校

新潟市立中之口東小学校

活動区分	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
学校支援 地域本部	1人	123人	19年度	有
基本データ 放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
その他	※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)			

活動の概要

「新潟市地域と学校パートナーシップ事業」実施7年目を迎え、PTAや社会教育機関との連携を深めながら、学校支援ボランティア組織の拡充やネットワークの充実を図っている。

- 1 学校・社会教育施設・地域活動を結ぶネットワークづくり
- 2 学校の教育活動における地域人材の参画と協働
 - (1) 学校支援ボランティアの募集と組織化
 - (2) 校外学習先の確保
- 3 学校における地域住民の学びの拠点づくり
 - (1) 地域ふれあい室を地域の学びの場に定着
 - (2) 地域発の学びを実現

学校、公民館、郷土資料館の協働による読み聞かせグループの公演会の実現



■ 特徴

【特徴的な活動内容】

- 1 米・桃・葡萄栽培では超一流の講師陣が子供たちを温かく指導
- 2 公民館、郷土の偉人・歴史館、農業体験公園などとの事業連携
- 3 二百数十本の樹木、千坪の緑地を守る整備活動
- 4 学校発、地域に活動を広げる読み聞かせグループ
- 5 声楽・ピアノの出前コンサートと子供たちへの指導
- 6 父母・祖父母世代間交流による子育て支援



春の教材園一斉堆肥入れ作業

【実施に当たっての工夫】

- 1 地域の理解と協力を得るために
 - (1) 学校だよりや「ふれあい通信」の全戸回覧とホームページによる発信
 - (2) 学校授業参観日に限らず広く学校行事等を案内
 - (3) 学校ボランティア活動と地域の行事を知らせる「ふれあいカレンダー」の全戸配付
- 2 成果の確認・共有の場をともに
 - (1) 全校児童による「感謝の集い」の実施
 - (2) 全校児童との「ふれあい給食」の実施
- 3 教職員の理解を深めるための研修会の実施

節分恒例のボランティアさんへの「感謝の集い」



■ 事業を実施して

平成24年度の学校支援ボランティア参加延べ人数は、総数で前年度を78人上回り、1,413人。分野別では、学習支援が480人、環境整備が30人、学校行事が138人、登下校時安全指導が612人、その他が54人であった。保護者の評価も高く、うれしい声の数々が寄せられている。「ボランティアの皆さんが、子供たちの顔と名前を覚えていて、温かく声掛けをしてくださっている姿に驚き、感謝しています。」「地域の皆さんのおかげで、子供たちは育てているのだと、つくづく感じさせられました。」「様々な行事に地域の方が協力してくださっていて、地域全体で子供を育ててもらっていると感じています。」



栽培の「心」を伝える桃づくりの名人

■ その他

学校教育目標達成に向けて本事業をしっかりと位置付け、強いリーダーシップを発揮する校長。地域を愛し、子供たちの成長とともに地域の発展を願い行動する地域教育コーディネーター。両者のパートナーシップにより、当校の「地域と学校パートナーシップ事業」は発展を続けている。

芸術をもっと身近にと出前コンサート



■ 参考URL

<http://www.kiranico.jp>

みんなで育てよう!地域を愛する子供 広げよう!ひまわりフレンドの輪

新潟県新潟市

活動名

東青山小学校学校支援地域本部

関係する学校

新潟市立東青山小学校

活動区分	基本データ			
	学校支援 地域本部	コーディネーター数 1人	ボランティア登録数 74人	開始年度 20年度
放課後 子供教室	コーディネーター数 1人	子供の平均参加人数 69人	年間開催日数 83日	補助の有無 有
	実施場所 体育館、図書室、校庭、地域連携室		開始年度 16年度	放課後児童 クラブとの連携 有
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
その他				

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

新興住宅地にあって伝統的な祭りが無いこの地域で、「東青山ふれあい祭り」を立ち上げ、実施している。「みんなで育てよう 地域を愛する子供」をスローガンに、子供ふれあいスクール(放課後子供教室)、小学校区コミュニティ協議会、学校、PTA、スポーツ振興会等、各種団体が連携して実行委員会を組織し、子供のための手作りの祭りを運営している。この祭りでは、子供の活躍の場が保障されており、かつてこの地域で踊られていた民謡(六階節)を総合学習で復活させ、みんなで踊っている。また、子供がみこしを創作し、みんなで担ぎ、町内を練り歩いている。この祭りを通して地域の大人と児童がふれあう機会が多くなり、自分が住んでいる町を愛し、誇りに思うとともに、地域ぐるみで青少年の健全育成を図っている。

また、学校と地域、保護者が一体となった教育活動が展開できるよう「ひまわりフレンド(学校支援ボランティア)」を募集し、子供の学習に参加していただいている。特技や趣味を生かした学習支援、校外学習の引率補助、各種教育活動の補助、校内美化・整備など多岐にわたる活動が展開されている。

さらに地域の大人や保護者を対象にした簡単な韓国語講座や小物作り教室、初心者パソコン教室を開催し、地域の大人に学びの場を提供している。このことにより、学校支援ボランティアの拡充につながるとともに、地域の絆づくりに役立ちつつある。

特徴

【特徴的な活動内容】

<東青山ふれあい祭り>

- ・子供みこし…力を合わせてつくったみこし6機が、各町内を練り歩く
- ・アトラクション…子供による演芸発表会、腕相撲大会などのお楽しみイベント
- ・出店…協賛団体や学校教職員、高学年児童による企画、運営。チケット販売制
- ・盆踊り…やぐらを囲んでの新潟甚句や復活させた「東青山六階節」

<ひまわりフレンド情報交換会>

- ・学校支援ボランティア同士の顔合わせと活動内容の説明、意見交換
- ・活動に寄せる願いの共有
- ・公民館職員の参加によるボランティアのニーズの把握

【実施に当たっての工夫】

- 1 今ある組織が有効に機能できるような工夫
東青山ふれあい祭りは実行委員会制である。実施までに2回の実行委員会をもち、各種団体がどんなことができるかを提案し互いの立場を尊重している。
- 2 決して無理をしない工夫
ふれあい祭りもひまわりフレンドも長く続くことや続けることを第一として、無理をしたり、ある一部に過重な負担がかかたりしないよう注意している。
- 3 自己実現が図れる活動を目指す工夫
誰かのために何かをするボランティアではなく、ボランティアの活動自体が楽しく、自分のキャリアアップや自己実現が図れるものになるよう心掛ける。また、活動後には必ず振り返りの場を設け、よかったところを確かめ合ったり子供の感想をボランティアに伝えたりしている。



東青山ふれあい祭りの子供みこし

事業を実施して

東青山ふれあい祭りは、これまでに7回実施され、参加者が2,300人(全校児童560名)ともなる大きな地域行事に成長した。学校行事ではなく、しかも休日の開催にもかかわらず、全校児童の95%以上が参加している。参加した子供から「楽しかった」の声が聞かれるのはもちろんだが、保護者からも「人と人との温かいふれあいを感じる」「子供が生き生きとしている」「転動してきたが、地域のすばらしさに感動した」などの声が寄せられている。また、学校教育への関心も高まり、年間延べ600人を超えるひまわりフレンドが学習ボランティアとして活動している。今後もみんなで力を合わせ、東青山を愛し、誇りに思える学校づくり、まちづくりを進めていきたい。

その他

学校支援地域本部事業(新潟市地域と学校パートナーシップ事業)の地域教育コーディネーターが放課後子供教室(東青山楽園キッズ)の運営にも深くかかわっているため、子供の活動や学びを、地域の方や保護者が総合的、一体的に支援できるようになっている。



「ひまわりフレンド」情報交換会

参考URL

<http://www.h-aoyama.city-niigata.ed.jp/>

地域ぐるみで地域の希望である子供たちを育てよう ～大きく 咲かそう 希望の花を～

新潟県南魚沼市

活動名

大崎小学校学校支援地域本部

関係する学校

大崎小学校

活動区分	基本データ			
	学校支援 地域本部	コーディネーター数 1人	ボランティア登録数 144人	開始年度 20年度
放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
その他	※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)			

活動の概要

「できる時に、できる人が、できることを」を合言葉にして、地域の人材を教育活動の支援に生かすことを目的に活動を展開している。

活動名を「はなさき活動」とし、拠点を校内に置き、「はなさき本部」として、支援活動の連絡調整を行っている。地域のボランティアを募ったり、地域の諸団体との連携協力を図ったりして、学校が必要な地域の力を教育活動に生かすよう配慮してきた。

〈主な活動〉

- ・安全指導支援(安全パトロール隊の交通安全教室支援、持久走の監察員等の学校行事での支援など)
- ・授業支援(国語、算数、家庭科、生活科など)
- ・体験学習支援(地域の人材を生かした米づくり活動、地域の産物である大崎菜栽培、大前神社の祭り調査や地域芸能の紹介等)
- ・環境整備支援(花壇の整備、入学式・卒業式に飾る花の栽培補助など)
- ・図書の読み聞かせ支援(毎週金曜日。読書週間のおすすめ本の紹介や、クリスマスイベントなど読み聞かせ以外の活動も実施)
- ・図書ボランティアによる図書修理と整備
- ・地域諸団体との連携による地域行事への支援・協力
- ・月1回「はなさき通信」の発行と全戸配付

特徴

〈特徴的な活動内容〉

地域の高齢者を中心に、子供と一緒に昔の遊びやもの作り活動を行う「はなさき交流会」を年5回実施してきた。ロングの昼休みを使い、遊び・もの作り(2会場)・読み聞かせなど4つの活動を設定し、子供たちが自由に選んで活動に参加するようにした。平成25年度は5年目を迎える。

〈実施に当たっての工夫〉

- ・4月にボランティア打合せ会を実施し、年間の取組や内容について協議する機会を持っている。学校職員、ボランティア代表、本部スタッフがそろい、年間の予定を確認している。
- ・PTA総会やPTA研修会にも本部は参加し、取組の紹介やボランティア参加の呼びかけをしている。
- ・「はなさき通信」を発行し、月ごとの予定や活動の様子について、写真や文章で知らせている。学校だよりとともに全戸配付している。地域にもはなさき本部の活動が理解されてきている。
- ・地域諸団体の青少年育成に関わる取組と連携し、行事案内状づくり、交通安全ポスターづくり、地域文化祭への参加などの子供たちの地域行事への参加を呼びかけ、学校と地域の連携を図っている。

事業を実施して

ボランティアの数も一定し、活動の動きがスムーズになってきている。学校への関心も高まり、地域の方が気軽に支援してくれている。

子供たちの反応もよく、丁寧な挨拶の様子が見られ、学校へ足を運ぶことが心地良くなっている。

その他

ボランティアの呼びかけに対して、必要なことには力を貸してもらえ。長続きさせるためには、コーディネーターを中心に、学校との連携を図りながら進めていくことが必要である。本部スタッフとして地域の公民館長に来ていただいている。公民館長は、地域との連携には欠かせない存在である。



環境整備支援(さくら草植え)



はなさき交流会(ものづくり・おりがみ)

地域コーディネーターを核とした地域の「絆」づくり 地域の皆様は学校の応援隊!

新潟県糸魚川市

■ 活動名

能生中学校区学校支援地域本部

■ 関係する学校

磯部小・能生小・南能生小・中能生小・
木浦小・能生中

活動区分		コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
基本データ	学校支援 地域本部	1人	407人	21年度	有
	放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		実施場所			開始年度
	コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
その他					

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

地域全体で「ふるさとを愛し、自分の能力を伸ばす」子供たちを育てるため、コーディネーターが学校と地域のパイプ役となり、ボランティア活動を推進している。

年間400人以上の地域ボランティアの力を借りることで多彩な教育活動が可能となり、知識や技術面で教員の負担が軽減された。また、地域住民と児童生徒の接する機会が多くなり、コミュニケーションが深まることにより、地域で子供を育てる意識が高まっている。

糸魚川市の学校支援活動は、この活動をモデルとして市内他中学校区へも展開しており、平成25年度から全中学校区で実施されている。(事業愛称：学校応援隊)

〈主な活動〉

- ・ 図書の読み聞かせ
- ・ 学習支援 (夏季休業中の補習指導)
- ・ 授業支援 (音楽、体育、家庭科、書道)
- ・ 体験活動支援 (野菜栽培、地域学習、職場体験)
- ・ 環境整備支援 (ホームページ作業、ワックス塗り)
- ・ 課外活動支援 (水泳、陸上、スキーなど)

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

①ジオパークを基盤とした地域学習(ジオサイト学習)

地域の宝であるジオサイトを活かした学習を行い、地域の歴史・文化を学ぶことで地域愛を育むことを目的に能生中学校1・3年を対象に実施し、地域ボランティアが現地ガイドを務める。

②能生中学校での陸上練習会

中学校区の小学校高学年を対象に実施した。学童陸上大会に向けて、中学校の体育教諭、陸上部員から、短距離走・ハードル走・長距離走の基本について指導を受けた。学校や世代間という垣根を越えた交流が行われている。



ジオパークを基盤とした地域学習

【実施に当たっての工夫】

- ①地域住民を講師として招くことにより、地元の歴史・文化を深く知ることが出来る。雨天時のスケジュールを確保し、天候の影響を最小限に抑えている。
- ②単独での実施と違い、全小学校からの参加となるため、日程調整が重要となる。各学校のスケジュールを把握し、無理のない実施となるよう努める。

■ 事業を実施して

子供たちの学習面の充実はもちろんのこと、支援に携わった地域ボランティアの方からも「生きがいを感じた」、「元気をもらった」という声が出ており、地域住民の活力増大にも繋がっている。

子供たちは、ボランティアの方々との交流を通して、温かい心や匠の技に感動し、地域住民との「絆」の大切さを学び、今まで以上に地域との繋がりが強固なものとなってきている。



能生中学校での陸上練習会

■ その他

地域への情報発信として、年度始・年度末に「学校支援だより」を発行し、地域へ配付・回覧を行っている。

■ 参考URL ■

<http://www.city.itoigawa.lg.jp/dd.aspx?menuid=5714>

「ひろがる ふれあい みつける よろこび」 ひふみよ精神の聖籠町学校支援地域本部

新潟県聖籠町

■ 活動名

聖籠町学校支援地域本部

■ 関係する学校

蓮野小・山倉小・亀代小・聖籠中

活動区分	基本データ			
	学校支援地域本部	コーディネーター数 4人	ボランティア登録数 120人	開始年度 21年度
放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
コミュニティ・スクール	指定日 平成20年4月1日	委員数 47人	児童生徒数 1256人	学級数 53学級
その他	※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)			

活動の概要

教職員や地域住民が子供と向き合う時間を設けること、地域住民の学習成果を子育てに生かす場を設けること、地域の教育力の活性化を図ることを目的に、「ひろがる、ふれあい、みつける、よろこび」の「ひふみよ精神」で、「できる事を できる時に できる範囲で」をモットーに、学校支援活動を展開している。子供たちを中心に地域のいろいろな人が集まり、活動することによって、地域と学校がふれあい、よろこびを共に分かち合う心を大切にしながら地域の結びつきを強めている。

また、県内で初めてコミュニティ・スクールを立ち上げ、コーディネーターは学校運営協議会のアドバイザーとして参加し、協議会での意見を本部事業に生かしている。

〈主な活動〉

- ・環境サポート活動 登下校の見守り、校外パトロール、花壇の整備、教材教具の修理など
- ・学習サポート活動 校外学習の引率補助（遠足、マラソン大会、グリーン作戦など）、地域交流会の講師、授業支援（国語や理科、家庭科等の指導補助）、クラブ活動における指導補助など、多種多様な支援を行っている。

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

学校支援活動については、地域本部が作成した記事を毎月町の社会教育だよりに掲載しているため、町内の全小・中学校の様子が町民に広報できている。

また、各校のコーディネーターの情報交換会は随時行い、ボランティア(子どもサポーター)の交流会も実施するなど、町の組織的な取組として位置づいているため、実施校の取組に温度差が見られず、全体的に活動が活性化している。地域全体、町全体で子供たちを見守り育てる取組である。支援活動は、学習サポートから環境サポートとコーディネーターを中心に多様化している。

24年度の特徴的な活動

- ・中学校でのキャリア教育「トライやる」での職場体験における事業所回り
- ・卒業式に向けて在校生と一緒に「卒業式会場の花生け」と「卒業生へのコサージュ作り」

【実施に当たっての工夫】

- ・各校のコーディネーターの情報交換を随時行い、一人のサポーターだけに負担がかからないような人材配置と日程調整を行っている。
- ・支援活動が活発に行われるにつれ、専門性を持った方の依頼も増えている。情報交換を密にして、学校の依頼に応えられるよう更なる改善を加えている。
- ・老人クラブの会合や、PTA総会等にコーディネーターが外向き、趣旨説明と協力依頼で活動の幅を広げている。

■ 事業を実施して

- ・「子供たちや学校職員から“ありがとうございます”“またお願いします”の声が沢山届けられている。また、サポーターの方々からも“楽しかったよ”“子供たちから元気をもらった”との声も寄せられ心強い限りです。」(支援スタッフ一同)

課題としては

- ・同時期に同じサポート依頼が来たときのサポーターの確保と人材の配置、日程調整が困難である。
- ・登録サポーターは100名を越えたが、実際に活動できる方が固定化してきた。

■ その他

- ・学校からの依頼だけではなく、コーディネーター同士の情報交換で得た支援活動情報をもとに、新たな取組(支援活動)を担当学校に提案している。



国語の授業(辞書引きのサポート)



音楽の授業(指導、補助)

心豊かでたくましい子供の育成 ～支援の輪は、連鎖して～ 南部さわやか教室

富山県滑川市

■ 活動名

南部さわやか教室

■ 関係する学校

滑川市立南部小学校

活動区分	学校支援 地域本部		開始年度	補助の有無
	コーディネーター数	ボランティア登録数		
基本データ	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	12人	41日	有
	実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
小学校内(地域交流室、南部っ子教室、体育館等)		19年度	有	
コミュニティ・ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
その他				

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

- ・「子供たちを地域全体で育む」という観点から、小学校を拠点として、学校・家庭・地域が連携・協力し、子供たちの健全育成にあたっている。
- ・南部小学校は、マンドリン指導に伝統的に取り組んでいるが、他の体験を得る機会が少ないため、放課後子供教室において、いろいろな体験ができるように、学校と連携をとりながら複数の内容の教室を開催している。
- ・「伝統文化を大切に」「心に響く体験を」を基本に、6種類(以下参照)の活動を行い放課後子供教室推進事業を展開している。
- ・地域の方々が、放課後子供教室で子供たちと関わったことをきっかけに学校支援の輪が広がり連鎖している。

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

- 伝統文化を大切に・・・[茶道教室][マナー教室][ギター教室]
- 心に響く体験を・・・[スポーツ教室][手話教室][寺子屋教室]
- ・水曜日を基本に開催し、伝統文化をとおしてふるさとを大切に思うやさしい心を育み、心に響く体験から、思いやる気持ちやたくましい子供を育成している。
- ・開催日数は、41日と多くないが、一日に複数の教室を開催しており、延59日実施している。
- ・寺子屋教室は、全学年を対象に夏休みに開催し、一つの教室の中で集中して課題に取り組んでいる。中には、低学年の学習を見てあげる高学年の子もいる。

【実施に当たっての工夫】

- ・近くの公民館で実施している放課後児童育成クラブの児童を招いて合同お茶会や学校の教職員を招いてのお茶会を開催している。
- ・放課後子供教室で学んだ成果を全校集会等で紹介し、子供たちが達成感を味わえるようにしている。
- ・小学校は、農村地域にあるため、特に冬期の実施にあたっては、一人で下校することがないよう学校と連携して保護者への連絡や見守りを行っている。
- ・[スポーツ教室]は、高学年・低学年の二部制にし、発達段階に応じた活動を実施し、仲間づくりの大切さや運動する楽しさを味わうことができるようにしている。また、教職員が常駐することで、安全面にも配慮している。
- ・[寺子屋教室]では、学習の足跡が残る表を作成し、達成できるとシールやコメント等で子供たちをほめ、やる気が継続するよう工夫して実施している。

マナー教室



■ 事業を実施して

- ・地域の方々が、放課後子供教室で子供たちと関わったことをきっかけに、学校支援の輪は連鎖して、マンドリン活動や休憩時に行っている卓球教室の指導、朝の読み聞かせにも参加協力をしている。
- ・茶道教室で茶道を学んだ子供たちと保護者が、中学校に働きかけ茶道クラブが発足する契機となり、継続して茶道が学べるようになった。

■ その他

- ・地域の方々の支援は校内だけでなく、地域社会全体に広がっており、子供たちが安心して健やかに育まれるよう様々な取組を展開している。
- ・未就学児から90歳代の方が協力して田植え・稲刈り・餅つきを実施したり、PTAや農業団体と連携して校区の水源地調査を実施したり、老人クラブとの握手の集いを実施したりしている。
- ・小学校では、地域社会の中で子供たちが安心して健やかに育まれるよう市主催事業と連携し、子育て講座(放課後子供教室の指導や地域の方を招く)を開催し、地域ぐるみの子育て支援の体制づくりに努めている。



ギター教室

多彩な教室を開催し、郷土の自然や日本の文化に触れることで、理科や国語の学習を支援

富山県氷見市

■ 活動名

海峰放課後子ども教室

■ 関係する学校

氷見市立海峰小学校

活動区分	基本データ			
	学校支援 地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度
放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	20人	76日	有
	実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
	公民館及び公民館周辺		19年度	有
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
その他				

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

・海峰放課後子ども教室は、小学校と棟続きである公民館を活動場所としており、参加児童は、渡り廊下を通り、便利に安全に放課後子供教室に参加している。

- ・「子供の頃に興味あることに触れてほしい」「興味をもつきっかけの一つとなってくれればいい」との思いから、氷見市の自然保護や茶道等、幅広く指導できる元小学校長を中心とした地域人材を活用し、自然教室、百人一首・茶道教室、囲碁教室等多様な活動を展開している。
- ・海と山が近くにある田園地帯という豊かな自然を生かした自然教室は、理科好きで、地域に根ざした子供たちを育てている。
- ・全校児童100人程度の小規模の小学校だからこそできる異学年交流を生かし、仲間との関わりを大切にしたい教室が実施されている。
- ・放課後子供教室には、隣の部屋で実施している放課後児童クラブの児童の多くも参加して、茶道や百人一首をたしなむなど両事業の連携を図っている。

■ 特徴

[特徴的な活動内容]

○自然教室

「地域のメダカや希少種であるヤリタナゴを保護していくという意識を子供たちにもってほしい。」という思いから、メダカの放流やヤリタナゴの飼育、自然探索等の活動を行い、理科学習にも役立っていると好評である。

○百人一首、茶道教室

「日本の伝統文化や礼儀作法に触れて、落ち着きのある子供に成長している。」と学校の先生や保護者等に好評である。特に百人一首教室では、6年生まで継続して参加している子供たちは百首全てを暗誦するなど、学習効果が上がっている。

[実施に当たっての工夫]

- ・百人一首・茶道教室には高学年児童の参加もあり、自然と異学年交流が生まれ、上級生が下級生のお世話をし、技能や作法のお手本となるなど、教室を通じて自主性、社会性が培われている。そして、地域の公民館祭りにおいて、放課後子供教室で習った茶道のお点前とお運びが行われ、緊張感の中にも礼儀正しい立ちふるまいに、地区住民も大いに感心していた。
- ・囲碁教室では、子供たちに馴染みの薄い囲碁に親しんでもらうため、わかりやすく実演を交えて説明するために、マグネット碁盤を利用してルールや技法を説明しながら楽しく対局できるよう工夫している。



和歌を真剣に聞く百人一首教室



二枚貝の種類を見比べる自然教室

■ 事業を実施して

- ・平成19年度に開設され、児童や保護者の間でも定着している。子供たちは続けて毎年教室に参加する者、新たな教室に参加してチャレンジする者など様々で、自由意志のもと教室に参加している。
- ・教育活動推進員やサポーター等の指導者は、子供たちとの接し方に自信をもち関わっており、小規模校ならではのいい雰囲気の中で、楽しく適切に指導が行われている。その関わりから地域の中での自然な挨拶につながっている。

学校と地域の絆を育み、地域ぐるみで生徒を見守る

石川県金沢市

活動名

額中学校支援地域本部

関係する学校

金沢市立額中学校

活動区分	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
学校支援 地域本部	1人	170人	21年度	有
基本データ	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	コミュニティ・スクール	指定日	委員数	児童生徒数
その他				

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

平成14年から地域とともに歩む学校を目指し「額中校区10年プロジェクト」を立ち上げ、PTAや地域の協力を得て、様々な学校支援活動を始めた。

- 地域教育協議会の開催（2回）
 - ・年間の企画や報告を行う。
- 広報活動
 - ・保護者・公民館と連携し、ボランティアを募集。
 - ・年3回「地域本部通信」を発行し、事業報告を地域に行う。
- 人材バンク 随時作成
- 学校支援ボランティア活動の実施（保護者や地域ボランティアが参加）
 - ・学習支援ボランティア（サマースクール）
 - ・部活動支援ボランティア（サッカー部など）
 - ・環境整備支援ボランティア（樹木剪定、窓ふき清掃）
 - ・学校行事支援ボランティア（授業参観、文化講座、キャリア体験、運動会、芸術週間、合唱コンクール時支援）

特徴

【特徴的な活動内容】

- ・樹木が多い学校のため樹木剪定をおこなう等、環境整備に力を入れている。樹木剪定は毎年恒例の事業となっており、地域の人たちもチェーンソーを活用する等、すっかり手慣れた様子となっている。
- ・運動会は事前の準備や当日の手伝い(テント設営・受付・救護など)の多方面にわたり地域・保護者ボランティアが支援している。生徒・教職員・保護者が運動会を共に創り上げていくという一体感が生まれ、絆が深まる行事となっている。
- ・2年のキャリア体験では、地域の事業所や公共施設を中心に協力を依頼。生徒の貴重な体験となるだけでなく、生徒と家族、学校、地域の連携・協力を深めることに役立っている。

【実施に当たっての工夫】

- ・生徒と地域・保護者ボランティアの混合グループをつくって実施し、地域と生徒との絆が深まるようにした。
- ・運動会ボランティアの募集時に、活動内容や活動時間帯など細かく提示し、ボランティアが参加しやすいよう工夫した。また、ボランティアに活動内容を説明する打合せ会を実施し、教職員との連携を図った。
- ・なるべく生徒が希望職種で体験できるよう、前年度に協力していただいた事業所だけでなく、新規に声かけするなどして対応した。

事業を実施して

- ・地域の人たちに学校の様子を知ってもらう機会になっている。
- ・教職員に時間的な余裕ができ、生徒と向き合う時間確保につながった。
- ・行事支援を行うことで、教職員と地域との協力体制も整ってきている。
- ・地域の人たちと一緒に活動することで、生徒が地域の人に挨拶をするなど、地域と学校の絆が深まった。また、生徒の地域に貢献する気持ちが養われた。



樹木剪定の様子



運動会のテント設営の様子

「ただいま」と子供らが帰ってくる教室

石川県加賀市

■ 活動名

作見地区放課後子ども教室

■ 関係する学校

加賀市立作見小学校

基本データ	活動区分				
	学校支援 地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		4人	50人	25日	有
		実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
	加賀市立作見地区会館		16年度	有	
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	
その他					

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

異年齢の子供たちが地域の方々(まちの先生)との触れ合いを通じて学ぶ場を設けることで、子供たちの健全育成の一助になるようにと、平成16年度から小学生を対象に実施している。「茶道」「折り紙」「将棋・五目並べ」「長拳」の通常教室のほか、「特別教室」としてホテルの里でのホテル観賞用の行灯作りや七夕飾り作り、夏休み TOSS デーなどを行っている。

【活動日】毎週水曜日 15時～16時(学校行事との重複を避け月2～3回)

【特色ある講師】地域の中で子供の教育について熱意や実績をもつ方々(まちの先生)が教育活動推進員として参加し、さまざまな講座を実施している。また、行灯作りや七夕飾り作りなど、地区の行事へも参加している。

【参加者の募集方法】①小学校のPTA総会で保護者に説明し、教室への参加を依頼する。

②年度当初(4月)に、小学校担任教師を通じて保護者あてに申込書を送付し、希望する教室の科目を申込んでもらう。原則、年度当初に申込んだ科目から途中で変更することはできない。

【安全対策】①教室開始までの時間に自習時間を設け(宿題等実施)規律ある管理を行う。

②保護者の携帯電話番号リストを作成し、連絡体制を確立する。

③放課後子供教室からの帰宅時の保護者同伴を参加条件とし、子供の安全を確保する。

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

作見地区放課後子ども教室は、平成16年度から放課後の子供の居場所づくりに取り組んでおり、市内で最も長く活動している教室である。学校、地区の区長会、PTA、老人会などさまざまな団体を通じ、地域の理解と協力を得ながら、地域全体で子供を見守る体制を築いている。また、保護者との連絡体制の整備など、安全対策の確立された教室運営を実施している。

通常教室は、地域の中で子供の教育について熱意や実績をもつ方々(まちの先生)が教育活動推進員としてそれぞれの科目を担当し、また特別教室の行灯作りや七夕飾り作りなどは、各科目の先生全員が子供達の指導をするなどして子供教室を支えている。

【実施に当たっての工夫】

地域の各種団体の代表者らで構成される地区のまちづくり推進協議会の会長が教室運営委員会の会長となることで、地区のまちづくり関係者をはじめ、多くの地域住民から子供教室への関心と協力をいただき、地域の教育力の更なる向上と心豊かな作見っ子の育成に励んでいる。

■ 事業を実施して

学校や家庭以外の場で、異年齢の小学生がまちのせんせいを通じて学ぶことにより、挨拶や物事の良し悪し、年下へのいたわりなど、高学年と低学年の関わり、集団行動による協調性等々への一助になっている。

■ その他

同地区放課後児童クラブ(チャレンジ・さくみっ子)と連携し、児童クラブからも教室への参加者がある。クラブの子供は教室終了後クラブの先生がお迎えに来て、児童クラブへ行っている。



将棋・五目並べ



折り紙



長拳



茶道

地域の子供は地域で育てる「子供居場所づくり教室」

石川県白山市

活動名

山島ふるさと塾

関係する学校

白山市立松南小学校

活動区分	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
学校支援 地域本部				
放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	22人	24日	有
	実施場所 山島公民館		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
		16年度	無	
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
その他				

*H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

主として、読み書き計算の基礎学力の向上をめざすとともに「ふるさと」の歴史や伝統文化をはじめ生活習慣や礼儀作法にいたるまで幅広く指導すると同時に、地域性を活かした体験学習も取り入れ自然環境の大切さ等を学校、家庭、地域と連携協力しながら行う。

【活動日】毎月第1・第3土曜日 9時～12時

【内容】本の読み聞かせ、計算・漢字プリント、伝承遊び、農業体験 など

【対象者】白山市立松南小学校1・2年生(山島地区のみ)

【参加人数】30人(1年生11人、2年生19人)※各学年定員20名、希望者

【指導者】元校長、教員、看護師、地域のボランティアなど

特徴

【特徴的な活動内容】

当初より、基礎学力の向上・礼儀作法・生活習慣を身につけることの大切さを主として、学校・家庭・地域が連携して事業を行っている。

読み書き計算の向上を目指すとともに、地域性を活かした農業体験、ふるさとの歴史や伝承遊びにも取り組んでいる。異世代交流として、地域の敬老会、高齢者とのふれあい会食会などにおいて、歌や劇を行って交流を深めている。

また、近年においては、親子での活動として、親子野菜づくり、親子クッキング教室を通して食育の大切さ、親子林間体験を通して自然環境等についても学んでいる。

【実施に当たっての工夫】

基礎学力、礼儀作法、社会性を身につけさせる上で、低学年が効果的と考えており、対象をあえて1年生、2年生のみとしている。

地域の特徴を生かした体験学習やふるさとの歴史や伝承遊びを取り入れるために、地域住民の方に指導者として協力を頂いている。

子供たちの安全確保のため、教室からの帰宅は保護者同伴を基本として行い、林間体験等の送迎については保護者が難しい場合は、一緒に参加する保護者等で送迎をお願いしている。

事業を実施して

地域が推し進めている自然環境、命の大切さや、地域への帰属意識が高まっている。学校だけでは体験のできない様々な活動や学習を通して「ふるさと」の歴史や地域について意識することができるように今後も充実させたい。



本の読み聞かせ



梨狩り

子供の豊かな感性を育む活動 ～穴水子ども教室～

石川県穴水町

■ 活動名

穴水子ども教室

■ 関係する学校

穴水町立穴水小学校・穴水町立向洋小学校

活動区分	学校支援 地域本部		開始年度	補助の有無
	コーディネーター数	ボランティア登録数		
放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	22人	57日	有
	実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
穴水町さわやか交流館ブルート(児童館併設)		19年度	有	
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
その他				

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

平成19年度から穴水小学校の児童を対象に、地域の先生による「豊かな感性を育てる学びの場」として、小学生ダンス教室、おはなし子ども教室、てづくり子ども教室、絵画・造形教室、環境教室等を実施している。各教室では地域の先生や異学年の児童とのかかわりがあり、温かい雰囲気の中で学ぶ姿がみられる。

【活動日・時間】

毎週土曜日(10:30~11:30、13:30~15:30) 随時水曜日(15:30~17:30) ※夏休みは土曜日の他に平日も開催

【指導者等(スタッフ・運営体制)】

地域のボランティア・学習アドバイザー・コーディネーター

【参加方法・費用】

参加は自由、参加費無料

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

各教室ともに1時間という限られた時間ではあるが、絵画、造形、ダンスの先生の指導を受け、五感を通して豊かな感性を育む内容になっている。おはなし子ども教室では先生方の演じる素話や絵本、紙芝居を楽しむことで言葉を通じた感性が育っている。

【実施に当たっての工夫】

小学生ダンス教室、おはなし子ども教室、てづくり子ども教室は年間通して実施し、教室の内容に変化を持たせることにより、児童の興味・関心を高め、参加しやすいように配慮している。

小学生ダンス教室、絵画・造形教室は、町文化祭や児童館クリスマス会で発表・展示の場をもつなどして、意欲を高める工夫をしている。

町の健康クラブのお年寄りに昔遊びに参加してもらうなど、地域の方も運営に協力していただくことで、地域の教育力を高めている。

■ 事業を実施して

地域の方等の協力により、児童館で子供達に様々な体験や学習をさせることができ、参加児童・保護者から感謝の声が届いているほか、地域の教育力の向上にも役立っている。

■ その他

放課後児童クラブに対し、児童館だより、電話等で活動を周知するなど連携している。放課後児童クラブの児童が参加を希望する場合には、指導員が付添って参加している。

また、施設から離れた地区の放課後児童クラブからの参加児童に対しては、児童館職員がバスによる送迎を実施し参加しやすいよう配慮している。

小学校の教室に、放課後子供教室の開催案内を掲示。



【小学生ダンス教室】



【おはなし子ども教室】



【てづくり子ども教室】

世代間交流と地区民の指導により、太鼓・昔ながらの遊び・縄ないを体験

福井県大野市

■ 活動名

乾側放課後子ども教室

■ 関係する学校

大野市乾側小学校

活動区分	学校支援 地域本部		開始年度	補助の有無
	コーディネーター数	ボランティア登録数		
放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	27人	197日	有
	実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
	体育館、空き教室等		19年度	無
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
その他				

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

放課後の子供たちの安全・安心な居場所づくりの提供、子供たちの社会性・自主性・創造性等を養うための体験学習など、地域の住民で構成されている安全管理委員会で、話し合いや意見交換を行いながら教室を運営している。

体験学習については、現在は、伝統や文化を中心に安全管理員および地区の団体や高齢者の方が指導者となり和太鼓や縄ないなど行っている。

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

毎週月曜日に体験学習活動として和太鼓教室を行い、その成果を地区の敬老会で発表している。また、世代間交流事業として、地区社会福祉協議会や地区のグループなどに協力を得て、平成23年度には、昔紐として必需品であった「わら縄づくり」を体験。平成24年度には高齢者のグループによる「公式ワナゲ体験教室」を行った。3世代同居家族の多い地域でもあるが、近所の高齢者の方々にも接する機会が多いため、高齢者への理解が子供たちの中に自然に身についている。

また、夏休みに入るとすぐに「カレーを作り食べましょう会」を開き、児童や保護者、小学校教員、安全管理員の皆さんが地域の取れた野菜を持ち寄り、交流・親睦を図った。子供たちは、家庭で食べるカレーとまた違った、大勢で食べるカレーの味を堪能した。「結(ゆい)の故郷(くに)越前おおの」を象徴する活動内容でもある。

【実施に当たっての工夫】

毎月、安全管理委員会を開催し、日ごろの問題点などの意見交換や体験学習などの企画運営について協議を行っている。時には、地区小学校教員にも参加してもらっている。

体験学習については、子供たちに、昔ながらの伝統や文化に触れてもらう機会を増やす取り組みとして、地区団体などの協力を得て実施している。

■ 事業を実施して

放課後子供教室関係者以外の地区住民や地区団体などの協力を得て、体験学習として伝統や文化に触れる機会を提供している。事業を通して、子供たちと地区の方々との触れ合いがもたらされ世代間交流も図られている。

また、地区の高齢者が講師・指導者、そして、一緒に参画してもらうこともあり、高齢者の生きがい創生にも繋がっていると考えられる。

■ その他

本年度は、これまでにない新しい世代間交流を目的として、NPO法人ふくい科学学園の協力を得て、映画：「花と昆虫」、実験：「微小ビーズを用いる運動の実験」の内容にて活動を行った。

■ 参考URL ■

<http://www.city.ono.fukui.jp/page/inuikawa-k/index.html>



和太鼓教室



世代間交流 科学実験を通して

様々な体験を通して豊かな人間性を育む

山梨県笛吹市

■ 活動名

「学びの広場ふえふき」

■ 関係する学校

富士見小学校・石和西小学校

活動区分	学校支援 地域本部		開始年度	補助の有無
	コーディネーター数	ボランティア登録数	20年度	無
放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	29人	192日	有
	実施場所 空き教室		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
その他				

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

地域の中で、放課後や週末等に子供たちの安全で安心な活動拠点（居場所）を設け、地域の方々の参画を得て、子供たちと共に勉強やスポーツ・文化活動・地域住民との交流活動などの取組をしている。教室の開設及び運営は、地域住民・ボランティア・指導者・施設関係者等で構成された子供教室（NPO）に委託している。

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

- 意図的、計画的に「学び、交流、遊び」などの場を設け、その活動のなかで
- ①多くの人々との交わりを通して人とのかかわりの術を学ばせる。
 - ②さまざまな「学び、体験、交流、遊び」を通して
 - ・学習活動を支援する。
 - ・豊かな人間性を育む
 - ・生活の智慧を学ぶ。

【実施に当たっての工夫】

- ①学び：毎日一定時間学習（宿題）に取り組む。
- ②体験：3年間を通して多様な体験教室を開催する。そのために、体験教室を3コース作成し3つの学童保育クラブがローテーションで3コースを順次開催する。幅広い体験の場を設けるために地域にまで活動を広げる。
- ③交流：多くの人と交流できる機会を設ける。誕生日会で交流。(月1回その月に生まれた子供の誕生日会)遊びを中心に異学年で交流。
- ④遊び：安全を第一に楽しく仲良く遊べるように指導する。外遊び(毎日一定時間指導員がついて校庭で遊ぶ)内遊び(ブロック、お絵かき、折り紙、ぬりえ、トランプ、オセロなどで自由に遊ぶ)。
- ⑤安全活動：防災マニュアルを作成する。それを元に、定期的に防災訓練をする。交通安全教室への参加。

■ 事業を実施して

- 子供の声：先生達が丁寧に教えてくれて嬉しい。普段できないようなこともできて楽しい。わからないことをわかりやすく教えてくれる。友達というんなことができて嬉しい。
- 保護者の声：家に帰っても今までよりもよく話をするようになった。子ども達が帰ってから時間にも余裕がありやりたいことができる。他の学年との交流ができていい。終了後一緒に下校してもらえて安心。
- 学校の先生の声：学校だけではなかなかできない様々な体験が企画でき幅広い体験活動ができるようになった。基本を教えられる機会がありがたい。学習意欲が高まった。

■ その他

成果として、行政や学校との連携の中で放課後子供教室と放課後児童クラブとの一体的運営がスムーズにできている。学校の教育活動の支援を積極的に行なう中で一定の成果をあげることができる。子どもや保護者から評価を受ける中で継続の要望が強い。地域の中に協力者(送りしてくれるボランティア)ができたことが大きな力となっている。



篠笛練習の成果を発表



老人クラブとの交流(あやとりを教えて頂く)

地域の教育力活用で、元気な学校づくりのお手伝い

山梨県甲州市

活動名

甲州市学校支援地域ボランティア事業

関係する学校

市内全小中学校(18校)

活動区分	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
学校支援 地域本部	1人	200人	20年度	無
基本データ 放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
コミュニティ スクール				
その他				

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

- ・市教育委員会事務局内に配置したコーディネーター(非常勤職員)が、各学校の要望に沿った支援ボランティアを派遣している。
- ・支援ボランティアは、児童見守り、本の読み聞かせ、授業における学習支援、中学校部活動支援等に意欲的に活動している。
- ・事業の円滑化を図るため、教員OB等で組織化した実行委員会が事業計画を立案し、中学校区ごとの地域教育協議会で、この計画の提案・周知・討議を行っている。
- ・地域教育協議会には公民館長等地域の世話役に所属していただき、必要な支援ボランティア発掘の役目も担っていただいている。
- ・年度末に実施報告会を開催し、事業の評価を行っている。

特徴

【特徴的な活動内容】

- ・「甘草屋敷絵本くらぶ」に依頼し、市内10小学校にくらぶ員を派遣し、読み聞かせ活動を行っている。研鑽を積んだ朗読にどの児童も引き込まれている。
- ・ころ柿づくり等、各学校での特色ある活動には、市内全域から適任のボランティアを探し派遣している。
- ・学校への理不尽な苦情等にすばやく的確に対応するために、地域教育協議会内にクレーム対策委員会を設置している。

【実施に当たっての工夫】

- ・学校が気軽にボランティアを活用できるように、派遣に関わる事務手続きの簡素化を図っている。
- ・新規のボランティア派遣では、活用場面や事前準備品等の把握のため、学校内担当者との打ち合わせを密にしている。
- ・ボランティアへの感謝の集いを、学校ごと簡単に催し、支援意欲喚起に努めている。

事業を実施して

- ・どの活動も目に見えた成果が顕著で、教師もボランティアの能力・技術・熱意に学ぶ点が多かった。
- ・地域と学校との結びつきがより深まり、文字通り学校応援団員が増えてきた。

その他

- ・当事業は、平成20年度に国庫補助金をいただいて始めた事業であり、平成22年度で補助金は終了した。甲州市では事業の効果を認め、さらに発展させるべく継続している。



学習支援(家庭科)



ころ柿作り

子供をまんやかにすえた学校と地域との和(絆)

山梨県身延町

活動名

みんなで大河内の子どもを育てる協議会

関係する学校

身延町立大河内小学校

活動区分	基本データ			
	学校支援 地域本部	コーディネーター数 1人	ボランティア登録数 46人	開始年度 22年度
放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
その他	※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)			

活動の概要

平成22年8月6日(40名参加)「みんなで大河内の子どもを育てる協議会」が発足した。活動として、大河内地区の①子育てに対する意識調査と②各地区の実践(大河内地区8地区)八木沢・帯金・塩之沢・丸滝・角打・和田・上大島・下大島を開始した。平成23年2月1日に「会報」第一号を発行した。平成23年2月19日峡南地区学校支援ボランティア研修会(46名参加)を開催し、講師に興梶 寛先生をお招きし講演していただいた。平成23年6月8日、平成23年度「みんなで大河内の子どもを育てる協議会」(45名参加)総会・委員の任命・事業説明・研修会を実施した。続いて、平成23年6月25日「みんなで大河内の子どもを育てる協議会」全体会を開催し、委員委嘱並びに委員長・副委員長の選任、事業報告等を確認した。その時研修として、高知県土佐市の学校応援団事業の実践の様子(DVD)の映像をとおして学習し、角打・下大島地区の実践を発表した。平成24年7月6日には、平成24年度の総会・委員の任命・委嘱式・事業説明をした。また、各地区「育てる会」の24年度の予定発表と小学校から「双方向の連携協力をどう進めるか」提案があった。平成25年2月22日、平成24年度まとめの会を開催し、「塩之沢地区・丸滝地区の子どもを育てる会」の実践発表と大河内小学校から「協議会立ち上げ後の地域・保護者の意識の変容」についての発表があった。内容については、学校応援団の特別部会における学校への支援活動について応援の依頼であった。

特徴

【特徴的な活動内容】

- 大河内地区町民の子育てに対する意識調査の実施。(大河内地区608世帯に実施 回収率65%)
- 各地区育てる会の実践(顔と名前を覚える声かけ・一斉美化運動・花壇の花植え草取り・親子歩け歩け運動・地区運動会・グランドゴルフ大会・祭り・キャンプ・ラジオ体操・盆踊り大会)
- 総会・委員の任命・事業説明・研修会

【実施に当たっての工夫】

大河地区では子供たちを真ん中にして、地域の子供は地域で育てる取り組みを開始した。また、その延長線上には、大河内小学校の教育活動を支援していくこととした。そのことを達成するために、大河内地区に協議会を設立し、実践の場として各地区で「地区の子どもを育てる会」を立ち上げた。当面各地区で実践したことは、「自分の地区の子供の顔と名前を覚える」「おはよう、行ってらっしゃい、お帰りなさいと声をかけながら、その他の声かけをし、コミュニケーションを図る」「地区での活動をする」この3点を心がけた。

事業を実施して

- ・大河内地区は600世帯あまりであるが、大河内小学校への教育活動への関心は高い地域である。町を代表するような指導者もあり、教育的にはとても恵まれた地域である。
- ・地域の人たちが、地域の子供たちや学校を支援するかたちが明確になり、出番を待っている。
- ・各地区での活動も活発であり、地域で地域の子供を育てる気運が高まりつつある。
- ・子供たちのあいさつについては、大河内地区ではとてもすばらしいと評価されている。
- ・毎年実施している「合同運動会」には、多くの地域住民が参加し、地区・学校ともに盛り上がりを見せている。

その他

- ・事業としての取り組みそのものは平成24年度で一区切りついているが、この表彰を契機として今後さらに息の長い実践的な学校への支援活動を地域にお願いし、また双方向の連携をとりながらともに活動をすすめていく。



下大島地区の「稲の虫送り」(7月)



大河内地区グランドゴルフ大会(7月下旬)

地域の力で学校を元気に 生徒の力で地域を元気に

長野県上田市

活動名

上田市立塩田中学校

関係する学校

塩田中学校

活動区分	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無	
学校支援 地域本部	1人	108人	20年度	無	
基本データ 放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無	
	実施場所			開始年度	放課後児童 クラブとの連携
	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	
コミュニティ スクール					
その他					

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

- ・塩田中学校の学校支援地域本部事業であるが、12名の塩田地域学校支援本部運営協議会（しおだっ子応援団）が中心となり、地域コーディネーター役を塩田公民館の社会教育指導員が行っている。
- ・支援ボランティア組織は学習支援、環境整備、行事、スポーツ文化から構成されている。

「学習支援」は教員OB等、地域の大人が教室に入り、個別指導を中心に生徒の学習を支援してもらっている。
 「環境整備」は校内の花壇やプランターの花づくり、緑化委員会に参加しての作業支援、FBC用花壇の苗づくりの指導等を行っている。
 「行事」は地域巡り、学校行事、クラブ、研修会等の講師を務めていただいたり、キャリア教育で行う職場体験の事業所の紹介を行ったりしている。
 「スポーツ・文化」は現在計画段階であるが、部活動顧問の負担軽減や引退した3年生・部活動に所属しない生徒の体力向上を主な目的として、地域の方に支援していただくように立案を進めている。
 これらの支援活動は、地域の大人が日常的に学校に入り、生徒が教師以外の大人とふれ合い地域との絆が生まれる機会を目的としている。

特徴

【特徴的な活動内容】

- ・学習支援については、8：30～12：35まで毎日ボランティアの方々为学校を訪れ、授業の補助や特別支援教室での援助、また保健室登校の生徒への学習支援等を行っている。来校する支援ボランティアと依頼する活動内容が日々違うので、毎朝教頭がコーディネートし、ボランティアの方々の割り振りを行っている。ボランティアの方々は活動終了後、報告書に記載し、次の指導に役立っている。
- ・環境整備はロータリーや花壇、プランターの植栽、卒業生に送る一人一鉢等、緑化委員会の4年生としてボランティアの方々が、通常の委員会活動に参加しながら活動をしている。

【実施に当たっての工夫】

- ・学習支援については生徒に関する守秘義務もあるので、教員OBを中心としたボランティアとしている。
- ・環境整備のボランティアの方々に緑化委員会の4年生になってもらい、委員会の時間に一緒に活動をする等、生徒とのつながりを深めるようにしている。また、毎年2月に「春風すみれ倶楽部」を企画し、物づくり体験をしながら生徒とボランティアの交流活動を行っている。(過去に植木鉢デコレーション、ペーパーナイフづくり、スタンドグラスづくりを実施)

事業を実施して

- ・日常的に学校内外で地域の方と接することで、生徒が明るくなり、挨拶などよくできるようになった。
- ・環境ボランティアの支援により、校内の緑化が進み、美しい花に囲まれた生活の中で、生徒の心が穏やかになってきている。
- ・学習支援ボランティアが活動することにより、授業中わからないこと気軽に質問でき、丁寧に教えてくれるので、生徒の学習意欲が向上した。
- ・行事の際のボランティア支援により、体験学習や現地に出かけての学習等活動の幅が広がるとともに、キャリア教育につながる取組が多くなった。



授業における学習支援



学級花壇用ポット作業

子供も大人もみんな“いきいきわくわく” — 学校と地域の共育ち —

長野県山形村

■ 活動名

山形村学校支援地域本部

■ 関係する学校

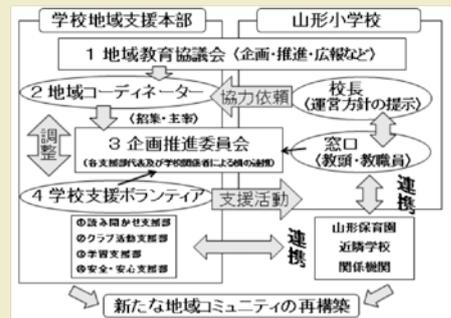
山形小学校

活動区分	基本データ			
	学校支援 地域本部	コーディネーター数 1人	ボランティア登録数 123人	開始年度 24年度
放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
その他				

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

○地域の人たちが学校からの求めに応じて、自身の職業生活や公民館講座などで培ってきた「匠（職人）・芸術・趣味などの技や知識」、あるいは「奉仕の心」を、山形小学校の子供たち（山形っ子）に教え、一緒に遊び、学び、触れ合うことで、「山小教育」のさらなる活性化と、地域の教育力の向上や住民同士の絆を深めながら、新たな地域コミュニティの再構築をねらいとして活動している。



■ 特徴

【特徴的な活動内容】

- ①読み聞かせ支援部…公民館講座で学んだ方々を中心に、村図書館司書が組織的に調整をし、子供たちへの読み聞かせを継続的に行っている。
- ②クラブ活動支援部…「わくわくクラブ(特別活動のクラブ活動)」、約20の全てのクラブを、複数の地域住民が講師となって行っている。
- ③学習支援部…教科等への支援に加え、夏休み中に「寺小屋山形」として向学の気風づくりを目指して活動。100人を超す児童が参加し、10数人のボランティアと教職員がともに指導に当たっている。
- ④安全・安心支援部…登下校の見守りに加え、放課後の子供たちの群れ遊びや学習の時間を確保しようと設けられた「放課後山形っ子タイム」への支援を行っている。

【実施に当たっての工夫】

- コーディネーターが常に「学校(子供)も地域(大人)も共に育つ」の理念を大切に、地域と学校を結びつける運営を心がけている。学校の要望を直接吸い上げられるよう、各支援部には学校職員も加わり、企画推進委員会を中心に、縦横の調整を図りながら実施している。

■ 事業を実施して

- 山形小学校の教育活動においても、地域の生涯学習の推進にとっても、相乗効果が徐々に生まれはじめている。子供たちの笑顔がますます増え、大人も元気をもらい、住民同士の仲間づくりにもつながっている。「生涯学習は人づくり、人づくりは村づくり」を強く感じる。
- 学校も支援ボランティアも、お互いに構えず自然体で活動が行われるようになった。保護者も、好意的に受け止めている方が多い。この取組をさらに充実させ、「地域の絆」を一層深めていきたい。



「朝読書の時間」
—読み聞かせボランティアの活躍—



「山小わくわくクラブ」
—歴史散歩—



夏休み「寺小屋山形」風景
—教え合い 学び合い—



「放課後山形っ子タイム」
—見守り—



「放課後山形っ子タイム」
—わ〜い!木登り冒険だ〜い—

■ 参考URL ■

<http://www.schoolweb.ne.jp/weblog/index.php?id=2010002>

地域の人材、資源を活かし、様々な活動を通し、 学び、触れ合い自主性、創造性を育む

長野県飯田市

■ 活動名

竜丘放課後子ども教室 丘の子YOU遊

■ 関係する学校

竜丘小学校

活動区分		コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
基本データ	学校支援 地域本部				
	放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		1人	30人	52日	有
		実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
第一理科室		19年度	有		
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	
その他					

*H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

【目的】 地域の人材、資源を活かしたさまざまなスポーツ活動、文化活動、体験活動を取り入れながら、児童が楽しく遊び、学び、触れ合うことを通して、自主性や社会性、創造性を育む。

【方針】 ・安心、安全な居場所にする。 ・子供たちが自主的に遊べるような環境づくりに努める。 ・家庭、学校、地域の団体などできるだけ多くの大人に、協力、参加を働きかける。 ・教室を通じて、参加する大人たちが一体となり、地域づくりにつなげていく。

【活動の実際】 毎週水曜日と第2・4月曜日に実施。水曜日はスポーツと体験活動の2つのメニューを計画し、理科室・体育館・公民館を利用して実施。月曜日は、子供たちが自分たちで、時間の過ごし方を考えて活動。

※ 1日の活動の流れの様子

- ・ 15:00 スタッフ集合 ・ 15:15 子供集合。始めの全体会
- ・ 15:30~16:55 子供の希望するメニューに分かれ活動を行う ・ 16:55~17:00 終わりの全体会
- ・ 17:00 解散(原則、保護者が迎え)

メニューの内容(例) 木工、竹細工、工作、勾玉作り、俳句、絵手紙、料理、和太鼓、おしなご、折り紙、英語、自然観察、サッカー、野球、囲碁ボール、ニュースポーツ、運動会他

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

- 1 毎回スポーツのメニューと体験活動のメニューを用意している。
年度の初めには高学年にはリーダー研修を行い教室のリーダーとしての自覚を持たせている。
- 2 リーダーがメニューに基づいて運営している。
子供が自らメニューを計画し、実施する機会がある。

【実施に当たっての工夫】

月曜日は毎回、何をするか自分たちで考え、ドッジボールやおにごっこ、かるた等、子供たち自身で決めている。

また、水曜日にも子供がビーズ飾り作りや、なわとびのメニューの計画書を作成し、計画した子供自身が中心となり実施する。通常のメニューに加え、子供たちが計画、実施する機会をなるべく多く持つようになっている。



開校式

■ 事業を実施して

子供たちが自らメニューを企画運営することで、子供たちの自主性や創造性を育むことに貢献している。

また、高学年がリーダーとなり、教室を運営することで社会性を育むことに貢献している。

■ その他

課題は安全管理員の確保と保護者の参加。時間に都合のつく保護者には参加をお願いしている。



木で立体造形物を作るう

長良っ子まなざしプログラムで郷土を愛し人間性豊かに生きぬくたくましい子を育てる

岐阜県岐阜市

■ 活動名

長良小学校運営協議会

■ 関係する学校

岐阜市立長良小学校

活動区分	基本データ			
	学校支援 地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度
放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
コミュニティ・ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	平成21年4月1日	17人	421人	15学級
その他	※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)			

活動の概要

- ・学校運営協議会委員は17名で自治会連合会長、大学名誉教授、学校医、地元企業社長、老人クラブ会長、地元児童養護施設長、PTA役員等から構成されている。
- ・学校支援推進委員会は30名で、組織として地域教育啓発部会、家庭教育啓発部会、学校教育啓発部会の3部会をもつ。
- ・学校運営協議会は、5月、8月、12月、3月の年間4回、開催され、「長良っ子まなざしコミュニティ公表会」の開催が計画されている。
- ・学校運営協議会では、学校の教育課題や方針を学校長から提案し、学校運営協議会で協議し、課題の解決に向けた討議、提案をいただき、実際の児童の実態を公開し、学校への支援の在り方に具体的な提案をもらっている。
- ・学校支援推進委員会が中心となって、郷土を愛し人間性豊かに生きぬくたくましい子の育成をめざし、「長良っ子まなざしプログラム」や「長良っ子まなざしコミュニティ関連校区行事一覧」を作成し、保護者及び地域に配布し、家庭、地域、学校が一体となって取り組み、子育てに対する関心と協力を高めている。
- ・学校支援推進委員会では、家庭や地域で見られる児童のよさを学校に伝える「長良っ子まなざしコミュニティよいことみつけ」の取組を行い、地域の教育力を活用し、児童の自信と自己有用感を高めている。

■ 特徴

[特徴的な活動内容]

- ・家庭教育啓発部会では、家庭での読み聞かせ活動「おうちdeこどもわかば」の推進や性教育、情報モラル教育の講演会を企画し、主体的に家庭と学校、家庭と地域の連携を図っている。また、「お弁当の日」の取組を年に2回(5月と11月)行い、親子のふれあいの機会と家庭の教育力向上を図っている。
- ・地域教育啓発部会では、登校時のあいさつ運動や下校時の見守り活動を行っている。
- ・家庭教育啓発部会によるPTA親児の会と地域教育啓発部会が連携し、親子と地域住民が参加する「長良さわやかウォーキング」を企画・実施し、各組織が一体となって取り組んでいる。これは、双方の行事のスリム化にも資することになった。
- ・学校教育啓発部会では、学校への支援として、地域の各種団体の方が、仕事や昔と今の遊び・行事・給食などをテーマとして、6年生が司会進行をして、全校児童と語り合う「ミニまなざしトーク」等の教育活動の充実に積極的に貢献している。



「ミニまなざしトーク」でのアイスブレイキングの様子

[実施に当たっての工夫]

- ・家庭教育啓発部会の「おうちdeこどもわかば」や「お弁当の日」の取組においては、児童の発達の段階や家庭(児童養護施設含む)の実情を踏まえて、活動のめあてをスモールステップで設定して、親子のコミュニケーションを図るという目的が無理なく取り組めるよう配慮している。
- ・地域教育啓発部会と家庭教育啓発部会が協議し、例年、同時期に、地域団体とPTAとで、別々に実施していた似通った行事(地域ウォーキングと親子登山)について、活動の趣旨は共通であることを確認した上で、役割分担を明確にして共催することができた。相互の部会にとってメリットのある円満な改善策になるとともに、行事に参加する児童・保護者の負担も少なくなるという効果をねらった。

■ 事業を実施して

- ・家庭教育啓発部会の「おうちdeこどもわかば」や「お弁当の日」の取組において、各家庭の実情を踏まえて、スモールステップで設定するなど、きめの細かな配慮をしたことで、親子のコミュニケーションを図るという目的が大切であることが理解され、多くの家庭で活動本来の目的を踏まえた活動となったことがアンケート記述から明らかになった。
- ・学校運営協議会の年間の会合を通して、地域教育啓発部会に所属する諸団体と家庭教育啓発部会(PTA)との連携が密になり、相互の団体も持つ有用なビジョンや抱える課題について建設的な連携が以前にも増してとれるようになってきている。



「仕事」をテーマとした「ミニまなざしトーク」の様子

地域住民が主体となって学校を支え、子供を地域で守り育てる 「エリア」型地域づくり

岐阜県大垣市

■ 活動名

東中学校学校支援ボランティア活動

■ 関係する学校

大垣市立 東中学校

活動区分	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
学校支援 地域本部				
放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
その他	○			

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

平成21年度～23年度学校支援地域本部事業の指定を受け、活動を開始する。24年度からは、「エリア」型地域づくり事業の一環として学校支援ボランティア活動を市内全小中学校区で実施している。東中学校の取組は、他地区のモデルとなっている活動である。コーディネーターが中心となり、学校と綿密な連携の下、地域人材を活用した学校支援活動である。

活動の主な内容は以下のとおりである。

- ・植栽活動・・・樹木の剪定
- ・美化活動・・・校庭の除草、落ち葉清掃、塗装等
- ・学習支援活動・・・夏休みの補充学習の補助、実習教科の実験材料の作成管理
- ・教員支援・・・職場体験学習の受け入れ先の依頼・調整
- ・フリーギャラリー・・・地域住民の作品の校内展示

*コーディネーター：1名 *ボランティア登録：69名

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

通常の支援活動だけではなく、地域の方の芸術作品を学校の空きスペースを利用し、「フリーギャラリー」として展示している。生徒に芸術作品に接する場を提供し、多様な芸術作品にふれることを通して生徒の芸術に対する興味・関心を高めるとともに、芸術作品を通じた情操教育の深化にも繋がっている。また、身近な地域の方々と生徒の交流も深める場となり、地域住民の作品の発表機会の場ともなり生きがいにもつながっている。作品は、定期的に更新し、より多くの地域住民の作品を展示している。

また、職場体験学習の受け入れ企業、施設の発掘や事前交渉などをコーディネーターが中心となり行い、121事業所、270人の体験職場の確保に努めている。

【実施に当たっての工夫】

ボランティアの募集には、地域の枠を超えて、市外の人や教員養成系の大学生等に広げて多様な人材をもとめ、活動の広がりを狙っている。

活動の状況やボランティア募集などを学校のHPに専用のコンテンツを設けて、随時アップして、広報に努めている。



夏休み「サマー朝学」

■ 事業を実施して

モデル指定の取組時からのコーディネーターが意欲的に取組を進めており、学校側の要望を反映しつつ、教員の負担軽減に大いに役立っている。特に職場体験学習の体験先の発掘と調整にあたっては、地元企業の発掘や学習内容のPRに大いに貢献し、教員の負担軽減と同時に学校と地域をつなぐ取組として双方から高く評価されている。

また、ギャラリーの取組では、地域住民と生徒の交流や相互理解に成果を上げつつある。

■ その他

活動を開始して3年目には、隣接の東小学校からも樹木剪定や植栽除草などの要望が出されたため、コーディネーターが中心となって、活動を小学校まで広げて実施した。その後、東小学校にも支援コーディネーターを位置づけ、現在は、小・中学校が連携して学校支援ボランティア活動を展開している。現在は、幼稚園、保育園まで活動が広がっている。



フリーギャラリー

■ 参考URL

<http://www.ogaki-city.ed.jp/touchu/volunteer/index.html>

地域の力を活用して、子供たちに豊かな「遊び」「学び」「体験」「交流」の提供

愛知県名古屋市

■ 活動名

名古屋市立鳴海小学校トワイライトスクール

■ 関係する学校

名古屋市立鳴海小学校

基本データ	活動区分	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	学校支援 地域本部				
放課後 子供教室	コーディネーター数	1人	子供の平均参加人数 45人	年間開催日数 287日	補助の有無 有
	実施場所			開始年度	放課後児童 クラブとの連携
	プレイルーム、校庭、体育館			12年度	無
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	
その他					

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

平成12年の開設から、子供の健やかな成長を願う地域の強い思いに支えられ、地域の特徴を生かした活動を続けている。多くのボランティアの尽力により、踊り、茶華道、将棋、和太鼓など、特に日本の文化・伝統のよさを伝える体験講座が多く開かれている。

こうした取り組みを生かし、トワイライトスクールとして、鳴海狸々(しょうじょう)踊りに取り組み、毎年8月の「鳴海よいとこ踊り」への参加をはじめ、機会あるごとに地域の様々な人とのつながりを大切にしてきた。また、日々の生活では、地域の期待に応えられるような人づくりの一端を担うべく、仲間と気持ちよく生活できる生活態度や人間関係づくりに重点を置いて指導している。

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

地域に密着した踊りが盛んである。地域の団体のボランティアの指導により、トワイライトの児童全員で「鳴海狸々踊り」の講座を続けている。その成果を生かし、8月の「鳴海よいとこ踊り」に毎年参加している。また、盆踊りは女性会の熱心な指導により、トワイライトスクールが伝統を引き継いでいる。その他、生け花、お茶、和太鼓、将棋など、日本の伝統的な文化を学ぶ講座が多いため、子供たちの選択の幅が広だけでなく、選択しない児童にとっても、生活環境の一部として感じられ、よい影響を与えている。さらに、「言葉遊び」の講座では、多様なテーマを扱い、日本語のおもしろさと豊かさを味わう活動を行っている。

【実施に当たっての工夫】

地域の多くの人々が苦労して、開設し、運営を支えてきたので、その人々とのつながりや、地域の暮らし・文化を大切にしたい事業展開を行っている。その結果、子供たちは、狸々踊りを地域で発表したり、普段から多くのボランティアの指導を受けたりする機会が多い。こうした地域の特徴を生かした活動は、出来映えだけを求めるのではなく、子供自身が判断して場に合った言葉遣いや振る舞いをすることを学ぶ場であるとともに、日々のトワイライトスクール内での生活の仕方が反映されるものと考え、指導を行っている。

■ 事業を実施して

「地域の子供は地域で育てる」という意識のもと、学校という安心・安全が確保されている場所で、学年の異なる子供たちが一緒になって思い切り遊び、学ぶことができる場を提供し、日常的な異学年交流や学習習慣の定着化を図っている。

地域協力員や体験活動講師として地域の方々の協力を得て、日々「遊び」「学び」「体験」「交流」の豊かな活動が実施されており、本事業を通して、子供たちと地域の大人との交流が深まっている。



地域の伝統的な踊りを披露



地域の方から学ぶ日本の伝統文化「お茶」

地域の力を活用して、子供たちに豊かな「遊び」「学び」「体験」「交流」の提供

愛知県名古屋市

■ 活動名

名古屋市立正色小学校トワイライトスクール

■ 関係する学校

名古屋市立正色小学校

基本データ	活動区分	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	学校支援 地域本部				
放課後 子供教室	コーディネーター数	1人	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所	プレイルーム、校庭、体育館		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	19年度			無	
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	
その他					

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

平成19年度に開校以来、「友達と一緒に、遊びは伸び伸びと、学びは落ち着いて目を輝かせて」を合言葉に、体験を重視した活動を普段から行っている。

具体的な優れた内容としては、中庭のトワイライト農園を利用したサツマイモの栽培と焼き芋大会、卵の殻を使った貼り絵工作、毎日の学びの活動を生かした百人一首大会、一人一人を大切に誕生会や新1年歓迎会など、年間を通して計画的に活動している。各活動には、保護者の参加も多く、地域と密着して実施している。

また、地域協力員は、引き継ぎノートや週1回の打ち合わせで、一人一人をよく知る努力を日常的に行い、温かい雰囲気で見守っている。

子供たちには、話を聞くときは、いつも「笑顔で体操すわり」を徹底するなど、約束をみんなで守る中で豊かな体験ができています。

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

- ① 中庭のトワイライト農園では、5月にサツマイモの苗を100とトウモロコシの種50を植え、こまめに雑草抜きや水やりを行っている。10月には、地域・保護者・学校の方も参加して、焼き芋大会を行っている。
- ② 夏休みには、のべ500人程の参加で、卵の殻を使った貼り絵工作を行い、プレイルームの入り口や廊下をその作品が飾っている。絵柄は、昔からの漁業の地域の特徴を表す魚の群れや校歌の歌詞など、地域や学校への愛着を育てる内容となっている。

【実施に当たっての工夫】

- ① 5月から「草取り」「水やり」を、子供たちの土曜日の活動の一環としてとらえ、定期的実施するようにした。また、平日も夕方決まった時刻に草取りや水やりを自主的に行った。サツマイモ掘りと焼き芋大会は、保護者の参加しやすい土曜日に設定し、事前に9月のトワイライトスクールたよりで参加を呼びかけた。
- ② 子供たちの各家庭や地域の方々に呼びかけ、約800個の卵の殻を集めた。活動時間の長い夏休みに、毎日1時間ずつ、決まった時刻を貼り絵の制作にあてた。構図は体験活動のボランティアで普段から子供にかかわっている方に依頼し、絵柄は子供の心に響く地域や学校に関連した密着した内容としている。

■ 事業を実施して

「地域の子供は地域で育てる」という意識のもと、学校という安心・安全が確保されている場所で、学年の異なる子供たちが一緒になって思い切り遊び、学ぶことができる場を提供し、日常的な異学年交流や学習習慣の定着化を図っている。

地域協力員や体験活動講師として地域の方々の協力を得て、日々「遊び」「学び」「体験」「交流」の豊かな活動が実施されており、本事業を通して、子供たちと地域の大人との交流が深まっている。



地域と連携した焼き芋大会



地域とともに卵の殻を使った貼り絵工作

みんな仲良く異学年交流！ マジック・工作・紙芝居 などボランティア企画で笑顔いっぱい元気いっぱい！

愛知県一宮市

■ 活動名

放課後子ども教室キッズ丹陽西

■ 関係する学校

一宮市立丹陽西小学校

活動区分	学校支援 地域本部		開始年度	補助の有無
	コーディネーター数	ボランティア登録数		
放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	39人	101日	有
	実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
	特別教室(低学年音楽室)		17年度	有
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
その他				

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

放課後子ども教室キッズ丹陽西は、丹陽西小学校区内に通う1年生から3年生の児童を対象に、放課後の子供の安全で安心な居場所として開催している。当該校は余裕教室がないため、特別教室を使用している。通常の開催日(授業のある日)は、授業終了後から最終下校まで1時間程度と短いですが、内容は、前半に自主学習(宿題など)を行い、後半は、指導員の指導の下、折り紙、トランプ、工作づくりなど、子供たちが喜ぶ遊びを取り入れながら充実した時間を過ごしている。また、夏休みには、地域のボランティアを招いて、工作やマジック、二胡の演奏体験など様々な企画を計画している。教員経験者3名が指導員として、定員60名の教室で子供の指導を行っている。

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

夏休み中の教室開催は5回であるが、毎回ボランティアを招いて、様々な企画で楽しんでいる。内1回は、児童クラブとの交流を計画している。通常と違う顔ぶれの子供たちと一緒に参加することも楽しみの一つになっている。

冬休み前に、子供と保護者を対象に行うアンケートの結果からも、夏休みのボランティア企画は好評で、教室の魅力の一つになっている。

【実施に当たっての工夫】

教室が開催される前に保護者会を開催し、子供の安全管理上必要なお願いや、教室の内容などを事前に保護者に説明している。

月に1回、コーディネーターを中心に指導員連絡会を開催し、情報を共有する場、指導上困ったことなどの話し合いの場となっている。

保護者と子供にアンケートを行い、可能な限り次年度以降の開催内容にいかしている。



二胡の演奏体験

■ 事業を実施して

子供たちは、教室に参加したての頃は、初めての顔ぶれに戸惑いのある子もいたが、参加を重ねる毎に成長をし、みんな仲良く元気に参加できるようになる。異学年と一緒に参加することもあり、学校とは一味違った環境の中での生活が、小さい子へのおもいやりの心に繋がったり、毎回様々な子供の成長を楽しく発見している。

■ その他

活動場所となる特別教室の他に、可能な場合は同じ校舎内の多目的ホールを借り、からだを動かす遊び(鬼ごっこなど)を楽しんでいる。子供たちは、からだを動かすことが大好きである。



マジック体験

地域の方々とのふれあいのある地域交流活動 異年齢との交流！ 自主性や積極性を学ぶ！

愛知県愛西市

■ 活動名

佐屋放課後子ども教室

■ 関係する学校

愛西市立佐屋小学校

活動区分	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
学校支援 地域本部				
放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	19人	39日	有
	実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
	校庭、体育館、文化会館など		14年度	有
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
その他				

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

平成14年度から「学校週5日制土曜日の体験教室」として始まり、平成19年度より土曜日に開催する放課後子供教室へ事業を移行した。

文化活動やスポーツなど多種多様な内容で、文化協会・体育協会・地域の方々との協力をいただき、前期・後期各20種類程度(例;ミニ箏・グラウンドゴルフ・絵画・書道・和太鼓・ボウリング・空手・剣道・日本舞踊・囲碁など)の教室を開催している。子供たちは、参加したい教室に申し込みすることができ、教室を自ら選択することにより、自主性や積極性を養い、また、地域の方々(異年齢の方)とふれあうことができ、地域交流の場となっている。

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

文化協会・体育協会・地域の方々から専門的な内容を熱心に伝え、教えている。子供も自分自身が参加したい教室へ申し込み、教室開催中は集中して参加している。

【実施に当たっての工夫】

毎週土曜日に開催するので、学校行事や市の行事など事前に把握し、できるだけ行事のある日は教室の開催を避け、子供たちが参加しやすい日程にしている。

■ 事業を実施して

さまざまな方々の協力により、異年齢とのふれあいの場が生まれた。子供たちも参加したい教室を選択するので、自主性や積極性を養うことができた。

■ その他

伝統事業となり、子供たちと教える大人のつながりを広げていくことで、将来的にはこの子供達が地域の指導者・ボランティアとなり、次の世代に繋げていってほしいと期待している。



和太鼓



日本舞踊

土曜日中心の一宮中学校区放課後子ども教室 活動は幅広く、文化的な活動からスポーツまで!

愛知県豊川市

■ 活動名

一宮中学校区放課後子ども教室

■ 関係する学校

一宮東部小・一宮西部小・一宮南部小・
一宮中

活動区分		コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
基本データ	学校支援 地域本部				
	放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		1人	60人	32日	有
	コミュニティ スクール	実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
談話室 他		14年度	無		
その他	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

- ・主に一宮中学校区内の小中学生を対象として、安全で、安心な居場所の提供を行う場として実施している。
- ・年間を通じて土曜日に活動を実施しており、生涯学習会館や学校運動場などを使って書道や日本舞踊などの文化的活動から硬式野球やサッカーなどのスポーツ活動まで幅広く展開している。
- ・各教室とも教育活動推進委員の他、教育活動サポーターを適切な人数配置し、安全体制の徹底や、指導体制の充実を図っている。
- ・教育活動推進委員、教育活動サポーターは地域のボランティアで構成し、地域との交流を図っている。

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

活動内容は文化的活動からスポーツまで幅広いが、単に技術や技能の向上だけでなく、あいさつやルールを守ることの大切さなども指導している。

【実施に当たっての工夫】

教室によっては親の参加も可能としているものがあり、親子で楽しめるよう工夫している。

放課後子供教室でつくった作品等は一宮生涯学習会館などに展示し、児童生徒のやる気の増進に努めている。



将棋

■ 事業を実施して

放課後子供教室を通じ、異年齢の多くの人と交流することで、社会性を育むことに貢献している。

また、参加児童の多くが楽しみながら活動に取り組んでいる。

■ その他

児童に対して長期的・段階的な活動の場を提供できるよう工夫している。



日本舞踊

■ 参考URL ■

<http://www.toyokawa-open-college.jp/manabi/index.php>

山村留学とホタルの里づくりを柱として、地域と共に歩む学校づくり

三重県いなべ市

活動名

立田小学校学校運営協議会

関係する学校

いなべ市立立田小学校

活動区分	学校支援 地域本部		開始年度	補助の有無
	コーディネーター数	ボランティア登録数		
基本データ	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
コミュニティ・スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	平成19年6月1日	15人	38人	5学級
その他	○ ※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)			

活動の概要

立田小学校は全校児童38名、その中で14名が山村留學生である。山村留学にかかわる活動と地域に生息するホタルを校庭の人工川で飼育しながら研究を進めている「ホタル研究」を学校の教育活動の大きな柱としている。これらの活動を中心として、子供にかかわる教育活動を6つにわけ、学校運営協議会の委員が中心となり支援を行っている。学校経営方針の協議・承認(年度始)・学校関係者評価(年度中)・総括の承認(年度末)・全体会で子供の姿の交流などを通して、「めざす子供像」を明らかにし、行事や取組で検証することができている。6つのコミュニティのうち、立田小の特徴的なコミュニティは次の2つである。

- ・ホタル研究コミュニティ・・・ホタルの飼育は高学年中心に行っているが、6月のホタルの会は全校児童の学習発表の場である。その後行われる「ホタルボランティア」(5・6年生が校庭の人工川に飛んでいるホタルを参観者に案内するもの)は夜の活動でもあり、地域の川を案内するときはホタル研究コミュニティの方を中心に地域の大人の方にお世話になっている。
- ・山村留学コミュニティ・・・山村留学行事である「川下り」「スキー」「龍王登山」などの計画を山村留学推進委員会と連携しながら、進めている。安全面への配慮からサポートする大人が多数必要であり、山村留学コミュニティの方を中心にサポートしていただいている。

特徴

【特徴的な活動内容】

地域の実情に応じた組織として、次のコミュニティを設置し、学校運営協議会の委員がそれぞれのコミュニティの担当者となっている。

- ①教育支援コミュニティ(ゲストティーチャーとして児童の学習の支援)
- ②ホタル研究コミュニティ(「ホタル」の飼育・観察・研究などの活動支援)
- ③山村留学コミュニティ(川下りや登山活動など山村留学の活動を支援)
- ④休日サポートコミュニティ(土曜学校の企画運営など休日の居場所作りの支援)
- ⑤地域安全コミュニティ(登下校時に不審者や交通事故から子供達を守る登下校サポーターとしての支援)
- ⑥環境整備コミュニティ(草刈り・剪定・校内清掃等の教育環境整備の支援)

【実施に当たっての工夫】

育友会(PTA)三役、管理職、教職員代表が学校運営協議会・山村留学推進委員会の委員をかねることによって、それぞれの立場の声を直接反映することができ、相互理解と信頼関係のもと連携を図っている。

また、年度始めに各コミュニティの年間計画を立てるため、学校の年間計画に沿って継続的な支援を行っていくことができる。

地域の方に協力していただく授業支援や休日サポート・登下校サポートなどすべての活動を学校運営協議会におけるコミュニティの活動として位置づけているため、地域への依頼もスムーズに行うことができる。

事業を実施して

「立田小育友会」・「山村留学推進委員会」・「立田小を守る会」等、小学校に関わる組織がいくつかあったが、学校運営協議会を設置することで、それぞれの担ってきた仕事を整理し、窓口を一本化した。

山村留学推進委員会の活動や地域の子育て支援の活動、ゲストティーチャーの招請や登下校パトロール・環境整備の取組も、学校運営協議会の中に吸収し整理して、有機的に位置づけた結果、子供と地域のつながりがこれまでより広く厚くなり、運営もスムーズにできるようになった。

その他

山村留学を始めて、昨年度で25年が経過した。ホタルの飼育・研究を始めて今年で20年目となった。

地域とともに歩む学校づくりを継続的に進める上において、「学校運営協議会」という組織は、子供に関わる地域の方・保護者・教職員等の大人たちが共通理解を図る上で非常に意義があると考えている。

参考URL

<http://www.inabe.ed.jp/tatsuta/>



山村留学体験活動の川下りとホタルボランティア



登下校サポーターの方々と学級農園のゲストティーチャー

みんなでつくるみんなの学校～保護者・地域住民が責任を持って学校運営に参画し、地域が一体になって取り組むコミュニティ・スクールをめざして～

三重県津市

■ 活動名

津市立朝陽中学校 学校運営協議会

■ 関係する学校

津市立朝陽中学校

活動区分	基本データ			
	学校支援 地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度
放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
コミュニティ・ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	平成19年5月1日	15人	561人	19学級
その他	※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)			

活動の概要

【組織について】

学校運営協議会は3つの部会に分かれ、各部会のコーディネーターが中心となり、それぞれの活動を計画・展開している。

- 学校支援部会…子供たちの学習活動の支援、学校環境整備等、学校の教育活動全般を支援する。
- 教育改革部会…学校運営協議会の経営・企画について協議し、学校教育の改善・改革につながる学校評価と各組織との協働による取組の支援を行う。
- 地域連携部会…さまざまな危機から子供たちを守り、安心安全な生活をサポートするとともに、活動の様子を地域に発信して地域との連携を図る。

【運営方法について】

学校運営協議会の開催(年4回)、学校運営協議会役員会の開催(年7回)、ボランティア・ゲストティーチャーの募集と活動、みまもり隊活動(年15回)、地域・保護者との語る会、教育委員会との懇談会

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

各部会の主な活動

- 学校支援部会…学習支援(学習支援サポーター)、体験活動支援(ゲストティーチャー)、職場体験学習支援、図書館支援、部活動支援
- 教育改革部会…小中連絡会、中学校入学ガイダンス、生徒指導連絡会、人権・同和教育の推進、授業への参観・指導、国際理解教育(多文化共生教育)、小中学校教員による交流、学校関係者評価、朝陽の教育を語る会、教育委員会との懇談
- 地域連携部会…交通安全指導・地域パトロール、広報活動(学校だより・回覧)、学校行事への地域住民の参加、地域行事への参加、生徒のボランティア活動への参加

【実施に当たっての工夫】

地域の方を講師に招いた体験活動等を各学年で実施し、専門的な技能や技術に触れる活動をしている。

社会福祉協議会や自治会など地域の各関係機関・団体と連携協力し、生徒が行事に参加したり、運営に携わったりしている。

生徒会が呼びかけを行い、地域の方とともに早朝ボランティア活動や清掃活動を実施している。

地域における職場体験学習や地域の方々を職業人を講師として招いたキャリア教育を実施している。

■ 事業を実施して

生徒は、学んだことを「生きて働く力」へとつなげることができ、生き生きと活動する場面が多く見られた。花いっぱい運動などの取組では、活動に対する地域からの感謝の声や、マスコミによる報道等により、取組に対する意欲を一層高めることができた。(こうした活動が評価され、『みどりの愛護』国土交通大臣賞を受賞することとなった。)また、進路選択や自己実現について考えさせる機会をもつことができた。



「朝陽の教育を語る会」で地域の方と協議



地域の方とともに取り組む早朝ボランティア清掃

■ 参考URL ■

<http://www.res-edu.ed.jp/chouyo/>

様々な体験ができる場 子供も大人もみんなが一緒に遊べる地域づくり

三重県桑名市

■ 活動名

ふじっこふれあい教室

■ 関係する学校

桑名市立藤が丘小学校

活動区分	学校支援 地域本部		開始年度	補助の有無
	コーディネーター数	ボランティア登録数		
基本データ	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	27人	137日	有
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	図書室、図工室、運動場、体育館、その他		19年度	無
コミュニティ・スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
その他				

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

・平成16年から学校、PTA、地域の方々やスポーツ少年団、NPO等の協力を得て、子供たちの安心安全な居場所、様々な体験のできる場、異学年や地域の方々との交流の場として開催されてきた。平成19年からは、放課後子供教室として活動している。子供が様々な体験を通して、元気で心豊かに成長し、

- 生きる力を育む一助になることを願っている。
- 運営しているふじっこふれあい教室実行委員会は、地域の方々、保護者、校長・教頭をはじめ教職員、青少年育成指導員等で構成されている。
- コーディネーターを中心として、地域住民やPTAが連携協力し、火曜日(火曜クラブ、対象1、2年生)、水曜日(水曜クラブ、対象2、3、4年生)、土・日曜日及び長期休業中、振替休日には、全校児童を対象に、毎回、多彩な活動を行っている。
- プログラム内容は、火曜クラブは、ドッジボール等のスポーツ、工作やゲーム、昔あそび等。水曜クラブはスナッグゴルフ。土・日曜日及び長期休業中、振替休日には、囲碁・将棋、茶道、料理、習字、和楽器、手芸、絵手紙等やスナッグゴルフ、空手、ダンス、ソフトバレー、バスケットボール等スポーツを中心とし、他に音楽、読み聞かせ、昔あそび等文化の伝承も大切に、環境問題等もと、多岐にわたり、学校教育だけでは実現不可能な体験の場を年間延べ137教室を開催している。

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

近年はニュースポーツである「スナッグゴルフ」に力を注ぎ、クラブを設立して定期的に練習を行っている。水曜クラブ以外でも、火、土、日にもスナッグゴルフを実施し、全校に広めている。11月には、スナッグゴルフペア大会を開催している。

また、H25年度は、ダンス教室も復活し、藤が丘小フェスティバルである「ふじっこまつり」にて、発表し、好評を得た。和楽器は市内の文化祭の際にも演奏させていただいた。茶道は小学校を卒業するころにはお点前もできるようになり、それぞれ参加した子供にとって、大きな自信となっている。

【実施に当たっての工夫】

家庭や学校の学習内容とは違う多様な活動を提供している。また、子供たちが体験活動を通して、自主性・創造性・社会性を育めることを目的としています。

力を入れている「スナッグゴルフ」について親子や子供どうしのペアでの参加による大会を校内で実施するなど、それぞれの活動の中で、子供と子供(異学年の子供たちも含む)、大人と子供のつながりを大切にしながら、コミュニケーションを深めるための取組みも行っている。また、親子で参加できる教室も開催し、大人も楽しみながら活動を行っている。

1カ月ごとに、開催教室、日時、持ち物等を記したたよりを作成し、配布している。

■ 事業を実施して

文化、スポーツ、伝統や環境を大切に活動など多彩な内容であり、児童や保護者からも高い評価を得るとともに校区全体で教室を支える仕組みができています。

また、活動以外のときにも、顔見知りになり、あいさつができるなど子供たちと地域のつながりができつつあり、子供たちの安全にもつながっている。

さらに、校区内に住んでいない祖父母の方々や大学生や中・高校生など卒業生(ふじっこふれあい教室を経験した)のお手伝い、新しい内容の提案などもあり、より地域に根付いてきている。



水曜クラブ
対象 2,3,4年生スナッグゴルフの練習



料理教室

子供も地域ボランティアも成長する「みなみっこ応援団」

滋賀県湖南市

■ 活動名

石部南小学校学校支援地域本部

■ 関係する学校

石部南小学校

活動区分	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
学校支援 地域本部	1人	115人	21年度	有
基本データ 放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
コミュニティ・ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
その他	※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)			

活動の概要

本校での地域による学校支援活動は、平成13年度の「みどりのバトンタッチ」の活動から始まる。「みどりのバトンタッチ」は、本校の裏山「ふれあいゆめの森」の自然を森林環境教育の場として、児童に森林整備や間伐、椎茸のコマ打ちや栽培など、総合的な学習の時間の体験活動を支援している。また、特別活動では、クラブ活動の指導を目的としたボランティア活動ではなく、気軽に児童とともに活動する「サークル活動」とし、地域の方の参加を得ている。「サークル活動」には、現在は40名あまりの方々の登録があり、年間14回程度(平成24年度)ではあるが、児童とともに楽しんで活動している。平成16年には、本校の児童が下校途中に交通事故に巻き込まれるという悲しい出来事が起きた。登下校の不審者への対応も含め、地域の方々により「子供見守り隊」が発足した。現在も「スクールガード」として児童の安全をサポートしている。

平成21年度に学校支援地域本部事業を受け、学校支援ボランティア「みなみっこ応援団」を組織し、5年目を迎えている。地域コーディネーターを核として、平成13年度より始まった地域による様々な学校支援活動を継続しながら、学校行事支援や環境整備、読書活動の支援、学習内容の支援など、イベント型の支援ではなく、児童とともに地域も学ぶ支援活動として充実してきた。

最近では、理科嫌いの子供をなくすための取組として、地域の天文観測サークルが一役買い、「金環日食の観測」や「太陽の観測」など、子供を集めて天体観測会を実施している。

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

【みどりのバトンタッチ】

森林環境ボランティア「みどりのバトンタッチ」の協力で全校児童が裏山(ふれあい夢の森)を活用して体験学習を行う。4年生は間伐活動と木工教室。3年生はシイタケの栽培。5年生は採れたシイタケを使って料理教室。1年生6年生は記念植樹。2年生は生活科で自然観察。その他、職員研修や裏山の草刈りなども一緒に行っている。

【福祉施設との連携】

福祉施設のお祭りに高学年児童がボランティアとして参画。老人ふれあいフェスティバルのオープニングに4年生の合唱団が出演。本校の音楽会に福祉施設からも出演。お互いにボランティアとして学びあっている。

【子供見守り隊】

平成16年、本校児童が交通事故に巻き込まれたのをきっかけに、「子供見守り隊」が発足。地域の方々子供たちの登下校や放課後の様子を見守ってくださるようになる。現在もスクールガードとして活動が続いている。

【実施に当たっての工夫】

- ・地域コーディネーターが様々な団体と綿密な打合せを行っている。当日の細かい段取りや活動の趣旨、ボランティアとしての心構えなど、学校の教職員では時間的にも無理があることを、丁寧に打合せするようにしている。
- ・年に1回すべてのボランティアと教職員を対象とした「ボランティア研修会」を開いている。そこでは、「子供をお客さんにはしない」という「みなみっこ応援団」の趣旨を確認したり、子供の実態や課題などを共通理解したりして、地域で子供を育てる意識を高めている。
- ・校内音楽会やイベントの招待状を子供が作成して、地域の方へ配布している。子供たちから地域へ発信することで、学校への関心がさらに高まってきた。
- ・ボランティアの方々の写真入り名札を作成して、職員室前廊下に掲示している。来校時にはそこから名札を外して身につけてもらっている。常時名札を掲示することによって、教職員も児童も多くのボランティアの方々に支えられていることを認識できる。

■ 事業を実施して

- ・子供たちが自主的に地域の行事やイベントに参加するようになった。
- ・ボランティアとして参加してくださった地域の方が、子供の実態や課題に気づき、ボランティア活動についての学びを深めている。
- ・どちらかといえば閉鎖的だった教師の意識改革が進んでいる。
- ・地域の方々と連携が日常的になり、地域で子供たちを育てる意識が高まっている。
- ・ボランティア活動の部屋「コミュニティールームみなみかぜ」を設置して、活動の拠点としている。これらの活動を基盤に、平成27年度からのコミュニティ・スクール導入を目指している。

■ その他

現在、学校支援地域本部を基盤とした、コミュニティ・スクールを導入するため、「コミュニティ・スクール導入に関する実践研究」の指定を受け、学校運営協議会の設立に向け取り組んでいる。

■ 参考URL ■

<http://www.edu-konan.jp/ishibeminami-el/>



天体観測サークルの方による
金環日食の観測会



みどりのバトンタッチ 間伐作業

地域で次世代を担う竜王っ子を育てよう 地域の教育力向上で元気なまちづくりへ繋げよう

滋賀県竜王町

活動名

竜王町学校支援地域本部

関係する学校

竜王幼稚園・竜王西幼稚園・竜王小学校・竜王西小学校・竜王中学校

活動区分				
学校支援 地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	5人	377人	22年度	有
放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	平成26年4月1日	未定	414人	19学級
その他				

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

当町の学校支援は、町公民館の2階に支援本部を設置し、コーディネーター4人・マネージャー1人が町内5校園を担当している。特に、本部が公民館内であることから、公民館と緊密な連携を図り、公民館に届く様々な学びや人材に関する情報等を活用しつつ、学校支援のために学校園と地域人材をコーディネートしながら、学校・家庭・地域による総ぐるみでの学校支援体制を整えることと併せ、地域や家庭の教育力向上を図っている。

当町の活動の特徴は、1つ目に、「学校からの要請を踏まえての支援」のみならず、「学校と地域の垣根を取り払う試みとして、学校花壇を応援団が育てることや、水やり等の活動で子供たちと触れ合い、ボランティアの方々が学校へ抵抗なく入っている環境を創っている」ことである。これにより、関係者間で「意識の好循環」が醸成されている。2つ目に、「学校応援団から新しい支援メニューを提案している」ことで、留意点としては、決して、押し付けないことをモットーにしながら、地域の人材やノウハウを学校教育に伝えている。3つ目に、「学校から地域への交流活動」があり、これは、子供たちが支援への返礼として招待し、幼・小における、給食への招待、吹奏楽の発表会への招待、町民運動会の開会式での演奏、公民館主催の写生会での美術部の指導やアシスタントとして積極的に協力している。

特徴

特徴的な活動内容

- ☆地域と学校の意識の壁をなくす花壇づくり
(地域と学校の垣根を低くする取組)
- ☆地域から学校への支援
 - *子供達が安全安心に通学できるスクールガード(組織率 96.5%)
 - *学習活動：家庭科の手縫い、ミシン指導、理科の実験、図工、音楽のピアノ演奏、合唱練習、社会科の昔の暮らし、戦争体験、クラブ活動指導、本の読み聞かせ
 - *行事活動：スキー教室、託児、焼き芋大会、餅つき
 - *環境整備：花壇の整地、図書室の飾り付け、看板づくり
- ☆学校から地域への働きかけ
 - *学校園とボランティアの交流会
 - *地域行事への協力と発表会へのボランティアの招待
 - *共に給食を食べながら、ボランティアと教師・生徒・児童・園児との交流

実施に当たっての工夫

- ・登録者を得意分野別に整理。一覧表の作成。
- ・年間支援カリキュラムの作成とその資料を学校に提供。
- ・支援内容の学校主担当者とボランティアの事前打合せ。
- ・各学校単位でなく公民館に本部を置き、対象を全町域としたことで、支援分野の広範化と人材確保にスケールメリットが活かせるようにした。

事業を実施して

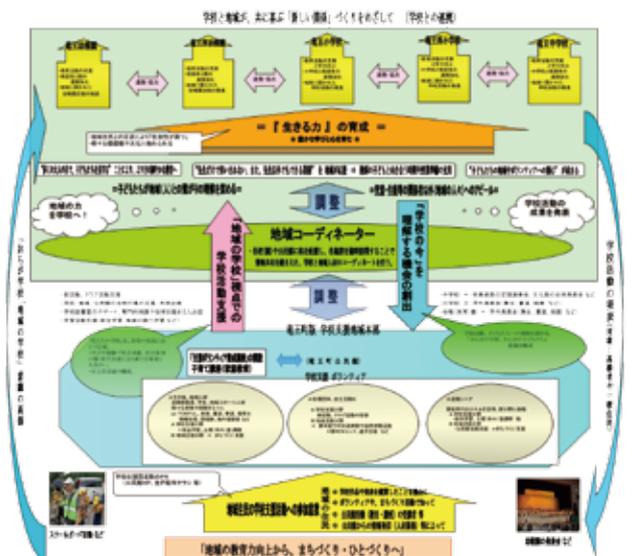
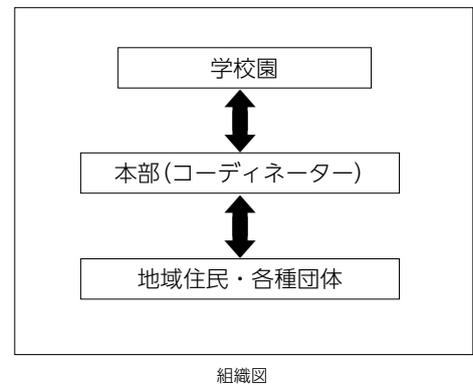
- ・支援活動されたボランティアさんより、自分の「できること」を「できる時」に参加でき、子供達の笑顔と新たなやりがいが発見できて良かったという感想が大多数である。
- ・学校応援団と公民館の緊密な連携により、公民館教室に、学校が求める分野の講座を開設したり、支援に必要なスキルアップ講座を取り入れることにより、更なる人材確保と人材養成ができると共に、支援分野が広がってきた。

その他

- *今後は、地域での子育て支援ボランティアの発掘と育成をめざし、地域における「家庭教育活動の充実」を期したい。

参考URL

<http://www.kouminkan.ryuoh.shiga.jp>



蒲生の子は蒲生で守り育てよう。地域の教育力を結束し、地域全体で小・中学校の支援活動

滋賀県東近江市

活動名

蒲生地区学校支援地域本部

関係する学校

蒲生西小学校・蒲生東小学校
蒲生北小学校・朝桜中学校

活動区分	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
学校支援 地域本部	1人	64人	20年度	有
基本データ	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
コミュニティ・スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
その他	○			

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

蒲生地区学校支援地域本部スタート

・学校支援地域本部実行委員会発足 ・学校ボランティア実態調査 ・スクールガード・スクールサポーター・田んぼの学校ボランティア等連携の調整 ・ボランティア募集・ボランティア登録

事業の内容・特色

- 各校の地域とのつながりを大切にし、学校の伝統的な取り組みを支援
- ・体験活動や実習の指導補助・学習支援 ・学校行事や総合的な学習における支援 ・授業における個別の支援
- 地域の店舗や団体への協力依頼や調整 ○各ボランティア団体との協力連携 ○登下校の安全確保支援 ○田んぼの子体験事業支援
- 自然体験学習やスキー教室の学生ボランティア等連絡調整などの支援 ○学校の環境整備の支援
- 職業体験学校支援コーディネーターとの連携
- ☆子供は地域の一員 ・地域のイベント「いきいきあかねフェア」への児童の参加
- ☆地域の子は地域で育てよう ・「あかね通学合宿」協力連携 ・「ふるさと蒲生」へのゲストティーチャー派遣調整
- ☆ニーズに合ったボランティアの紹介 ・中学校職業体験事業所の拡大 ・学校のニーズに合ったボランティアの派遣

特徴

【特徴的な活動内容】

蒲生地区は従来からボランティア活動が活発な地域であった。その地域の特徴を生かし、平成20年度から「蒲生の子は蒲生で守り育てよう」というスローガンを掲げ、蒲生地区学校支援地域本部が中心となり、地域全体で中学校1校、小学校3校を支援している。

活動は地域コーディネーターを核として、各学校ボランティア委員会相互の連携が図られ、ボランティア活動の日を調整したり、各学校のニーズに合うボランティアを広範囲にわたり探したりする等、地域で学校支援地域本部に取り組み利点を有効に活用し事業展開している。

また、地域が主体の「通学合宿」に対して、合宿を支援するボランティアスタッフを発掘したり、合宿中に行われる授業のゲストティーチャーを派遣したりする等、地域のボランティア育成にも大きく貢献している。

学校支援地域本部事業が学校支援だけでなく、地域にある様々な力を結集し、学校の内外を問わず、子供たちの育ちを支える仕組みとして地域に定着させ、地域の人々、団体のつながり、地域コミュニティの新たな構築、機能強化を図ることを目指しており、他のモデルとなるような取り組みを進めている。

【実施に当たっての工夫】

地域コーディネーターは、授業支援やボランティア活動等をコーディネートするだけでなく、各校が実施するボランティア会議に積極的に参加し、蒲生地域全ての学校に必要な支援を得られるように広い視野に立って調整している。また、ボランティアには必ず出会うと依頼するなど、人と人、学校と家庭・地域とのつながりを大切にしている。

中学校の職業体験事業所を地元へ拡大することをはじめ、まちづくり協議会や地域の各種ボランティア団体との連携を深めるとともに、児童・生徒が地元へ貢献し、地域の一員として積極的に地域の行事に参加できるようイベントの企画に取り入れてもらう工夫もしている。

事業を実施して

児童、生徒が地域の行事やイベントに積極的に参加することで、学校支援地域本部事業の内容を地域住民が認知し、その趣旨に対する理解も得られたことを機に、地域が中心となって行う平成25年度「あかね通学合宿」は、蒲生地区内自治会7会場で該当児童約50%が参加し4泊5日にわたって行われるまでになった。このことは、地域の教育力や教育体制、住民の結束力が向上していることを示している。また、本地区では平成22年度より小学校の不登校児童数が減少傾向にあり、これは地域支援の充実が要因の一つと考えている。

その他

通学合宿は、平成20年度から「あかね通学合宿実行委員会」を組織し開催してきた。

平成25年度は、新たに蒲生地区のまちづくり協議会や自治会連合会、老人クラブ連合会等が加わり、青少年育成会議、JA農業協同組合、各校PTA会長、地域コーディネーター、学校支援地域本部校の校長等主な団体の代表者により組織され充実した。

また、各合宿所には近隣住民がボランティアとして多数協力する。子供たちに、もらい湯や自炊などを体験させるだけでなく、地域の昔話やゲストティーチャーの授業など地域の教育力を活かした、地域独自の活動が展開されている。現在「あかね通学合宿」は、お世話になる自治会の恒例行事となり、地域の絆の深まりと活性化へとつながった。

地域コーディネーターへは保育園や他の学校支援地域本部のコーディネーターなどからも相談があり、さらに事業が発展し、継続していくことを願っている。

参考URL

【蒲生西小学校ホームページ】

<http://www.2higashiomi.ed.jp/ganishisho/>



蒲生地区学校支援地域本部報告書



学校の伝統的取り組みの地域学習

地域との双方向の援助、協働によるコミュニティ・スクール

京都府京都市

活動名

西総合支援学校学校運営協議会

関係する学校

京都市立西総合支援学校

活動区分	基本データ			
	学校支援 地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度
放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
コミュニティ・ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
その他	平成17年5月20日	12人	198人	55学級

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

「地域との双方向の援助、協働」により、それぞれの人が自分の役割に応じて学校運営に参画するコミュニティ・スクールを目指し、「学校評価・管理プロジェクト」、「キャリアアップ支援プロジェクト」、「地域とともにプロジェクト」の3事業を展開している。

- ①学校評価・管理プロジェクト
学校に対する地域からのニーズを踏まえた教育活動や地域と連携した実践事業について計画、実行、検証を行う。
(活動内容) 定例会で学校管理職からの報告、提案に基づき、評価のための協議を実施。
- ②キャリアアップ支援プロジェクト
子供の「できる」を活かす教育の推進と、地域での生活を豊かにするための学習展開の支援。
(活動内容) 「できますシート」の活用と「情報バンク」の作成。
- ③地域とともにプロジェクト
障害のある児童生徒にとっての身近な生活の場単位での「学びと育みの場づくり」をめざす地域活動を推進。
(活動内容) ・放課後における地域活動の場づくり「わくわくクラブ」の企画、運営。
・校内の芝生グラウンドを利用した「芝生まつり」の開催。

特徴

【特徴的な活動内容】

- 「地域とともにプロジェクト」では、「わくわくクラブ」、「にこにこクラブ」、「サマー・スクール」、「芝生まつり」、「校区地域交流会」、「ボランティア養成講座」、「交流卓球バレー大会」、「光華子ども遊び隊」などの様々な取組を、保護者や地域の方の協力のもと展開している。
- 「わくわくクラブ」では、在籍する児童と地域の小学校の育成学級の児童と一緒に放課後活動を行っている。保護者や地域、ボランティアの支援のもとでレクリエーションを企画・実施し、障害のある児童生徒が放課後に安心、安全に活動できる場づくりと地域の小学校との交流の機会を確保している。
- 障害のある人のスポーツや障害のある人と学校の立地地域の方々との交流の拠点となることを目指し、学校の芝生グラウンドを使用した「芝生まつり」を開催している。「芝生まつり」では、地域やボランティアの協力のもと、遊びコーナー、スポーツコーナー、展示、バザーなどを行っている。

【実施に当たっての工夫】

- 「わくわくクラブ」の活動では、子供たち一人ひとりが、興味を持って「やってみよう」と思える活動になるよう、それぞれの子どもに合うように身体的な面や特性を考慮して遊びやその内容の工夫をしている。
- 子供たちが安全に楽しめる活動になるよう、できるだけ万全な準備を目指して企画を練っている。ミーティングを行うたびにそうした観点で話し合いをしている。
- ボランティア養成講座では、子供たちの困りなど様々な疑似体験を通じ、具体的な支援の方法を学べるよう工夫している。

事業を実施して

- わくわくクラブの参加児童を中心に、保護者、教員が密につながり、情報交換を行うことで、わくわくクラブが学校と地域をつなぐ場となった。
- ボランティア養成講座で学んだことを「わくわくクラブ」という実践の場で活かし、関わる人たちがお互いに達成感を実感するという双方向の援助であるだけにとどまらず、さらにその学びをボランティア育成に活かすことで、地域の教育力向上の取組につながった。

その他

- 今年度より、「わくわくクラブ」の取組の発展形として、光華女子大学との連携による「大学を中核に据えた地域における障害のある子どもの居場所づくり」の取組として、「光華子ども遊び隊」の取組も始めた。
- ジアス教育新社より、「わくわくクラブ」の取組を紹介した「私たちがはじめたコミュニティ・スクール」の書籍も出版された。

参考URL

<http://cms.edu.city.kyoto.jp/weblog/index.php?id=400503>



学校運営協議会の様子



わくわくクラブの活動の様子

学校の教育活動を支援～子供たちの基礎的・基本的な学力の定着を目指し、自主学習の習慣づけを図る～

京都府京都市

活動名

久世西小学校放課後まなび教室

関係する学校

京都市立久世西小学校

活動区分	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
学校支援 地域本部				
放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	21人	158日	有
	実施場所 図書館		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
		20年度	有	
コミュニティ・ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
その他				

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

○放課後における児童の自学自習を中心とした学習習慣の定着と安心安全な居場所の充実を図るため、平成20年度に開設した。

- 学校の授業期間中は、月～金曜日の週5日実施。
- スタッフは、元PTA役員など、主に卒業生の保護者で構成されている。
- 現在は、学校の教育活動を支援する取組として、宿題や予習・復習を始め、プリント学習の他、簡単な工作や手芸なども日常の活動に取り入れている。
- 日常の学習の流れは、宿題・プリント学習・自主学習の順で進めるように習慣づけをしている。
- 週に1回、スタッフによる読み聞かせも実施している。
- また、夏季休業中は、工作教室、理科実験教室、親子で参加できる行事などを開催し、児童が楽しみながら学べる活動を企画している。
- スタッフ会議を月に1回開催し、教室の運営や児童の状況等について、情報共有を図っている。

特徴

【特徴的な活動内容】

- 放課後まなび教室を、学校の教育活動を支援する取組としてはっきりと位置付けている。
- 教室で使用する学習プリントは、教員と連携しながら、各学年の進度に合わせて、スタッフが準備している。
- 図書室で実施していることもあり、週1回スタッフによる読み聞かせを活動の中に取り入れている。
- 夏季休業中には、理科実験教室、エコ工作、音楽教室など、普段の活動ではできない楽しみながら学べる企画をスタッフが工夫を凝らして実施しており、子供たちも、楽しみながら集中して取り組んでいる。

【実施に当たっての工夫】

- 担当者が日によって交代するため、参加児童に対して、教室として一貫性を持った支援ができるように、スタッフ間の連携を常に心がけている。
- 毎日、参加児童の状況(健康面・精神面)を出席時に挨拶を交わす中でおおむね把握して、それ以後の学習活動が円滑に進むように特に注意している。
- 集中して学習に取り組めるよう、予め机に児童の名札を置いて、指定席にしている。
- 児童が学習プリントを仕上げたら、シールが貼れるような「がんばりカード」を作成し、児童の学習意欲を高める工夫をしている。
- 前述のシールがたくさん集められた児童、皆勤・精勤の児童には、年度末に賞状を渡し、達成感を味わえるような工夫をしている。
- 登録希望の保護者には、「放課後まなび教室」の趣旨を事前にしっかりと説明し、学童クラブとの違いなどを理解したうえで、登録してもらうようにしている。

事業を実施して

- 宿題をしっかりと仕上げる習慣が身に付き、学校の教育活動に大きなプラスとなっている。
- 児童と地域住民との人間関係が以前より近くなり、学校外でもよい影響を与えている。
- 保護者にスタッフをしていただくことで、子供が卒業しても、地域住民という立場から学校の応援団として関わってもらえることができる。

その他

- 「放課後まなび教室」を通して、児童と地域住民との人間関係が深まり、学校の教育活動が、今まで以上に保護者・地域に理解されてきている。



普段の活動の様子



夏休み/理科実験教室



がんばりカード



夏休み/エコ工作教室

4部会(シニア・スクール、カレンダー、収穫祭、学校支援)で地域と学校が活性化!

京都府精華町

■ 活動名

精華中学校コミュニティ協議会

■ 関係する学校

精華町立精華中学校

活動区分	基本データ			
	学校支援 地域本部	コーディネーター数 1人	ボランティア登録数 10人	開始年度 22年度
放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所			開始年度
コミュニティ・ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	平成21年10月7日	9人	314人	12学級
その他	※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)			

活動の概要

- ・学校と地域との協働事業を推進することを通し、学習環境をしっかりと整え、学校生活の安定を図ることを目的に平成21年10月に学校運営協議会を発足し、地域住民からなるコミュニティ協議会を立ち上げ、地域の力を学校教育に取り入れるシステムを構築してきた。
- ・学校・家庭・地域を巻き込んだ『社会総がかりではなくむ教育』という新しい視点での取組の必要性に着目し、地域が支援できる体制作り、地域と学校とのネットワーク作りを目指して各事業を展開し、地域から支援を受けている。
- ・地域コーディネーター1名(学校支援地域本部事業)と地元住民25名のコミュニティ協議委員で構成され、活動内容によって大きく4部会(シニア・スクール部会、カレンダー部会、収穫祭部会、学校支援部会)に分けて事業を展開している。
- ・それぞれの部会の取組により、学校・地域・家庭の協働による教育活動が推進されているが、特に学校支援部会については、地域コーディネーターが担当に入り、取組行事に合わせてシニア・スクール受講生のボランティアを配置するなど、普段からのかかわりを通して地域住民の情報をキャッチして支援部会に活用している。
- ・定期的にコミュニティ協議会定例会を設定し、相互の事業の経過などの情報の共有を図っている。必要に応じて部会長会議を持ち、各部会相互の連携を進める中で、それぞれの取組により学校の活性化を図れるようお互いに協力しあっている。

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

- ・「シニア・スクール部会」：中学校の空き教室を利用して地域住民の方に生涯教育の場として講座を設定。平成25年度第7期は16講座に230人が受講している。講師は趣旨を理解していただいている方にボランティアをお願いしている。
- ・「カレンダー部会」：2か月に1回、校区統一「精華カレンダー」の発行(名前は生徒が考案)小中連携・地域連携の協働で校区の小中学校・自治会などの行事情報の共有化を図り、地域全体で子どもを見守る。
- ・「収穫祭部会」：シニア・スクールの講座や生徒の体験学習での収穫を祝う「収穫祭」を開催地域住民と生徒、PTAの協働で収穫物を利用したメニューをふるまい、各種イベントを企画したり、調理ボランティアや会場設営にかかわるなど、「収穫祭」運営のサポートの中心となり活動する。
- ・「学校支援部会」：シニア・スクール受講生をはじめ、PTA・地域住民に呼びかけ、体験学習・放課後学習・学校行事や生徒ボランティア活動などの支援をする。地域コーディネーターが地域と学校とのパイプ役となり、地域住民の情報を把握し、行事それぞれに合った支援者をコーディネートしている。

【実施に当たっての工夫】

- ・コミュニティ協議会を4部会制にし、各部会長を中心に運営することで各種関連行事への取組がきめ細かくなり、運営がスムーズになった。部会からの発信によりイベントのポスター掲示やチラシ配布、ボランティアの募集など対外的な広報活動や協議会の取組紹介の会報配布も行事時期に合わせて取り組めるようになり、地域住民や校区小学校などとの連携も充実してきている。
- ・シニア・スクールには校区以外にも含む精華町全域から受講され、学校行事に多様な支援・協力をいただき、活動推進の原動力となっている。

■ 事業を実施して

- ・地域住民の方が日常的に中学校に入ってくることで、地域に開かれた新しい学校作りを進めることができた。また、多くの地域住民に学校に関心を持ってもらい、学校・地域が一体となって、より良い教育環境を作り、学校の活性化を図ることができた。特に「精華カレンダー」を発行することで、多くの地元の企業等の協力を得るなど、地域に根ざした取組が進んでいる。
- ・地域からの支援、生徒のボランティアにより本校の学校経営方針である「地域に開かれ、愛され、貢献できる学校」の構築に大きな成果をもたらした。「生徒が礼儀正しい」「挨拶してくれて気持ちいい」と評価していただき、生徒にとっても「自分たちも地域の一員である。」という意識が強くなっている。



第3回収穫祭(平成24年10月)



シニアスクール受講生との稲刈り体験

組織的な地域コーディネーターの配置によって市内全学校への支援が実現!

京都府京丹後市

■ 活動名

京丹後市学校支援地域本部

■ 関係する学校

市内全小・中学校、幼稚園

活動区分	基本データ			
	学校支援 地域本部	コーディネーター数 6人	ボランティア登録数 432人	開始年度 20年度
放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
その他				

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

・京丹後市は平成16年6町が合併して誕生した。本事業は平成20年度に旧2町で事業を始め、平成22年度からは市内(旧6町)全域で事業を実施している。運営の仕方としては、市内全域に配置されたコーディネーターと学校が連携して、市内各地からボランティアを派遣するなどの効果的な活用が進められている。コーディネーターは旧6町の公民館に配置し、各地域の特色ある活動を推進するとともに、コーディネーターが連携し、各地域にボランティアを派遣し合うなど市全体で幅広い支援活動を進めている。

- ・京丹後市学校支援地域本部事業実行委員会を年2回開催して、市全体で取組を推進するとともに、月に1回はコーディネーター同士の会議を行い、連絡調整をしながら、地域で学校を支える取組を進めている。
- ・活動の内容においては、市全域で学習支援や環境支援などの共通した活動を行うとともに、草木染体験や浴衣着付け指導などの地域のボランティアのもつ特技を活かした活動も取り入れている。
- ・また、地域住民への理解や支援を得るために広報活動にも力を入れ、事業報告を行うとともに、実際の活動の様子を写真等を取り入れながら分かりやすく広報している。それにより、ボランティアの拡大を図るとともに、学習支援や環境支援の面において、ボランティアが学校の応援団として活躍している。

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

- ・市内全域に配置されたコーディネーターと学校が連携して、市内各地からボランティアを派遣するなどの効果的な活用を進めている。
- ・ボランティアの活動も多岐にわたり、特徴的なものとして、地域の特色やボランティアの技能を活かした草木染体験や百人一首指導等も実施している。
- ・コーディネーターの調整の下、学習支援、部活動支援、学校環境整備等の多岐の分野において、学校が支援を要する内容について、連携を図り住民等登録しているボランティアの積極的な学校支援活動を継続的、計画的に行っている。
- ・京丹後市学校支援地域本部事業実行委員会を年に2回実施し、市全体で取組の調整を図るとともに、コーディネーター会議を月に1回に開催し、各地域の情報交換、課題の整理を行うなど連携を図っている。

【実施に当たっての工夫】

- ・広報誌「学校支援地域本部だより」を発行して、地域住民に事業の様子を知らせるとともに、ボランティアについても募集を行った結果432名のボランティアが登録、支援活動を行っている。
- ・地域コーディネーターを旧6町の地域公民館に配置し、各町へのボランティア派遣を基本としながら、専門的な技能を要するボランティアが必要な場合は、市内全域にわたって、横断的にボランティアを派遣するなど人材を共有し、各学校との連携を図りながら学校のニーズに応じた活動を進めている。
- ・各地域コーディネーターが複数の学校を担当しており効果的な支援活動の事例を各学校へ情報提供することができる。その結果、ボランティアの活動分野、活動範囲の拡大に繋がっている。

■ 事業を実施して

- ・市内全域で登録ボランティアとともにした事業が積極的になってきている。日々の活動が登録ボランティアの生きがいにもつながり、支援を受ける学校にとってもなくてはならない事業となるなど、双方向の効果が出てきている。
- ・ボランティアは地域につくられた「学校の応援団」として、ボランティアの持つ技術やその地域の特性を活かした学習支援や環境支援活動が行われ、市内全体に輪が広がり、地域で学校を支援する気運が高まっている。



中学生への浴衣着付け教室



幼稚園児を対象としたお茶会の実施

学校と地域が一体となって取り組む放課後子供教室が実現!

京都府長岡京市

■ 活動名

神足すくすく教室

■ 関係する学校

長岡京市立神足小学校

活動区分	学校支援 地域本部		開始年度	補助の有無
	放課後 子供教室	コーディネーター数 1人	ボランティア登録数 85人	年間開催日数 94日
基本データ	実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
	コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数
その他			19年度	有

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

- ・漢字・歴史・英会話・手話教室など学習教室と茶道、夏休みのプール教室、筍掘り、しめ縄作りなど地域の中学生や高齢者など多くの方に協力を得て、教室を実施している。
- ・地元のJR長岡京駅前広場で実施される「七夕祭り」や「イルミネーション」の行事では、短冊の提供やペットボトルを利用した高さ3メートルのクリスマスツリーを作るなど地域の行事等へも積極的に参加している。
- ・子供たちの豊かな体験活動のために、京都府が実施している大学教授や企業等の専門的な講師を派遣する特別講師派遣事業を積極的に活用している。
- ・「夏のスペシャル授業」として、乙訓高校陸上部による「陸上教室」や長岡中学校による「水泳教室」を行い、地域の学校との連携協力が図られている。
- ・図書室開放として週に4回、ボランティアによる図書室運営がされており、児童への貸し出しや図書整理がされている。
- ・神足小学校は、体験型の環境学習に取り組んでいる。「すくすく教室」のボランティアを中心に、竹林整備によるタケノコの収穫、水田作りによる稲の収穫、中庭に井戸を掘り手押しポンプを設置して、池やビオトープを作りホタルや水生生物の生態を観察するなど、学校教育との連携も図っている。

■ 特徴

[特徴的な活動内容]

- ・地域住民やPTAを中心に地域ぐるみで「神足すくすく教室」に関わり、校区内の様々な知識や技術を持った人材がボランティアとして、多様な活動を行い、学校と地域が一体となった運営体制である。
- ・神足小学校のホームページに「すくすく教室」のコーナーがあり、各種申込書や予定表がダウンロード可能である。
- ・毎月、計画一覧を作成し、「すくすく教室」参加申込みについての文書を全児童に配付している。

[実施に当たっての工夫]

- ・運営委員11人(PTA・PTAのOB・学校評議員)及び安全管理員・学習指導員で、2カ月に1回、全体会を実施し、主に参加児童の取り組む様子を情報交換している。
- ・運営委員会では、活動運営内容について、月2回打ち合わせを行っている。自治会の役員がスタッフとして参加しているため、地域において「すくすく教室」に対する理解が得られ、協力体制も強い。
- ・PTA総会、新入生入学説明会で「すくすく教室」の取組を紹介している。

■ 事業を実施して

- ・運営委員会を中心とした組織体制が整い、主体的に運営されている。地域社会の絆を強める取組となっており、地域の教育力の向上につながっている。
- ・学習活動や体験活動等の内容が多様で参加児童も長岡京市では一番多く、放課後子供教室の趣旨に則った取組となっており、放課後の子供の活動が豊かになっている。

■ その他

- ・文部科学省指定のコミュニティスクールの指定(21・22年度)が終了した後も独自で組織を継続、それらの団体と協働で行事を実施している。



タケノコ掘り体験教室



茶道教室

ーみんな仲良く、楽しい「いきいき」を目指してー

大阪府大阪市

■ 活動名

関目東小学校「いきいき」活動

■ 関係する学校

大阪市立関目東小学校

活動区分	基本データ			
	学校支援 地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度
放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	2人	87人	292日	有
	実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
	グランド、体育館、余裕教室		5年度	無
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
その他				

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

○地域等との連携に関わる活動 ・花見昼食会(お年寄りと共に)・ディサービスセンター訪問、敬老の日の集い、かるた大会、書き初め大会、交通機動隊見学等。

- 地域ボランティア「いきいきパートナー」さんや出前授業の招聘 ・地域人と英語で遊ぼう ・モンゴルの遊び体験
- ・韓国・朝鮮の文化に触れる体験 ・大道芸「皿回し」体験 ・キンボール ・初めてのストリートダンス ・マジシャンになろう
- ・パズルであそぼう ・こいのぼりを作ろう ・ひな人形づくり
- 自主的な活動(自分達で計画) ・七夕祭り ・ひな祭り ・節分まめまきとお面づくり ・かるた大会 ・毎月のお誕生会
- ・クリスマス会
- 勤労奉仕的な活動 ・掃除タイム(夏休・土曜日) ・公園でのゴミ拾い
- その他の活動 ・絵巻物づくり(夏休みの思い出) ・コルクの家を造ろう(いきいき図作品展参加)
- ・お話会(地域の人々と共に) ・ミサンガづくり ・大型紙芝居(地域ボランティアによる)

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

- 急増するマンションによる人口増加で、ともすれば失いがちな地域のつながりを学校・「いきいき」を核にしてより活発にさせる取り組み。
- 地域の人材ボランティア「いきいきパートナー」による、「読み聞かせ」「昔遊び」「工作」「手作りおもちゃ」などの活動が主体。
- 同じ市内元小学校校長が「いきいき」の運営を行い、学校・地域との連携を深め、効果を上げている。
- 発達段階の違う低学年から高学年まで、多彩なメニューを計画し、子供の喜びが爆発。作品展参加や工作も充実。
- 学校との連携を深めることで、子供の内面のケアも充実。家庭事情や障がい、友人関係・兄弟関係などで連携することで課題に向き合っている。

【実施に当たっての工夫】

- 保護者との通信を「いきいきノート」によって綿密に行い、保護者の思い・ニーズを常に把握している。
- 一人ひとりの子供について、必要な時は、学校の管理職・教務主任・教諭等と当該指導員とで、ケース会議等を開くようにしている。
- 実行委員会(活動計画等を立てる)に、地域・学校・PTAが参加し、地域行事・学校行事等と一体化して実施する。
- 地域のボランティアである「いきいきパートナー」と連携することにより、多彩な活動メニューを準備している。
- 学校と連携することで、効率のよい安全指導・生活指導を展開している。
- 消防署・警察署・ディサービスセンターを中心にした老人施設などと連携し、絶えず連絡し合うように努めている。

■ 事業を実施して

- 「いきいき」が終わり、保護者が迎えに来て「まだ、もう少しいたい」という子供の声が増えるようになった。「いきいきが楽しい」、「土曜日になると朝から活動できる!」と、子供達の楽しみの1つとして、「いきいき」が生活の中に位置している。
- 地域の人々が常時「いきいき」教室をのぞきにきてくださるようになりちょっとした声かけが子供達に飛んでいる。子供もそれに笑顔で答える。指導員も地域の人々と懇意になるなど、活動の質が高くなった。

■ その他

- 「いきいき」は気軽に地域の人々と繋がることができる空間になった。
- 学校と一体化して子供を見守ることで、保護者・地域からの信頼につながっている。
- 子供の笑顔や地域の信頼が集まると、指導員のモチベーションも上がり、次から次へと創意工夫が見られるようになった。

■ 参考URL

<http://www.city.osaka.lg.jp/kodomo/page/0000002464.html>



地域の人と英語で遊ぼう



地域ボランティアの読み聞かせ

児童の自主性を育む活動の創造 — 健やかに育つ児童を願って—

大阪府大阪市

■ 活動名

加美北小学校「いきいき」活動

■ 関係する学校

加美北小学校

活動区分	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
学校支援 地域本部				
基本データ 放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	2人	82人	292日	有
	実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
	グランド、体育館、余裕教室		11年度	無
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
その他				

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

○地域との連携による活動

- ・地域ボランティアによる「お話しの会」の実施。

平成25年度より、地域に呼びかけボランティアをお願いし、「お話しの会」を月一回実施している。毎回、児童はとても楽しみにしており、地域の人々も意気に感じて取り組みを進めていただいている。

○子供の自主性を生かした活動

- ・サマーフェスティバル、ウィンターフェスティバル、けん玉大会等季節によって計画されたプログラムを実施し、保護者をはじめ、学校、地域の人々の参加も得ながら、楽しいいきいき活動を展開している。様々な児童が参加する中、これらの行事を通して、より良い自己実現を図っている。
- ・作品展出展に向け、子供の作りたいという意欲を大切に、指導員の指導助言を得ながら作品づくりを発想豊かに創意工夫している。

○地域指導員が一心同体となり共通認識をもった協力体制の充実

- ・子供の実態に基づいた児童理解につとめる。
- ・各指導員の個性を大切にしながら、様々な体験活動の支援を通して、子供達の豊かな感性を培うようにしている。

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

- サマーフェスティバル：日常の子供の遊びから、遊びの規模を大きくし、静と動を上手に生かし、更に遊びを楽しくさせる。
- ・子供の主体性を重んじると共に、指導員の一体化を図るため、きめ細かな打合せや準備をしている。
- ・活動内容について、保護者、学校、地域への周知を図り交流の輪を拡げるようにしている。サマーフェスティバルは今では伝統的な活動になり、学校や地域からも高い評価を受けている。
- ・その他ウィンターフェスティバル、けん玉大会等興味、関心をもって積極的にかかわろうとする子供の姿が見られた。

【実施に当たっての工夫】

- 地域との連携の窓口としての「実行委員会」を有効に活用するなど、地域連携の流れが確立されている。
- 手づくりゲームのよさを味わえるように指導員からの声かけを意識し、子ども同士のふれあう機会を増やしている。
- ゲームのきまりやルールを守るように指導し、高学年児童がリードして進められるようにした。
- 支援を要する児童に対しても個々に応じた支援をすることで、遊ぶこと、参加することの楽しさを味わわせることができた。

■ 事業を実施して

- 児童の健全育成にむけて、地域や学校と有機的な連携が生まれ、日常的な活動や年間活動に生かすことができるようになった。
- 計画、準備、実施、反省、評価の一連の流れを通して、一つの企画をやり通すことの大切さを学ばせることができています。また、子供達の「やってみよう」という意欲を引き出せた。



けん玉に挑戦!!



サマーフェスティバル「スマートボール」に夢中

■ 参考URL ■

<http://www.city.osaka.lg.jp/kodomo/page/000002464.html>

～地域で育む豊かな心・地域教育力の活性化～

大阪府堺市

■ 活動名

上神谷小学校放課後ルーム

■ 関係する学校

上神谷小学校放課後ルーム

活動区分	基本データ			
	学校支援 地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度
放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	23人	282日	有
	実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
	図書室、体育館、運動場		17年度	無
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
その他				

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

〔日常活動〕 平日は、入室後学習。その後、自由時間（またはプログラム）。長期休業中は、午前中に学習を行い、午後にプログラム。
 〔学習〕 宿題、ワークプリント、読書。夏休み等は、自由研究等の課題に対する支援も行う。
 〔室内プログラム〕 工作、絵画、草花色遊び、編み物、ビーズ、オセロ、将棋等
 〔スポーツ活動〕 ドッジボール、バスケットボール、サッカー、バドミントン、おこなわ、フラフープ、一輪車
 〔昔遊び〕 けん玉、コマ、おはじき、お手玉等

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

放課後ルームの開設は、放課後における児童の安全・安心な居場所づくりを目的としている。

しかし、近年、児童の規範意識の低下、上手に関係づくりができない児童の増加、保護者が子育てにおいて抱える悩みの多様化等が当地域においても危惧されている。当ルームは、地域住民を中心とした指導員により組織され、保護者や地域と密着しながら、子育てや躰についての悩みを共有し、児童の健全育成を推進している。

また、小規模校であるため、ルーム利用児童数は他のルームに比べて少ない。そのことを生かし、一人一人の児童にしっかり寄り添いながら学習指導、生活指導を進めている。



ルーム内での個別学習支援

【実施に当たっての工夫】

- 児童を地域全体で育むという考えから、保護者や地域との連携を密にする。
- 学校との連携
 - ・学習指導面、生徒指導面についての情報交換。
 - ・学校の防災避難訓練、防犯避難訓練に参加することにより、ルーム内での安全管理、安全指導の徹底を図る。
- 日常活動における学習時間の中で、学習アドバイザーを中心に、ワークプリント等を活用しながら、個々の児童に適した学習支援を行っている。

■ 事業を実施して

「自分からすすんで学習するようになった」「友達が増えた」「夏休みのような長期の休みでも、生活リズムを整えてもらえる」等、保護者から好評を得ている。

また、指導員からは、「自分自身も地域住民なので、プライバシー等配慮しなければならないことも多いが、密接に保護者と関わり、児童一人一人に向き合うことができる」という声もある。



ルーム内での読書活動支援

親地(おやじ)の会を中心とした地域住民による、学校を応援する姿勢に徹した支援活動

大阪府交野市

活動名

交野市立第二中学校区
子供を育てる会(親地の会他)

関係する学校

交野市立第二中学校・郡津小学校・
倉治小学校・くらやま幼稚園

活動区分	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無	
学校支援 地域本部	5人	200人	21年度	有	
基本データ 放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無	
	実施場所			開始年度	放課後児童 クラブとの連携
	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	
その他					

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

○「地域の親」という意味で名づけた「親地(おやじ)の会」を立ち上げ、以下のような学校支援活動を実施している。

- ・平成21年9月から毎週「土曜学習」(午前9時から10時30分)を実施し、地域人材や大学生のボランティア(中学校の卒業生を含む)による学習支援を行っている。
- ・登校時のあいさつ活動を、2人から10人体制で毎日実施している。
- ・毎週水曜日の夜9時から10時頃にかけて、2つの小学校区を対象に、中学生や高校生(卒業生)が集まっている公園や集会所などを週替わりで見回る、夜のパトロールを実施している。
- ・学校からの支援の依頼に応え、餅つき大会・焼き芋大会・図書ボランティア・出前授業・ペンキ塗りなどの多彩な支援活動を行っている。
- ・第二中学校PTA主催の行事の開催に協力し、ドッジボール大会の審判役や出店などにより支援を行っている。

特徴

特徴的な活動内容

- ・開始年度から一貫して、毎週の「土曜学習」を継続している。対象は交野市立第二中学校の第3学年で、自学自習を基本とし、学校が協力して学習教材を用意している。
- ・学習支援には、「親地の会」のメンバーと大学生があたっているが、大学生の中には、「土曜学習」に参加した子供たちが成長して支援に加わっており、地域で育った子供の地域貢献が実現している。
- ・その他、学校からの支援依頼に対してもコーディネーターが気軽に応え、「親地の会」として支援にあたり、その内容は学校行事支援、授業支援、学びの環境整備など広範囲に及んでいる。
- ・子供の安全見守りやあいさつ活動、夜のパトロールなど、子供の命や安全を守る活動に、日常的・継続的に取り組んでいる。

実施に当たっての工夫

- ・学校支援活動を行う母体であるボランティアの集まりを「親地の会」と名付け、活動の主体を明確に位置づけるとともに、参加者の一体感を醸成している。
- ・「出られる人が出る。強制はしない。」というスタンスで継続的に活動し、ボランティア数も拡大している。大人どうしもコミュニケーションを取れる場として楽しんで活動を続けている。
- ・「親地の会」の活動のモットーは、「きっかけ」づくり。学校のニーズにマッチングした活動を行っているが、あまり子供たちに与えすぎないように、子供たちが自主的に続けていけるよう配慮し、工夫して活動を実施している。たとえば、花壇の下地の整地や肥料の準備は親地の会でを行うが、花は、ボランティアとして集まった約100名の生徒が植える。それによりいたずらではなく、水やりも自主的に子供たちが行うようになった。

事業を実施して

本事業は、交野市立第二中学校、交野市立郡津小学校、交野市立倉治小学校、交野市立くらやま幼稚園の四校園の校区内の園児・児童・生徒、教職員及びその地域の保護者や地域の住民が連携して、「地域の子供の名前がわかり、どの子も健全な成長を願った地域に根ざした教育」が進められるよう取組みを行っている。

その取組みでは、二中学校区子供を育てる会の実働組織である「親地の会(おやじのかい)」が中核となって活動を行っている。会のモットーは「参加できる人がする。強制はしない」のスタンスで行っている。学校からの支援に対して、学校支援コーディネーターのもと、あいさつ運動、夜間パトロール、校内の花壇整備やペンキ塗りなどの教育環境整備、土曜学習会などの活動を実施している。そうすることで、子供と会のメンバーの交流が深まり「地域の子供の名前と顔が一致する」という当初の目的は達成されつつある。また、会のメンバー同士の親交も深まり地域住民活動も大いに活発になっている。

その他

本活動の中心の実働組織である「親地の会」の活動が活発にしかも継続できているのは、学校支援コーディネーターの活躍が非常に大きい。コーディネーターの人脈、行動力、子供への愛情はこの活動には必要不可欠である。



土曜学習会(毎土曜日の午前中に希望者を募り、親地の会のメンバーや学生が生徒の自学自習力育成に取り組んでいる)



花壇整備(子供達と一緒に花の苗を植える)

地域人材による、実に多彩な講座を実施 豊かな体験と交流の場を提供

大阪府茨木市

■ 活動名

太田さくらくらぶ

■ 関係する学校

茨木市立太田小学校

活動区分	基本データ			
	学校支援 地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度
放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	5人	53人	148日	有
	実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
	太田小学校運動場・体育館・教室		19年度	有
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
その他				

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

○コーディネーターを中心とする実行委員の強いリーダーシップにより、充実した活動が日常的・継続的に実施されている。

○平日の放課後はほぼ毎日開催し、多くの子供が参加している。活動を支えるボランティアの人数も多い。

- 活動は、学習活動、自由遊びに加えて、地域人材による多彩な「講座」を展開している。内容は
- ・スポーツ活動-ミニバスケット、キックベースボール、ドッジボール、卓球、バレーボール、グランドゴルフ等
 - ・文化活動-和太鼓、フラワーアレンジメント、茶道、将棋、書道、生け花、フラダンス、料理等
- と、バラエティー豊かである。

○おおさか元気広場(放課後子供教室)と放課後児童クラブの連携に力を入れており、放課後児童クラブの指導員が講座の一つを担当している。また、「放課後子ども教室実行委員会」全体には、放課後児童クラブの指導員もメンバーとして参加し、活動の中の児童の状況について、必要に応じ情報交換を行っている。

○地域人材とPTAとの連携によりスタッフの充実を図り、講座の申し込み制や日々のていねいな出席管理等、組織的な運営を図っている。

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

- ・平日はほぼ毎日開催し、日常的な子供の居場所づくりを図るだけでなく、その中で多彩な講座を開催し、子供たちに豊かな体験や様々な人との交流の機会を提供することに大変力を入れている。
- ・毎月広報誌を発行して実施する講座を紹介し、児童はそれを見て、参加希望の講座に事前に申込みを行う。
- ・元気広場と放課後児童クラブが連携をすすめるために、日常的な情報交換だけでなく、放課後児童クラブの指導員が講座の1つであるドッジボールを月1回担当している。放課後児童クラブの児童が元気広場へ一層参加しやすくなり、元気広場の児童や地域の大人との交流が広がって、豊かな成長につながっている。

【実施に当たっての工夫】

- ・放課後子供教室の愛称を「太田さくらくらぶ」と名付け、参加者の一体感を醸成するとともに、愛着がわくよう図っている。
- ・児童の参加にあたり、個人カードを作成して出欠確認に活用する仕組みを作り、児童一人一人のていねいな把握に努めている。また、遊びの活動に入る前には、宿題を済ませるようにする等、生活の場としての日々の習慣づくりに配慮している。
- ・多彩な講座を実施するため、実行委員会が地域で活動する方や専門知識を持っている方に直接声をかけ、講座の実施を依頼している。
- ・コーディネーターが小学校のPTAに依頼し、協力を得てスタッフの確保を図っている。通常、地域人材である実行委員4名、安全管理を担う地域のボランティア6、7名に加え、小学校のPTA会員4、5名が児童の出席管理等の事務的な仕事を担い、活動を運営している。

■ 事業を実施して

参加児童・保護者から、「多彩な交流活動教室に参加することで、地域の方からいろんな技や、礼儀作法を身につけていただいている。」と、感謝の声が寄せられている。

スタッフからも、子供たちと活動することに「やりがい」を感じ、校外でも子供たちが声をかけてくれることに「よろこび」を感じている、との声が聞こえている。

このように、「太田さくらくらぶ」の活動を実施することにより、子供たちがより多くの地域の大人と出会うことで、顔と顔とがつながる関係が構築され、事業実施時はもちろんのこと、広い範囲で子供たちを見守ることができるようになった。

■ その他

スローガンは「笑顔で 元気で 楽しい 太田さくらくらぶ」
子供たちの安全で安心な活動場所を設けるために地域のスタッフが熱い思いで「さくらくらぶ」を運営しております!

■ 参考URL

http://www.city.ibaraki.osaka.jp/kikou/kyoikuiinkaikyokusoumu/seishonen_yagai/menu/hokagokodomo/index.html



さくら色のユニフォームが安全・安心のしるし



土曜日の災害時における避難(引渡し)訓練の様子

地域のチームワークを大切にした学校支援

大阪府寝屋川市

■ 活動名

第十中学校区地域教育協議会
(学校支援地域本部事業)

■ 関係する学校

寝屋川市立第十中学校・三井小学校・
宇谷小学校

活動区分	基本データ			
	学校支援 地域本部	コーディネーター数 4人	ボランティア登録数 70人	開始年度 20年度
放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所			開始年度 放課後児童 クラブとの連携
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
その他				

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

■ 活動の概要

- 中学校2名と小学校各1名ずつ、計4名のコーディネーターが常に協力し、学校と十分連携しながら、中学校区単位での学校支援を進めている。
- 中学校において、夏休み等に学習会を開催し、地域のボランティアが支援にあたっている。また、校内の掲示物を作成しているボランティアが、「総合的な学習の時間」の活動を支援している。
- 第十中学校の学校図書館を毎日開館できるよう支援にあたっている。
- ・コーディネーターを中心に、ボランティアが毎日昼休みの本の貸し出し業務や環境整備、おためし図書の呼びかけ等を行っている。また、貸出業務を通じて生徒との交流が図れている。
- ・小学校での読み聞かせの活動も行っている。
- 生け花や掲示物の作成、校舎周辺の花壇や植木の整備等、学びの環境づくりを支援している。
- 小学校区で、毎日通学路に見守り隊が立ち、子供への声かけや情報把握を行うとともに、「青パト」による校区巡回を毎日行っている。
- コーディネーターが中心となり、ボランティアやPTA役員、学校の管理職が集まって、活動の現状報告や活動の要望などの意見交換を行う「ボランティア交流会」を毎年開催している。

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

- ・中学校の学校図書館で、コーディネーターとボランティアが本の貸し出しや整理等を支援し、毎日昼休みの開館が実現している。また、貸し出し業務を通じて地域人材と生徒との交流が図られ、生徒の居場所づくりにも貢献している。
- ・「校内に潤いを！季節などを感じたり楽しんでもらいたい」という願いから、月2回2時間程度集まり、それぞれの時期に合った校内掲示物を製作している。
- ・小学校区では、毎日通学路に見守り隊が立ち、子供への声かけや気になる子供の情報把握を行うとともに、パトロールカー（青パト）による校区の巡回も、ボランティアの2名体制により毎日実施している。
- ・PDCAサイクルを意識した、活動の実施後のふり返りと改善を大切にしており、ツールとしてアンケートや「ボランティア交流会」を実施・活用している。

【実施に当たっての工夫】

- ・管理職とコーディネーターの連絡会をもつなど、必要に応じて、学校がコーディネーターとの協議に加わることにより、学校のニーズを的確に把握し、求められる支援の実施を図っている。
- ・学校のニーズをふまえてボランティア募集のプリントを作成し、自治会長を通じて校区内の全戸に配布している。
- ・教職員の理解を深めるため、教職員研修会でコーディネーターが地域教育協議会と学校支援地域本部の説明を行っている。
- ・毎年開催しているボランティア交流会がマンネリに陥らないよう、事前にアンケートを実施したり、府の研修を参考に内容を工夫するなど、年々改善を重ねるよう努めており、交流会で出された意見や提案は、次の活動にできるだけ生かすことを大切にしている。また、学校もそれらを踏まえて改善を図っている。

■ 事業を実施して

「交流会」でボランティア同士の交流、情報交換をすることで支援活動をよりスムーズに効果的に行うことができるようになった。また、教職員やPTA、児童生徒とボランティアが交流することで、活動に対する理解と協力を得られた。これらのことはボランティアの満足感と活動への意欲を喚起し、支援の効果を高めている。地域において顔と名前が一致する関係の中で活動はより良い教育コミュニティづくりの構築につながっている。

■ その他

3校合同研修会で教職員にボランティア活動の周知を行うことで、学校側からの求めに応じるといった関わりだけでなく、双方の関係作りの構築となり、活動の効果が高まっている。また、ボランティアとの交流は、心の教育として、児童生徒にとって大きな学びとなり、PTAとの連携は、多くの人に支えられて学校教育が行われているという保護者の認識となっており、学校に対する信頼感を生んでいる。



登下校時の安全見守り活動



図書読み聞かせサークル「ピーターラビットママの会」

学校支援地域協議会が、月に2回サタデースクールを運営している

兵庫県姫路市

活動名

白鷺学校支援地域協議会

関係する学校

姫路市立白鷺小学校・白鷺中学校

活動区分	学校支援地域本部		開始年度	補助の有無
	コーディネーター数	ボランティア登録数		
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	10人	60人	14日	無
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	白鷺中学校学習室		22年度	無
コミュニティスクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
その他				

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

白鷺小・中学校の児童生徒の学力の向上を目指し、学校・PTA・地域の代表で組織する白鷺学校支援地域協議会の中に、サタデースクール実行委員会を学校・PTA・地域の代表で組織し、平成22年度より実施している。

サタデースクールを運営するための運営ボランティアは、地域住民やPTAで構成し、児童生徒の学習を支援するための指導ボランティアは、兵庫県立大学学生、地元の元教員、地域住民に募集した。

対象の児童生徒は、小学校4年生から中学校3年生の希望者で、毎月第1・第3土曜日の午前中に開催している。児童生徒が持参した教材を使っての自主学習が主な内容である。

特徴

【特徴的な活動内容】

平成22年度より、兵庫県立大学等の学生約20名、元教員約5名が指導ボランティアとして児童生徒の学習支援を行っている。

実施後には、毎回反省会を持ち、当日の状況及び課題について、そして、次回の内容について協議している。その中で、学生ボランティアの支援状況に対して、元教員より専門的なアドバイスをし、支援の充実を図っている。子供の実態に応じて、学生ボランティアが自主的にプリント等を作成し、活用することも増えてきた。

学習においては、小学校4年生と小学校5・6年および中学生と教室を分けている。小学校5・6年生は、中学生とともに学習することで、中学生の学習状況を知る機会となっている。



サタデースクールの様子

【実施に当たっての工夫】

白鷺中学校の施設を使用しているが、学校の教職員には負担をかけないようにしている。

指導ボランティアと運営ボランティアの連絡を密にすることによって、学生は地域住民の願い等を知る機会となっている。

反省会の内容で、学校に伝える必要がある場合は、運営ボランティアを通して連絡を行っている。

事業を実施して

小学生と中学生がともに学習し、中学生の姿を見ることにより、小学生の自主的な学習姿勢が向上し、中1ギャップの軽減につながっている。元教員のアドバイスにより、学生ボランティアの指導力が向上し、個に応じた学習支援が充実している。

その他

卒業生が指導ボランティアとなって参加することもあり、地域の子供を地域で育て、地域活動に貢献するなど、地域の活性化のきっかけになっている。また、保護者も子供の教育を学校に任せてしまうのではなく、地域や学校との協働の営みで支援していこうとする気運が高まっている。



サタデースクール開校式

深めよう！家庭・学校・地域の『和』 ～守ろう地域の宝、育てよう地域の和～

兵庫県太子町

■ 活動名

太田地区学校地域連携普及推進研究協議会

■ 関係する学校

太子町立太田小学校

活動区分	基本データ			
	学校支援 地域本部	コーディネーター数 1人	ボランティア登録数 218人	開始年度 20年度
放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
その他				

※H24年度の実績（補助の有無についてはH25年度の状況）

活動の概要

- ・子供会や青少年育成協議会、自治会が中心になり、「子供は地域の宝」との認識の下に、地域住民の自発的な見守り活動を継続させ、見守り隊の活動に発展してきた。
- ・登下校時には多くの地域住民が見守り隊として通学路に立ち、子供と挨拶を交わすことで、地域総がかりで子育て支援に取組む気運が高まっているとともに、顔の分かる関係が広がっている。
- ・多様な活動のある地域支援組織が太田地区学校地域連携普及推進研究協議会に一元化され、地域、家庭、ボランティアが学校を中心に共通の意識のもと活動している。
- ・「オヤジの会」による学校施設の補修、「花っこグループ」による学校周辺の花作り、毎週水曜日の朝に小学校で実施されている読書会での読み聞かせ等、活発に活動し、地域で子育て支援に取り組んでいる。
- ・平成24～25年度学校地域連携普及推進事業（県事業）の指定を受け、地域連携の仕組みづくりの研究成果を、県内へ普及啓発している。
- ・地域住民の学校への支援が、新旧住民のコミュニケーションにつながり、地域の輪が拡大している。

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

子供たちの健全育成をめざし、多種多様な団体が学校の内外で活動している。

- ・見守り隊・登下校時の見守り、放課後子供教室及び運動会等学校行事の際の安全管理活動
- ・オヤジの会・学校側の要望による学校内外の補修作業
- ・読み聞かせグループ・水曜の朝行われている読書会での読み聞かせ活動
- ・外国語活動グループ・高学年の外国語事業の補助
- ・花っこグループ・学校周辺の花づくり（日々の手入れ）
- ・環境整備グループ・学校図書室の整理活動や校地清掃
- ・農作体験グループ・近隣自治会での農作体験活動の援助

【実施に当たっての工夫】

- ・自治会、青少年育成協議会などの各種団体に、学校が必要としている支援内容の情報提供し、協力者を募っている。
- ・保護者及び地域自治会に対して「学校だより」で、ボランティアグループの活動内容を報告するとともに、新たな支援者を掘り起こしている。
- ・町内公立学校が集まる学校行事調整会等で他校へ事例報告を行い、学校支援のモデルとなっている。
- ・機会を捉え教職員が「オヤジの会」や「花づくりグループ」等の活動に参加することで父親や地域住民と交流を深め、連携の促進を図っている。

■ 事業を実施して

「オヤジの会」の参加者アンケート

- ・子供達の喜びの声を耳にするとまた参加したいと思った。
- ・自分の子供だけでなく、周りの子供達の「ありがとう」の声に元気がもらった。その元気を次の活動（への参加意欲）に変えている。

学校長の意見

- ・校舎の北側の階段通路が明るくなり、子供の表情も明るくなった。また、父親の活動の様子を誇らしそうに話してくれる児童もいる。地域の方には、校内で活動いただくことで学校をより身近な存在と感じていただき、地域と学校が共同して子供達の健全育成に取り組むたいと考えている。

■ その他

- ・学校行事に参加していなかった父親がオヤジの会を通して、父親同士はもとより、教職員、地域住民と交流する機会をもつことができ、子供と会話ができるようになった等、個々の喜びの声がある。
- ・地域の大人と子供の双方に、互いに顔と名前のわかる関係が広がっている。



花っこグループによる花の植替え



オヤジの会と児童による学校内のペンキ塗り

「地域みんなで育む大山っ子!!」 ～安全・安心、地域に根ざした学校づくりをめざして～

兵庫県篠山市

■ 活動名

大山地区郷づくり協議会

■ 関係する学校

篠山市立大山幼稚園・篠山市立大山小学校

活動区分	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
学校支援 地域本部	12人	80人	22年度	無
基本データ	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
コミュニティ・スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
その他	○	※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)		

活動の概要

- ・大山小学校は児童56名の小規模校である。
 - ・「大山地区郷づくり協議会」は、「安心・安全・環境部会」、「元気な地域づくり部会」、「地域産業・振興部会」、「福祉部会」の4部会から構成されており、大山地区のまちづくりの一端を担っている。
 - ・「地域の学校」として、大山地区の住民みんなで学校をサポートしようという雰囲気がつくられている。「大山小学校一斉下校時見守り活動」等、地域が主体となり、学校のために取り組んでいる事業も多数ある。
- ①「大山小学校一斉下校時見守り活動」 ・大山校区まちづくり防犯グループのボランティアが児童と一緒に下校を行い、通学路における危険箇所や交通安全上の留意点等を確認しながら安全指導を行う。
 - ②「児童への声かけ・挨拶・見守り運動」 ・大山地区まちづくり防犯グループのボランティアの方が挨拶・声かけをしながら児童の登下校時の様子を見守る。 ・年間を通して実施(毎週火・木・金は強化日)
 - ③「親子で学ぶ防災・減災体験セミナー」 ・大山地区の更生保護女性会が大山小学校と子育て支援に関して関わりを持ち、事業を展開している。平成25年度は「自分の身は自分で守る」をテーマにセミナーを開催した。
 - ④合同防災訓練(隔年開催) ・安全で安心なまちづくりをめざして、学校・保護者・地域が連携し、合同で防災訓練を行う。 ・平成23年度には、学校関係者(児童・園児・職員・保護者)約150名、地域住民50名、計約200名の参加のもと、消火訓練、心肺蘇生法講習会、炊き出し等を行った。

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

- ①「大山小学校一斉下校時見守り活動」 ・年に1度実施。大山校区まちづくり防犯グループのボランティア30名が参加。 ・通学路ごとに地域の状況に即した安全指導が行われるとともに、児童と地域住民が顔見知りになる機会になっている。
- ②「児童への声かけ・挨拶・見守り運動」 ・年間延べ3200名(8名×2×200日)のボランティアが参加している。
- ③「親子で学ぶ防災・減災体験セミナー」 ・対象は大山小学校4～6年生児童、保護者、地域の方。 ・大山小学校のオープンスクールで実施。
- ④「合同防災訓練」 ・地域住民、学校関係者が合同で防災訓練を行う。 ・被災時には大山小学校が避難所となることから、地域の防災拠点として避難所開設や炊き出し等、有事に備えた具体的な訓練を行う。 ・地域と学校が連携して地域住民の防災意識の向上を図るとともに、地域と学校のつながりを深める場ともなっている。

【実施に当たっての工夫】

- ①「大山小学校一斉見守り活動」 ・地域の防犯の実状をよく知るまちづくり防犯グループの方が子供たちに直接指導する機会を持つことで、児童に防犯の知識を身に付けさせるとともに意識を高めている。
- ②「親子で学ぶ防災・減災体験セミナー」 ・小学校のオープンスクールで実施することで、多くの教員と地域住民が協働する必然が生まれ、学校と地域のつながりが深まった。
- ③「合同防災訓練」 ・「大山郷づくり協議会」が中心となり、自治会長や大山幼小PTA等が連携、協働することにより多くの地域住民が防災訓練に参加した。

■ 事業を実施して

- ・学校、家庭、地域が連携しながら防犯・防災の取組みを進めていることで、「地域の子供は地域で守る」という気運が高まっている。
- ・大山幼稚園児・大山小学校児童が、地域住民と触れ合うことで自分たちに向けられた温かいまなざしや優しさに気づき、ふるさと「大山」の良さを感じている。

■ その他

- ・平成22～23年度学校地域連携促進事業(県事業)の指定を受け、地域連携のあり方について研究し、県内における学校地域連携の推進に貢献した。
- ・平成24年度からは、国・県の補助金は活用していないが協議会を継続し、学校支援活動に取り組んでいる。



合同防災訓練(地域での消火訓練)



一斉下校時見守り活動の様子

地域の子供は地域で育てる ～地域をあげての子供の居場所づくり～

兵庫県加西市

■ 活動名

宇仁郷まちづくり協議会子育て支援センター／
宇仁放課後子ども教室

■ 関係する学校

加西市立宇仁小学校

活動区分	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
学校支援 地域本部				
基本データ 放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	4人	11人	183日	有
	実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
	旧宇仁幼稚園舎、宇仁小学校校庭		21年度	無
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
その他	○			

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

- ・宇仁郷まちづくり協議会子育て支援センターと宇仁放課後子ども教室の連携により、放課後の子供たちの安全安心な居場所づくりを進めている。
- ・当初は宇仁郷まちづくり協議会子育て支援センターが地域住民ボランティアの支援により「子どもの居場所づくり活動」を週4日実施していた。現在は、うち2日間を子供教室として開設し、学校、市教委、地域の連携のもと活動内容を充実させているなど、地域をあげて「子どもの居場所づくり活動」を展開している。
- ・宇仁郷まちづくり協議会子育て支援センターが運営する「子どもの居場所づくり活動」「宇仁子育てほっとトーク」「絵本の読み聞かせ」等の活動は、全て地域住民による無償ボランティアにより運営されており、地域をあげて子育て支援に取り組む気運が高まっている。
- 〈その他の取組〉
 - 子育てほっとトーク(月1回)
 - ・0歳から3歳未満の子供を持つ子育て中の母親たちが集まり、教育について話し合ったり相談したりして、孤立化を未然防止し、地域による子育てを推進している。
 - 絵本の読み聞かせ(年10回程度)
 - ・絵本の読み聞かせを行い、子供たちの豊かな情操を養うとともに、健やかな成長の手助けとなることをめざしている。

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

宇仁放課後子ども教室：加西市

〈活動日〉月・木曜日(週2日) 〈対象児童〉宇仁小学校児童 〈ボランティア登録数〉24名

子どもの居場所づくり活動：宇仁郷まちづくり協議会子育て支援センター

〈活動日〉火・金曜日(週2日)および学校行事等により地域から要望がある日 〈対象児童〉小学校1年生～3年生 〈ボランティア登録数〉39名

- ・宿題等の学習補助や読み聞かせ、工作、野外調理等の体験活動を実施している。
- ・週2回18時まで実施し引き渡し時間を遅らせる等、保護者の要望に応えている。
- ・子どもの居場所づくり活動、宇仁放課後子ども教室、小学校の三者間で活動日誌を交換し、子供の様子や活動状況等を共有している。
- ・子供教室の教育活動推進員が地域ボランティアの求めに応じ、子供との関わり方についてアドバイスする等、居場所づくり活動と子供教室の連携を図っている。教育活動推進員は定期的に研修を受けスキルアップを図っている。
- ・子供たちが制度の枠組みに戸惑うことのないよう一貫性ある取組としている。

【実施に当たっての工夫】

- ・地域ボランティア向けに活動手順マニュアルを作成するとともに、年度当初に説明会を開き地域ボランティアの役割や活動内容を明確にし、安定した支援体制を調えている。
- ・子どもの居場所づくり活動、宇仁放課後子ども教室、小学校の三者間で、活動日誌を活用して日常的に情報共有を図り、安全・安心な保育の担保に努めている。
- ・宇仁郷まちづくり協議会子育て支援センター、小学校、市担当者が意見交換を行い調整に努めることで、取組の充実を図っている。
- ・「子育てほっとトーク」や「読み聞かせ」等、多様な子育て支援活動を実施し、子育て支援を気軽に受けられる環境整備を地域ぐるみで推進している。



子どもの居場所づくり活動の様子

■ 事業を実施して

- ・地域住民には「地域の子供は地域で育てる」という意識が高まるとともに、保護者には「地域住民に支えのもと子供が育つ」という意識が芽生え、新たな支援者が育っている。

■ その他

- ・市内でも人口減少の著しい地区のひとつである宇仁地区で、地域活性化をめざす取組として重視されている。
- ・2011年 兵庫県「子育て元気アップ賞」受賞



地域ボランティア活動手順説明会

子供の元気は校区の力、地域の力 ～育てよう地域の輪・話・和～

奈良県奈良市

■ 活動名

二名中学校校区地域教育協議会

■ 関係する学校

二名中学校・二名小学校・青和小学校・
二名幼稚園・青和幼稚園

活動区分	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
学校支援 地域本部	16人	100人	20年度	有
基本データ 放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所			開始年度
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
その他				

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

本校区の地域教育協議会は、平成20年に組織し6年目となる。子供は地域の宝であり、子供が育てば地域は育つを目的に、地域のつながり、コミュニケーションを大切に活動している。

毎週火曜日夕刻から、会長とコーディネーターが集いスマイリーと名付けられたボランティアルームを活動拠点として、校区の情報交換や事業の反省、これからの活動計画の確認など、和気あいあいとした雰囲気の中話し合いを行っている。

主な取組として、地元の渋柿を利用し、地域の活性化をめざした「柿プロジェクト」、校区の安全安心な町づくりのための「挨拶・声掛けを大切にしたい見守り活動」、中学生の学習を支援するための「寺子屋活動・宿題お助け隊」、学校園の環境整備や行事支援、図書館支援など多岐にわたりボランティア(保護者・PTA OB・地域住民・卒業生)の支援を得て活動している。

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

★「柿プロジェクト事業」

昔ながらの奈良の原風景である大和のつるし柿の再現として、子供たちに学びと体験の場を提供し、地域住民と一体となった中学校区の事業として展開している。

「しぶ柿を知る」学習、つるし柿づくり、つるし柿を利用したクッキーの商品開発、染め体験、園児による柿の木の植栽など、幼稚園から中学校まで見通した取組をめざしている。

★「寺子屋プロジェクト事業」

中学校の学習を支援する取組として、月曜日の放課後に中学1年数学の寺子屋を実施している。また、夏休みと冬休みの長期休業期間に、全学年を対象とする宿題助け隊を実施している。いずれも、地域教育協議会の直轄事業として、運営の全てをコーディネーターが行い、学習講師は地域ボランティアが担っている。

【実施に当たっての工夫】

コーディネーターと学校が顔の見える関係づくりが一番であることから、コーディネーターが日常的に学校に出向き、連絡を密にとりながら、学校が必要とする支援をボランティアに要請している。

教職員に対する事業の意義を理解してもらうために、PTA総会や会議に参加し、活動や支援の様子を詳しく伝えている。

一年間の取組をまとめた、活動報告書を作成し、校区内の保護者や地域に積極的に情報発信している。

■ 事業を実施して

活動を通して、学習活動や環境整備、見守り活動など学校を支援する取組内容が充実してきた。さらに、学校支援する活動に対して、地域住民の理解が深まり、取組も定着してきている。また、参加された地域住民同士の挨拶も増え、様々な会話が交わされるようになってともに、活動に参加する子供たちに意欲や輝きが見られるようになってきた。

■ その他

毎年、先進地から学ぶために、コーディネーターによる県外研修を実施している。防災教育など先進地との交流により、自らの活動の見直しと、新たな活動に生かしている。(昨年度の先進地視察を受け、中学校にかまどベンチを設置した。)



コーディネーター会議・学習支援



柿プロジェクト・かまどベンチ

■ 参考URL

<http://www.naracity.ed.jp/jhs02/index.cfm/6,0,12,200,html>

「のびゆく下市っ子」を育てよう!～地域と共にある学校、地域と共に歩む学校を目指し、学校・地域の活性化を図る活動～

奈良県下市町

■ 活動名

下市小学校コミュニティ

■ 関係する学校

下市町立下市小学校

活動区分		コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
基本データ	学校支援 地域本部	1人	13人	24年度	有
	放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
	コミュニティ・ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	その他				

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

本町では平成22年度・23年度の2か年にわたる学校統合がなされ、町唯一の小学校となり、校区は町内全域に拡大された。子供のいない地域では、住民の学校に対する関心が希薄になりつつある。また、児童も地域での社会体験が減少し、社会性や規範意識が十分に育まれていないという課題がある。そこで、学校統合を契機とし、「学校と保護者、地域が子供たちの課題解決のために参画・協働し、一体感をもって取り組むことにより、地域の教育力の向上をめざす」並びに「本活動を通して育まれる所属感や連帯感を基盤にした人間関係を再構築することにより、児童の自尊感情を高め、社会性や規範意識の醸成を図る。」ことを主眼として本活動に取り組んだ。

〈活動の内容〉

- 地域再発見活動
 - ・地域の特色を知る社会見学 ・高齢者から昔の暮らしや遊びについて学ぶ活動 ・地域と連携した郷土食「柿の葉ずし」づくり
 - ・老人会の方々を招いての交流グランドゴルフ大会 ・地域行事への参加 (夏祭り、初市) 等
- 地域団体による支援活動
 - ・子供の登下校の安全見守り活動 ・ボランティアによる本の読み聞かせ(お話し会) ・地域花いっぱい運動 等
- 学校・保護者・地域との参画・協働を推進する熟議の場の設置
 - ・学校と校区区長、関係団体、PTA本部役員との「教育懇談会」の開催
 - ・学校と地域団体、PTAとの「下市小学校コミュニティ協議会」の開催
- 学校支援ボランティアの募集

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

○地域の特色を生かした社会見学…文化研修部と地域住民が熟議し、地域の特色を生かした社会見学を企画。地元神社で聞き取りや統合となった旧小学校を巡るなど地域の特色を活かし、社会科の学習の充実を図ると共に、郷土を愛し、郷土を誇りに思う心を育んだ。○「地域花いっぱい運動」…特別活動指導部と地域の方が熟議し、校区の公共施設や主要な箇所の子供たちの似顔絵とメッセージ入りのプランターを設置した。地域の方々と子供たちが協働して花を育てた。世代を超えて協働することで、地域の方々に見守られ生活していることを児童は体感した。○「教育懇談会」の開催…校区内の区長、関係団体、PTA役員が集い、教育懇談会を開催。子供の健全育成に関わる課題や課題解決に向けた協議を行い、新たな取組につなげた。率直な意見交換や熟議により、協働して課題を解決し、地域全体で子供の育ちを支えようとする意識が高まった。○校区老人会を招いてのグランドゴルフ交流会…校区老人会による校内美化奉仕作業を通じて築いた世代を超えた交流を深めるため、地域の老人会を招いてグランドゴルフを通じた交流会を実施し、老人会の方からルールやプレーの指導を受けた。児童は地域の方々に見守られて生活していることを実感し、高齢者は次代の子供を育てる担い手としての自らの役割を再確認した。

【実施に当たっての工夫】

○学校全体で子供の課題を分析し、全教職員共通理解のもと、子供たちの課題解決に向けた取組を共有した。そのためのしくみとして、校務分掌組織の中に地域コミュニティ部を設置し、それぞれの分掌ごとに地域の方々と熟議を重ね、地域と協働して教育推進上の課題解決に取り組んだ。このしくみにより、地域の方々と子供の教育課題の解決に向けた取組を創出する場が生まれた。○学校統合により生まれた地域住民の心理的な距離を縮め、小学校への関心を再び高めるとともに、「おらが学校」意識の醸成を目指し、学校行事をはじめ様々な教育活動を町内ケーブルテレビ等さまざまなツールを用いて情報発信した。また、「教育懇談会」等を通じて、学校の取組や課題を地域に向け直接発信するとともに、学校が地域に出向くことによって、地域住民と協議しながら取組を進めた。○学校支援ボランティアの募集については、コーディネーターと熟議して作成した募集チラシを町広報誌に折り込んで全戸に配布するなど工夫した。チラシの全戸配布によって、地域の方々の本活動への理解が深まり、地域全体で子供を育てようとする意識の高まりが見られる。

■ 事業を実施して

○学校と保護者・地域が協働する様々な活動・取組を通じて、学校に対する地域住民の関心が高まった。○本事業により、教職員間に保護者や地域住民の参画・協働を目指す視点が生まれ、学校行事の企画・運営について見直し、参画・協働を得た新たな取組が生まれる契機となった。○本事業の様々な取組を通じて、児童・教職員と地域住民が顔見知りの関係となり、児童から地域の方にあいさつをするなど地域との親近感や連帯感がこれまで以上に増してきている。○本事業の活動を通じ児童は、保護者はもとより地域住民に日々見守られ、支えられて過ごしていることを改めて実感した。また、地域の人から自分に向けられる温かいまなざしにより自分は大切にされているという思いが育まれ、自尊感情の醸成につながった。

■ その他

過疎化・少子化が進む本町では、学校統合により地域コミュニティの核であった学校がなくなった上に、小学校に在籍する子供が地域に少ないことから、地域住民の学校や子供に対する関心が希薄になりつつある。この状況にあって、本事業を通して、「もっと学校や子供に関心を持たないといけない。」「時代を担う下市っ子を地域全体で健全に育てよう」という機運が高まっている。



地域花いっぱい運動



老人会との交流グランドゴルフ大会

「地域に開かれ、地域とともに歩む学校をめざして」 ～学校・家庭・地域社会との連携・協働を通して～

奈良県香芝市

■ 活動名

二上コミュニティ

■ 関係する学校

香芝市立二上小学校

活動区分		コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
学校支援 地域本部		1人	30人	20年度	有
	放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
基本データ		実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
	コミュニティ・ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	その他				

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

1 二上コミュニティ設立の目的

本校では、6年前より大規模な新興住宅地が開発され、児童数が倍増(810名)することで様々な課題が生じている学校である。また、子供たちの教育的課題を解決していくために、学校だけでは解決できないことが増えてきている。そこで、学校と家庭と地域とがこれまで以上に連携・協働していくことが重要と考え、すべての住民の力を活用して課題解決につなげるため、二上(ふたかみ)コミュニティ推進委員会及び各部会を設けた。

2 二上コミュニティ推進委員会の構成員

地域の自治会長、老人会の役員、育友会役員、地域住民、市教育委員会関係者、県教育委員会事務局関係者、及び学校職員

3 コミュニティ推進委員会各部会編成

本校の子供の実態かつ奈良県教育の課題を踏まえ、3つのプロジェクトと6つの部会で取組を行う。

(1) 学力向上プロジェクト【①基礎学力向上部会、②読書活動部会】 (2) 生活力向上プロジェクト【③生活安全部会、④勤労生産部会】

(3) 健康力向上プロジェクト【⑤体力向上部会、⑥食育健康部会】

4 各部会の主な取組

①基礎学力向上部会 学習マナーや姿勢のポイント(例:話の聞き方、発表の仕方、机上の整理、正しい姿勢等)の徹底を図っていくために重点ポイント内容の検討や実施方法を考案。

②読書活動部会 図書ボランティアを中心とした読み聞かせや読書環境の整備の検討、読書を活性化していくための取組(読書貯金、手作りしよりのプレゼント等)の企画、実施。

③生活安全部会 挨拶の定着を図るため、登下校時の地域の方や保護者の関わり方を検討(声かけ活動マニュアル、顔見知り作戦等)。児童の意識の向上のための挨拶川柳の募集とその活用(ポスター等の作成)を検討、実施。子供の安心安全確保のために、通学路の再点検を実施し、「子ども見守り・声かけ活動」冊子を作成するとともに地域にボランティアを募り見守り活動を実施。

④勤労生産部会

地域老人会による野菜を植えるための畑の環境整備(畝たて、堆肥スペース、除草等)の企画・実施。老人会のメンバーによる栽培方法や堆肥のつくり方等、子供たちへの生産指導の実施。

⑤体力向上部会

体力向上に向け、学校での取組内容(大縄タイム、駆け足タイム、なわとびタイム等)を企画するとともに、二上山などの地域の自然を生かした取組を企画、検討。

⑥食育健康部会

「食」の大切さや食事のマナーを身に付けるため、「チャレンジ食事マナー週間」「二上農園収穫物を活用した取組」の企画、実施。

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

- 運動会の実施方法…急激な児童数の増加と狭い運動場により、運動会の安全な実施と保護者の観覧マナーに関する課題が懸案事項となっていた。そこで、部会で、プログラム実施方法や保護者の観覧の方法、マナーの呼びかけの方法を検討し、立ち見席観覧及び最前列入れ替え観覧制等に平成24年度運動会を実施。
- 食事マナー週間…オープンスクールの期間を利用し、食育に関する講演会を開催。児童だけでなく、保護者にも食育について考える機会を設けた。また、学校(給食)と家庭(朝・夕の食事)が連携して取り組める内容と考えとともに、食事マナーの課題を検討。その意識付けのための「チャレンジ食事マナー週間」を実施。
- 安心・安全運動…生活安全部会で校区の子供たちに関わる安心・安全について意見交流を行い、児童が下校する様子や危険箇所等の確認を再度行なった。それらを基にして「子ども見守り・声かけ活動」冊子の作成と安心安全ボランティアの募集を含めた見守り活動の体制作りを行い、実施。
- 堆肥作り…勤労生産部会で本校の特色である地域の畑を利用した野菜作りについて話し合いを行ったところ、栽培だけでなく、そのもととなる土づくりの重要性が提起され、「二上農園」に堆肥を作る場所を設置するとともに、その意義を子供たちに伝え、堆肥づくりに取り組んでいる。

【実施に当たっての工夫】

- 学年・学校だけでなく、ホームページ、懇談会、授業公開等を通して、二上コミュニティの意義や取組について積極的に情報発信。保護者や地域と情報を共有し、共に子供を育てる学校づくりを目指した。
- 継続した取組が展開できる仕組みを構築するため、校務分掌上、これまで9つに分かれていた指導研究部を学力向上部、生活力向上部、健康力向上部の3つに統合・再編。二上コミュニティと学校組織が直接リンクし、連動しやすい組織編成にした。また、育友会組織にも二上コミュニティ担当を置き、スムーズな連携を図っている。
- 話し合いの内容が焦点化され、取組の実施にあたってみんなの力が集約され、また、問題解決の達成感が共有できるよう、関係者すべてが当事者意識をもって課題に取り組める活動を実施。

■ 事業を実施して

- 子供たちが、教員以外の大人たちと日常的に接することで、多様な価値観にふれ、たくさんの知恵を吸収できた。また、課題について、学校だけでなく家庭・地域と連携して取り組めたことは、子供たちの意識付けの効果を上げることができた。
- 保護者や地域住民が学校に来る機会が増え、子供たちの生の姿を見たり、学校の課題を具体的に理解したりすることができた。
- 様々な課題を異なった立場や職種の方々とともに考えていくことで、教職員自身が多様な物の見方や考え方に触れ、視野が広がれることにつながっている。
- 問題解決の達成感が共有できたことにより、参加者の当事者意識がさらに高まり、新たな課題についても主体的に取り組もうとする機運が高まってきた。
- 古くからの住民と、新しく転入してきた住民との意識の差が少しずつ薄れ、二上小校区の子供たちをみんなで守り、育てる気運が見られるようになってきた。

■ その他

- 次世代の地域の担い手である本校の校区に在住している大学生や高校生によるボランティア活動を取り入れ、地域人材の育成につなげた。
- 古くからの住民と新しく転入してきた住民のそれぞれの良さや知恵を取り入れながら、学校を拠点とした「地域コミュニティの形成」を通して近隣間のつながりを高め、保護者や地域住民同士の「横のつながり」を強めていきたい。
- 子供たちが日常的な地域の「大人」との関わりの中で、「やさしさ」や「厳しさ」を実感し、大人への強い信頼感を築けるようにしていきたい。
- 子供たちの挨拶運動が家庭や地域に広がり、二上小校区全体で挨拶が交わされるなど、子供たちの取組から発信する町づくりにも取り組みたい。



読み聞かせの様子(読書活動部会)



葉ポタンの植え替え作業(勤労生産部会)

豊かな子供をみんなで育む ～地域ぐるみで学校支援～

奈良県大和高田市

■ 活動名

すがはらコミュニティ

■ 関係する学校

大和高田市立菅原小学校

活動区分	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
学校支援 地域本部	2人	120人	20年度	有
基本データ	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
コミュニティ・スクール				
その他				

*H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

菅原小学校では、「学校支援地域本部事業」を受けて、地域での学校支援ボランティアの皆さんと連携をしながら、安全見守りや体験学習、学習支援、読み聞かせなど多くの支援をいただいで教育活動を行ってきた。また、「地域教育力推進モデル校」の奈良県指定を受け、保護者や地域の方、学校教職員とパートナーシップの関係で学校運営を担ってもらい、参画・連携・協働の取組みを進める。※あいさつ大好きコミュニティ※早寝早起き朝ご飯生活リズムつくりコミュニティ部※図書ボランティアコミュニティ部等は、本校の課題である「規範意識」「生活リズム」「読書活動」の取組みをさらに進めていく。

☆学習支援活動…○地域学習補助(町探検・土器体験・地域行事紙芝居) ○算数(そろばん) ○図工(陶芸指導) ○音楽(雅楽演奏: 琴) ○家庭科補助(ミシシガケ) ○戦争体験の話 ○米作り ○しめ縄作り ○昔遊び体験 ○車椅子バスケット ○クラブ活動(バスケットボール)

☆環境整備…○図書室環境整備 ○校内清掃(草引き、体育館の掃除等)

☆学校行事…○校内清掃奉仕作業 ○運動会準備(テント設営、運動場整備) ○マラソン大会(立哨) ○交通安全教室補助 ○菅原お話ランド(読み聞かせ、紙芝居) ○心わくわくギャラリー(地域作品展) ○ありがとう集会(学校支援ボランティアに感謝する集会)

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

スローガン・・・「豊かな子供をみんなで育む 地域ぐるみで学校支援」
○実践活動の年数と質の高さ・地域密着型・学校力と地域力の合力による教育全体の推進○地域も学校も子供たちを思う心は一つ!学校の教職員とボランティアの需要と供給の両輪がうまくかみ合い、年間を通してボランティア活動が活発である。○校区内のボランティアのみにとどまらず、教育委員会ボランティアの支援も得ている。○教育資源である地域人材(ゲストティーチャー)の発掘・蓄積がうまく進み、教育活動に効果的にフィードバックできている。

【実施に当たっての工夫】

○紙芝居「運取り行事」では、校区(奥田)にある蓮池にちなんだ物語(大和高田市奥田と吉野山の金峯山寺・蔵王堂との結びつき)を子供たちに伝えるため、ボランティアをお願いして紙芝居を作成していただいた。○心わくわくギャラリーは、地域コーディネーターが中心となり、地域の公民館活動をされている方々の作品を小学校玄関に展示した。玄関が教職員・生徒・地域の人々のコミュニケーションの場となり、大いに子供たちの美的感覚を刺激し、それぞれの良さを賞賛しあった。○校区内で発掘作業(京奈和自動車道開通のため)があり、その様子を教育委員会ボランティア(文化財)が、プレゼンテーションした。実際に出土した土器や鉄・石器を展示し、ボランティアが子供たちの質問に答えた。また、接合体験や実測体験の指導を行った。○陶芸は、ろくろを使用せず、手びねりのよさを生かして制作した、7人の表美会の先生方(教育委員会ボランティア)が、子供一人一人に対して、丁寧に指導してくださった。○学校だよりを在校生のみならず、地域にも配布。学校・保護者・地域が、情報を共有し育ててをえる取組を進めている。

■ 事業を実施して

(学校支援ボランティアから)・・・○学校を訪れることに少々不安はあったが、広い範囲の地域の子供たちとも仲良くなり、自分が学校・地域をつなぐ役割を果たしているように感じている。また、学校の教育活動の活性化にもつながり、学校と地域のつながりも深まっているように感じる。読み聞かせは、練習も必要で難しいが、子供たちが真剣に聞いてくれる姿を見ていると感激するし、また頑張ろうと思う。図書の環境整備は、子供たちの読書意欲の向上につながるため、できる範囲で頑張っていきたい。

(学校から)・・・○子供たちは、地域の人々に守られているという安心感を持って生活できている。また、子供たちは、学習ボランティアの専門知識や技術に触れ、学習意欲を高め、地域住民と教職員との協働により、学習効果が上がっている。

■ その他

地域の実態をしっかりと見つけ、それを教材化している点が素晴らしい!(人的環境・物的環境)(事業担当者より)



読み聞かせ(運とり行事)

小学校玄関(地域の人々の作品展示)



地域で発掘された土器や鉄・石器
接合体験・実測体験



しめ縄作り



陶芸



立哨・見守り活動



3年生 町探検



家庭(ミシシガケ)

地域で「世代を超えた顔なじみ」を創造する活動

和歌山県海南市

■ 活動名

たつみの子どもを育てる会

■ 関係する学校

巽幼稚園・巽小学校・巽中学校

活動区分		コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
基本データ	学校支援 地域本部	2人	200人	20年度	無
	放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
	コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	その他				

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

巽地域では、地域の自治会や婦人会等様々な団体が集まった「たつみの子どもを育てる会」を設立し、充実した学校支援活動を実施している。

学校環境整備として、植栽の剪定・伐採、花植え等が年数回実施されている。また、子供の下校時の安全を見守るための活動も盛んである。

しめ縄作りやパン作り、稲刈り等の様々な体験授業（地域ふれあい活動）が行われており、その実施主体として活動している。その中でも、2泊3日の通学合宿は、地域が一丸となって実施しており、充実した内容となっている。

市全体として、30代40代の方々の地域への参加促進が課題となっているが、巽地域では「たつみの子どもを育てる会」の構成団体である「おじの会」があり、30代40代男性の会員の方々が、通学合宿を始めとする各活動に活発に参加している。

「たつみの町づくり協議会」は、巽地域を住みよい町にすることを目的とし、自治会や老人会・青少年育成補導協議会等20団体の代表者で組織した連絡協議会である。

また、「たつみの町づくり協議会」を構成する団体の代表者から若干名と巽幼稚園・小・中学校の関係者によって構成されている「たつみの子どもを育てる会」を年数回実施しており、地域が一体となって子育て支援や子供の安全確保に協力することを目指し、構成団体間での情報の共有化を図っている。

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

巽コミュニティセンターを拠点として、2泊3日の「通学合宿」事業を実施している。本事業では、児童が巽コミュニティセンターに宿泊し、集団で巽小学校に通学することとなり、児童は料理等の集団生活を体験するとともに、地域のボランティアとふれあうこととなる。また、地域のボランティアが3日間で延べ約100人も参加する等、地域にとっても重要な事業になっている。

【実施に当たっての工夫】

平成20年度から開始した「通学合宿」は、当初は海南市青少年育成市民会議が実施していたが、地域の教育力向上や地域住民の主体的力量形成をめざし、事業の企画・立案や当日の運営などを地域へ移行した。このことで、平成22年度からは巽地区が主催で事業を実施しており、地域住民が互いに様々なアイデアを出しながら事業を企画・運営できるようになった。(地元出身の教員志望大学生や大学院生をメンタルフレンドとして通学合宿に招待し、参加児童とふれあってもらおうとする等のアイデアが実際に採用されている)

■ 事業を実施して

本事業では「地域の子供は地域で育てる」という観点を大切に事業を実施しているが、事業を通して大人と子供の関係が形成されるだけでなく、地域の大人同士のつながりも深められている。また、事業終了後に、参加児童の保護者へのアンケートを実施しているが、保護者からも「地域で子供を育ててもらっていると感じている」という意見が多数寄せられている。

地域の人間関係が希薄化している時代において、新たな人間関係を創り出す貴重な事業となっている。



消防団とプール掃除



通学合宿



木工授業の支援

学びと語らいの場を通じた学校、家庭、地域の「かかわり」づくり

和歌山県串本町

活動名

串本町地域共育コミュニティ推進本部

関係する学校

串本町内全小中学校(10小学校、5中学校)

活動区分	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
学校支援 地域本部	13人	100人	20年度	有
基本データ 放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所			開始年度
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
その他				

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

串本町では平成21年度に串本西小中学校区を推進地域に指定し、2名のコーディネーターを配置した上で、活動の内容に応じて区の役員、老人会、婦人会、区民などが参加・協力し、学校、家庭、地域が一体となって子供の育ちや学びを支え、地域ぐるみの教育を推進するとともに、人と人とのつながりを構築するための仕組みとなる「共育コミュニティづくり」をスタートさせた。また、平成24年度には、町全体を統括するコーディネーター1名を新たに配置し、「共育コミュニティづくりの全町展開」に向けた体制を整え、共育コミュニティづくりにつながる具体的活動である「学校支援活動」、「地域づくり活動」、「共育ミニ集会」の拡充・充実に努めている。

特徴

【特徴的な活動内容】

学社連携の推進

- 社会教育担当職員が計画的に学校訪問を行っている。
- 学校教職員が社会教育関係職員等研修会に参加している。
- 全小中学校の地域と連携した活動の集約を行っている。

活動の充実

- 町内全小中学校にコーディネーターを配置している。
- 地域連携担当教員及びコーディネーターの研修会を実施。
- 公民館報に「共育コミュニティのページ」を配している。
- 過去5年間の活動を集約したリーフレットを作成・配布。

【実施に当たっての工夫】

地域の事情や人に詳しいコーディネーターを全小中学校に配置(委嘱)したことで、より多様な個人及び団体の参画による「学校応援団」が組織されている。一方で、「何か新しいことを始める」というイメージではなく、既存の活動を「共育コミュニティの視点」から捉え直すことで、活動の継続性をねらっている。子供にとって、地域にとってより良い活動に結びつくよう、本事業に係る評価を心がけている。推進本部会議の他、教育委員会、校長会等で共有している。



ウォークラリー

事業を実施して

地域から学校がなくなってしまった和深地区では、閉校した学校の体育館で「コミュニティ防災学習会」を開催し、保育園では保護者が車座になって「コミュニティ子育て懇談会」を開き、地域内をコースにした「ウォークラリー」を開催している。「子供の声、チャイムの音が消えた『隙間』を、共育コミュニティづくりが少し埋めているようである」という一般参加者の感想や、「教師の年齢層がどんどん若くなる中で、『昔の道具』といってもピンとこない。そんな中で地域の方に来ていただいて実演をしていただいたり、昔の道具を使って魚を焼いて食べたりする活動が実現している。本当にありがたいと思っている」という教員の感想がある。

その他

『家庭教育』や『防災』といった学校が抱える課題の解決に、共育コミュニティの取組を活用したい」と申し出る学校が増えている。子供や学校に係る課題に対して、学校、家庭、地域が協力して取り組もうとする雰囲気が高まっている。



小中学校合同クリーン作戦

「放課後子供教室」として町内全ての子供たちへの居場所づくり

和歌山県那智勝浦町

■ 活動名

那智勝浦町地域ふれあいネットワーク
実行委員会

■ 関係する学校

那智勝浦町内全6小学校

活動区分	基本データ			
	学校支援 地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度
放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	17人	32日	無
	実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
コミュニティ・ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
その他				

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

平成16年度、文部科学省「子ども教室推進事業」により立ち上げ3年間の活動を行う。平成19年度以降は教職員、PTA、地域の皆様の協力により那智勝浦町内6つの全小学校の子供たちを対象に、休日を中心にスポーツ教室や工作教室、課外活動を行っている。

どの子供たちも気楽に参加できるよう配慮し、事業内容も毎年変わらないような工夫をしている。平成25年度は初心者向けサッカー教室を開催、30名程度の子供たちが参加。

また、水産試験場見学ツアーやクッキング教室など、子供たちだけではなく、親も一緒に参加できる事業も行い、休日に親子でふれあうイベントも行っている。

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

- 夏休み時
 - ・「子ども工作教室」(毎年被らないように)
 - ・「子ども科学教室」(ジオパーク認定を目指す和歌山県を子供たちにも認知してもらう)
 - ・防災教室(和歌山大学防災チームの協力を得て、防災意識の向上)
 - ・水産試験場見学ツアー(時期により色々な魚や海藻について学習)
- 長期休暇以外
 - ・スポーツ教室(バドミントン・卓球・ビーチボールバレー・ユニホック)
- その他
 - ・児童音楽教室・料理教室・ハイキング

【実施に当たっての工夫】

変化する時代の中で、新しいことを取り入れながら、子供たちが参加しやすいような環境を目指している。料理教室では煮物や和え物離れが多い近年、子供たちに食べてもらう機会を提供したり、世界ジオパーク認定を目指す和歌山県を認知していただけるような科学教室(火山模型作成)を開催している。

休みに体を動かすことが少ない子供たちにスポーツ教室(初心者向け)を開催したり、長期休暇の際には夏休みの工作製作のお手伝いとして工作教室を開催している。インドアだけではなく、水産試験場の見学ツアーやハイキングで外での活動のお手伝いも行っている。

スポーツ少年団活動や習い事に行っていない子供たちが休日に有効活用できるような行事を計画している。

■ 事業を実施して

夏休み「子ども工作教室」やイベントは当初の募集定員を超過することが多く、ニーズにあった事業を行っていると認識している。

また、毎回違ったイベントを実施することで、子供たちも飽きがきていない。

もっと子供たちが参加しやすく、楽しい事業を企画していかなければならない。



工作教室



防災教室

地域住民と校区内の事業所職員が一緒に取り組む 子供たちの見守り

鳥取県境港市

■ 活動名

上道小学校学校支援地域本部

■ 関係する学校

境港市立上道小学校

活動区分	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
学校支援 地域本部	1人	138人	20年度	有
基本データ 放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
その他				

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

138名の地域住民ボランティアが、自分の得意分野やできることをできるときに学校支援活動を行っている。活動回数は250回前後でほぼ毎日の学校支援活動である。

(活動内容)

- ・登下校の見守り
- ・読み聞かせ
- ・花や野菜の栽培活動支援
- ・囲碁・茶道・金管などのクラブ活動支援
- ・剪定などの環境整備 など

校区内の介護老人福祉施設の介護職員もボランティアとして子供に関わっており、地域住民、事業所とまさに地域を挙げて子供たちを育てる・支える・伸ばす取組を進めている。

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

○地域住民だけでなく、校区内の事業所の職員も学校支援ボランティアとして活動

校区内の3つの介護老人福祉施設がボランティア募集に応じて、介護職員がボランティアとして地域住民とともに子供たちの登下校の見守り活動を行っている。このことにより、子供の安全・安心の確保や子供と大人の交流だけでなく、地域住民と地域に通勤し働く人との交流も進み、地域の一体感が醸成されつつある。

また、他地域から通勤している職員が学校支援ボランティアに参加することにより、他地域での学校支援の推進にも好影響を与えている。さらに多くの事業所等がボランティアに関わるよう働きかけを行ってきたい。

○広報活動

「コーディネーター便り」(年間3回程度)を作成し、全保護者、ボランティア、公民館、警察署などの関係機関に配布し、学校支援ボランティア活動の紹介や生き生きとした子供たちの姿を紹介している。また、子供たちや保護者、先生、地域住民に広く知ってもらうために「ボランティア紹介ポスター」を作成し、学校・公民館に掲示し、ボランティア募集も併せて行っている。

【実施に当たっての工夫】

○学校との連携

現在地域コーディネーターが1名で、市内の7小学校・3中学校のコーディネートを担当している。10校を回るのは大変であるが、定期的に学校訪問し、学校の要望等を聴き取り、コーディネートをを行っている。また、多くの学校を担当し、他校でのボランティア活動等情報をたくさん持っていることを活用して、学校への様々な情報提供できるのが強みである。

■ 事業を実施して

○毎日の登下校見守りにより、子供たちには、常に「地域の人たちに支えられて暮らしている」という意識が育っている。併せて、学校支援ボランティア活動を通じた住民間の交流が進み、地域の一体化の一端を担っている。

○子供たちの登下校の見守りが、地域の防犯意識の高揚につながっている。



「見守り隊」で安全・安心な登下校



毎週火・木曜の読み聞かせ

「ふるさとに誇りを持ち、ふるさとを愛する生徒」の育成～伝統芸能の伝承活動

鳥取県湯梨浜町

活動名

東郷中学校学校支援ボランティア活動

関係する学校

湯梨浜町立東郷中学校

基本データ	活動区分			開始年度	補助の有無
	学校支援 地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数		
		コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	放課後 子供教室	実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
		指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	コミュニティ スクール				
その他	○	※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)			

活動の概要

平成14年度中学校における「総合的な学習」の実施に伴い、地域の郷土芸能に触れ、地域の文化を学ぶ学習活動を取り入れ、地域の支援者との連携を始めた。

その後、国事業「学校支援地域本部事業」の実施を経て、平成23年度からは、単県事業「地域で育む学校支援ボランティア事業」(*)を活用し、郷土芸能・文化に触れる学習の他にも、読み聞かせや長期休業中の学力補充の補助、部活動指導、剪定や草刈りなどの環境整備など、支援者(学校支援ボランティアの登録)の拡大と支援内容の充実を図っている。

※【地域で育む学校支援ボランティア事業(県単位事業)】

<事業概要>

- ・コーディネーターを各学校に配置
- ・コーディネーター活動費、ボランティア活動費を県が負担(上限有り)
- ・協議会等の設置義務無し

<東郷中学校学校支援ボランティア事業の概要>

- ・コーディネーター 1名
- ・ボランティア 121名
- ・学校支援ボランティア活動回数 40回(年間)

特徴

【特徴的な活動内容】

○郷土の伝統芸能の伝承活動

地域の有志の指導者が、中学生に「龍踊り」「九品囃子」「浪人踊り」という地域の伝統芸能を指導している。この学習の成果として、校内文化祭での発表、地域行事での発表に加えて、研修旅行先の沖縄の中学生と文化交流を行っている。伝統芸能の伝承が郷土を愛する心を育てるとともに、交流を通じて、生徒の視野を広げることにつながっている。

○地域で学ぶ体験学習

地域の特産品である「二十世紀梨」の袋かけ作業を、地域の農家の協力を得て、3年生全員が体験学習している。梨栽培について学ぶだけでなく、農家の方との交流を深めている。



華麗な「龍踊り」

【実施に当たっての工夫】

- 普段からコーディネーターが学校に出入りし、管理職をはじめ先生方とコミュニケーションをとり、密接な関係づくりを行っている。また、必要に応じて、校長・教頭・教務主任・学年主任とコーディネーターで、学校支援ミーティングを行い、学校側の要望や地域の願いを出し合いながら、学校支援活動の企画や運営について連携を図っている。
- 町内の各小中学校のコーディネーターが集まり、「学校支援コーディネーター連絡会」を年2回行い、情報交換やお互いの課題解決に向けた話し合いを行っている。

事業を実施して

- 「社会体験の場の提供＝地域の役割」の想いが各支援者に浸透し、地域が学校を支える風土が地域全体に根付くとともに広がりつつある。
- 東郷中学校では、このような熱心かつ継続的な地域の支えを受けながら「東郷中学校で学んで良かった」と誇りに思える学校、「ともに学びともに伸びる仲間」を大切にしている学校づくりを進めている。今後もこの支援活動により教育環境の更なる改善・充実発展が期待できるとともに、中学校が目指す「ふるさとに誇りを持ち、ふるさとを愛する生徒」の育成を着実に推進できるなど教育効果はとて大きい。



特産「二十世紀梨」の袋かけ作業

公民館・学校・地域商社との協働による食育活動の推進と「人づくり地域づくり」

島根県益田市

■ 活動名

真砂地区教育協働化推進本部

■ 関係する学校

益田市立真砂小学校・益田市立真砂中学校

活動区分	学校支援		地域本部					
	コーディネーター数	3人	ボランティア登録数	118人	開始年度	23年度	補助の有無	有
放課後 子供教室	コーディネーター数	3人	子供の平均参加人数	14人	年間開催日数	17日	補助の有無	有
	実施場所				開始年度	放課後児童 クラブとの連携		
	真砂公民館、小学校余裕教室				17年度	無		
コミュニティ・ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数				
その他	※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)							

活動の概要

真砂地区には、いずれも小規模校の小学校1校、中学校1校があり、支援のために協議会を定期的に開いたり、小中学校の教職員が公民館に訪問したりするなど、いつでも協議する環境ができており、学校と地域の関係は大変密接である。

真砂地区においては、平成12年度から市内の他地域に先駆けて学校支援が開始された。加えて、平成17年度から放課後子供教室(ボランティアハウス)が実施され、地域ぐるみで子供を育む意識が地域全体で共有されてきた。

さらに、平成23年度より、益田市では地域ぐるみで子供の育成を目指した「益田市教育協働化推進事業」(以下:協働化)を全小・中学校で実施している。この事業は、学校支援地域本部事業を柱とし、島根県独自の「ふるさと教育推進事業」や「放課後子どもプラン」との有機的な連携を進めながら展開している。

真砂中学校区の真砂公民館にコーディネーターを配置し、公民館を核として「地域ボランティアの創出」と「地域と学校の連携を推進する体制づくり」を図り、地域ぐるみで心豊かなたくましい子供の育成と地域の教育力の醸成を目指している。

そうした取組の中で、推進本部では単に学校が必要な支援をするだけでなく、できるだけ多くの関係団体や住民を学校支援の活動に巻き込みながら地域ぐるみで取り組む活動につなげていくことを重視している。

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

- ・公民館で行う有機野菜作りの学習に小・中学校も参加し、安心・安全な「食」について学びながら野菜の栽培をする活動。
- ・レストランのシェフを講師にした味覚の授業。
- ・学校とPTAとが連携した「弁当の日」の取組。
- ・学校・地域商社、PTAとが連携して行う地元の安心・安全な食材を活用した商品開発の実践。(この実践から「真砂バーガー」や「納豆マーボー丼」等の商品が開発され地域商社より商品化されている)
- ・学校・公民館・地域商社が連携して行う真砂の商品の販売活動。(小・中学校ではキャリア教育の一環として実施)

【実施に当たっての工夫】

- ・教職員は「コーディネート依頼書」をとおして随時コーディネーターに依頼でき、依頼書をもとに両者が詳細を詰めて学校支援を行うというシステムが構築されている。
- ・「食育」というテーマを、学校だけのものとすることなく、地域ぐるみで実践していく事を課題とし、関係する団体や地区住民の参画を促しながら事業展開し地域の教育力が高まるよう意識しながら実施している。
- ・食育への取り組みは学校だけにメリットのある活動にするのではなく、関係する団体や住民にとってもメリットのある活動になるよう意識して実施している。
- ・本物の体験、本物の人と子供たちが直接触れるような活動を可能な限り取り入れられるよう工夫している。
- ・商品開発や「弁当の日」など保護者も一緒になって考え、実践できるよう工夫している。



子供が考案した納豆マーボー丼

■ 事業を実施して

真砂地区でも少子高齢化が進んでいる。食育に目を向けた取組が学校で行われていることを地域住民が理解し、安心安全な農作物を作り、市内の保育所等に販路が拡大すると、形が不ぞろいであっても収入源となることで高齢者が元気になる。また、児童生徒にとっても、自ら考えたレシピが評価されたり、商品化されたりするなど、学習したことが生かされる機会となった。また、販売をとおして人々に接することが、コミュニケーション能力の向上や将来の夢につながっている。

■ その他

地域住民が公民館講座で学んだ成果を児童・生徒に還元する機会となっており、子供たちだけでなく地域住民にとっても欠かせない地域の教育活動となっている。児童生徒のために始めたが、高齢者自身の生きがいになり、改めて地域を愛する気持ちが生まれている。

公民館が学校支援と放課後支援のコーディネートを兼ねており、地域における教育支援活動の拠点となっていることから、今後も継続した活動が期待できる。



真砂食材等販売の様子(隠岐の島へ出向いて)

地域住民をつなぎ、地域を活性化させ、地域の教育力を高める学校支援活動

島根県安来市

■ 活動名

島田交流センターを中心とした地域の活性化を目指した仲間づくりと人づくり

■ 関係する学校

安来市立島田幼稚園・安来市立島田小学校

活動区分	基本データ			
	学校支援 地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度
放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
その他	○ ※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)			

活動の概要

島田地区では、交流センターの重点目標を受け、「地域の仲間づくりと思いやりのある人づくり」を推進している。

交流センターには、運営協議会が存在し、青少年健全育成協議会や老人会など、島田地区の15の団体が所属している、その団体を中心に「地域の人・自然・伝統・歴史・産業とのふれあいを通した健全育成」を掲げ、交流センターを活動の拠点とし、地区民が結集して青少年健全育成活動に取り組んでいる。

その中で、平成8年度より「地域支援活動」という名称のもと、幼稚園・小学校の教育活動支援が積極的に行われている。この「地域支援活動」については、島田交流センターが中心となり、交流センター主事がコーディネーターとして地域と学校をつなぐ役割を果たしている。

本活動は、学校ではなく、地域（交流センター）が主体となっているところが大きな特徴である。地域（交流センター）は地域の人づくり、まちづくりの目的意識を明確にしながらPDCAサイクルがしっかりと機能した活動を重ねてきた。

そのために、地域の支援によって地域に生きる子供たちが育つとともに、子供たちに関わることによって、地域連携の深まり、大人の生き甲斐、生涯学習に対する意識の高揚が図られ、そのことが、あらためて質の高い学校支援活動につながっている。

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

- ①地域の交流センターが主体となり、明確な目的意識のもと、交流センター主事のコーディネートにより、年間を通して学校支援が行われている。学校支援については、実施前に必ず授業担当者との打ち合わせの時間を確保し有機的な支援が行われるようなシステムが作られている。
- ②支援終了後には、必ず交流センターで反省会が行われ、その中では、子供理解の深まり、授業支援の改善、子供に見せる大人の姿の再確認がなされていること。結果としてそのことが、支援に関わる地域の大人たちの有用感を高めることにつながり、より積極的な学校支援を展開することにつながっている。

【実施に当たっての工夫】

- ①地域の拠点である交流センターが本活動の中心となっていることにより、学校関係者及び支援者(地域住民)の学校支援に対する主体性の高まりが期待できる。
- ②平成20年度から交流センター主催で独自の学校支援スキルアップ講座を開催し、学校支援に関わる地域住民のスキルアップが図られるとともに、支援者の意識の高揚が図られている。
- ③学校支援に関わる地域の大人たちが一同に会する交流会を開催し、これまでの地域住民のつながりを改めて確認する機会、また新しいつながりを生む出発点にもなっている。

■ 事業を実施して

平成8年度から本活動を継続してきたことにより、地域住民の学校支援に対する意識が高まり、支援活動への参加が増えたことに加え、様々な活動に対する支援者の動きも積極的なものになってきた。学校と交流センターが何でも言い合える非常に敷居の低い関係となっており、日常的に情報交換がなされていることはこの事業を支えるポイントである。

幼稚園、小学校での活動を通して地域の支援者にお世話になった子供たちが、学校を卒業後、進んで支援者の立場で交流センターを訪れるようになるなど、持続可能な活動のための好循環が生まれている。

■ その他

本活動を17年間継続・発展させてきたことにより、「地域の子供は地域で育てる」という意識が地域住民に浸透し、学校・家庭・地域が連携して本活動に取り組んでいる。

また、地域全体で学校支援を行うために必要な組織的な体制が整えられている。



昔の遊び講座の様子



学校支援スキルアップ講座の様子

「あげこげ言わずにみんなで作らあや、わいらの島の子育て」 有木小学校への学校支援活動

島根県隠岐の島町

■ 活動名

有木小学校への学校支援活動

■ 関係する学校

隠岐の島町立有木小学校

活動区分	学校支援		開始年度	補助の有無
	地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	20年度
放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	13人	32日	有
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	有木小学校図書館		23年度	無
コミュニティ・スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
その他				

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

有木地区の住民は約700名である。近年、学校が高台にあったり、少子化により、子供のいない地区があったりするなど、地域と学校が離れつつある状態にあった。そのような状態の中、平成20年度より本活動を開始し、コーディネーターの熱い思いと、前向きに地域住民を学校教育の中に取り込む手腕と学校の協力により、学校と地域が協働したよりよい教育活動ができるようになった。自治会総会に管理職とコーディネーターが参加し、学校の活動を紹介してボランティアを募集したり、お世話になった地域の方を招待する「地域公開参観日」を設けたりする取組などを行い、地域と学校をつなげるとともに地域が学校を支援する体制をつくった。

また、本活動は校区にある高校にも広がり、高校生が「放課後先生」として放課後の学習支援に携わる活動が生まれている。さらに、コーディネーターが所有している、田やクヌギの森などを提供することにより、地域住民の協働によるダイナミックな活動、広がりのある活動が行われている。さらに、本活動や活動を通じた人的ネットワークが、有木地区のみならず隠岐の島町公民館の子供の居場所づくり事業にまで展開を見せている。

「あげこげ言わずにみんなで作らあや、わいらの島の子育て」というのは、「ああだ、こうだと言わずに、みんなで作ろうよ、私たちの島の子育て」という意味である。この有木小学校、地域、地域コーディネーターの思いをもとに、今年度隠岐の島町「わいらの島の子育て」協働プロジェクトの組織ができあがった。

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

地域コーディネーターが核となり、地域と学校が密接につながり、学校の多様な教育活動を地域住民が支援するとともに、教職員や子供たちが積極的に地域の活動に参加する双方向の取組がなされている。

また、地域コーディネーターが所有する田やクヌギの森、果樹園を提供することにより、その活動の輪が学校の教育活動だけでなく、公民館の子供の居場所づくり事業に発展を見せている。

このように、本活動は、有木地区のみではなく隠岐の島町全体に広がり、他地区のコーディネーター、放課後子供教室の安全管理員、公民館職員、その他、その活動に関する専門家など、幅広い人材との連携を図っている。

【実施に当たっての工夫】

地域コーディネーターが普段からの地域の方や学校の教職員とのコミュニケーションを大切にしていることにより、多くの方とつながると共に、学校の学習も把握し、学校が必要としている人材を必要な時に活用することができている。

自治会の総会に管理職とコーディネーターが参加し、学校の学習活動を紹介し、ボランティアの募集をしている。また、地域の公開参観日も行い、地域の方が学校に行きやすい環境を作りだしている。

放課後支援においても校区にある高校生が「放課後先生」として、後輩たちの放課後の学習支援を行うことにより、相互のコミュニケーションが深まり、高校生にとっての自己有用感につながっている。コーディネーターは、隠岐高等学校や隠岐養護学校ともつながるパイプ役となっている。

■ 事業を実施して

小学校の教職員からは、「コーディネーターが地域を知り、学校の要望にすぐに対応してくれるのはもちろん、学校の学習活動も把握してくれている。コーディネーターの方から、学習に使えるような地域の情報や人を伝えてくれるのでとても助かっている。」との感想があるなど、学校と地域の連携の深まりが一段と強まっている。

「協働」、「活動の広がり」という2つのキーワードを地域と学校が常に意識し、それを有木地区だけでなく隠岐の島町の子供や大人をつなぐ活動に発展させている。

■ その他

「自分が楽しむことが一番。協働には日頃の人との関わりが大切。みんな関わりたいと思っているから遠慮はいらない。思ったらやってみる。」など、コーディネーターを中心とした地域の学校支援への意識の高まりが、有木地区だけでなく隠岐の島町の子供のために取り組む原動力となっている。



どろんこ運動会



森(コーディネーター提供)での体験活動

地域住民みんなが学校の応援団！公民館と連携した多彩な支援！地域づくり人づくりにも効果！

岡山県高梁市

■ 活動名

巨瀬学園支援ボランティア活動

■ 関係する学校

高梁市立巨幼稚園・高梁市立巨瀬小学校

活動区分	基本データ			
	学校支援 地域本部	コーディネーター数 1人	ボランティア登録数 30人	開始年度 20年度
放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
その他				

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

公民館に活動拠点を置き、地域の様々なリソースを有効に活用した支援を展開。地域住民に活動を広く広報したことにより、多くの地域住民が活動に参画し、学校を核とした地域づくりの端緒となった。

主な支援内容

- ・習字学習、図画学習、野菜づくり等の農業体験学習などの学習活動支援
 - ・運動場の草取り等の環境整備支援
 - ・遠足時の引率補助、運動会のテント設営・片づけなどの学校行事支援
 - ・登下校時の安全パトロール等の見守り支援
 - ・篠笛、祇園踊りなどの地域の伝統文化、注連縄作り、七夕など古来の文化を伝える伝統文化指導 等
- こうした幅広くかつ活発な活動が多くの地域住民により行われている。大人たちからの支援や励ましにより、子供たちは達成感や有用感を得たり、学習意欲の向上などの効果が見られる。
- また、学校の先生方の様々な負担感軽減にも効果が見られる支援活動である。
- なお、支援ボランティアには、知識・技能をもった方を中心に、初心者を加えることで、ボランティア自身の生涯学習・自己研鑽の場としても活用できるよう努め、同様の支援活動の時でも参加するボランティアを順次変えるなどの工夫により、できるだけ多くの地域住民が学校にかかわれるように配慮している。

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

支援の内容は、学校行事、環境整備、安全指導、学習活動など一般的な支援活動であるが、ボランティア 活動が終わると公民館に戻り、あくまで学校の要望に応じた支援を行い、「教師の負担を減らし、子どもたちと向き合う時間の増加に寄与する」という明確な目的をもって支援活動にあたっている。

地域の子供たちは地域が見守り育てるという想いがあるため、小学校と幼稚園ともに同様の支援を行い、「巨瀬学園支援ボランティア」と称している。特に子供たちに故郷への想いをいつまでも忘れないように地域の伝統文化の良さを伝えることに力を注いでいる。

【実施に当たっての工夫】

人や情報等が集積する公民館に活動拠点を置くことで、公民館の持つ地域ネットワークやノウハウ等を生かした取組が展開されている。

また、地域や学校・園に精通した元校長の地域コーディネーターと連携しながら、地域の様々な資源を効果的に学校支援活動につなげている。

年2回学区全戸にボランティア活動の報告を行うとともに、保護者、まちづくり推進委員会、婦人会、老人クラブ等にも呼びかけており、多くの地域住民がボランティアとして参加し、積極的な活動が行われている。巨瀬地域住民全員が学校の応援団という考えで、学校を核とした地域社会づくりが行われている。

■ 事業を実施して

学校は地域のシンボル、子供たちは地域の宝である。事業を通じ、地域住民の中にこうした思いが高まり、学校や子供を核にした地域づくりの促進につながっている。

また、支援の中核を成す地域の高齢者ボランティアからは、支援活動を通じ、「子供たちとの交流が楽しみ」「子供たちと接点生まれ、学校外でも声をかけてくれる」といった感想が寄せられ、支援活動が地域の活性化にもつながっている。



遠足引率補助(小学校)



祇園踊り(伝承芸能)の指導(幼稚園)

安全・安心な居場所づくりが実現！学習習慣の定着、心の成長などにも効果！

岡山県吉備中央町

■ 活動名

大和放課後子ども教室

■ 関係する学校

吉備中央町立大和小学校

基本データ	活動区分				
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		1人	52人	76日	有
		実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	同小学校体育館内ミーティングルーム		19年度	無	
コミュニティ・スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	
その他					

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

【開催日】木・金曜日の放課後及び参観日
月1回、週末に公民館事業と連携した取組

【活動時間】下校後～18時

【主な活動内容】

宿題等の学習、異年齢での遊び、公民館講座と連携した工芸作品作り及び地区文化祭への出展、地域の高齢者への絵手紙を通じた交流等

【教室の特徴等】

大和小学校児童にとっては任意の参加であるが、全校児童69人中67人が本教室に登録しており、異年齢交流の場として、重要な子供の居場所となっている。子供と地域住民の距離が縮まったことにより、子供からのあいさつが増え、地域住民が多くの子供に声掛けをするなどの効果が確実に広がっている。

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

放課後子供教室・学校・家庭の連携が有機的に行われており、子供に関する情報共有が図られている。特に学校は、放課後子供教室の運営会等に校長、教頭が出席して子供たちの情報共有を図ったり、PTA総会で放課後子供教室について保護者に説明したりするなど、放課後子供教室を子供たちの大切な成長の場としてとらえ、積極的に協力している。

【実施に当たっての工夫】

子供たちへの対応や安全管理等に関するマニュアルを町内の他の教室に先駆け独自に作成し、コーディネーターが教育活動サポーター・教育活動推進員に周知したり、学校とスタッフの話し合いの場を持ち共通理解を図ったりしている。マニュアルは随時見直しを行うなど子供たちの安全管理に十分に配慮した運営を行っている。

子供と保護者に教室におけるルールについて説明を確実にに行い、子供の交流、体験の充実、安全安心の確保に努めている。

公民館と連携を図り、地域の達人が絵手紙・編み物・トールペイントなどを子供に教えたり、老人大学と一緒にお飾りづくりやグラウンドゴルフを行ったりしている。子供が地域の高齢者への尊敬の念をもつことができるとともに、地域住民の学習意欲も向上しており、子供も大人も学び合う「知の循環」につながっている。

■ 事業を実施して

教室での活動を通じて、異学年の子供同士の交流が生まれ、上級生が下級生に対して見本となる行動を示したり、上級生が下級生に対して思いやりのある行動がとれるようになったりすることなどの子供たちの成長に大きな効果をもたらしている。

また、活動後に集団下校することから、下校時の安全にもつながったり、子供たちと地域の方々との交流により、相互に顔のわかる地域づくりにもつながったりするなどの効果がみられる。



はじめに全員で宿題等の学習



地域の達人による、ちぎり絵教室

地域の子供たちは地域で育てる!! そのために地域の大人は手をつなぐ!!

広島県廿日市市

■ 活動名

友和小学校区学校支援地域本部

■ 関係する学校

廿日市市立友和小学校

活動区分	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
学校支援 地域本部	2人	72人	22年度	無
放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
その他	○	※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)		

活動の概要

友和小学校区学校支援地域本部は、地域に根ざした教育環境づくりを、学校教育の場で「支援」といった形で具現化し、教員や地域の大人が子供と向き合う時間の拡充や地域の子供たちは地域で育てる態勢の強化及び子供たち一人一人に「生きる力」を身につけることを目的に活動を行っている。

具体的には、書写や家庭科等の実技を中心とした学習支援、校外学習の際の見守り活動、大豆の定植から始める味噌・豆腐づくり等の体験活動への支援のほか、掃除方法の指導、クラブ活動の支援等、年間を通じて様々な場面で支援を行っている。特に新1年生が初めて下校する際には、支援者が下校班に同行して、子供たちが各家庭に帰り着くまで見守りを行っている。

様々な学校支援の活動を行う中で、子供たちには、感謝の気持ちが育ち、学校行事へ学校支援ボランティア等の地域住民を招待するなど、児童が主体となった地域住民との交流活動を行っている。

また、地域住民が主催する行事では、「敬老会」での司会や「レンゲまつり」のスタッフなど、子供が地域の一人として役割を果たすことができるようプログラムを工夫している。

「子供は地域の宝、地域で育つ」という共通認識の下に、地域住民と学校、そして保護者が互いに信頼し、協力して活動している。



新1年生下校見守りの様子

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

○子供に関わる大人たちがつながる取組

学校支援ボランティアなどの学校支援者(以下「支援者」という。)や教職員、保護者も含めた子供と関わるすべての大人が手をつないで活動を推進するため、関係者間の交流を図る様々な機会を設けている。

◇支援者と教職員の交流

支援者と教職員の交流会が開催され、互いに日頃からの思いや感謝の気持ちを伝えることで信頼関係が深まっている。

◇支援者と保護者の交流

保護者主催の給食試食会に支援者が招かれ、保護者が支援者へ感謝の言葉を述べたり、支援者が子供たちの活動の様子を保護者に伝える場を設けている。

また、支援者が、学習支援で子供たちに指導した「地域の伝統料理(家庭科)」の内容を保護者に料理教室として提供することや、通学宿舎を実施する際に事前説明会を2回行い、保護者の意識付けを行うとともに、子供が決めた献立を事前に家庭で作ってもらうなど、地域の伝統文化の継承や家庭の教育力の向上につながる活動を行っている。

【実施に当たっての工夫】

関係者が互いに信頼関係を築き、継続していくため、次のような取組を行っている。

○支援調整会議を毎月1回開催

支援調整会議では、学校や地域の行事等の予定を早い段階で情報提供し、学校行事と地域行事の重複がないよう調整することで、それぞれの行事に参加できる工夫を行っている。

○地域コーディネーターが中心となり自主研修会の開催

自主研修会では、活動の振り返りや支援の際の確認事項の徹底を行っており、学校と支援者の間に強固な信頼関係が築かれる基となっている。

○学校支援ボランティアの活動拠点「ふれあいルーム」の設置

学校の中に支援者の居場所として「ふれあいルーム」を設置しており、掃除は他の教室と同様に子供たちが担当し、掃除の時間にも交流を行っている。

○学校行事へ積極的な参画

学校の文化的行事である「友和っ子まつり」では、各クラスやPTAの出店に混じって支援者も出店するなど、学校に支援者の活動が位置づいている。

■ 事業を実施して

平成24年度に本市が市内の各学校支援地域本部に対し実施したアンケートにおいて、自分が住んでいる地域を「前より好きになった」「前から好きだった」と回答した児童生徒の割合は市内6本部合わせて87%であったが、友和小学校区学校支援地域本部では、94%と高い結果を得ることができた。

その理由としては、「地域の人々が笑顔だから」「地域の人々は皆を守ってくれるから」「今まで知らなかったことを地域の方から教えていただいたから」など、地域の方とのふれあいを挙げる児童が多かった。幅広く、良い人間関係を築くことが、子供たちの地域への愛着につながっていることが伺える。

■ その他

学校支援ボランティア登録者以外にも、多くの地域住民の方々が、子供と接し、その成長を見守っている。地域全体で子供を見守り育てていく意識が高く、下校時間に合わせて庭先や畑に出て子供を見守るなど、「できる事をできるときに」という支援を行っている。

■ 参考URL

【廿日市市HP】http://www.city.hatsukaichi.hiroshima.jp/kyouiku_bunka/shogaigakushu/gakkousien.html

【友和小学校HP】<http://ww7.enjoy.ne.jp/~yuwa-e/>



友和小学校区学校支援地域本部組織図



自主的に実施されているボランティア研修会

自治センターが学校支援活動の要!! 児童生徒の自主・主体性を育む活動を展開!!

広島県世羅町

■ 活動名

甲山地域推進協議会

■ 関係する学校

甲山中学校・甲山小学校・せらひがし小学校

活動区分	基本データ			
	学校支援 地域本部	コーディネーター数 5人	ボランティア登録数 20人	開始年度 20年度
放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所			開始年度 放課後児童 クラブとの連携
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
その他				

*H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

甲山地域推進協議会は、小中学校と地域が連携して「輝く子供を育てる」ことを目的に活動を行っている。本事業は、文部科学省の事業指定を平成20年度に受け、甲山中学校へ地域教育協議会を設置するとともに、地域コーディネーターを配置し、学習支援活動や部活動支援、環境整備支援など、地域住民から多くの学校支援ボランティアを得ながら学校支援活動を行ってきた。

平成24年度からは、広島県教育委員会「心の元気を育てる地域支援事業」の指定を受け、それまでの学校支援活動で取り組んできた内容を活かし、甲山中学校区内の5地区の自治センターや、1中学校(甲山中学校)・2小学校(甲山小学校・せらひがし小学校)のPTAと連携し、小・中学校への学校支援に取り組むため、「甲山地域推進協議会」に組織を改変し、活動を行っている。

甲山地域の5つの自治センター(5施設:旧公民館)を通じて、地域住民に学校支援の呼びかけを行い、年間延べ300名のボランティアの参加を得ることができている。また、地域の良さを知る「ふるさと学習」など、小・中学校の学習支援活動に新たに取り組んでいる。



児童会・生徒会合同会議の様子

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

- 児童生徒が、地域のつながりを強め、郷土愛を育むための活動
児童会・生徒会及び校区内5自治センターが共同企画し、児童生徒が自分たちの故郷を良くしていくための活動(年3回)を通して、地域とのつながりを深める活動を行っている。
また、総合的な学習の時間や道徳、特別活動で、学校支援ボランティアが講師となり、地域の歴史・文化や自然について学習する「ふるさと学習」を小・中学校で行っている。
- 学習支援ボランティアが、小中連携教育へ貢献
中学校区の小中連携教育を行う「甲山教育研究会」と連携し、地域の担い手となる子供たちを育てるための教育活動を行っている。具体的には、地域住民の方が、学習支援活動、環境整備支援活動として、子供たちに、読書に関心を持たせるための読み聞かせや学校図書室の整備を毎月行っている。

【実施に当たっての工夫】

- 学校と地域の双方にメリットのある活動を通して、児童生徒の自主・主体性を育む
学校と地域の双方にメリットのある活動として、校区内の環境を整備する「グリーン大作戦」、「花いっぱい運動」の活動を行っている。活動の計画は、児童会・生徒会の役員が、企画立案することにより、中学生のリーダー性を育成するとともに、自主的・主体的に活動できる児童生徒を育成している。
- 児童生徒の実態に応じた活動
甲山地域推進協議会では、中学校区の児童生徒の実態(学校生活、学習状況など)を出し合う中で、学校にどのような支援を行えるか、活動内容の協議を行い、児童生徒の実態に応じた活動を実施している。
- 学校支援活動に係る教職員研修
甲山中学校区の小・中学校全教職員を対象にした学校支援活動に係る研修を行っている。地域の方を講師に招き、地域の思いや学校に期待することについて聞く機会を設けることにより、協働で活動する体制づくりのための研修を行っている。

■ 事業を実施して

- 地域行事へ参加する児童生徒の増加
児童生徒は、地域住民との交流を通して、より多くの知識を得ることができている。また、地域住民とのつながりが深まることで、ふるさとへの愛着を持ち、地域行事にも積極的に参加する子供たちが増加している。
- 児童生徒の自己存在感、自尊感情が高まる
児童生徒が、企画立案した小中合同の地域環境整備支援活動に、保護者・地域の方々とともに活動することで、児童は、地域の方と顔見知りになるとともに、中学生への憧れの気持ちを持つようになった。中学生は、小学生をリードすることで、自己存在感や自尊感情などが高まっている。(平成24年度アンケート結果:児童生徒の自尊感情が4.8ポイント向上)
- 地域教育力の向上と地域住民の学校教育への理解と信頼
学校支援活動に地域住民の方々が見学することで、児童生徒の様子を知る機会となり、学校教育への理解と信頼感を強めることにつながっている。また、地域住民の方が、これまでの経験や学習してきた内容を学校支援活動に活かすことで、地域の教育力の向上につながっている。

■ その他

- 地域住民の方々が、協力的であり、子供たちへの関心が高く、「子供たちを地域で見守る」という思いが強い。
- 各小・中学校と自治センター(旧公民館)との連携が強まり、学社融合の取組が強まっている。

■ 参考URL

- 【甲山中学校HP】<http://www.edu.town.sera.hiroshima.jp/kouzan-jhs/>
- 【甲山小学校HP】<http://www.edu.town.sera.hiroshima.jp/kouzan-es/>
- 【せらひがし小学校HP】<http://www.edu.town.sera.hiroshima.jp/serahigashi-es/>



学校だより「心の元気だより」



甲山地域推進協議会組織図

地域の子供は地域で守り、地域で育てる!!

広島県庄原市

■ 活動名

山内放課後子ども教室

■ 関係する学校

庄原市立山内小学校

活動区分	基本データ			
	学校支援 地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度
放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	9人	239日	有
	実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
庄原市山内自治振興センター		22年度	無	
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
その他				

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

山内放課後子ども教室は、安全・安心な子供の活動拠点を設け、地域住民の方々の参画を得て、子供たちとともに、勉強やスポーツ、文化活動、地域住民との交流活動などの取組を推進することを目的に活動を行っている。

活動は、放課後や長期休業中の子供たちの活動拠点を提供するだけでなく、指導方針を定め、地域住民の方々の参画を得ながら活動を行っている。

具体的には、英語、音楽、星の観察などの学習活動、サッカーやドッジボールなどのスポーツ活動、川遊びやジャガイモ栽培などの自然体験活動、地域行事を通じた地域住民との交流活動など、多彩な活動を行っている。

活動の拠点は、小学校に隣接している自治振興センター(旧公民館)で行っており、平日は、下校時から午前6時30分まで、長期休業中は、午前8時から午後6時30分まで活動を行っている。

また、自治振興センターを活動拠点にしている利点を活かし、教室の活動成果を展示するなど、地域住民の方へ広報活動を行っている。



英語学習の様子

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

- 教室での活動成果を地域行事で発表
文化活動で取り組んでいる人形劇を、地域行事「ふるさと祭り」で発表し、地域住民の方々へ教室の活動成果を披露するとともに、活動への参画を図っている。
- 教室独自の学習教材(英語)の作成・活用
毎月2回(第2、第4金曜日)英語の学習活動を行っている。教材は、教育活動推進員を中心に作成し、継続した学習活動を行っている。
- ボランティア活動の実施
毎年、地域にある原爆慰霊碑の清掃をボランティア活動として行い、8月6日の原爆の日に関わり、平和学習を行っている。
- 地域住民の方々による多様な活動
地域住民の参画により、14人の教育サポーターが、多様な活動を展開している。
<主な活動>
○自然体験活動(川遊び、カヌー体験、蚕の飼育と糸取り、農作物栽培等)
○遊び・体力づくり(バンブーダンス、卓球、一輪車のり、ドッジボール等) ○学習活動(読み聞かせ、英語、音楽等)
○文化活動(人形劇の取組等) ○行事の企画活動(節分、クリスマス会、七夕、雑流し等)
○その他
(食事づくり、ふるさと祭りの参加(地域交流)、社会教育関係施設での活動等)

【実施に当たっての工夫】

- 指導方針を定めた教室運営
登録児童が、自分のやりたいことや楽しいことを活動するのではなく、学習活動やスポーツ活動、体験活動などの様々な活動を通して、難しいことにも丁寧に、最後までやりきる力や仲間と協力する力、好奇心や考える力、感動する心を育てるために、5つの指導方針を定め活動している。
<指導方針>
①安心して、安全に過ごせる場とする。
②将来、誰からも信頼される人になるために、人間性を育てる場とする。
③集団の中での在り方を身につけさせる場とする。
④集団での活動の決まりを守らせる。
⑤保護者、学校の連携を密にする。
- 指導者会議を開催(毎月1回)
毎月1回指導者会議を開催し、その月の活動内容を検討するとともに、指導者の意識統一を図っている。



原爆慰霊碑の清掃と参拝の様子



蚕の飼育の様子

■ 事業を実施して

保護者からは、「基本的生活習慣が向上した」などの感想が寄せられ、家庭ではできない様々な体験的な活動を通して、子供の成長が見られることへの高い評価を得ている。

また、教室内での異年齢交流だけでなく、教育サポーター、地域住民と関わる機会が増え、地域全体で子供を育成する仕組みが確立している。

地域の「ひと・もの・こと」との関わりの中で子供を育てる。その中心は公民館！

山口県長門市

活動名

深川地域協育ネット

関係する学校

深川幼稚園・深川小学校・向陽小学校・深川中学校

活動区分	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
学校支援 地域本部	1人	約300人	24年度	有
放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	2人	25人	196日	有
	実施場所 旧保育園舎		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
			23年度	無
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	深川中：平成23年11月10日	15人	317人	13学級
	深川小：平成21年12月25日	15人	561人	21学級
	向陽小：平成22年10月21日	12人	54人	7学級
その他				

※H24年度の実績
(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

深川地域協育ネットの活動は、深川中学校校区を一まとまりにした体制で進めている。本地域協育ネットは、子供の健全育成に関わる既存の組織や学校教育活動を支援している団体や個人の上に地域総がかりで子供を育てるという「深川地域協育ネット」の網をかぶせて、公民館がコーディネーター役をし、学校と地域・関係団体をつないで活動している。公民館は、地域の多くの人たちが「集い」「学び」「むすぶ」役を担っている。そこで、公民館が中心となり既存の公民館運営協議会を活用し、「深川地域協育ネット協議会」を設置した。学校と地域や関係団体とのつながりは、3小・中学校の学校運営協議会事務局及び担当教員と公民館のコーディネーターとで幹事会を組織し、少しでも実働的な活動になるよう取り組んでいる。

年度当初の各小・中学校の学習計画に沿って、人材やグループ・団体をつなぎ、学習支援を行った。子供たちは、それぞれ専門の方々や地域の人たちの知恵に学び、意欲的に学習に取り組んでいた。つないだ教育活動は、水泳指導、防災教育、クラブ活動、教科指導など、ほぼ全教育活動に及ぶ。また、地域や関係団体から、子供たちの諸行事への参加要請も受け、子供たちを多様な体験活動へと関連づけていった。

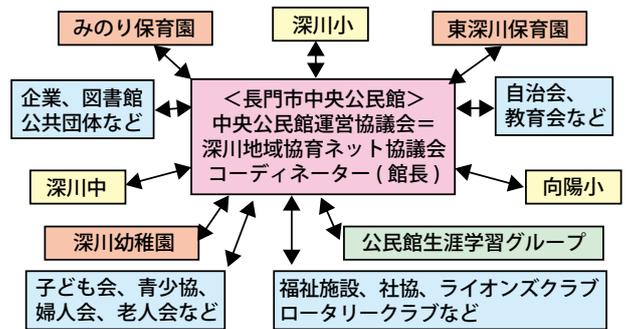
土曜日の子供の居場所づくりとして、公民館が中心となり教員や地域の人たちを指導者に、「わくわく土曜塾」を開催し、学校での机上の学習では学べない多様な体験活動も仕組んでいる。

特徴

【特徴的な活動内容】

公民館が中心になり、コーディネーター役を担うことで、多様な人材や活動団体・グループを、学校教育諸活動につなげることができ、より効果的な学習活動を仕組むことができる。

学校がもっている既存の学校支援ボランティアだけではなく、公民館で活動している社会教育関係団体や生涯学習グループ・地域の人たちをつなぐことで、多様な学習支援ボランティアの選択が可能となっている。



深川地域協育ネット組織図

【実施に当たっての工夫】

学習ボランティアへの支援要請文書や礼状などは、公民館のコーディネーターが発送し、教職員の負担軽減にもなっている。

公民館がコーディネーター役を担うことで、「地域総がかりで子供を育てる」という活動がより効果的に行える。

「地域総がかりで子供を育てる」という活動内容や意図を公民館だよりも取り上げ、地域住民へ知らせ啓発に努めている。

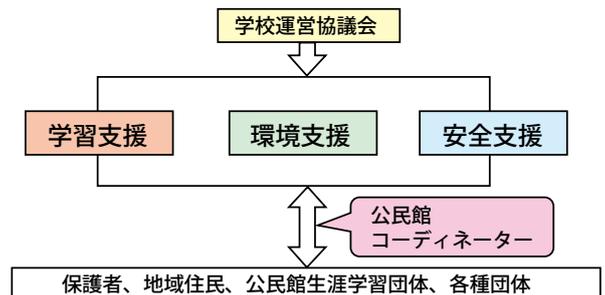
事業を実施して

地域住民や生涯学習グループ・社会教育関係団体の方々が、今まで以上に学校教育諸活動に関心をもち学校支援に関わっている。また、子供たちと活動することで、「子供たちから逆に元気をもらっている」とやりがいを感じている。

学校支援に関わる地域の方が、学校外(街など)で子供たちに声をかけられ、喜んでいるという声を聞く。

その他

土曜日の子供の居場所づくりとして、教員や生涯学習グループ・各種団体が一緒になって「わくわく土曜塾」を開催している。毎月第1土曜日に、囲碁・将棋、卓球、語学、体操、第2・4土曜日に多様な体験活動を仕組んでいる。75名の子供たちが暑さや寒さに負けず活発に活動している。



学校支援の流れ

中学校区を一まとまりとし、子供たちの育ちや学びを地域ぐるみで見守り・支援!

山口県平生町

活動名

平生町地域協育ネット

関係する学校

平生中学校・平生小学校・佐賀小学校

活動区分	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
学校支援 地域本部	1人	111人	20年度	有
放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	4人	21人	180日	有
	実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
	平生小学校図工室等、中央児童館、佐賀小学校図工室等		19年度	有
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	平生中：平成25年3月25日	12人	322人	13学級
	平生小：平成20年7月1日	12人	532人	20学級
	佐賀小：平成22年7月6日	12人	73人	7学級
その他	※H24年度の実績 (補助の有無についてはH25年度の状況)			

活動の概要

中学校区を一まとまりとした「地域協育ネット」という体制のもと、子供たちの育ちや学びを地域ぐるみで見守り、支援する活動をしている。コーディネーターは一人であるが、ほぼ毎日各校を回り、教職員の要望に応じている。

主な活動として、地域住民のボランティアによる学校支援活動、放課後子供教室、放課後児童クラブの運営、校内掲示やふれあいバザーにおける活動の様子をの周知、広報紙「クロッカス通信」の年3回の発行等、平生町地域協育ネットの広報活動がある。

特徴

【特徴的な活動内容】

職員室にコーディネーターの席があり、教職員との連携がとりやすく、計画から実行まで迅速に進めていくことができる。活動を始めて6年目を迎え、地域の方・教職員ともに協働して子供を育てることの理解が進み、活動の幅も広がってきた。入学式・卒業式や運動会、記念行事などの学校行事を地域の方の参画のもとで行うほか、地域公開参観日に合わせて、学校支援ボランティアのゲストティチャーによる授業や、放課後子供教室等を行っている。また、子供への支援だけでなく、夏休みの環境整備にも地域の方が来校し、教職員との交流を図りながら一緒に活動している。

【実施に当たっての工夫】

コーディネーターは可能な限りボランティア活動に参加し、教職員やボランティアの方と一緒に汗をかきながら要望や感想などの情報を集めている。また、活動が終わったら反省会(座談会)をしてコミュニケーションを深めるように努めている。学校からも都合がつく教員に参加してもらうことで、教職員と地域の方との交流ができ、お互いの理解が深まっている。また、活動の様子や感謝の手紙を校内に掲示したり、運動会や卒業式に学校支援ボランティアの方の席を設けたりして、「やってよかった、またやりたい」と思ってもらえるような取組になるよう心がけている。

放課後子供教室では、各教室の教育活動推進員等が、情報交換を行ったり、活動の様子を見せ合ったりして、教室運営の充実を図っている。また、材料等の下準備をスタッフ全員で行ったり、新しい活動を取り入れるときは集まって講習会を行ったりして、楽しく活動できるような雰囲気づくりを心がけている。



佐賀ふれあい教室



友遊スポーツ教室



ふれあい工作教室



子供教室見学会

事業を実施して

学校支援ボランティア活動が始まって、学校がとても美しくなった。地域の方が頻繁に来校するので、子供たちも教職員も地域の方と親しくなり、自然にお互いが笑顔であいさつするようになり、地域での子供の様子も学校に伝わりやすくなった。また、「地域の方と交流が図れるようになって地域の様子が分かってきた」と、地域の行事に進んで参加する教職員が増えてきた。地域の方も入学式や卒業式、運動会や二分の一人成人式等の学校行事に出席するなど、これまで以上に学校を身近に感じ、積極的に学校を訪れている。このように、学校の支援活動を通して、地域と学校の信頼関係が深まっている。

その他

平生町地域協育ネットでは、「学校・家庭・地域が総がかりで子供を見守り育てる」ことを目的としている。「自分たちも地域の子供たちを育てているのだ」という自覚をもって活動する地域の方が増えてきている。「子供は地域の宝」、「地域の中の学校」という思いが、学校・家庭・地域のつながりを広げている。



剪定作業

平日は年間通して開設。春夏秋冬、地域ぐるみで子供の居場所づくり!

山口県上関町

■ 活動名

上関町放課後子ども教室

■ 関係する学校

上関町立上関小学校

活動区分	基本データ			
	学校支援 地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度
放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	37人	194日	有
	実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
	上関町立上関小学校体育館 2階研修室		19年度	無
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
その他				

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

校区が広く、スクールバスで通学する子供が多いため、帰宅してから友達同士で遊ぶことが困難な地域の実情があるため、小学1～6年生までを対象として受け入れている。授業日における低学年の下校時や一斉下校時には、コーディネーターや教育活動推進員等が学校の玄関で児童を迎え、実施場所である体育館までの移動時の安全管理を行っている。

上関小学校の児童数の約8割が登録している本教室は、子供たちの放課後等の重要な居場所となっており、平日は、毎日18時30分まで開設している。帰宅時には、保護者が教室まで迎えに来るので、その日の子供の様子等をコーディネーターや教育活動推進員等が保護者に伝えたり、子育てについての相談を受けたりしている。

以前から保護者の強い要望があった夏季休業中の開設を今年度から開始した。平日の9時から18時30分まで学校の授業日と同じ場所で開設し、保護者の送迎で子供たちは参加している。

夏季休業中の開設にあたっては、保護者が開設費用の一部を負担したり、プールや海水浴の活動では、子供たちの安全管理に協力したりしながら、活動を行っている。

■ 特徴

[特徴的な活動内容]

日頃の活動内容は宿題・自由遊び・そうじが中心である。

そうじは、開設場所の研修室だけでなく、体育館の玄関、階段、アリーナ等、子供たちが活動する場所を参加者が毎日当番制でそうじしている。これは、放課後子供教室に場所を提供している学校への感謝の気持ちを表すために開設初年度から続けている活動である。

夏季休業中は多くの場合、午前手作り水鉄砲教室、絵画教室、工作教室、習字教室等の文化的な活動を、午後にはプールで水泳や水遊びを行っている。

また、コーディネーターの調整により、社会福祉協議会や公民館が主催する「料理教室」等、他団体と連携した取組も積極的に行っている。

[実施に当たっての工夫]

学校との連携を図るため、コーディネーターや教育活動推進員等が子供たちの様子について学校の教員と連絡を取り合っている。また、夏季休業中の体育館以外の学校施設利用については、教育委員会と協議して利用上のルールを作り、小学校長をはじめ教職員の理解を得た上で実施している。

異年齢の子供たちが積極的に交流できるように、クリスマス会や6年生を送る会などの企画を行い、参加する子供たちの人間関係を深める活動にも取り組んでいる。

また、夏季休業中は開設時間が長いので、子供たちの活動内容がマンネリ化しないように地域の方を講師として招くなどして、様々なプログラムを企画し、取り組んだ。

■ 事業を実施して

講師として来た方の中には、子供たちに活動内容の指導だけでなく、礼儀やマナーをはじめ基本的な生活習慣について指導する方もいる。「地域の子供は、地域で育てる」という思いのもと、放課後子供教室の活動が、地域ぐるみで子供を育てる活動となっている。

また、コーディネーターをはじめ、放課後子供教室関係者の熱心な活動により、連携する団体が増えるとともに活動内容が充実しており、年々参加者が増加している。

■ その他

本町には児童クラブがないため、特に共働きの家庭にとっては、放課後子供教室は、子供の安心・安全な大切な居場所となっており、満足度は高い。夏季休業中は、共働きの家庭への配慮から、教室開始の9時より前ではあるが、7時30分からコーディネーター等が教室に待機し、子供の受け入れを可能にしている。



絵画教室



手作り水鉄砲教室

ふるさと西祖谷のよさを、地域 みんなで子供に継承していく「櫟生放課後子ども教室」

徳島県三好市

■ 活動名

櫟生(いちう)放課後子ども教室

■ 関係する学校

櫟生(いちう)小学校

活動区分	基本データ			
	学校支援 地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度
放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	9人	177日	有
	実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
	櫟生小学校体育館等		19年度	無
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
その他				

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

西祖谷子ども育成塾実行委員会を中心に、子供たちの安全・安心で健全な居場所づくりを推進するため、大勢の地域住民の方々の参画を得て、放課後や週末などに学校の空き教室などを利用し、子供たちとともに勉強やスポーツ、文化活動や様々な交流活動などを実施している。

・教室での活動の内容

放課後子供教室に参加している子供たちの基本的な行動としては、教室に来ると、まず宿題等の学習に取り組む。学習を済ませた後は、西祖谷子ども育成塾実行委員会の方々による計画に沿った活動への参加となる。内容は、地域の特産物を育てる農業体験教室をはじめ、地域の伝統工芸品の作成、昔から受け継がれてきた伝統芸能鑑賞、地域の指導者によるスポーツ体験、箏曲教室など、多岐にわたる体験活動を実施している。また、各活動については、単発的なものではなく、計画的かつ継続的に行われている。

・地域との連携

本教室のように組織的・継続的な体験の機会を多く設定するためには、指導して下さる方々の協力はもちろん、地域の多様な施設・設備の利用や各関係機関との連携が必要不可欠である。地域の方々は学習や遊び、清掃など、子供たちへの日常的な指導とともに、様々な体験活動とおし、地域をあげて子供たちを育てることで、地域全体を育てていこうと取り組んでいる。

■ 特徴

【特徴的な活動内容】 ※ () 内は年間活動時間

- ・ 茶道教室 (約 60 時間) : 礼節を身につけ、野点、初釜でお点前を披露する。
- ・ 箏曲教室 (約 20 時間) : 西祖谷文化まつりで演奏を披露する。
- ・ 襖絵教室 (約 50 時間) : 農村舞台のからくりである、襖絵の作成。地元の祭で、からくりの操作を発表。
- ・ 獅子太鼓伝承教室 (約 25 時間) : 祖谷平家まつり等で披露するとともに、伝統芸能を伝承する。
- ・ 農業体験教室 (約 40 時間) : 地元の棚田での田植え、稲刈り、茶摘み、そば打ち、餅つき作業などを体験する。
- ・ 国際文化交流・民俗芸能鑑賞 (約 20 時間) : 外国との文化交流や、箱廻し、オカリナ演奏会等を鑑賞し、異文化にふれる。

【実施に当たっての工夫】

- ・ 山間部の狭い地域ではあるが、子供たちには様々な人々との交流をおして、特色ある地域の伝統を守り、受け継いで、自分たちの暮らす地域に誇りをもつことのできるようにしたいと考え取り組んでいる。
- ・ 体験活動に関しては、単発的な行事としてでなく、継続して行うことで、知識や技術をしっかり身に付け、精神的にもたくましい子を育てていきたい。
- ・ 活動は地域の中だけに目を置くのではなく、他地域や外国との文化交流の機会も積極的に取り入れ、子供たちに広い見聞をもたせることができるように心掛けている。

■ 事業を実施して

- ・ 三好市の放課後子供教室は1教室であるため、その教室が地域の貴重な活動拠点となっている。また、地域の方々に関わりを持つことによって、様々な体験ができ、過疎化の進む地域の交流拠点ともなっている。
- ・ 様々な人と接し、様々な体験をすることによって、子供たちは、地域の特色や歴史、郷土の気風を学び、自分の暮らす地域に誇りを持ち、伝統を受け継ぎ、守っていこうとする態度が見られるようになった。
- ・ 地域の方々も、子供たちと接することにより、より明るく、生き生きとした様子へと変化が見られる。



襖絵教室



獅子太鼓伝承教室

地震・津波対策、自分の命をしっかりと守る！安全・安心な「ドリームスクール鈴が峰」

徳島県海陽町

■ 活動名

ドリームスクール鈴が峰

■ 関係する学校

宍喰小学校

活動区分	学校支援 地域本部		開始年度	補助の有無
	コーディネーター数	ボランティア登録数		
基本データ	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	40人	184日	有
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	旧幼稚園		20年度	無
コミュニティ・スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
その他	※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)			

活動の概要

【実施日】原則学校の授業日に合わせ、月曜日から金曜日までの放課後、週5日間実施している。

【運営】退職教員や教育委員会OBを含めた地域住民の方々を中心として、安全管理員4名、学習アドバイザー1名を常時教室に配置している。

【主な活動内容】

放課後、教室にやって来たそれぞれの児童は、まず出席カードを提出し、はじめに学習アドバイザーの指導のもと、学習室で宿題等の学習に取り組む。そして、学習が終了した児童から敷地内の空き教室や運動場において、遊びや読書、趣味、特技などに関する思い思いの活動に取り組んで過ごす流れとなっている。

【特別活動の時間】

月に数回、「特別活動の時間」を特設し、押し花教室をはじめ、お手玉や折り紙、あやとりなどの昔ながらの遊びを学ぶもの、地域に伝わる伝統文化にふれるものなど、毎日の活動に変化をもたせ、友達と共に楽しく体験できる場としている。

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

- ・当該地区は、近年起こり得るとされている東海、東南海、南海の3地震による津波が到達することが想定されており、本教室では、参加児童全員による近隣の愛宕山への避難訓練を実施している。子供たちは、日頃から防災に対する心構えや安全に避難する方法について学習し、「いかなるときでも、自分の命は自分で守る」を合い言葉に、常に真面目な態度で臨んでいる。
- ・地元の有志の指導により伝統芸能を体験できるように祇園太鼓教室が開催され、子供たちも地域の文化にふれ、地域を愛する心が育っている。

【実施に当たっての工夫】

- ・児童は放課後になると、それぞれ教室へやってくる。そして、出席カードを提出したものから、まず最初に学習アドバイザーの指導のもと、学習室で宿題等の学習に集中して取り組んでいる。それを成し終えると、思い思いの活動へと移る。このように教室において日々の活動をルーティーン化することにより、日頃の生活の行動パターンが習慣化され、家庭や学校においても同じリズムで実践できるようになると考えている。
- ・少子化により当該地区でも児童数が減少しているが、教室の活動として避難訓練などを実施するとともに、地域の伝統芸能等とふれあう活動を多く盛り込むことにより、地域の方々に放課後子供教室の存在やそこに通う子供たちをよく知ってもらい、また、子供たちが地域の人、もの、ことを知る機会や場としている。

■ 事業を実施して

- ・事業の実施にあたり、たくさんの地域の方々の参画を得ることができ、教室に通う子供たちは幅広く、深まりのある体験ができるようになった。子供たちも地域の人々との交流をとおし、人の心の温かさを理解し、仲間を大切にしようとする意識が育ってきた。また、地域の方どおしの交流や活動も盛んになり、地域全体の活性化にもつながっている。このようなことから、学校・家庭・地域・各関係機関との連携が以前よりもスムーズになり、各種行事の実施や問題解決などについて、いろいろな方面から御指導、御協力をいただき、素速かつ確かな対応ができるようになってきている。



伝統文化教室(祇園太鼓・竹細工)



津波被害に対する避難訓練

学習、スポーツ、遊び、探検、訓練等、いろいろな体験活動にレッツ・チャレンジ!

徳島県那賀町

■ 活動名

鷺敷(わじき)子どもクラブ

■ 関係する学校

鷺敷(わじき)小学校

活動区分	基本データ			
	学校支援 地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度
放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	25人	211日	有
	実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
	鷺敷小学校体育館・阿井交流センター		19年度	無
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
その他				

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

- 教室の開設/平成19年度、放課後子供教室推進事業開始と同時に教室を開設。
- 実施時間/小学校の授業実施日は、毎週月曜日から金曜日まで、午後3時30分から午後6時まで実施している。

●実施場所/授業実施日:小学校体育館

●参加人数

- ・小規模校ではあるが、参加人数は50名以上(常時25名~40名)登録されており、安全管理員についても12名が登録しており、常時3名以上の配置を心掛けている。
- ・安全管理委員については、小学校の体育館や運動場等において子供たちと一緒に遊んだり、ともに学習や体験活動に参加したりしながら、常に子供たちの行動に目を行かせ、安全を確保できるようにしている。

●活動の流れ/①宿題→②出席確認ファイル片付け・荷物の整理→③自由遊び

宿題タイムには、宿題以外にもプリントやドリル、自主学習や音読、日記などにも取り組んでいる。

自由遊びでは、サッカーや輪車の練習、砂遊びなどの外遊びを中心に、トランプやブロック遊び、お絵かきなど、異学年集団において、様々な遊びを考え出して取り組んでいる。

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

●七夕祭りやハロウィン大会、クリスマス会など、季節に応じた多彩な行事を実施している。

●夏季休業中の活動の流れ

①出席確認→②学習タイム(宿題等、各自持参した課題)→③イベント・課題遊び→④お弁当タイム→⑤清掃→⑥水泳・自由遊び→⑦おやつ休憩→⑧自由遊び→⑨お迎え、という時間割に沿って活動している。

●夏季休業中における特別講座

・長期休業を利用し、福祉介護施設等への慰問や、新スポーツ教室やプール教室、徳島ヴォルティスの選手によるサッカー教室、水難訓練、防犯講座など、各種行事・講座等を利用し、様々な体験活動を積極的に取り入れ開催している。

【実施に当たっての工夫】

・教室では、子供たちの規則正しい生活習慣の定着をめざし、常にけじめのある活動を心掛けている。それが、落ち着きのある行動につながり、安全で楽しく、充実した活動になると考えている。

・夏休みには、「イベント・課題遊び」の時間を設定し、水鉄砲や水風船ヨーヨー作りなどをはじめ、学校や警察・消防署の協力による安全教室の開催、各企業・教育機関等が募集するイベントの実施など、夏休みならではの活動をたっぷり体験できるようにしている。本教室の位置する山間部においては、日頃、子供たちの興味や関心に応じた活動ができないことも多いが、各関係機関による体験教室や出前講座の活用により、子供たちは幅広く普段できないような体験をしている。この活動から、子供たちが光輝くものを数多く発見し、生活に役立つ知識や技術を身に付け、学びや創造への意欲を一層高めることのできる教室にしたいと考え、日々取り組んでいる。

■ 事業を実施して

平日の体験活動は、地元の方々の協力と安全管理員等の方のアイデアや指導力により、様々な活動ができている。また、夏休みには、県内各地の各企業や団体、或いは徳島県の各機関の協力により、普段の生活の中ではなかなか体験できない活動に取り組むことができる。子供たちは、教室の集団の中で、協力的、助け合う仲間意識が育ち、また、規則正しい生活を通して、礼儀や時間を大切にする態度が育っている。定期的に実施している教室に対するアンケート調査からは、保護者の教室に対する感謝の気持ちと同時に、教室をよりよく運営していくための意見も聞くことができ、子供たちの健やかな育成についてともに考えることができている。

■ その他

鷺敷小学校をはじめ、地域のいろいろな施設を借りられ、利用することができる。また、地域住民の方々、保護者の方々の手厚い協力を得ることができ、子供たちの教育を地域全体でサポートして下さる状況があること。このような環境に感謝するとともに、いつまでもこの活動状況が継続していくことを願いたい。



デイサービスセンター訪問



着衣のままでの水泳教室

コミュニティセンターを拠点とした地域の力による 子供の居場所づくり

香川県丸亀市

■ 活動名

桃の里わくわく倶楽部

■ 関係する学校

丸亀市立飯山北小学校

活動区分	学校支援 地域本部		コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	基本データ	放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
1人			10人	175日	有	
実施場所		飯山北コミュニティセンター	開始年度	放課後児童 クラブとの連携		
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	無	
その他						

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

- 地域のコミュニティ協議会が実施主体となり、コミュニティセンターを拠点として、そこに集う多くの地域のボランティアを活用し、子供たちに多様な活動プログラムを提供している。
- コミュニティセンターを活動場所として、毎週火曜日から金曜日の午後6時まで、地域の大人たちの見守りの中、学習、読書、自由遊びなどを行い、子供たちに放課後の安全・安心な居場所を提供している。
- 対象年齢により、放課後児童クラブと役割分担して、放課後の子供たちの居場所を確保している。
(小1～3年生は放課後児童クラブ、小4～6年生は放課後子供教室で受け入れている。)

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

コミュニティセンターが活動拠点という利点を最大限に活用して、子供たちに様々な体験活動を提供している。

例えば、華道・茶道の先生による生花・お茶教室、地域のボランティア団体「げんき会」によるうどん打ち体験・流しうどん、「ももちゃんくらぶ」による伝承遊び体験・手芸体験、「図書館うさぎ」による本(手づくり絵本など)を使った交流、「飯山町海外交流友の会」による2年に1度のフランスのジャズミュージシャンとの交流など。

【実施に当たっての工夫】

コミュニティセンターに集う、たくさんの地域のの人々と積極的に交流を図り、子供たち・保護者・地域の方・学校が様々な場面で触れ合う機会を設け、相互理解の一助となるよう心掛けている。



地域ボランティア「げんき会」による流しうどん

■ 事業を実施して

保護者には「安心して仕事ができる」「異年齢の交流ができる」、子供たちには「一人であるよりずっといい」「いろんな体験ができて面白い」と好評を得ている。兄弟が少ない家庭も多く、ボードゲームやカードゲームをここで初めて体験する子供もいる。コミュニケーション能力の獲得にも役立っていると考えている。地域の人にも子供たちの良い面も知っていただけ、よい交流の場となっている。

■ その他

特色ある模範的活動の事例発表として、「平成24年度放課後子どもプラン現地研修会」(H24.11.28)を開催し、県下の放課後子どもプラン関係者に活動発表、現地視察を行った。



飯山北小学校ボランティアルームで茶道教室

地域の力で、心豊かな子供を育くむ

愛媛県松山市

■ 活動名

立岩っ子クラブ

■ 関係する学校

松山市立 立岩小学校

基本データ	活動区分			開始年度	補助の有無
	学校支援 地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数		
	放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		1人	21人	195日	有
コミュニティ・ スクール	実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携	
その他	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

宿題やパソコン教材などを使った自主学習の後、室内ゲームや、廃材・木の実を使った工作、手芸、サッカー、ドッジボール、バドミントン、一輪車など自由に好みの活動を楽しんでいる。

また、季節に応じて、七夕の笹飾り作りやソーメン流し、スイカ割り、カレー作り、クリスマスケーキ作りなどの体験活動も行っている。

山間部に位置している小学校という地域特性を生かし、草花採りに出かけて、押し花作りをしたり、木に親しんでもらおうと講師を招いてツールペイント教室なども実施している。

地域のお年寄りから、「りんまん」などの郷土に伝わるおやつ作りを学んだり、地域の日赤奉仕団の独居老人宅慰問に、心のこもったカード作りという形で参加・協力している。

茶道教室や書道教室、英語教室なども地域住民の指導で実施しているほか、凧揚げ、コマ回し、あやとり、お手玉などの昔の遊びも教えてもらって楽しんでいる。

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

実行委員会に保護者代表や地域の公民館役員、学校評議員、主任児童委員らが参加しており、全校児童が登録していることから学校の全面的なバックアップも得て、多種多様な体験活動が実施できている。

地域特性を生かして草花採りに出かけたり、笹飾り作りやソーメン流し、スイカ割りなども楽しんでいる。

地域のお年寄りから、郷土に伝わるおやつ作りや伊予万歳などを教えてもらう機会を持って、一緒に楽しんでいる。

地区日赤奉仕団が行っている独居老人宅慰問に、カードを作るという形で参加・協力している。

【実施に当たっての工夫】

地域資源や自然の中のものを活用するなどして、経費を掛けずに、多種多様な体験活動を実施している。

地域住民に放課後子供教室の活動を知ってもらい、多くの人に協力してもらいながら、楽しく安全な居場所作りに努めている。

■ 事業を実施して

異年齢の子供たちが場所や活動を共有することで、縦割りの関わりが様々な場面で見られ、意見を出し合ったり工夫したり、助け合ったりしながら互いを思いやる姿が多く見られるようになった。

まず宿題や自主学習に取り組むことで、学習習慣の定着につながっている。

体験学習を通じて、いろいろなことに興味・関心が湧き、意欲が高まり、感動を共有することで、心豊かな子供が育っている。



宿題をしたり教材などを使っでの学習活動



ソーメン流しなど季節に応じた体験活動

～地域が支える子供の安全で楽しい居場所づくり～

愛媛県伊予市

■ 活動名

伊予小校区放課後子ども教室

■ 関係する学校

伊予小学校

基本データ	活動区分				
	学校支援 地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		1人	20人	80日	有
		実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
	小学校敷地内の専用施設		21年度	有	
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	
その他					

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

水曜日と金曜日に開設し、昔の遊びや郷土芸能等、地域の人材を生かした多様な活動を実施している。また、児童クラブや保育所において読み聞かせ等を実施し、異年齢の子供たちと交流している。

【主な活動内容】

- 宿題、予習、復習などの学習活動
- スポーツ活動
 - ・ バドミントン ・ ドッジボール ・ バレーボール
- 趣味の活動
 - ・ 昔の遊び ・ 料理 ・ 折り紙 ・ けん玉 ・ お花 ・ お茶 ・ 将棋
- 体験活動
 - ・ 郷土芸能 ・ 防災頭巾づくり ・ エコ活動 ・ 野菜作り
- 交流活動
 - ・ 読み聞かせ ・ 積み木遊び

	時間帯	活動内容
月		
火		
水	15:00～17:30	学習活動、スポーツ活動等
木		
金	16:00～17:30	学習活動、スポーツ活動等
土		

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

- ・ 教員OBやボランティアが多数登録されているため、多様な体験活動や宿題、予習、復習などの学習活動の対応ができる。
- ・ けん玉、折り紙、将棋などに卓越した指導者が近隣に住んでいるため、活動についての企画立案等が柔軟に対応できる。
- ・ 栽培活動での野菜の苗、工作活動での竹や笹等を地域の方々から提供を受けるなど、地域の方々に支えられて活動が展開できている。
- ・ 児童クラブの教室や保育所が近くにあり、読み聞かせや積み木遊び等の交流活動を頻繁に行っている。

【実施に当たっての工夫】

- ・ 子供たちの希望も取り入れて多様な活動内容を用意し、楽しい活動が展開できるよう、カリキュラムの工夫をしている。
- ・ 毎回6～8名の指導者が参加し、個々の子供たちに密接に関われるよう配慮している。
- ・ 毎月「子ども教室だより」を発行し、保護者や児童に活動内容等を知らせることにし、活動の意欲を高めるようにしている。
- ・ 学校や公民館に「子ども教室だより」を送り、地域の人にも活動の様子を知ってもらうようにしている。

■ 事業を実施して

【成果】

- ・ 学校の授業とは異なる活動内容が展開されるため、子供たちは意欲を持って取り組み、楽しい居場所づくりができています。
- ・ 地域の人々や異年齢の子供たちとの交流を通して、コミュニケーション能力が高まっている。
- ・ 毎月配布する「子ども教室だより」や子供たちの情報交換により、参加希望者が増加している。

【課題】

子供たちの多様な活動ニーズに答えるため、年齢層の若い活動ボランティアの支援が望まれる。

■ その他

最近では伊予市の児童館とも活動内容について情報交換するなど、連携して活動を行っている。



伝統行事にチャレンジ



保育所で読み聞かせに挑戦

穏やかで柔軟な感性をもてる子供へ 地域の子供は地域で育てる

愛媛県西条市

■ 活動名

周布こどもランド

■ 関係する学校

周布小学校

活動区分	基本データ			
	学校支援 地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度
放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	2人	24人	40日	有
	実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
多目的教室(小学校)・公民館	19年度		有	
コミュニティ・ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
その他				

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

毎週火曜日は小学校の多目的教室で、1年生を対象にして他の学年が授業をしている6時間目を利用して、宿題や読書をはじめ自由遊びや読み聞かせを実施している。

月1回の土曜日には公民館で、地域の方を講師としての体験活動や、地域住民や異年齢の子供たちとの交流活動を実施している。

【主な活動内容】

- 自由遊び(毎週火曜日)
 - ・屋内：トランプ・ハンカチ落とし
 - ・屋外：サッカー・一輪車・ドッジボール
- 体験教室(月1回土曜日)
 - ・料理教室
 - ・手芸教室
 - ・読み聞かせ体験教室
 - ・染物体験教室

	時間帯	活動内容
月		
火	14:25～15:25	読み聞かせ・自由遊び
水		
木		
金		
土	9:30～11:30	体験教室・ふれあい活動

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

活動メニューが多彩で、夏休みに行われる「そうめん流し」、春の「七草がゆの集い」など、老人クラブや婦人会等によるサポートを受け、子供たちは季節の地域伝統行事を体験しながら学び、世代間交流が図られている。子供について情報交換したり、子供たちが一緒に活動したりして、学校や放課後児童クラブと連携を図っている。また、関係諸団体・個人ボランティアなどによるネットワークが拡がり、サポート人員数は100名を超えた。また行事の際、全員で食事やおやつを共にし、「食」を通して人とのつながりや地域の自然の恵み・地域の伝統を学びながら、子供たちの豊かな感性を養っている。

【実施に当たっての工夫】

- ・毎週火曜日は1年生を対象に実施し、指導者は1年生児童のほぼ全員を知ることができ、地域での声掛けや交流活動の充実に大変役立っている。
- ・土曜日の開催時には、指導者がグループごとに内容を企画しているので、毎回違う内容で教室が開催されている。
- ・地域からの様々なサポートに対して、子供たち自らが積極的に地域にかかわることができるような工夫をしている。敬老会の際のお年寄りへのメッセージカード作成や、お世話になっている人々を招いてのカレーパーティ開催など、子供たちが感謝の気持ちを素直に伝えることができる機会をつくっている。

■ 事業を実施して

- ・小学校、公民館、地域住民との連携を図ることにより、多くの児童と交流ができたことで、指導者は地域の児童の様子がよくわかるようになった。
- ・児童は活動を通して、喜びや達成感を味わうことができた。また、伝統文化を学習することによって郷土の良さを知り、地域への愛着を一層深めることができた。
- ・参加している指導者にとっても、活躍の場ができることによって地域住民の元気のもととなり、地域活性化へとつながった。

【課題】

- ・指導者の高齢化による人材不足が懸念されるため、地域の優れた若い人材の発掘や育成に向けて、地域をあげて取り組んでいきたい。

■ 参考URL

<http://www.city.saijo.ehime.jp/kouminkan/shu/index.html>



そうめん流しの様子



七草がゆの集いの様子

～ 地域で育てよう 愛南の子供たち ～ 学校・家庭・地域が三位一体となって、よりよい青少年の健全育成を推進する

愛媛県愛南町

活動名

御荘中学校区学校支援地域本部

関係する学校

御荘中学校・平城小学校・菊川小学校・長月小学校・中浦小学校

活動区分	基本データ			
	学校支援 地域本部	コーディネーター数 5人	ボランティア登録数 36人	開始年度 20年度
放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
コミュニティ・スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
その他				

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

<地域コーディネーターの活動>

・学校、地域、公民館の年間行事を照らし合わせ、学校の要望を調整し、学校支援ボランティアへの連絡調整を行う。

- ・学校と関係団体との連絡調整を行う。(地域の関係団体等とは、公民館活動を実施するうえで、常に連携・協力の立場にあり、学校支援事業においても相互の協力ができている。)
- ・公民館報や学校だより、町広報誌を利用し、広報・啓発活動を行う。

<主なボランティア活動の内容>

- ・登下校の安全確保 登下校時の巡視、通学路危険箇所の確認及び周知と改善
- ・校内環境整備への協力 庭木の剪定・除草、溝掃除
- ・学校支援 学習支援活動、部活動指導補助
- ・学校行事への参画 体育祭の参加協力、郷土料理の継承、お菓子づくり、地域伝統文化の継承
- ・地域活動と一体化した連携 夏祭りや秋祭り、地域の伝統イベント時の巡視

特徴

【特徴的な活動内容】

- ・郷土の歴史に精通したボランティアスタッフが多く、小中学校において、社会・歴史・総合的な学習等の支援や婦人会、老人クラブ等による郷土に伝わる昔遊び等、地域文化の継承が行われている。
- ・愛南町では、全国に先駆けて、魚に関する知識や環境問題、郷土料理について関心を高め、魚を積極的に食べようとする「ぎょしょく教育」に取り組んでいる。御荘中学校区学校支援地域本部においても、水産関係者の協力を得て、小学生を対象に各学校で年1回程度、継続して学習を行っている。学習方法としては、座学(映像を使って、針や餌などを見せて行う学習)、体験学習(模擬一本釣り、多数の魚を触る学習)、現地見学(市場や養殖場に行って見学する)、調理実習(魚を使った料理を行う)等をそれぞれの学校の要望に合わせて実施している。

【実施に当たっての工夫】

- ・地域の伝統文化や産業を継承・発展させる授業の講師を地域住民が数多く務めることにより、学校を核とした生涯学習の場が広がるように工夫している。
- ・愛媛大学や愛南町ぎょしょく普及推進協議会、愛南漁協魚類養殖部会等、多くの関係団体の協力を得て、各校でぎょしょく普及イベントを行っている。
- ・地域コーディネーターである各校区の公民館主事が、学校の担当者とは話し合い、公民館事業と学校支援事業を組み合わせ、地域全体で子供を育てる体制をつくっている。「地域で育てよう 愛南の子供たち」の合言葉のもと、学校と地域の一体感が高まっている。

事業を実施して

【成果】

- ・学校支援ボランティアによる活動を重ねることにより、徐々にではあるが学校行事に対する地域の協力体制が整ってきている。
- ・「ぎょしょく教育」など、児童・生徒の興味がわくような様々な活動を行っており、地域住民と子供たちのつながりが密接になっている。
- ・「ぎょしょく教育」の取組が地域外でも評価され、県外からも「ぎょしょく教育」の依頼があるなど、愛南町のPRや水産業の振興へとつながっている。

【課題】

- ・学校ニーズに合わせた支援活動の展開を目標に掲げて実施してきたが、まだ完全には軌道に乗っていない。学校のニーズに応える支援活動を実施し、併せて地域の活性化を図りながら子供たちの健全育成につなげていきたい。

参考URL

<http://www.ainan-gyoshoku.jp/>



御荘夏まつり巡視活動の様子



ぎょしょく教育：まき網体験

地域で守り、育てよう 赤岡の子供たち！ ～地域とともに育つ赤岡小学校@「黒潮の子ども応援隊」の取組～

高知県香南市

■ 活動名

赤岡小学校区学校支援地域本部

■ 関係する学校

香南市立赤岡小学校

活動区分	基本データ			
	学校支援 地域本部	コーディネーター数 3人	ボランティア登録数 179人	開始年度 24年度
放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
その他				

*H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

以前から、地域の方による学校教育活動を支援する取組は行っていたが、平成22年度から規模を拡大し、多くの地域ボランティアの方々の参画を得て、学校の様々な教育活動への支援をいただいている。

平成24年度には学校支援地域本部事業を活用して地域ボランティアの組織化を図り、①環境整備隊(日曜大工班、図書館班)、②学習支援隊(採点班、加力指導班、踊り子班、読み聞かせ班、地域学習班、昔遊び班)、③スポーツ健康隊(食育健康班、スポーツ班)、④黒潮っ子安全隊(防災学習班、あいさつ運動交通指導班)の4領域12班から成る「黒潮の子ども応援隊」を結成して、現在では、約179名のボランティアに協力いただいている。

平成24年度の地域ボランティアによる学校支援活動のべ人数は、1773人(学習支援940人、部活動指導1人、環境整備36人、登下校安全472人、学校行事151人、その他173人)となっている。

運営にあたっては、地域側に学習支援活動を担当するコーディネーター1名、それ以外の学校教育活動を支援するためのコーディネーター2名を配置するなど、支援内容の特性等に配慮した機能的・効率的なコーディネート体制を構築するとともに、学校側には、地域の情報を教職員に伝えたり、学校内のニーズを集約してコーディネーター等に相談・依頼する「地域連携担当教員」を校務分掌で位置づけるなど、学校と地域が組織的に連携する仕組みを備えている。また、学校長、地域連携担当教員、コーディネーター等で組織する「幹事会(打ち合わせ会)」を頻繁に実施し、学校と地域住民が同じペクトルを共有することで更に充実した取組となっており、学校や児童にも大きな影響を与えている。

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

- 環境整備隊
 - 日曜大工班…学校施設等の修理等の支援。
 - 図書館班…図書館の整備、管理の支援。
- 学習支援隊
 - 採点班…「学習タイム」(昼休み)や「算数教室」(放課後・夏季休業中)において、地域の方が採点。
 - 加力指導班…「放課後加力学習」において、担任と連携を図りながら加力指導を実施。
 - 踊り子班…運動会での「どろめ網曳唄」(踊り)の発表に向けての指導・支援。
 - 読み聞かせ班…朝と昼の時間帯に読み聞かせを実施。赤岡中学校の生徒も参加。
 - 地域学習班…地域のことを話してもらう「きらきらタイム」(総合的な学習の時間)の授業に参加。
 - 昔遊び班…全校が昔遊びを学習する授業を地域の方が支援。
- スポーツ健康隊
 - 食育健康班…食育推進とともに、児童の栽培・収穫体験への支援。
 - スポーツ班…放課後バスケットボール教室、相撲大会に出場する児童を指導。
- 黒潮っ子安全隊
 - 防災学習班…消防団員すべてが登録し、学校の防災教育への支援。児童はすべて少年消防クラブに加入し、消防団の出初め式に制服を着て参加、年末の「火の用心」活動にも参加。
 - あいさつ運動交通指導班…民生児童委員20名が中心となって組織、毎週月曜日にあいさつ運動と安全指導を実施。

【実施に当たっての工夫】

- 地域の方々为学校に気軽にいられる雰囲気づくり(学校は地域のコミュニティ)。
- 校務分掌に地域連携担当教員を位置づけと「幹事会(打ち合わせ会)」の実施。
- 地域ボランティア同士の交流会「親睦会」の実施。

■ 事業を実施して

地域と連携した教育活動を通して、教職員からは、「落ち着いて学習できる雰囲気ができる」とともに、教育活動が充実した、「学校外での児童の様子を聞くことができ、指導・支援に役立つ」という連携のメリットについての声が聞かれた。

地域ボランティアの方からは、「学校に来ると、子供たちから元気をもらうことができる」、「子供たちに『ありがとう』といってもらえるのがうれしい」など、子供たちに関わりを持つことへの充実感が聞かれ、地域の方々の生きがいや自己実現にもつながっている。また、学校が地域の人々のコミュニケーションの場になることで、「地域の子供を地域で守り育てる」気運が醸成され、地域の教育力の向上や地域コミュニティの活性化にもつながっている。

■ その他

今後も、地域の方々による学校や児童への支援活動を更に充実させることで、児童の学習意欲や学力の向上、規範意識やコミュニケーション能力などの社会性を高める取組を進めるとともに、学校が地域の人々のコミュニケーションの場となり、地域の活性化にもつながるよう取組を充実させる。また、地域ボランティアと保護者がつながり、地域の中で子育てについて相談したり考えたりする場を設定することで、家庭教育への支援、さらには地域の教育力が高まる取組へとつなげていければと考えている。

■ 参考URL

<http://www.kochinet.ed.jp/akaoka-e/>



算数教室での採点



浜の清掃

スクールボランティア(学生ボランティア)による学習支援

福岡県北九州市

活動名

桜丘小学校支援地域本部

関係する学校

北九州市立桜丘小学校

活動区分	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
学校支援 地域本部	1人	24人	21年度	有
基本データ	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	コミュニティ・スクール	指定日	委員数	児童生徒数
その他				学級数

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

スクールボランティアとしての活動は、大きく「日常の授業への学習支援」と「放課後教室」の二つの柱で取組まれている。

- ・日常の授業への学習支援
北九州市立大学の学生がAT(アシスタント・ティーチャー)として、学級担任のサポートとして授業に入る。ゼミの一環として教員を志す学生が中心となり活動を行っている。
- ・放課後教室
毎週水曜日、中学年の希望児童対象に、個に応じた学習支援を行い、基礎的・基本的な内容の定着を図る。



AT案内のパンフレット

特徴

【特徴的な活動内容】

北九州市立大学の学生が行っているATとしての日常の授業への学習支援は、学級担任のサポートとして授業に入り、個に応じた支援を中心とした学力向上の手助けや教師の指導がスムーズにいくような支援を行っている。丸付けやノート指導、問題解決の声かけ、教室を離れての学習におけるサポート等を行うことで、学級担任と児童が向き合う時間をより多く確保できるようになった。

また、放課後教室は、中学年の希望児童を対象に、毎週水曜日の放課後、個に応じたプリントを自主的に進めるなかで指導を行い、基礎的・基本的な内容の定着を図った。

【実施に当たっての工夫】

北九州市立大学(教授、講師)の協力を頂き、学習支援サポーターとして学生の募集を大学構内にて行った。

当初、教授や講師より学生に対して募集を行っていただいていたが、学生ボランティアを経験した学生たちが自主的に仲間を募集するためのパンフレットを作成し、大学構内で呼びかけを行った。

その結果、多くの学生ボランティアへ参加していただけることとなり、学級担当と児童が向き合う時間を多く確保できるようになった。

事業を実施して

学生ボランティアによる学習支援の結果として、個に応じた指導が可能になり、担任の一人一人に向き合う時間が増えた。また、基礎的・基本的な内容の定着に取組むこともできた。学生ボランティアの中からも、子供たちと接することで、何事にも代え難いよい経験になったという声が聞かれた。

学生ボランティアを紹介する意味で、学生ボランティアが所属するサークルによる、ジャズやアカペラのコンサートが、桜丘市民センターで実施された。地域の方が数多く集まって楽しんでた。高齢化しつつある校区の活性化にもつながる取組として今後も実施される予定であり、本校でも実現する予定。



放課後教室(算数教室)



桜丘市民センターでの大学生によるアカペラとジャズコンサート

学校行事や授業の支援、児童の登下校や放課後、土曜日や日曜日などに充実した地域活動が行える環境を、地域をあげて取り組んでいる

福岡県久留米市

■ 活動名

南薫小学校支援地域本部

■ 関係する学校

久留米市立南薫小学校

活動区分	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
学校支援 地域本部	12人	96人	16年度	無
放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	8人	23人	31日	無
	実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
	南薫小学校体育館・南薫校区コミュニティセンター		16年度	無
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
その他	○			

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

南薫小学校は、校区コミュニティセンターとの連携を密に取り、地域の人材を幅広く活用しながら、「南薫小学校支援地域本部」として活動を継続してきている。「南薫小学校支援地域本部」は、児童の登下校時の安全確保のために「子ども安全パトロール隊」を組織したり、スポーツを中心とした「南薫クラブ」、地域の人材を有効活用した「チャレンジ土曜塾」などの放課後や週休日に子供たちを対象とした活動を行ってきている。

また、学校の行事に併せて、それぞれの団体の活動計画を作成していただいたり、各教科や総合的な学習の時間に、グロブティーチャーとして学習に参加していただいたりしている。さらには、学校の敷地を取り囲んでいる緑地公園化された花壇の草花を児童と共に整備する「なんくん花植え隊」の活動にも進んで取り組んでいただいている。児童は国語科の授業の中で、日常の出来事や季節ごとの心の動きを俳句にしたための活動を行っているので、「なんくん花植え隊」と共に整備した花壇に、子供たちのしたための俳句の中から美しい作品を掲示するなど、地域支援活動と一体となった授業・学習活動に取り組んでいる。

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

「南薫クラブ」「チャレンジ土曜塾」「なんくん花植え隊」「南薫子ども安全パトロール」など、それぞれの組織で総合的な支援を意図的・計画的に行っている。これらの校区コミュニティでの活動を地域住民はボランティアによって支え、地域をあげて子供たちの学習を支える体験活動を中心に取り組んできている。

このことは、土曜の週休日や放課後にとどまらず、日常の学校の授業の中でも学習に役立つサポートをしていただくことも度々で、地域と学校とが密接に連携が取れている証と言うことができる。

【実施に当たっての工夫】

地域での支援と学校での教育活動の密接な連携を図り、

- ①共に活動できること
- ②互いに活動して互いに補完できること
- ③それぞれに活動するが総体として高まるもの

という視点において活動を計画し、実施している。ボランティアで参加することが負担過重とならないよう工夫しながら、子供と地域人材がお互いに高め合うことができるような雰囲気を作り出しつつ、無理なく継続して実施できることを想定しながら取り組んできている。また、活動内容には、地域が輩出した先人の遺業に触れられるものを選択し、郷土を愛する心を育むよう工夫している。



草花を児童と共に整備する「なんくん花植え隊」



児童の登下校の安全を見守る安全パトロール隊

■ 事業を実施して

支援活動を実施する側が元気をもらったり、支援を受ける子供たちがその恩恵を享受したりすることができ、双方にWin-Winの関係を保ちながら、長期間にわたって活動を継続してきている。

時を同じくして、地域の暴力追放運動が高まり、全国初の指定暴力団組事務所立ち退き訴訟を勝ち取ることができたことの一つの要因として、この地域支援活動もあげることができる。

■ 参考URL ■

<http://www.nankun.kurume.ed.jp/index2.html>

亀小サマースクール(無人島サバイバルキャンプ・よってこい寺子屋・亀岳歴史発見ツアー・クッキング教室)

長崎県西海市

■ 活動名

せんだんの会(亀岳小学校運営委員会)

■ 関係する学校

西海市立亀岳小学校

活動区分	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
学校支援 地域本部	1人	90人	18年度	無
基本データ 放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
コミュニティ スクール				
その他				

*H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

「地域とともに輝く学校」を目指し、学校・せんだんの会・地域・保護者の協力のもと、「夏休み」という期間を利用して、普段の学習では得がたい体験の場を提供している。

- ☆「無人島サバイバル・キャンプ」 地域にある無人島を生かし、電気、ガス、水道もないキャンプ生活を通して地域の自然に触れさせながら、日頃の恵まれた生活の便利さを再認識する機会とし、子供たちに相互協力の必要性を体験させながら自立と逞しさ、創造力を養う。
- ☆「よってこい寺子屋」 各地区公民館や集会所等を集まり、学習会を行う。地域の方々に教えていただいたり、互いに教えあうことにより、自ら学ぶ姿勢を身につける。また、地域の方と触れ合うことでふるさとを大切にできる態度も身に付ける。
- ☆「亀岳歴史発見ツアー」 地元の西彼地区史談会員を講師に迎え、西彼町内の史跡を巡り、現地で歴史的な話を聞くことにより、地域の魅力を感じとらせることで郷土愛を深める。
- ☆「おやつ教室」 調理の基本的な「切る・ゆでる・まぜる」の調理作業を学び、食育の推進を図る。

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

【無人島サバイバルキャンプ】

5、6年生児童30名を対象に、7月24～25日の1泊2日、地域の無人島「田島」でキャンプを実施。指導者は西彼青年の家所長、キャンプ協会、地域の方々、保護者。

【よってこい寺子屋】

全学年を対象に(人数制限なし)、7月31日の9:00～11:00の2時間、各地区の公民館や集会所で学習会を実施。指導者は区長を始めとする地域の方々。

【亀岳歴史発見ツアー】

5、6年生児童20名を対象に、8月1日の8:30～14:00、西海市の史跡めぐりを実施。指導者は西海市文化協会会長。

【おやつ教室】

低学年と高学年の希望者を対象に、7月29～30日の午前中に実施。指導者は栄養教諭。

【実施に当たっての工夫】

【無人島サバイバルキャンプ】

子供の生きる力・たくましさを育むためにテント張り、トイレの穴掘りなど子供が中心となって活動する。

【よってこい寺子屋】

各地区の特色を生かして学習や物作り、祭りの練習などさまざまな活動を計画している。

【亀岳歴史発見ツアー】

意外に知らない校区の史跡を訪ね、史跡のいわれや歴史について学んだことをしおりにまとめる。

【おやつ教室】

栄養教諭指導の下、子供でも簡単に作ることができる、バラエティーに富んだメニューになっている。

■ 事業を実施して

サマースクール全事業において、参加した子供たちが楽しみながら学習し、特に亀岳歴史発見ツアーでは、自分が住んでいる地域の歴史を学ぶことで、普段見慣れているものが重要な役割を果たしていたことなどがわかり、歴史に興味がなかった子供たちも興味を持った。地元の歴史はもとより、西海市全体の歴史を守って伝えていきたいと考える参加者もあり、郷土愛を深める目標は十分達成されている。

■ 参考URL ■

<http://www4.ocn.ne.jp/~sendan/>



亀岳歴史発見ツアー



無人島サバイバルキャンプ

「地域・人・自然とのふれあい体験」生き生き赤崎っ子!

長崎県佐世保市

■ 活動名

赤崎放課後子ども教室

■ 関係する学校

佐世保市立赤崎小学校

活動区分	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
学校支援 地域本部	1人	48人	17年度	無
放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	38人	50日	有
コミュニティ・ スクール	実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
	赤崎小体育館・図書室・運動場、パルシー、地区公民館、地区公園		16年度	有
その他	指定日	委員数	児童生徒数	学級数

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

佐世保市立赤崎小学校区は、西海国立公園九十九島、西海パルシーリゾートなどすばらしい自然や設備に囲まれており、その地域の特性を生かした活動、放課後(休日)の居場所づくりを進めている。生涯学習の拠点である地区公民館や町内会、更にはPTA、親父の会、赤崎っ子を守る隊、レクリエーション協会、近隣の中学校、老人福祉施設、学童クラブ等各種団体とのネットワーク化を図り、地域人材を本取組に生かして様々な「人」とのふれあい活動を積極的に行っている。

また、赤崎小学校支援会議を母体とし、学校・家庭・地域の共通目標である「笑顔で元気にあいさつできる子の育成」をめざして、地域や人とのふれあいの中で徳育にも励んでいる。



■ 特徴

【特徴的な活動内容】

- 西海国立公園九十九島に囲まれているというすばらしい自然環境を積極的に活用して、郷土料理教室や芋ほり体験、シーカヤックなど郷土を学ぶ、大地・海にふれる機会を数多く設定している。
- 放課後や休日に三世代交流を実施するなど、学校教育では体験することが難しい機会を積極的に提供している。
- 校区内には米軍住宅があり、その子供たちの参加により国際理解にもつながっている。
- 50回程の開催の中に通学合宿もあり、お楽しみ会などでは中学生のブラス演奏や「佐世保かっちえて落語っ子」(中学生の落語)など小学校間の交流の機会も提供している。

【実施に当たっての工夫】

- 生涯学習の拠点である地区公民館との情報交換を密にし、講師などの紹介を受けている。佐世保市出身で活躍されている方とのネットワークを構築し、子供たちには、夢をもち、明るい将来像が描ける、人材が育成できる教室を開催している。
- 九十九島、ハウステンボスなど地域の財産を活用し、地域の環境を守る活動を進めている人と交流をすることで、郷土愛を育てる。
- 大人もいっしょに参加できる機会を増やし、親子で楽しめる教室づくりをする。

■ 事業を実施して

- 保護者や地域の老人会、婦人会がいっしょになって活動するなど、三世代交流が容易にできるようになった。また、校区内老人福祉施設との継続的な教室開催、協力体制づくりにより、ボランティアにも感心が高まってきた。
- 活動が続いていることで、中学校から高校、大学へと進学した卒業生との交流もあり、子供たちが、「夢やあこがれを抱く」ことに大きくつながっている。
- 放課後子供教室の行き帰りは「赤崎っ子を守る隊」が子供たちの安全を見守っており、また、隊のメンバーがボランティアとして教室に参加するなど、地域とのつながりが更に深まっている。

■ その他

- 佐世保市出身の脚本家海老原靖芳氏やアニメーションディレクター木下小夜子氏から、貴重な話を聴くことができた(教室を開催することができた)ことは、長年の活動を通じ、人と人とのつながりがもたらした成果だと考える。

■ 参考URL

<http://www.city.sasebo.ed.jp/es-akasaki/>



くるるの日(老人福祉施設での交流)



絵手紙教室

テーマ「心豊かな子どもを育てるためのよりよい環境づくり」を目指した子供の育成

長崎県諫早市

■ 活動名

西諫早小学校学校支援会議

■ 関係する学校

諫早市立西諫早小学校

基本データ	活動区分				
	学校支援 地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
		1人	70人	19年度	無
	放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		1人	14人	37日	有
		実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
	西諫早小学校体育館および隣接ゲートボール場	23年度	有		
コミュニティ・ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	
その他					

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

平成19年度より年3回、学校支援会議を開き、学校・家庭・地域の連携・協働による子供の健全育成にあたっている。

1回目の会議では、その年度のテーマを決め、テーマに基づいた1年間の計画を立てている。毎朝のあいさつ運動や地域ボランティア・ゲストティーチャーの学習支援、わくわくふれあいフェスティバルの参観等を行ってきている。平成22年度から通学合宿、平成23年度からは放課後子供教室を立ち上げ、地域の方と子供との関わりもより一層深まってきている。また、平成25年度は、夏休みの校内キャンプを実施した。会議に出席する学校職員は管理職ということもあり、学校支援会議のメンバーから学校の先生と情報交換をしたいという要望があり、平成23年度より、全教職員と学校支援会議のメンバーとの研修会を毎年夏休みに設けるようにしている。また、学校支援会議主催で、教職員、保護者、地域住民をまじえての「子育てのコツ」シンポジウムを開催している。

平成25年度からは、地域のコーディネーターを中心に、活動がますます活発になるように、活動ごとの部会を設ける組織づくりに取り組んだ。(部会は学習支援班、読書支援班、学校美化班、安全・安心班、放課後支援班、行事支援班、育友会の7部会を設置。)

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

地域の方が中心となって通学合宿や放課後子供教室が立ち上がり、たくさんの方のボランティアの方の協力もあり、活動が軌道にのり活性化している。子供たちも意欲的に通学合宿等に参加し、人間関係力や生活力が育ってきている。また、5年生の「総合的な学習の時間」における年間を通した米づくり(もみまき・田植え・稲刈り・脱穀・もちつき)や、1年生の生活科での「むかしのあそび」の紹介や交流、特別支援学級での卒業お茶会など、地域ボランティアやゲストティーチャーによる学習支援も年々充実してきている。地域の方のつながりも深まり、地域コミュニティも再生されている。学校支援会議の運営自体を、学校中心ではなく地域中心で進めていこうという方向で、地域コーディネーターを中心に組織づくりに取り組んだ。

【実施に当たっての工夫】

地域のコーディネーターを中心に、それぞれの活動に実行委員会が立ち上がり、運営が進められている。実行委員会には、学校・育友会からも参加し、地域との連携・協働を図っている。正式な実行委員会以外にも、地域の方や育友会の方がいつでも来校しやすい雰囲気をつくって、打合せを進めることができる。また、支援のためのボランティアを毎年募り、学校に関わってくださるボランティア数を増やしている。

■ 事業を実施して

子供は、体験活動を通して生きる力を育むことができるとともに、地域の方を知ることで、普段からの声かけやあいさつができるようになり、お互いに話しやすくなった。また、地域の方は、子供と関わることで、生き甲斐を感じ元気になり、地域全体が活性化されていると思う。さらに、保護者間に「これだけ地域の方々にお世話になっているのだから」という感謝の気持ちや学校への信頼が強まり、従来、一部の保護者に見られた学校へのクレーム等がほとんどなくなり、理解者・協力者に転じていることも成果である。



放課後子供教室(諫早のんのこ節)



教職員との夏季学校支援会議合同研修会

■ 参考URL

<http://www.isahaya-snet.ed.jp/school/e-nishiisahaya/>

地域の触れ合いを大切に、豊かな心を育む学校支援ボランティア活動

熊本県宇城市

■ 活動名

不知火中学校区学校支援ボランティア

■ 関係する学校

不知火小学校・不知火中学校

活動区分	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
学校支援 地域本部	2人	210人	20年度	有
基本データ	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
その他	※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)			

活動の概要

平成20年度の事業開始から、2人のコーディネーターが小学校に常駐し、協力と役割分担をうまく行うことで着実に事業が地域に根付き、活動内容も年々充実してきている。中でも小学校4-6年生のクラブ活動(年10時間)では「クラブ大活動」(編成1時間・活動2時間×4回・年間反省1時間)という名称で、地域協力者を講師に迎え開催している。毎年15クラブ程度開催し、そのうち12クラブ前後が学校以外の地域協力者による体験活動である。年間を通じ継続して実施することで、地域ボランティアと児童との繋がりのみならず、学校と地域との繋がりも深まっている。

また、年1回「しあわせふるさと祭り」を実施している。これは全学年を対象に地域ボランティアが講師となり20近くの体験活動を行うもので、午前中に学習成果発表会をあわせて行うことで、学校・家庭・地域の触れ合いを深め、それぞれの教育力を高める一日として地域に定着している。

これらの活動において学校と地域を繋ぐ大事な役割をコーディネーターが担っており、普段の活動で培った地域との繋がりを活かし、活動内容の企画立案にも深く関わっている。また、ゲストティーチャー等専門性の高い学習支援も年20回以上実施しており、講師探しに加え、担当教諭と地域ボランティアとの連絡調整にもコーディネーターが活躍している。更に、平成24年度より業間の時間(デコポタイム)を利用した「丸付けボランティア」を開始し、アシスタントティーチャーとして活動する保護者も増加し家庭との連携がより深まっている。

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

- ・不知火の伝統継承、日本の文化に触れた体験活動
(伝統芸能や和太鼓、茶道・郷土料理等)
- ・学習支援ボランティア(ゲストティーチャー・アシスタントティーチャー)
- ・子供たちの登下校見守りボランティア
- ・読み聞かせボランティア
- ・丸付けボランティア(アシスタントティーチャー中心)

【実施に当たっての工夫】

- ・小学校に「コーディネーター室」を設けることにより、学校に地域ボランティアが気軽に立ち寄れるようになった。また、コーディネーターが専用PHSを所持しており、臨機応変な対応や日程調整ができています。
- ・月に一度、小学校との打ち合わせ会議をすることにより、より綿密で充実した活動内容、学校のニーズに合わせた地域ボランティアの活用につながっている。

■ 事業を実施して

- ・この事業を開始し、地域と学校との距離が縮まり「学校に行きやすくなった」「自分の知識を活かして嬉しい」「これからも子供たちのためにボランティアを続けたい」との声をもらっている。また、事業を進めるにつれて保護者の方との繋がりも深まり、「学校に行き、子供の様子が分かり嬉しい」と言われることも増えてきた。

■ その他

- ・年度末に「お礼の会」を設け、ボランティアの方々との絆の醸成を図っている。
- ・コーディネーターを中学校区に2人設けることにより、地元のネットワークを最大限活用することができ、学校・家庭・地域の更なる連携協力を進めている。また、県主催の研修会の他、市独自の研修会への出席や先進地への視察など、多岐に渡りコーディネーター自身が積極的に外向き情報収集に努めるとともに、資質の向上に努めている。



硬筆補助の様子



クラブ大活動での様子

■ 参考URL ■

<http://www.city.uki.kumamoto.jp/>

地域の先達を講師とした、学校周囲の豊かな自然を舞台にした学び合い!

熊本県甲佐町

■ 活動名

甲佐町放課後子ども教室
乙女小 まつやま塾

■ 関係する学校

甲佐町立乙女小学校

基本データ	活動区分				
	学校支援 地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		1人	18人	51日	有
		実施場所			開始年度
	乙女福祉ふれあいセンター、田畑、体育館、緑川	20年度	無		
コミュニティ・ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	
その他					

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

毎週水曜日と金曜日の放課後に2時間程度活動を行っている。活動場所は、乙女小学校の空き教室を利用して設置されている「乙女福祉ふれあいセンター」を中心に、近くの田畑・グラウンド・体育館を使用している。

乙女小の全校児童を対象に参加を呼びかけて、希望者を募っている。定員は30名程度としているが、これまでは、希望者全員が活動に参加することができている。

【まつやま塾が目指すもの】

1.ふるさとを愛する心、感動する心

地域のボランティアの方々と遊びの活動や体験活動を通して、ふるさとを知り、愛する心、そして感動する心も育てる。

2.社会性の育成

異年齢の子供たちや大人とふれあうことで、人と関わる力やルールを守ることの大切さを学び、人として大切な社会性も身につける。また、先輩のすごさに気づいたり、下級生の世話をする力を育てる。

3.学習の定着

学習課題に取り組む。学習アドバイザーが子供たちの学習を支援する。

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

「生きる力を養う」を目的の中心において、稲作や野菜の栽培を、種まきから管理、収穫して食べるまでを体験させている。また、稲作では「あいがも農法」に取り組み、昔の農機具を使って収穫を行っている。収穫した野菜は火を通して調理し、自分たちで作ったものの「命をいただく」ことを意識して活動している。

農業の他には、学校の周辺にある自然界にあるもの(木・竹・木の実・草など)や不要なものを素材として、家庭では敬遠されがちな道具(このなた・釘・かなづち・かま・小刀など)を使い、物を作り上げるにも取り組んでいる。

【実施に当たっての工夫】

○ものづくりの際は、決められた時間内に完成させるため、ボランティアによる準備と段取りを入念に行っている。また、ケガをしないように、3~4人に1人の割合で指導者を配置している。

○平成25年度からは、自分たちの活動を紙芝居にして、注意喚起や知識の浸透を図っている。

■ 事業を実施して

クラスではあまり目立たないような子も、まつやま塾ではリーダーシップをとったり、低学年の子を引っ張ったりする姿が見られる。

また、家庭からのアンケートでは、「お手伝いをよくしてくれるようになった」「先を読む力がつき、段取りがよくなった」「祖父母や年長者に対して尊敬や感謝の心が生まれているな、と感じる」「活動があった日の夕食のときは、話が盛りあがる」こと等が報告されていることから、親も子ども活動に満足している様子が見える。

現在の日常では経験できないことを体験することで、生きる力が育つだけでなく、家族の会話も増えていることが実感できている。

■ その他

育てた作物は調理して食べているが、食べることを無理強いはいしない。その時には食べることができなくても、後日「食べてみたらおいしかったよ～」という子供からの報告を聞くことがある。

「あいがも農法」実施後、指導員宅のあいがもをみんなで食した。「あいがも農法」を通して「命をいただくこと」の大切さを学んでいるが、自分たちのあいがもが食用になっていることは知らせていない。この点は、今後の課題とも言える。

■ 参考URL

<http://www2.higo.edu.jp/es/otomees/>



活動の中心である稲作(田植え)の様子



自分たちで育てたお米の味は格別!

多くの地域住民がボランティアとして参加し、学校以外の地域の各種機関・団体とも幅広く連携協力した活動

熊本県水俣市

■ 活動名

水俣第一中学校支援地域本部

■ 関係する学校

水俣第一中学校・水俣第一小学校

活動区分		コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
基本データ	学校支援 地域本部	1人	62人	21年度	有
	放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
	コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	その他	平成25年5月16日	6人	318人	11学級

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

1 活動期間

平成21年度の水俣第一小学校支援地域本部の実施から通算して本年度で5年目（一昨年度から中学校区での実施）

- 2 支援回数 109回
- 3 支援人数 892人

※部活動支援は不定数のため含まれていない。

4 支援内容

- (1) 「学習支援活動」：米づくり、環境学習、校外学習、紙漉き体験、調理実習、幼児ふれあい体験等
- (2) 「部活動支援」：部活動の練習、試合の指導等
- (3) 「環境整備」：水田の管理、草刈り等、
- (4) 「登下校安全指導」：1・2パトロール、あいさつ運動等
- (5) 「学校行事」：体育大会、文化祭等
- (6) 「その他」：合格祈願餅つき、福島との交流学习等

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

一年生の米づくりは、田植え・収穫・調理・おにぎりコンテストの一連の流れで実施した。

二年生の環境学習は、NPO法人の方々の協力を得ながら「海学校・山学校・川学校」を実施した。海学校では、漁協の方、ダイビングインストラクターの協力で、水俣の海がどのような状態なのかを自分の目で確かめたり、海藻の様子を詳しく知ったり、山学校では、植物の光合成による二酸化炭素の吸収を調べる実験や、山に降った雨がどのように地面にしみこんでいくかの様子を観察するなど、山林の動きをフィールドワークを通して学習した。川学校では、地域の学校応援団の方々に昔の川や地域の様子を散策しながら教えてもらった。

三年生は、餅つき体験、紙漉き体験、面接指導を実施した。餅つきは、保護者とともに合格祈願をこめて実施した。紙漉き体験は、地域の紙漉き師の方に教えていただき、一人ひとりが自分自身の卒業証書を漉いた。



「海学校」：ダイビングインストラクターの指導

【実施に当たっての工夫】

1 運営について

- (1) 水俣第一中学校に事務局を置き、各校の校内担当コーディネーター（教諭）と連携して支援活動を実施している。
- (2) 地域教育コーディネーターが、中学校のPTA会長を務めながら、PTAの参加機会の増加を図っている。
- (3) 各種事業との積極的な連携を図り、予算の確保についても工夫している。

■ 事業を実施して

<生徒> 地域住民や保護者と交流することにより、様々な体験や経験の場が増え、学力、規範意識、コミュニケーション能力の向上につながった。

<学校> 地域住民や保護者が学校に積極的に関わったことで、環境整備や安全確保等の面で、学校の負担が軽減された。

<地域住民> 地域住民や保護者の生きがいづくりや自己実現につながった。地域の教育力が向上し、地域の活性化につながっている。また、学校へ来校する機会が増え、学校教育活動への理解が深まった。



「調理実習」：家庭科の授業

子供たちの縦割り体験活動を取り入れた、ニュータイプの地域塾

大分県由布市

■ 活動名

狭間中学校区放課後子ども教室
「学楽多塾」

■ 関係する学校

狭間小学校・由布川小学校・石城小学校・
谷小学校

活動区分	基本データ			
	学校支援 地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度
放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	3人	23人	175日	有
	実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
	公民館、小学校の体育館や家庭科室など		16年度	有
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
その他				

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

NPOはさま未来クラブと市との協働事業。

狭間地域の小学校において、放課後や週末等に小学校の体育館や家庭科室を活用して、子供たちの安全・安心な活動拠点(居場所)を設けている。地域の方々の参画を得て、子供たちとともに勉強やスポーツ、文化活動、地域住民との交流活動等を実施することにより、子供たちが心豊かに健やかに育まれる環境づくり、地域社会づくりを推進している。

◎教室内容

●安心できる居場所だけでなく、様々な体験・交流・学習活動の機会を提供し、子供たちの社会性・自主性・創造性を育むプログラムで、教室を開催。

◎コーディネーターの役割

- 講師とコーディネーターが連携を図りながら、教室内容の提案・計画・実行。
- 講師・安全管理員の確保及び支援。
- 各教室の教材の準備。
- 教室参加者(保護者及び塾生)の対応。(受付業務も含む)
- 参加者へのお知らせ・啓発活動。
- 子供たち・指導者・安全管理員が、安心・安全に過ごせるよう配慮する。
- 学校・児童クラブとの連携を図る。

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

公民館ではクッキング・お茶などの教室、学校内では軽スポーツ・工作やおやつなどの教室、夏休みは野外体験活動と宿題支援を中心に年齢縦割りで行っている。最近では準備や片づけなど自主的に手伝う子供たちも増えてきており、指導のサポート役として中学生もたくさん来て、協力してくれている。

毎週土曜日に、芸術や技術的な創作活動や食育を実施。また長期休業を生かして、故郷の良さを知る活動として、ふるさと探検や遊び発見などの教室を開催した。

学校・児童クラブと連携を図りながら、PTA等、子供たちが早く下校する日も可能な限り開講し対応している。

【実施に当たっての工夫】

公民館で活動する自主学習の教室もたくさんあるので、工作や料理などプログラムづくりのヒントとさせてもらっている。

縦割り班での活動で高学年に役割を持たせ、自ら自覚を持てるよう工夫し、また低学年には「高学年になったら役割ができる」などの目標を持たせる。

教室の開催時は、講師のほか安全管理員を、活動の内容に応じ適切な人数を配置した。万一に備え、講師、安全管理員は、参加者保険に加入した。救急箱の設置。安全管理員には毎月の会議と綿密な打ち合わせを行い、事故防止を徹底した。

また、小学校を通じ、募集チラシを配布した。広報活動は、未来クラブ広報誌に掲載し、啓発活動に努めた。

■ 事業を実施して

学校に「また来ていいよ!」などと声をかけてくれる子供たち・・・輝く瞳と笑顔を見ていると、疲れを忘れさせてくれる。中学生になって「手伝う」と言って教室にきてくれることは本当にうれしく思う。

対象児童数が1,000人を超える。学校支援活動に関する学校からの依頼数、子供教室の参加者数もともに多い。支援者の材料費・安全管理員の謝金など予算的には厳しい部分もあるが、今後の教室について、さらに検討し工夫していきたい。

■ その他

「いつでも、どこへでも、すぐに駆けつけのお助けマン」として、学校へのボランティア派遣とともに、活動の柱として教室を行っている。

ボランティアで講師をしてくれる人材を、多岐にわたり多くの人数有している。いざとなったら、すぐに支援をしてくれるグループも身近にいる。



(夏休み工作教室「絵紙ランタン」)牛乳パックを使ったエコ工作。参加者も100名を超える。絵紙教室の方々が指導し、補助は生活学校の方々。得意分野で協力してくれている。



(公民館での学習指導)学校のPTAに合わせて開くこともあり、参加者は100名を超える。

■ 参考URL ■

<http://www.city.yufu.oita.jp/>

地域住民で小学生の安心・安全を！「下校見守り活動」

大分県杵築市

■ 活動名

山香校区ネットワーク会議
「下校見守り活動」

■ 関係する学校

向野小学校

活動区分	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
学校支援 地域本部	1人	67人	20年度	有
基本データ 放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
その他				

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

平成18年度に不審者対策のため結成した、「向野小学校見守り隊」のメンバー30名が、週2日(月・金曜日)、下校時の安全・見守り活動を実施している。

子供たちの居住区ごと、3班に分かれ地域の方々が同伴して下校し、児童それぞれの自宅まで送り届けるようにしている。地域の方や保護者が見守り隊発足以来、支援者はすべてボランティア参加で、無償にて活動している。地区内において、子供の下校を見守ることが日常活動として、地区住民の意識に定着している。

平成24年度には、継続した活動が評価され大分県教育奨励賞を受賞している。

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

見守り隊のメンバーの構成は、7割が地域の方々と、保護者は3割である。

地区の中心には国道が通り、通学路には寂しい場所も多数あるため、多くの住民が問題意識を持ってきた。

地区の子供たちの安心、安全を確保するための下校時の見守り活動を通して、地域住民全員が地区の子供を育てる意識を高めている。子供たちも地域の方々と下校する時間を通して新たな絆を築いている。

【実施に当たっての工夫】

ボランティアの方たちは、子供たちにとって身近な存在である。特に、登下校時の見守り活動中は、出会った子供たちとの会話を大切にしている。会話の内容については、子供の生活や学年を考慮している。地域の昔の様子や学校や家庭の出来事などを話題にしながら、子供たちが元気に安心して通学できるように支援している。

「郷土愛」を育むきっかけになることを期待している。

■ 事業を実施して

次のような感想が多く聞かれる。

【児童】「下校の時間が楽しい！」

【学校】「地域の方に囲まれ、安心して児童を下校させる事ができる。」

【見守り隊】「子供のことを知れたり、成長を見守られてうれしい。」

※本活動により、地域と学校との関わりがさらに深いものとなり、他の活動にも良い影響を与えている。



下校する児童の見守り活動①



下校する児童の見守り活動②

■ 参考URL ■

<http://syou.oita-ed.jp/kitsuki/mukuno/>

地域の特性を活かした農業体験を取り入れた支援活動

大分県玖珠町

活動名

八幡地区自治組織運営協議会

関係する学校

八幡小学校

活動区分	基本データ			
	学校支援 地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度
放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	17人	39日	有
	実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
	八幡自治会館、小学校の体育館など		20年度	無
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
その他				

*H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

八幡地区自治組織運営協議会は、教育文化部会・環境部会・地域づくり部会・健康福祉部会に分かれ、連携協力しながら地域の様々な活動を行なっている。協議会の役員は自治会館館長や自治委員会、食生活改善推進協議会兼「協育」コーディネーター、民生児童委員、社会教育委員、防犯協力会など21名で組織され、各団体からの幅広い人材の協力推進体制が図られている。

役員会では八幡中学校区(玖珠町立八幡中学校・玖珠町立八幡小学校)と古後中学校区(玖珠町立古後中学校・玖珠町立古後小学校)を対象とした学校支援地域本部を立ち上げ、校区ネットワーク会議を開催し、人材情報の提供および活動の支援、広報活動等を行っている。

八幡地区の大部分は、兼業農家であることから、学校支援にも農業体験活動を取り入れていることが特徴である。地域の特性と学校の要望を基に、学校支援活動では一年を通じて稲作体験の支援などを行っている。

放課後子供教室では、そばの種まきから収穫、そばうち体験、試食など一連の体験を通して自分たちで育てたものを収穫する喜びや食育の大切さ、食べる楽しさを学んでいる。

また、放課後の時間を活かした学びの教室(寺子屋)では、地域の大人の協力のもと、算数のドリル学習を行っている。「全国学力・学習状況調査」(文部科学省実施)と「基礎・基本の定着状況調査」(大分県教育委員会実施)の結果に成果として表れ地域の方々のサポートが学力向上へとつながっている。

特徴

【特徴的な活動内容】

～ 一年を通じた稲作体験活動 ～

学校近くの地域の方の田んぼを借用して、地域の方の指導のもと、一年を通じた稲作体験活動を行っている。4月の5年生による「種もみまきの指導」では、今は機械で行う箱苗作りを昔のやり方の手作業で行っている。

6月の「田植えの指導」では、全校で田に入り手植えを行う。泥の感触を楽しみながら、一本一本丁寧に植えている。9月には、「稲刈りの指導」が行われ、鎌の使い方や、刈った稲の結び方、竿にかけ作業を、地域の方と一緒にやる。地域の方と一緒に汗を流しながらの作業は、収穫の喜びと同時に地域との交流の時間となっている。10月には「脱穀の指導」が行われ、今ではめずらしい足こぎ脱穀機を使う。昔ながらの道具を使った作業は貴重な体験となっている。

一年を通してできたお米は、祖父母学級でおにぎりにしてみんなでおいしくいただいている。また、大分県が実施する農業祭で子供たち自身で販売も行っている。

【実施に当たっての工夫】

- 一年を通じて農業体験を行うにあたって、学校から近く移動がしやすい場所であることや稲の生育観察などがしやすい場所であることを考慮して、地域の方の協力のもと、学校近くの田んぼを借用して取り組んでいる。
- 指導にあたっては、昔ながらの手作業での体験活動が効果的に行えるよう、農業経験豊富な地域の方々の協力を得て取り組んでいる。
- 農業体験を継続していく上で、一年を通じた田の管理等が必要となる。地域指導者の全面的な協力に感謝する意味を込めて、学習体験の終わりには必ず児童から体験活動の感想やお礼を述べ、共に児童の成長を喜びあえる場づくりをしている。
- 学習の作業風景や成果、感想などを学校支援地域本部の広報誌やホームページに掲載し、ボランティアの方へのお礼と普及活動を行っている。



学校支援「稲作体験、足こぎ脱穀の指導」

事業を実施して

【感想】子供たちの中に入り、楽しい時間が過ごせました。(ボランティア) 地域ボランティアの方々が多かったので、スムーズに作業が行えました。(教職員) 難しかったけど、楽しかったです。(児童)

【効果】学校支援の取り組みが、地域の方々の生きがいや喜びとなっている。地域で育つ子供たちにとっても、地域との関わり合いを通して、地域全体が安心安全な場所となり郷土を愛する子供の育成につながっている。準備や管理が大変な体験活動の支援は特に有意義なものとなっている。

その他

放課後子供教室の活動に、地域の行事(山下あじさい祭りや神輿の飾りつけ)を取り入れるなど、地域の活性化にも貢献している。

参考URL

<http://www.yahata-zitisosiki.jp/>



学びの教室「八幡寺子屋」算数のドリル学習

地域ぐるみで子供の学びを充実したものにする学校 応援団活動

宮崎県えびの市

■ 活動名

上江地区学校支援地域本部

■ 関係する学校

えびの市立上江小学校・上江中学校

活動区分		コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
基本データ	学校支援 地域本部	1人	41人	20年度	有
	放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
	コミュニティ・ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	その他	平成23年4月1日	10人	130人	11学級
※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)					

活動の概要

平成20年度から「学校支援地域本部事業」に取り組み、えびの市内に4つの本部の中でも最も学習支援が積極的に行われている本部であり、他の模範となる。

【主な学習支援活動】

- ・ 社会科における「郷土学習」引率
- ・ 算数科における「そろばん学習」支援
- ・ 生活科における「昔の遊び」支援
- ・ 森林教室における森林ガイド

【その他の主な学校支援活動】

- ・ 「こしき会」による学校環境整備
- ・ PTAを中心に地域との連携を図った読書活動の推進
- ・ 小・中学校の図書室の蔵書整理支援
- ・ 学校行事等における子供の見守り支援（学校参観日やPTA総会等）

地域住民とのグラウンドゴルフ交流会やふれあい給食等により地域との絆づくりを行うとともに、平成23年度に立ち上げたコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）により、地域ぐるみでの学校支援の更なる充実を図っている。

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

- 市内4本部の中で、最も早くから学習支援活動が行われており、さらに、地域と学校の絆が強く、互いに理解し合い、尊重しあいながら活動が続けられている。
- 11名の地域住民で組織する「こしき会」が大工・左官・建築士など専門的な技術を生かし小・中学校の環境整備を進めている。
- 家庭での読書を普及させるために、家読(うちどく)デーを取り入れ、家族ぐるみの読書を推進している。
- 平成25年度から一貫型小中学校となり、小規模校の特性を活かしながら合同で実施していた家庭教育学級や運動会、学習発表会、田植え等がますます充実している。

【実施に当たっての工夫】

- 「学校運営協議会」が3つの機能(①アイデアを出す②応援団となる③実働部隊としての活動も行う)を生かしながら、地域コーディネーターの調整により、学校支援活動の更なる充実を図る。
- 地域コーディネーターやボランティアが集う場所を校内に確保することにより、日常的に学校支援活動が行われるようにしている。

■ 事業を実施して

- 学校運営協議会が地域コーディネーター活動をさらに後押ししてくれるようになり、地域ぐるみで学校・児童生徒を支援しようとする気運が高まっている。
- 竹細工製作で花瓶を作りその花瓶に生花を活け玄関に展示される等、児童生徒の実体験による活動の充実が図られている。
- 児童・生徒とのふれあいにより、ボランティアの方々の活動意欲が高まっている。

■ その他

【ボランティアの声】

- 学校側の受け入れが非常に親切で学校に行くのが楽しい。
- 子供に顔を覚えてもらい元気な挨拶をしてくれるので元気になる。

【児童生徒の声】

- そろばん玉の動かし方を教えてもらい自分で出来る様になった。
- えびのの歴史等についてわかりやすく説明してもらった。

【教職員の声】

- 教職員の負担が減り生徒一人一人に目が向く様になった。
- 講師や人材を探すとき相談するとすぐに見つけてくれる。楽になった。



森林教室における森林ガイド



地域の皆さんとのグラウンドゴルフ交流会

学習支援と遊びの見守り、充実した体験活動を通して子供の居場所づくり

宮崎県日向市

活動名

しおみっ子放課後子ども教室

関係する学校

日向市立塩見小学校

基本データ	活動区分	学校支援 地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	放課後 子供教室		コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
			1人	21人	200日	有
		実施場所	日向市立塩見小学校 図書室その他		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
	コミュニティ・ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	無
	その他					
						*H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

日向市から業務委託を受けた「塩見まちづくり協議会」が活動の一環として「しおみっ子放課後子ども教室」を運営している。塩見小学校児童の放課後の安心・安全な居場所づくりは、帰宅後家にだれもいない児童、仕事をしている家庭にとって、ニーズに応える存在となっている。

教室では学習支援、遊びの見守りはもちろん、月ごとのいろいろな行事を計画し、年間200日の開設日の中で、放課後子供教室ならではの貴重な体験ができるプログラムを用意している。教育活動推進員2名、教育活動サポーター9名、コーディネーター1名を配置し常時3名体制で見守りを行っている。また、月1回の推進員、サポーターの定例会を開催し、日ごとの担当者の割り振りを行い、行事実施の計画を話し合っている。年間の実施計画は右の表のようなものである。

さらに週1回、囲碁教室を開催している。日向市は碁石の産地であることから囲碁が盛んである。この伝統を次の世代にも伝えていくために、子ども教室参加者に囲碁の打ち方を基礎から教えている。日本棋院日向支部の協力を得て、子供達が興味を持って取り組めるよう低学年でもできる囲碁教室になっている。

「地域の子供は地域で育てる」と言われる昨今であるが「しおみっ子放課後子ども教室」は学校・家庭・地域の連携を図りながら、自主性と活動内容において他の放課後子供教室の参考となる活動をしている。

4月	5月	6月
開校式 避難訓練 農業体験(通年)	陶芸教室	子育て講演会 (保護者・指導者向け)
7月	8月	9月
七夕飾り 竹細工教室	家族交流会 (日帰りキャンプ)	避難訓練
10月	11月	12月
塩見川 かんきょう教室	収穫祭	クリスマス会 リース作り 例大祭野菜販売 芋ほり
1月	2月	3月
避難訓練	節分 陶芸教室	ひな祭り 塩見ウォーク参加 終了式

特徴

【特徴的な活動内容】

- 避難訓練を年3回計画している。海岸からはやや遠く、海拔もある地区ではあるが、安全なところへの避難をするため、抜き打ち的な訓練を含め実施している。
- 陶芸教室では、作品として展示できるほどの完成度の高い作品作りを指導している。(陶芸を指導できるサポーターがいる)
- 農業体験は通年行っている。玉ねぎ、芋をはじめ季節の野菜を育てる自然体験ができる。
- 子育て講演会は、保護者や指導者を対象に実施し、地域全体で子供達を見守っていく意識を醸成している。
- 個人の家で実施する竹細工教室に参加させてもらい、日本の伝統文化に触れることのできる体験ができる。竹を使ったそうめん流しは好評である。
- 家族交流会では子供達、保護者、推進員、サポーターその他関係する人たちが日帰りのキャンプを楽しみ、触れ合いの機会を作っている。
- 近くを流れる塩見川の環境調査をまちづくり協議会の人たちと一緒に参加し、自然と郷土を大切に作る経験をしている。
- 例大祭野菜販売では、農業体験によって育てた作物を販売し、売り上げは家族交流会などで役立てている。
- 塩見ウォークでは、地域の行事に参加することで、歴史や文化を学ぶよいきっかけづくりとなっている。
- 週1回囲碁教室を開催し、碁石の生産が盛んな日向市の伝統の普及に努めている。「しおみっ子放課後子ども教室」の一番の特徴は教室運営に関して、自分たちの力で運営しており、自主性という点で際立った活動になっている。

【実施に当たっての工夫】

- 教育活動推進員・サポーターを常時3名配置している。
- 安全管理点検は日誌をつけ毎日行う。
- 「帰りの会」を実施し、その日の活動を振り返らせている。(自己を見つめる大切な時間になっている)
- 月1回の会議において、課題等について話し合い、解決している。

事業を実施して

子供達にとっては、帰宅後家にだれもいない時間帯を学習支援や遊びの時間を見守ってもらえる放課後子供教室の存在は大切であり、保護者にとっても子供達の安心・安全な居場所として受け入れてもらっている。放課後子供教室の活動が塩見地区の地域づくりの一環として行われており、地域における人づくりとして実施され、学校・家庭・地域の連携が機能し、「地域による学校支援活動」につながっていると意義がある。

その他

塩見小学校は全校児童126名であるが、そのうち24名が放課後子供教室に参加している。「ひよっこ踊り」という伝統文化の継承が地域で行われており、小学生も参加している。畜産やマンゴーづくりが盛んであり、「塩見まちづくり協議会」の活動を中心に地域づくりの活動が活発な地域である。



陶芸教室で説明を聞く児童たち



春に植えた野菜を収穫した児童たち

地域の自然の中で学び、人と人とのつながりを築く活動

宮崎県新富町

■ 活動名

放課後子ども教室あおぞら

■ 関係する学校

新富町立上新田小学校

基本データ	活動区分	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
	学校支援 地域本部				
放課後 子供教室	コーディネーター数	1人	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所	上新田学習館の和室、集会室		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
		16年度		無	
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	
その他					

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

学校の完全週5日制の開始以降、子供達の体験活動を地域のベテラン指導者とともに協力して行うことを目的に発足した。

(平日の活動) ※主に毎週水曜日

- ①もくもくタイム・・・開始30分間は一切おしゃべりをせず、もくもくと宿題などの学習に取り組んでいる。
- ②フリータイム・・・室内での読書やゲーム遊び、運動広場での運動、公園散策、清掃活動などに取り組んでいる。
- ③その他・・・もくもくタイム用の机やイスの準備・片づけ、窓開け、使い終わった部屋の掃除などは、全て教室生が行っている。

(休日の活動)

- ①自然体験・・・春はホテル見学、夏と秋は虫さがし、冬はネイチャーゲームを行い、自然の偉大さ、大切さを学んでいる。その他、海岸清掃をし、アカウミガメの産卵のお手伝いをしている。
- ②料理教室・・・食生活改善推進委員でもある教育活動サポーターの方の特技を生かし、秋と冬に2回実施している。
- ③その他・・・高齢者の方と一緒に活動するグラウンドゴルフや別の放課後子供教室の教室生たちと合同体験活動を年5回設定し、同じ活動をすることで交流をしている。

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

コーディネーターが自然体験活動を企画するシェアリングネイチャー協会の方であることや、近隣に自然が多い環境を生かし、自然や生き物に直に触れる自然体験活動が多いことが特徴である。

校区内にあるビオトープで珍しい虫や植物を観察したり、町内の池の周りを散策しながらネイチャーゲームをしたり、また、町外の自然の森で動物の足跡や梢の音を聴いたり、これまでにたくさんの体験活動を行ってきた。

また、コーディネーターと上新田小学校間で直接連絡を取り合い、日程調整や教室生以外の子供達に体験活動参加を呼び掛けることもある。

【実施に当たっての工夫】

「何でも子供達にさせる」ことを意識している。

学習時の机・イスの移動はもちろん、教室後の掃除、公園で遊ぶ前のゴミ拾いなど、子供達にできることは全て自分たちで自主的に行うように呼びかけている。虫さがしやネイチャーゲームの際も、自分達で探し捕まえるようにしている。

そうすることで、自ら気づき、動くことができるようになるからである。

■ 事業を実施して

<保護者・サポーターからの意見>

- 体験活動は、家族みんなで参加し、いい思い出になっている。
- 教室が始まった年度当初は人見知りだった子が、1年経ってはっきりと自分の意見を言えるようになった。
- 調理実習をして、家でお手伝いをしてくれるようになった。

■ その他

平成16年度の「地域子ども教室」からずっとこの「あおぞら」は続いており、今年度で10周年である。最初の教室生はすでに高校生になったり、成人したりしている。



料理教室の様子



ネイチャーゲームの様子

地域住民が支援する「地域の中の学校」づくり

鹿児島県鹿児島市

■ 活動名

大明丘小学校地域本部

■ 関係する学校

大明丘小学校

活動区分		コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無	
基本データ	学校支援 地域本部	1人	237人	20年度	有	
	放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無	
		実施場所			開始年度	放課後児童 クラブとの連携
		コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
その他						

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

鹿児島市においては、昭和48年から全小学校区を単位として、学校・町内会・各種社会教育関係団体等の代表から組織されている校区公民館運営審議会が設置され、これまでに青少年の健全育成や校区民の生涯学習のための事業を実施し、大きな成果をあげてきた。そこで、本組織を地域教育協議会に指定し、「地域の教育力」を生かした本市独自の地域ぐるみによる「学校支援ボランティア事業」を平成20年度から推進してきており、平成25年は36本部70小学校での実施となった。

大明丘小学校地域本部は、平成20年度から本事業を実施し、地域住民だけでなく、卒業生の保護者にもボランティア登録を継続依頼するなど着実に成果をあげてきている。

特に、年間を通じて、教科や金管バンドの指導支援を継続して実施しており、樹木剪定や図書室整備等の環境整備活動も多い。また、職員朝会の時間帯での読み聞かせ活動や給食の後片付け見守り活動などにより、子供の安全確保や子供と教員の向き合う時間の拡充につながっている。これらの活動を通して、地域と学校の連携が深まり、地域の教育力の向上にもつながっている。

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

- 5・6年生の総合的な学習の時間に「ふるさと先生」を実施している。地域在住のさまざまな職業の方々に仕事の内容や喜び等を語ってもらい、子供たちの将来に向けた夢や希望を膨らまそうとするものである。卒業生のプロサッカー選手の話には、身を乗り出すように聞き入っていた。
- 金管バンドの練習は、個別指導が必要なので、保護者やOBのボランティアが交代で補助指導に当たっている。同じメンバーが引き続いて指導に当たっているため、教員との連携も十分で、大きな成果をあげている。
- 教員が昼休み時間に子供たちと向き合う時間をつくるために、給食の片付けを見守る「給食ボランティア」が毎日交代で活動している。子供たちは、元気にあいさつをして、親しみを深めている。

【実施に当たっての工夫】

- 複数の「ふるさと先生」の中から、子供たちが第一に希望する職業を選択し、話を聞くことができるように努めた。地域の情報を知っている方々の積極的な支援がありがたかった。
- 金管バンドは、担当教員が合会等でいないときでも、ボランティアが指導している。長年の取組の成果で、子供の良さを生かす指導がうまく行われており、保護者からの信頼も厚い。
- 「給食ボランティア」は、15分程度の短い活動であり、高齢者も多い。登校指導をしてもらえる方も多く、子供たちが嬉しそうに近寄っていく場面もよく見られる。給食時の校内放送で、あいさつを呼び掛けているので、子供たちの元気な声が飛び交っている。

■ 事業を実施して

- 教科指導や部活動等でボランティアが支援に入ることによって、個別指導の機会が確実に増えた。また、技能的な指導については、その質も向上し、子供たちの喜びも大きい。
- 教員が、向き合わなければならないと思っている子供と、ふれあう時間が得られつつある。
- 地域の方々も、さまざまな機会に学校に入り、子供たちとふれあう機会が増えている。顔見知りになった方と、学校の外でもあいさつを交わす子供たちが増えてきたという声が聞かれるようになってきた。

■ その他

- 本校では、学校関係者評価項目に、年数回のボランティアの活用を明示したことで、教員が積極的にボランティアを活用するという姿勢を高めている。
- ボランティアの活用が教員の地域理解を深めるとともに、学校としての指導力の向上にもつながっている。



秋の運動会に向けた「金管バンド」の指導。後方ではカラーガード隊の指導が行われている。



給食コンテナ室に地域の方が待機し、食器を片付ける子供たちを笑顔で見守ってくださる。

学習、部活動、環境、登下校安全等を地域全体で支援している

鹿児島県瀬戸内町

■ 活動名

古仁屋中学校区支援地域本部事業

■ 関係する学校

古仁屋小学校・古仁屋中学校

活動区分	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
学校支援 地域本部	1人	25人	20年度	無
基本データ 放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
その他	※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)			

活動の概要

◎経緯 学校と地域との連携体制の構築を図り、地域の子供は地域で見守り育てるという理念のもと、平成20年度から学校支援地域本部事業に取り組んでいる。

◎学習支援

○放課後コツコツ学習会の実施/火・水・金曜日の午後4:30~5:30/学習意欲の向上や基礎学力の定着を図るために放課後を活用して支援ボランティア(役員職員や社会教育関係団体長等)が学習会を実施(国語、数学、英語を中心に全教科)

- 朝の読み聞かせ活動
- 授業支援/総合的な学習の時間等

◎部活動支援

- ①相撲 ②女子バレーボール ③野球 ④男女バスケットボール ⑤柔道 ⑥空手 ⑦ソフトテニス ⑧サッカー ⑨吹奏楽

◎環境整備

- 学校園の花植え、樹木の剪定/校舎内の整地

◎登下校の安全指導

- 登下校の安全指導、朝の挨拶声かけ運動、夜間のパトロール(町安心・安全きらめき隊との連携)

■ 特徴

[特徴的な活動内容]

・放課後におけるコツコツ学習会の実施

支援ボランティアによる、週3回の学習会を実施している。(火・水・金曜日の午後4:30~5:30)

部活動との関係で、生徒の参加は多くはないが、授業で確認できなかった部分の復習や家庭学習の課題について、ボランティアが支援している。昨年度は、80回の学習会に延べ446人の生徒と150人の学習支援ボランティアが参加した。

個別指導を中心とした支援活動は、生徒にとっては納得するまで指導を受けられ、授業で解決できなかった部分を理解する上でも良い活動となっている。定期テスト前には、特にこの学習会に参加する生徒が多い。部活動を引退した三年生にとっては、放課後の時間の有効活用になっている。

[実施に当たっての工夫]

- ・放課後コツコツ学習会が実施できる曜日を学校側と調整し、支援ボランティアを2人を配置できるよう工夫している。学習会のための教室も決められており、学校側も生徒の参加状況や取組の様子が確認できるようになっている。
- ・三教科を中心に学習会を実施しているが、生徒の課題解決のために教科にとらわれず、幅広い支援活動ができるようにしている。
- ・生徒の取組状況について、支援ボランティアから学校側への情報提供も円滑に行われるように連携に努めている。



放課後コツコツ学習会の様子

■ 事業を実施して

- ・本事業を実施して、生徒と地域の方、先生が顔見知りになることで、地域と学校の連携が今まで以上に図られるようになってきている。地域の方が気軽に来校すると、あいさつや礼儀等の生徒指導上の成果も出ており、地域に開かれた学校づくりが展開されるようになった。
- ・放課後の学習会の実施により、問題を解くことができた喜びや達成感、友達との一緒に学ぶの中で、学習意欲の向上や、学力の向上も図られている。

■ その他

- ・支援ボランティアは、自分の特技をこの活動を通して生かすことができ、新たな生き甲斐づくりにもなっている。



家庭科調理実習の支援

地域の子供は地域で育てる！子供・保護者・地域の人材(高齢者)、三世代での活動

鹿児島県南九州市

■ 活動名

たかた三世代塾

■ 関係する学校

南九州市立高田小学校

活動区分	学校支援 地域本部		開始年度	補助の有無
	コーディネーター数	ボランティア登録数		
基本データ	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	1人	18人	34日	有
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	図書室、体育館、校庭、校区内各所		19年度	有
コミュニティ・スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
その他				

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

- ・平日は、高田小学校での教科の学習活動や読み聞かせ、昔の遊び指導を行っている。
- ・週末は、地域における体験活動が中心となる。
- ・地域の方々と連携した田んぼ遊び、他の地域塾と連携した校区内にある川の水生生物観察、農業体験、地域の太鼓踊りの練習などの多様な体験活動に取り組んでいる。
- ・校区と一体となった鬼火焚きやグラウンドゴルフ大会も行っている。
- ・子供たちの参加については、学校を通じて、全児童に案内を配付し、参加者を募っている。活動内容によっては、地域の全家庭に案内を配付し、集落の放送を通じて、参加を呼びかけている。
- ・親子での参加が多く、三世代塾の趣旨に沿った活動がなされ、地域の子供は地域ぐるみで育てようという意識が高田校区に定着している。
- ・平成24年度は、平日24回、週末等に10回実施。参加者延べ人数は、621名。

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

- ・活動内容によって、地域ぐるみで高齢者クラブや女性団体等の各機関が分担し、青少年の健全育成を行っており、地域の子供は地域で育てるということが実践されている。
- ・週末の活動では、塾長、副塾長(高田区筆頭区長・子ども育成連絡協議会長・小学校PTA会長)、運営委員(老友会長やその他の団体)からの協力を得て、それぞれの活動内容に応じて担当団体が責任を持って計画的指導ができるように組織化された運営がなされており、地域を挙げて地域の各関係機関が連携して様々な体験活動を行っている。

【実施に当たっての工夫】

- ・活動内容によって、地域ぐるみで関係機関や団体が分担し、青少年の健全育成を行っており、地域の子供は地域で育てるという考え方が地域に根付いている。
- ・どの活動も、高田地区の文化や伝統を生かしたものとなるように工夫し、高田地区の良さを生かした活動になるようにしている。
- ・校区公民館や青少年育成校区民会議などの地域の方が出席する会合等で協力を呼びかけ、地域の理解や協力を得ながら活動している。

■ 事業を実施して

- ・親子の参加が多く、三世代塾の趣旨に沿った活動がなされ、地域の子供は地域ぐるみで育てようとする意識が校区に定着している。
- ・指導者は全員が地域のよき人材であり、そのことも高田の良さの再発見につながっている。三世代塾という名前のとおり、子供と保護者、地域の人材(高齢者)の三世代での活動を大切にしている。

■ その他

- ・鬼火焚きの担当運営は消防団が行うなど、校区内の団体が得意分野を活かして企画運営を担当している。

■ 参考URL ■

【南九州市立高田小学校ホームページ】
<http://minamikyushu-city.hs.plala.or.jp/takata-es/>



太鼓踊りの伝承



ミニ門松作り

子供たちの放課後の居場所づくりと伝統文化に触れることができる教室!

沖縄県那覇市

活動名

高良小PTA放課後子ども教室

関係する学校

高良小学校

活動区分		コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
基本データ	学校支援 地域本部				
	放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		1人	15人	180日	有
		実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
	PTA室、体育館、イングリッシュルーム、図工室、被服室	16年度	無		
	コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	その他				

*H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

1. 教室内容 ①エジソンクラブ (PTA室) 【月曜日】 15:00-16:30 【水曜日】 15:45-17:00
②からだであそぼう・キンボール (体育館・イングリッシュルーム) 【火曜日】 15:00-17:00

- ③書道教室 (図工室) 毎月第1、第2木曜日 15:00-17:00
④お花教室 (被服室) 金曜日 15:00-17:00
⑤大正琴 (図工室) 金曜日 15:30-16:30

2. 活動紹介

- ①エジソンクラブ:お勉強の苦手な子を対象に、主に宿題と算数の学習指導をしている。
②からだであそぼう・キンボール:ダンス、道具(フラフープ、大縄飛び、ボールなど)を使った運動とキンボールをしている。
③書道教室:硬筆の練習をしている。特にひらがなから力を入れて練習しており、礼儀作法も一緒に教えている。
④お花教室:数種類のお花を子供たちの感性で生けさせている。クリスマスにはリース作りなど季節の花を使っている。礼儀作法も教えている。
⑤大正琴:大正琴のハーモニーを楽しんでいる。

特徴

【特徴的な活動内容】

- エジソンクラブ(学習支援)は、保護者から「子供が学校で教えてもらっている勉強(特に算数)が理解していないようだ」という声から始まりました。学校の学力対策担当教諭と連携し、学習の支援が必要な子供たちを集中的に指導している。
- 各講座の講師はPTAのOBや地域の方々が協力してくれている。
- 幼稚園～小学校6年生までの縦横の交流がもてている。
- たくさんの子供たちが参加できるよう、5つの教室を実施している。

【実施に当たっての工夫】

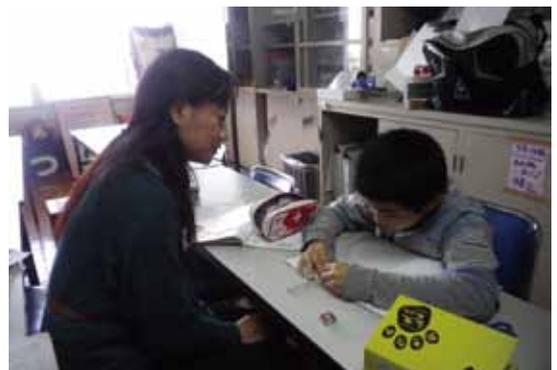
- 学校の先生が協力できる時間には教室で教えてもらったり、放課後に校内放送で放課後子供教室があることを伝えてもらっている。また、学校や講師の都合等で急なお休みの場合も子供たち向けに校内放送や、教室前に張り紙をしている。
- 学校のクラブ活動にボランティアで来ている先生が放課後子供教室で指導しているため、5月～10月、10月～3月と教室時間が変更になるので、クラブ活動担当者の子供教室担当で調整を行い、放課後子供教室のお知らせを出すときに記載して、保護者へ知らせるようにしている。
- 空き教室が少なく実施場所の確保に苦慮しているが、学校の協力を得て講座ごとに実施場所は変わるが活動場所を確保できている。
- 5月に放課後子供教室参加者募集のお知らせを発行。
- 年1回全講座の先生方と話し合いを持ち、情報交換をしている。

事業を実施して

- 毎週、お花を生けて帰ってくるので家で飾っている。(保護者)
- 毎回放課後子供教室を楽しみにしているよう。(保護者)
- 「字がきれいだね」と言われると嬉しい。(児童)
- 出来たと喜び子供たちを見ると嬉しく感じる。(指導者)
- 欠かさず参加している児童は着実に力をつけている(教諭)
- 「子どもフェスタ」など地域や学校行事に出ることもあり子供達が楽しんでいる。(指導者・保護者)
- 回を重ねるにつれて参加児童の意欲が増し、学習に対する習慣ができていく。(指導者)
- 分からなかったことが、分かるようになった。(児童)
- 異年齢の子供たちの交流がもて良いと思う。(指導者)
- 書道は、希望者が多く教室に入れられないこともある。(指導者)

その他

- 地域での発表会や大会があれば、積極的に参加するよう心がけている。



エジソンクラブの活動様子



大正琴の活動様子

「未来を担う南風原町の子どもたちを、地域で育てましょう」の理念のもと事業を展開

沖縄県南風原町

活動名

南風原町学校支援地域本部

関係する学校

南風原中学校・南星中学校・南風原小学校
津嘉山小学校・北丘小学校・翔南小学校

活動区分	基本データ			
	学校支援 地域本部	コーディネーター数 4人	ボランティア登録数 454人	開始年度 21年度
放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
その他	※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)			

活動の概要

(1) 実行委員会の開催(年3回)

構成：校長、有識者(元校長、PTA会長)、教育部長、指導主事、社会教育指導員

事業計画の策定、重点努力事項の設定、課題への対策、成果の検証

(2) 教頭連絡会の開催(年2回)

学校窓口の教頭と教育委員会事務局との会議で、実行委員会の前に開催。会議では、事業進捗状況の確認や成果の検証を行うとともに、課題への対策案を作成し実行委員会へ提案している。

(3) ボランティア懇親会の開催

ボランティアへの感謝を表するとともに、行政・学校関係者等で懇親を深め、今後の学校支援活動の一層の充実を図ることを目的に開催。懇親会では、生徒からの感謝のビデオレターを上映

(4) 広報活動

事業の周知とボランティアの発掘を目的に取り組む

①毎月、町広報誌へ掲載(1ページ) ②壁新聞(A3)を作成し、各機関へ配付・掲示

(5) コーディネーター意見交換会の開催

島尻地区の学校支援コーディネーターを一堂に会し、優良事例や日ごろの悩みを共有し、互いの技能向上に努めた。

(6) ボランティア活動の状況

①学習支援 ②部活動支援 ③環境整備 ④学校行事支援

特徴

【特徴的な活動内容】

①学習支援

- ・元教員、塾講師、大学生などによる主要科目(国語・算数・数学・英語)の学習支援(通常授業、朝自習、放課後補習、サマースクール)
- ・外国人研修生による国際交流(英語) ・戦争体験者、学芸員、平和活動者などによる平和学習
- ・職業人によるキャリア学習(医者、警察官、スポーツ選手、アナウンサー、農家など)

②部活動支援

- ・老人会、公民館サークル、地域芸能団体などによるクラブ活動支援

③環境整備

- ・ミシンの修理、JAや農家による農園整備と教員への技術指導

④学校行事支援

- ・運動会での三線、エイサー指導 ・書き初め会での書道支援
- ・学習発表会での演劇指導

【実施に当たっての工夫】

- ・ボランティア実施後は、教師とボランティアから、良かった点や改善点などの意見を聴取りし、課題があった場合は課題解決に向け取り組み、ボランティアさんが気持ちよく支援できる環境を整えている。
- ・定期的に実行委員会、教頭連絡会を開催し、事業の成果と課題の検証に努めている。
- ・ボランティアを依頼するにあたっては、教員に依頼書を作成してもらい、内容やボランティアを活用する目的を明確にし、スムーズなボランティア紹介に努めている。



戦争体験者による平和学習



さまざまな職業による進路学習会

事業を実施して

【学校・教師】

- 教育活動が充実した
- 学校運営・学年経営指導活動の時間が確保された
- 教師の資質向上と授業内容の充実が図れた

【子供】

- 学習の深化と意欲が向上した ○地域への愛着心が向上した
- コミュニケーション能力が向上した

【地域の方】

- 生涯学習の進展に寄与できた
- 学校への関心が向上し、教師や子供とのコミュニティの形成が図れた

学習支援や学校行事に係る学校支援活動

沖縄県沖縄市

■ 活動名

越来小学校支援地域本部

■ 関係する学校

沖縄市立越来小学校

活動区分	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無	
学校支援 地域本部	2人	83人	21年度	有	
基本データ	放課後 子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
コミュニティ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	
その他					

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

○地域の歴史や文化的な学習指導の支援活動、総合的な学習の時間や生活科における地域学習指導、運動会・学芸会等の学校行事への地域人材活用。

- 地域の歴史や文化を学ぶ場や学習指導の充実を図るため、地域学習の拠点となる地域歴史資料館の設置および活用。歴史資料館の設置は、越来の歴史、琉球王国の歴史を理解し生きた文化と歴史を学ぶ上で大きな役割を担う。またそれは地域の魅力の再発見にも繋がる。地域の財産である子供達に伝えたい思いが形となった。資料の展示には、地域と人の工夫や知恵が詰まっている。地域と父母による手作り資料館のモノ・人の心に触れること、それこそが子供達の心の糧となる。
- 児童の基礎学力の向上を図るため、「学習ボランティア」を活用し、週時程に位置づけた朝の学習(週3回)、朝の読み聞かせ(週1回)を年間を通して計画、実施。
- 地域老人会や自治会による交通安全指導(見守り)を年間を通して実施している。
- 地域の方が講師となり地域学習や平和学習を実施している。
- 老人会や地域の方が講師となり、しまくとぅば(方言)指導を行っている。

■ 特徴

【特徴的な活動内容】

- 学力向上に係る取組として、多くの保護者や地域の方々による丸つけボランティアの活動。
- 地域の教育資源(歴史文化遺産<越来グスク跡>、地域人材等)を積極的に活用した児童生徒の健全育成を図る活動。(越来グスクに関わる歴史劇「越来城と白樺」の取組)シマクトゥバを次世代に身につけさせるため、史劇の中にふんだんに取り入れた。方言・演技指導は、地域の方々に協力してもらった。世代間の交流において、共同で文化を作り上げていく喜びや体験が歴史に興味を深める大きなきっかけとなった。それは、伝統と向き合う態度を養い、自らのアイデンティティの一翼を担うものとなったことである。
- 地域歴史資料館の設置および学習指導への計画的活用

【実施に当たっての工夫】

- 学校と地域との連絡調整を密にするため、地域連携室を設置した。
- 学校、保護者、地域自治会等との連携強化を図った。(学校のPTAに関わる組織を「PTA」から「PTCA」へ活動の幅を広げた)

■ 事業を実施して

- 地域コーディネーターの積極的な関わりによって、学習支援が充実し子供達の学力(基礎的・基本的な事項)の向上が図られつつある。
- 地域の歴史や文化を深く学ぶ事ができ、子供達に地域の誇り、自信をもたせることができた。また、学校行事への地域コーディネーターの関わりによって、教師の業務の負担軽減につながっている。
- 学校と地域との信頼関係や協力関係がより深まった。(フレンドリーシップからパートナーシップへ)



歴史劇「越来城と城椿」



朝の学習「丸つけボランティア」

子供たちを 学校を 地域で支えよう!

沖縄県北中城村

活動名

北中城村学校支援地域本部

関係する学校

北中城小学校・島袋小学校・北中城中学校

活動区分	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
学校支援 地域本部	3人	232人	20年度	有
基本データ	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
	実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
その他				

※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)

活動の概要

地域全体で村内の小学校2校(北中城小学校・島袋小学校)、中学校1校(北中城中学校)における学校教育を支援するため、学校と地域との連携協力体制の構築と多様な形態の学校支援を推進している。

学習支援や学校行事の支援など、父母をはじめ、地域の方々等多くのボランティアの方々に学校を支援してもらい、学校教育の充実に繋がっている。

特徴

【特徴的な活動内容】

- ★小学校ではクラスに入って学習支援(年59回)を行っており、中学校においては各教科ごとに別室での個別学習支援(年149回)を行っている。
- ★ミシン学習の補助(年12回)・校外学習引率補助(年4回)及びバスの運転(年4回)。
- ★夏休みのサマースクールでの学習支援(年3回)。
- ★学芸会の衣装作り(年2回)。
- ★中学校の総合学習(伝統芸能・文化体験学習)を地域の方々に指導していただき、文化祭で発表することができた(年16回)。
- ★中学校での朝の読み聞かせ活動(週1回・年25回)

【実施に当たっての工夫】

- ★各学校のコーディネーター(3名)が教育委員会生涯学習課内で席を置き共に事務をすることにより、常に情報共有及び連携協力できる体制となっている。
- ★コーディネーターは学校側の要望及び依頼の声を拾えるよう、頻繁に学校に足を運ぶよう心掛けている。

事業を実施して

- ★ボランティアとして関わることで、学校への理解が深まった。(地域ボランティア)
- ★地域の伝統芸能・文化を地域の専門の方々に指導していただき、生徒の地域に対する興味関心が高まった。(学校)



文化体験で作った笑顔シーサー



ミシン学習の補助



ドリームウォールのペンキ塗り



サマースクール地域の学生さんも〇つけに参加



中学校での朝の読み聞かせ



学芸会の衣装作り



太鼓の練習



琴の練習



文化祭本番では衣装等も本格的に発表することができた



參考資料

優れた「地域による学校支援活動」推進にかかる文部科学大臣表彰要項

平成23年3月2日
文部科学大臣決定
平成25年7月12日一部改正

1 趣 旨

この要項は、未来を担う子供たちを健やかに育むために、学校、家庭、地域が連携協力し、社会全体の教育力の向上に向けた取組の一層の推進を図ることを目的に、地域全体で学校や子供たちの教育活動を支援する活動(以下「地域による学校支援活動」という。)のうち、その内容が特に優れ、他の模範と認められるものに対し、その功績をたたえ文部科学大臣が行う表彰に関して必要な事項を定めることを目的とする。

2 表彰の対象

表彰は、幼稚園、認定こども園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校で行われる「コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)」での教育方針に基づいた「地域による学校支援活動」や、「学校支援地域本部」及び「放課後子ども教室」等における「地域による学校支援活動」のうち、その内容が他の活動と比べて特に優れ、他の模範と認められるものに対して行うものとする。

なお、PTA活動として行われる学校支援活動については、別に定めるところにより表彰を行うものとし、本要項の対象とはしない。

〔表彰対象の基準〕

組織、運営及び活動について、概ね以下に掲げる内容の活動であること。

(1) 組織、運営

ア 地域の実情に応じた組織により、幅広い関係者の参画を得て、効果的な運営が行われていること。

イ 連携する学校側の意見を十分に反映して運営が行われており、学校関係者との連携協力が円滑に行われていること。

(2) 活動

ア 地域のコーディネーターの調整のもと、学習支援、放課後の活動を含む学校外活動、学校環境整備、子供の安全確保など、「地域による学校支援活動」が活発に、かつ継続的に行われていること。

イ 多くの地域住民等がボランティアとして参加し、地域の実情に応じた創意工夫のある活動を展開するなどにより、当該地域の教育環境の改善・充実に効果を上げていること。

ウ 学校以外の地域の各種機関・団体とも幅広く連携協力し、活動が行われていること。

3 推薦の方法

(1) 推薦依頼

文部科学省は、都道府県、指定都市、中核市(以下「都道府県等」という。)に対し、上記2を満たす活動のうち、表彰するにふさわしいと判断するものについての推薦依頼を行うものとする。

(2) 都道府県等における推薦方法

都道府県等は次に定めるところにより、被表彰対象候補として、上記2に該当する「地域による学校支援活動」を、文部科学大臣に推薦することができる。

なお、推薦に当たっては、〈別紙〉優れた「地域による学校支援活動」推薦書に推薦の理由等を記載し、文部科学大臣に提出するものとする。

〔都道府県等による推薦数〕

都道府県等においては、選考の上、上記2の表彰対象の基準を満たす域内に存在する「地域による学校支援活動」のうち、都道府県については3件以内(ただし、特別区を含む東京都に当たっては2件以内の推薦分をこれに加えることができる。)、指定都市については2件以内、中核市については1件を、それぞれの被表彰対象候補として推薦することができる。

なお、選考に当たっては、都道府県等に関係者からなる選考委員会を設け、その議を経るとともに、複数推薦する場合は、推薦順位を決定し、推薦書に明記した上で提出するものとする。

(3) 文部科学省における推薦

上記(2)による都道府県等からの推薦のほかに、文部科学省は、表彰するにふさわしいと判断する「地域による学校支援活動」を、被表彰対象候補として審査の対象に加えることができる。

4 被表彰対象活動の審査及び決定

文部科学大臣は、上記3により推薦された「地域による学校支援活動」について、学識経験者等の意見を聞いて審査を行い、被表彰対象活動を決定する。

5 受賞歴について

当該表彰の受賞は1回限りとする。ただし、他の表彰等の受賞歴は問わない。

6 表彰の期日等

文部科学省において別に定める。

7 表彰の取り消し

次に該当する場合は、表彰を取り消すことができる。

(1) 被表彰対象活動に関する推薦書に不実な記載があると判明したとき。

(2) 被表彰対象活動において、本表彰の趣旨を損なう行為があったとき。

8 本表彰にかかる事務

本表彰にかかる事務については、文部科学省初等中等教育局参事官付(学校運営支援担当)の協力を得て、文部科学省生涯学習政策局社会教育課において処理する。

附 則

1 この決定は、平成23年3月2日から実施し、平成23年度の表彰から適用する。

2 放課後子ども教室推進表彰要項(平成20年11月11日生涯学習政策局長決定)は、本要項の決定をもって廃止する。

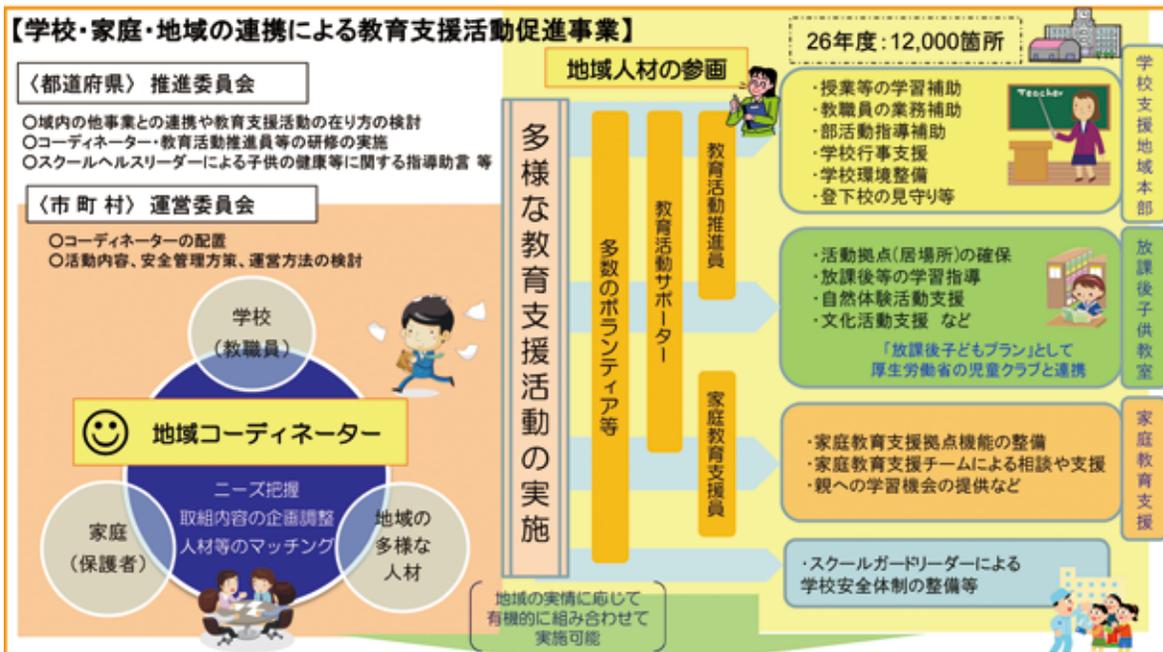
学校・家庭・地域の連携協力推進事業

平成26年度予算額 3,814百万円
(平成25年度予算額 4,924百万円)

近年、子供を取り巻く環境が大きく変化しており、未来を担う子供たちを健やかにたくむためには、学校、家庭及び地域住民等がそれぞれの役割と責任を自覚しつつ、地域全体で教育に取り組む体制づくりを目指す必要がある。
そのため、地域住民や豊富な社会体験を持つ外部人材が参加する学校サポーター等を活用し、学校支援地域本部や放課後子供教室、家庭教育支援、地域ぐるみの学校安全体制の整備、スクールヘルスリーダー派遣などの学校・家庭・地域の連携協力による様々な取組を「土曜日の教育活動推進プラン」と連携しつつ推進し、社会全体の教育力の向上を図る。

【補助率】

国	1/3
都道府県	1/3
市町村	1/3



地域社会全体で様々な教育支援活動を実施し、学校・家庭・地域の協働体制の構築を図る

学校支援地域本部

平成25年度実施箇所数：3,527本部 (公立小中学校あたりの実施率：28%)

地域住民等の参画により、学校の教育活動を支援する仕組み(本部)をつくり、様々な学校支援活動を実施



地域で学校を支援する仕組みづくりを促進し、子供たちの学びを支援するだけでなく、地域住民の生涯学習・自己実現に資するとともに、活動を通じて地域のつながり・絆を強化し、地域の教育力の向上を図る

放課後子供教室

平成25年度実施箇所数： 10,376教室(全公立小学校の51%)

地域住民等の参画により、放課後や週末等に、子供たちに学習や様々な体験・交流活動の機会を提供



子供たちの安心安全な活動拠点を確保し、様々な学びを支援するだけでなく、地域住民の生涯学習・自己実現に資するとともに、活動を通じて地域のつながり・絆を強化し、地域の教育力の向上を図る

「放課後子どもプラン」の概要

※平成19年度より実施

趣旨・目的

地域社会の中で、放課後等に子供たちの安全で健やかな居場所づくりを推進するため、各市町村において、教育委員会が主導して、福祉部局と連携を図り、原則として、すべての小学校区において、文部科学省の「放課後子供教室」と厚生労働省の「放課後児童クラブ」を一体的あるいは連携して実施する総合的な放課後対策(放課後子どもプラン)を推進する。

「放課後子どもプラン推進事業」

	放課後子供教室 (文部科学省)	放課後児童クラブ (厚生労働省)
H26予算額	5,147百万円の内数(H25予算額:4,924百万円)※	33,223百万円(H25予算額:31,576百万円)
趣旨	すべての子供を対象として、安全・安心な子供の活動拠点(居場所)を設け、地域の方々の参画を得て、学習やスポーツ・文化芸術活動、地域住民との交流活動等の機会を提供する取組を推進する。	共働き家庭など留守家庭のおおむね10歳未満の児童に対して、放課後に適切な遊びや生活の場を与えて、その健全な育成を図る。(児童福祉法第6条3第2項に規定)
実施か所数	10,376か所(平成25年度)	21,482か所(平成25年5月)
実施場所	小学校 71.3% 公民館 13.2% 児童館 3.4% その他(中学校、特別支援学校など) 12.1% (平成25年度)	小学校(余裕教室) 28.1% " (専用施設) 24.1% 児童館 12.8% その他(専用施設、既存公的施設など) 35.0% (平成25年5月)
開設日数	111日(平成25年度平均)	原則として長期休暇を含む年間250日以上
指導者	地域の協力者等	放課後児童指導員(専任)

※放課後子供教室H26予算額=「学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進事業(38億円)」+「地域の豊かな社会資源を活用した土曜日の教育支援体制等構築事業(13億円、新規)」計51億円の内数
H25予算額=「学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進事業(49億円)」の内数

土曜日の教育活動推進プラン

背景・意義

- 学校、家庭、地域の三者が連携し、役割分担しながら、学校における授業、地域における多様な学習や体験活動の機会の充実などに取り組むことにより、土曜日の教育環境を豊かなものにすることが必要。そのための方策の一つとして、平成25年11月に学校教育法施行規則の改正を行い、設置者の判断により、土曜授業を行うことが可能であることをより明確化したところ。
- 今後、質の高い土曜授業の実施のための支援策や地域における多様な学習、文化やスポーツ、体験活動など様々な活動の促進のための支援策を講じることにより、子供たちにとってより豊かで有意義な土曜日を実現する。

平成26年度予算のポイント

① 土曜授業推進事業 (1億円)

学校における質の高い土曜授業を推進するため、効果的なカリキュラムの開発、特別非常勤講師や外部人材、民間事業者等の活用を支援するとともに、その成果を普及。

(想定される取組の例)

総合的な学習の時間、英語教育、道徳、キャリア教育、科学実験教室、補充学習・発展的学習 等

・全国約35地域(約175校程度)をモデル地域として指定し、月1回程度、土曜日ならではの特性を生かし、質の高い土曜授業を実施するため、カリキュラム開発や特別非常勤講師の報酬、外部人材の謝金・旅費、民間事業者の活用等を支援(委託費での実施を想定)
 ・国における検証会議の開催、事例集の作成等

② 地域の豊かな社会資源を活用した土曜日の教育支援体制等構築事業 (13億円)

体系的・継続的な教育プログラムを企画・実施できるコーディネーターや多様な経験や技能を持つ土曜教育推進員を配置し、土曜日の教育支援体制等の構築を図る。

土曜日に年間約10日程度の多様な教育プログラムを実施するためのコーディネーターと土曜教育推進員の謝金及び教材費(補助率:1/3)
 (小学校:約3,000校区、中学校:約1,500校区、高等学校等:約350校区)

(参考) 土曜日等の教育活動の実施状況



○公立学校における土曜授業の実施状況

	土曜授業を実施した学校数	土曜授業を実施した学校の割合
小学校	1,801校	8.8%
中学校	966校	9.9%
高等学校	142校	3.8%

※平成24年度実績

○学校支援地域本部を活用した土曜日等の学習支援の実施状況

	学校支援地域本部を設置している学校の割合	うち土曜日等の学習支援を実施している割合
小・中学校	約28%	約15%

※平成25年度交付決定ベース

地域の豊かな社会資源を活用した土曜日の教育支援体制等構築事業

平成26年度予算額: 13億円(新規) <生涯学習政策局社会教育課>

[うち新しい日本のための優先課題推進枠: 13億円]

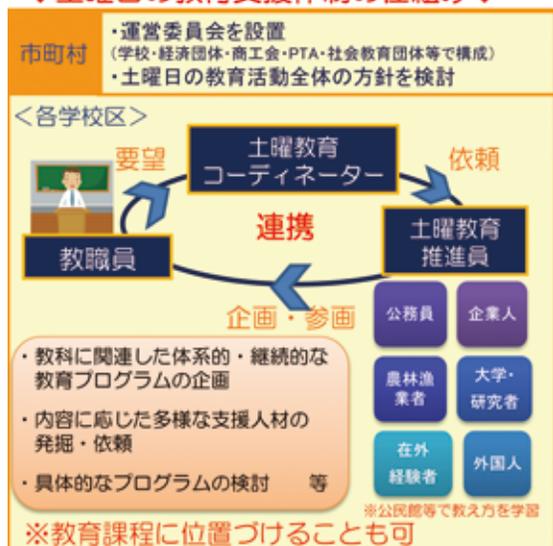
【補助率】

国	1/3
都道府県	1/3
市町村	1/3

すべての子供たちの土曜日の教育活動の充実のため、地域の多様な経験や技能を持つ人材・企業等の協力により、土曜日に体系的・継続的な教育プログラムを企画・実施する取組を支援し、教育支援体制等の構築を図る。

◆地域の多様な経験や技能を持つ人材をコーディネートし、土曜日ならではの活きたプログラムを実現!

◆土曜日の教育支援体制の仕組み◆



社会を生き抜く力を培う 土曜日ならではのプログラムの実践

～実践例～

- ★算数・数学
エンジニアによる使える算数・数学講座
- ★理科:
研究者による科学実験教室 <教員とのTTTによる数学>
- ★社会
公務員による活きた政治経済学習
- ★外国語:
在外経験者による英会話
- ★総合学習
企業との協働による商品開発・キャリア教育 <市民講師による英会話>

すべての子供たちの土曜日の教育支援体制等の構築

<参考>大分県豊後高田市の取組事例

「学びの21世紀塾」～「学びの姿」の構築を図る～

市民講師を中心にした講座等により、確かな学力の定着や体づくりの機会を提供し、地方の子どもにも平等に学習を保障して格差をなくす

知	確かな学力	<p>①いきいき土曜日事業</p> <p>【寺子屋講座】第1・3・5土曜日に、幼・小・中の英会話・国語・算数・数学・英語・そろばん・合唱等</p> <p>【パソコン講座】第1・3・5土曜日に、小学生対象のパソコン実習講座</p> <p>【水曜日講座】毎週水曜日放課後に、全中学校1・2年生に数学・英語</p> <p>【夏季・冬季特別講座】中学3年生に英語・数学・国語（7日間）</p> <p>【幼稚園文字・英会話教室】週2日、幼稚園への出前授業</p> <p>【寺子屋昭和館・プラチナ館】小学校4～6年生に放課後補充学習</p> <p>【テレビ寺子屋講座】ケーブルテレビを活用した小・中学生対象番組の放映</p>	 
徳	豊かな心	<p>②わくわく体験活動事業</p> <p>【週末子ども育成活動】第2・4土曜日に、日頃できないようなものづくりや体験活動</p> <p>【ステップアップスクール】3泊4日の集団生活・自主活動等の宿泊体験</p>	
体	健やかな体	<p>③のびのび放課後活動事業</p> <p>【スポーツ少年団等の活動推進】各種大会・活動の支援や後援</p> <p>【文化活動団体等の活動推進】発表会・展示会等の支援や後援</p>	

(大分県豊後高田市作成資料参考)

県内学力テストワースト2位 ⇒ 8年連続1位
野球やバレーボールの全国大会出場

「学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進事業」^{※1} 実施状況

(学校支援地域本部、放課後子供教室、家庭教育支援)

(平成25年8月15日現在)

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度 ※3	平成25年度 ※3
国庫補助額 (委託費)※2	3,774百万円 (2,404百万円)	4,411百万円 (2,166百万円)	4,631百万円 (2,358百万円)	5,166百万円 —	4,649百万円 —	4,870百万円 —
学校支援地域本部 設置数	2,176本部	2,405本部	2,540本部	2,659本部	3,036本部	3,527本部
放課後子供教室 実施数	7,736教室	8,610教室	9,197教室	9,733教室	10,098教室	10,376教室
家庭教育支援 実施数	332市町村	194市町村	108市町村	315市町村	316市町村	399市町村
実施市町村数	本部 867市町村 放課後 1,011市町村 家庭 332市町村	本部 1,004市町村 放課後 1,053市町村 家庭 194市町村	本部 1,005市町村 放課後 1,060市町村 家庭 108市町村	本部 570市町村 放課後 1,075市町村 家庭 315市町村	本部 576市町村 放課後 1,076市町村 家庭 316市町村	本部 619市町村 放課後 1,090市町村 家庭 399市町村

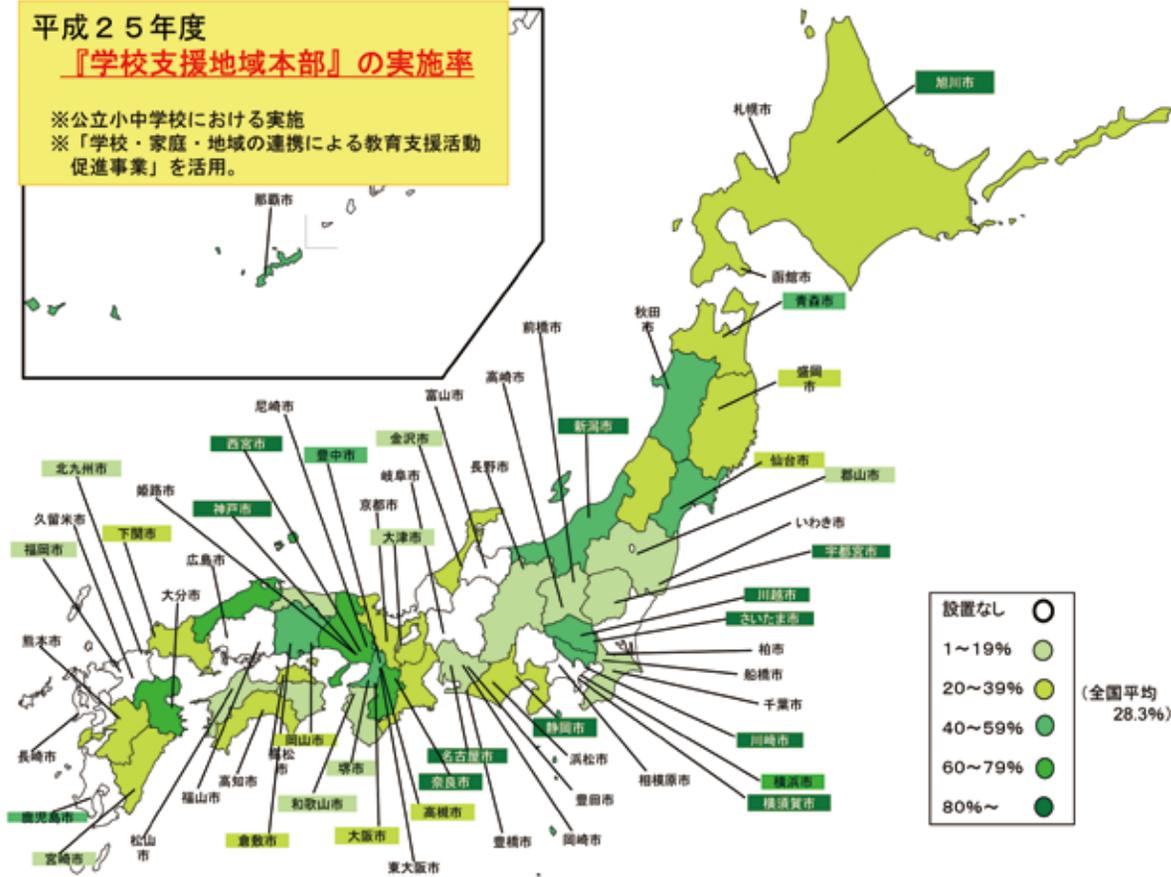
※1 平成23年度より、学校支援地域本部、放課後子供教室、家庭教育支援等を総合的に推進する統合メニュー化。(22年度以前は個別メニューで実施。)

※2 学校支援地域本部については、平成20～22年度、家庭教育支援については、平成20～21年度は委託事業として実施。(21年度以降は補助事業も併せて実施。)

※3 平成24年・25年度は、岩手県、宮城県、福島県、仙台市等の被災自治体は委託事業「学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業」で実施。

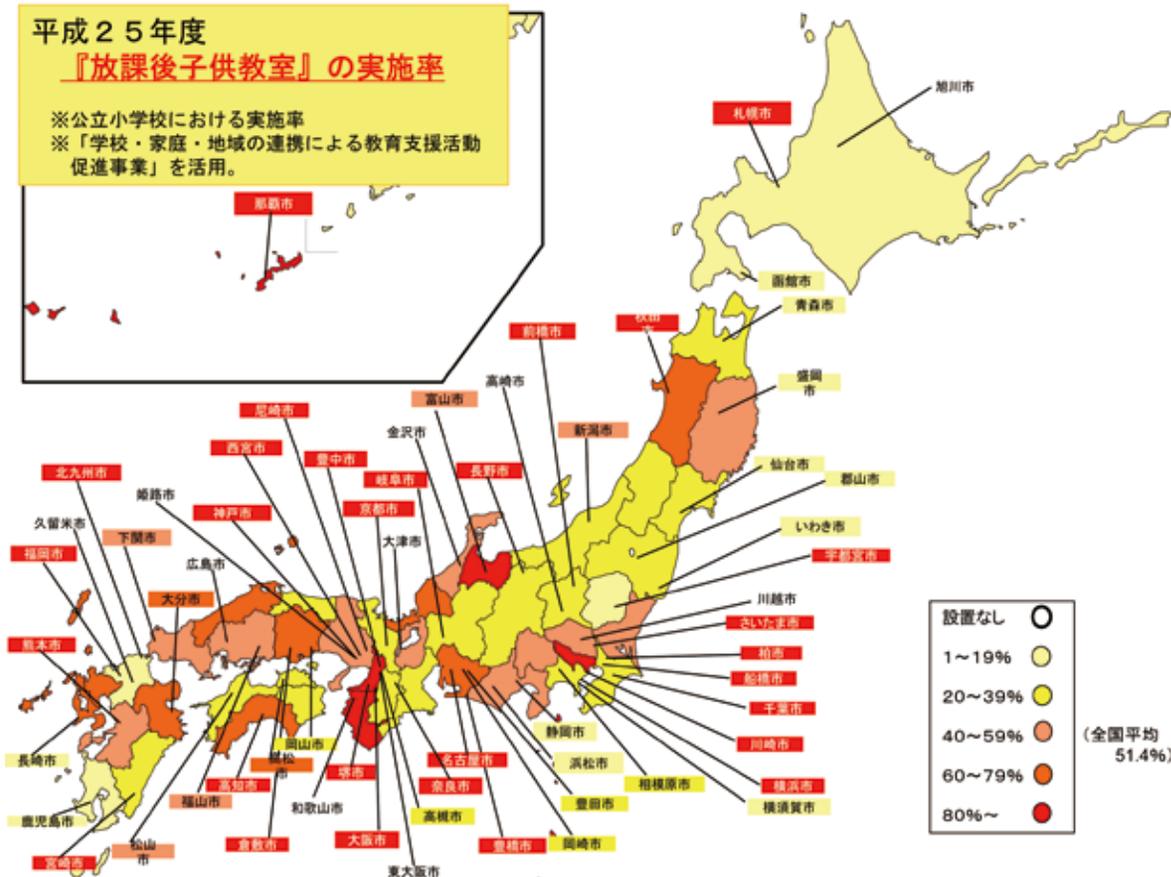
平成25年度
『学校支援地域本部』の実施率

※公立小中学校における実施
※「学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進事業」を活用。



平成25年度
『放課後子供教室』の実施率

※公立小学校における実施率
※「学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進事業」を活用。



コミュニティ・スクールの概要

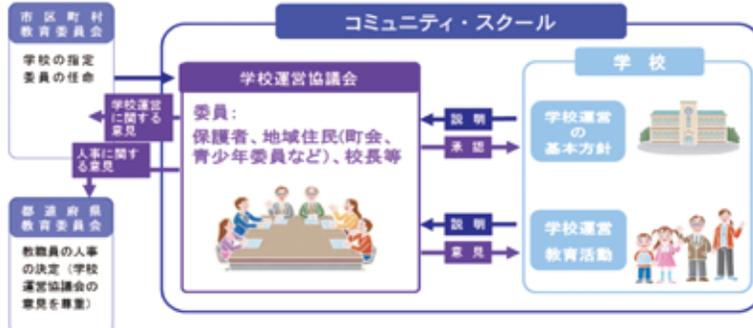
1. 制度の概要

保護者や地域住民が学校運営に参画する「学校運営協議会」制度により、地域の力を学校運営に生かす「地域とともにある学校づくり」を推進する。(平成16年地教行法改正)

これにより、子供が抱える課題を地域ぐるみで解決する仕組みづくりや質の高い学校教育の実現を図る。

◆地方教育行政の組織及び運営に関する法律 第四十七条の五

- 校長の作成する学校運営の基本方針の承認
- 学校運営について、教育委員会又は校長に意見
- 教職員の任用に関して、教育委員会に意見(教育委員会はその意見を尊重)



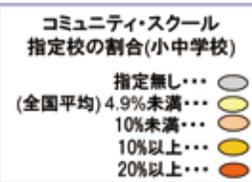
2. コミュニティ・スクールの導入例

- コミュニティ・スクールを基盤とする小中一貫教育
 - ・中学校区を学園とし、学園にコミュニティ・スクール委員会を設置。
 - ・小中一貫カリキュラムや相互乗り入れ授業に加え、コミュニティ・スクール委員会の協議とコーディネートによる地域ボランティアの学習支援。
- 学校運営協議会委員による学校関係者評価
 - ・学校運営協議会委員が学校関係者評価委員を兼任することにより、学校の実態を理解した上での十分な議論・評価の実施。
 - ・中学校区学校関係者評価を導入し、中学校区において共通目標・課題の設定を行い、具現化に向けた取組を共有するとともに、相互に評価。(中学校区学校関係者評価委員会委員は各中学校区の学校運営協議会員から選出)
- 学校運営協議会を核とした様々な教育活動の展開
 - ・学校評価、学校支援地域本部、PTA、シニアスクールなどの取組の企画運営の核として学校運営協議会を位置づけることにより、学校・家庭・地域の有機的な連携・協働体制を構築。

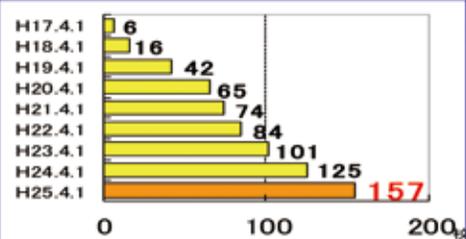
平成25年度 コミュニティ・スクールの指定状況

コミュニティ・スクール: 42都道府県 1,570校

(幼稚園62、小学校1028、中学校463、高等学校9、特別支援学校8)



コミュニティ・スクールの学校設置者数:
4道県153市区町村(村6、町46、市94、特別区7)



H24.4.1		387校増	H25.4.1	
幼稚園	55 園		幼稚園	62 園
小学校	786 校	小学校	1,028 校	
中学校	329 校	中学校	463 校	
高等学校	6 校	高等学校	9 校	
特別支援学校	7 校	特別支援学校	8 校	
合計	1,183 校	合計	1,570 校	

コミュニティ・スクールの成果に関する校長の認識

○指定校の校長のコミュニティ・スクール導入の成果認識について、
 生徒指導上の課題解決が42.7%、学力向上が36.2%と回答。
 ○コミュニティ・スクールとして活動が長い学校のほうが、成果認識が高い傾向。

学校と地域が情報を共有するようになった	92.6
地域が学校に協力的になった	87.7
地域と連携した取組が組織的に行えるようになった	84.0
特色ある学校づくりが進んだ	83.0
学校に対する保護者や地域の理解が深まった	82.6
教職員の意識改革が進んだ	77.4
保護者が学校に協力的になった	63.8
地域の教育力が上がった	56.3
地域が活性化した	51.4
児童生徒の学習意欲が高まった	50.5
保護者や地域からの苦情が減った	46.5
いじめ・不登校・暴力など生徒指導の課題が解決した	42.7
児童生徒の学力が向上した	36.2
家庭の教育力が上がった	32.8
教職員が子供と向き合う時間が増えた	19.8

※「当てはまる」+「ある程度当てはまる」の合計 (%)

<指定年度別成果認識>

	16+17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
生徒指導課題	57.6%	44.8%	52.2%	38%	41%	44.5%	30%
学力向上	54.6%	37.1%	41.1%	37%	31.2%	29.3%	30%

「平成23年度コミュニティ・スクールの推進に関する教育委員会及び学校における取り組みの成果検証に係る調査報告書」 日本大学文理学部

地域とともにある学校づくりの推進(コミュニティ・スクール等)

平成26年度予算額(案):174百万円(平成25年度予算額:178百万円)



《目指すべき学校の姿》

- 子供が抱える課題を地域ぐるみで解決する
- 保護者や地域住民の力を学校運営に生かし、質の高い教育を実現

保護者や地域住民が学校運営に参画する
 コミュニティ・スクールの充実・拡大

<全公立小中学校の1割(約3,000校)に(～平成28年度)>

(導入の促進)

◆コミュニティ・スクール導入に関する実践研究 53百万円
 導入を目指す地域における、組織や運営体制づくり

- ・80市区町村
- ※このうち一部を補助事業とする。[補助率1/3]
- ・教員・事務職員加配措置

◆コミュニティ・スクール推進員(CSマイスター)派遣事業 9百万円

実践経験のある元校長や地域住民などをCSマイスターとして派遣

◆説明会、フォーラムの開催 20百万円
 地域とともにある学校づくり推進協議会(8会場) など

(取組の充実)

◆コミュニティ・スクールの熟議と協働の充実に関する実践研究 4百万円

導入地域における、子どもが抱える課題を地域ぐるみで解決する仕組みの強化

◆コミュニティ・スクールのマネジメント力強化に関する実践研究 10百万円

導入校における、地域とのコーディネート機能や事務機能の強化

- ・研究費:10万円×100校
- ・事務職員加配措置

(自律的・組織的な学校運営体制の構築) 71百万円

◆自律的・組織的な学校運営体制の構築に向けた調査研究

地域とともにある学校づくりの効果的な推進のために、校長がリーダーシップを発揮するための学校裁量権の拡大、教職員や学校運営協議会委員のマネジメント力向上、実効性ある学校評価に関する調査研究

